

# Gentran:Server® for Windows®

## 管理 ガイド

バージョン 5.0

**Sterling Commerce**  
An IBM Company

## 著作権に関する表示

### Gentran:Server for Windows

© Copyright 1995 - 2004  
Sterling Commerce, Inc.  
ALL RIGHTS RESERVED

### スターリング コマース ソフトウェア

営業秘密に関する表示

GENTRAN:SERVER FOR WINDOWS ソフトウェア (「スターリング コマース ソフトウェア」) は、米国スターリング コマース社、その関連企業またはそのライセンスの機密と営業秘密を有する財産であり、プロダクト使用契約の条件に基づいて提供されます。事前の書面による許可のない複製または開示は禁じられています。権利は制限されています。

本資料、本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェア、およびそれらに含まれる情報とノウハウは、スターリング コマース、その関連企業またはそのライセンスの専有的な、秘密の、財産的価値を有する営業秘密であり、許可されていない目的のために使用することおよび適正なスターリング コマースからの事前の書面による承認を受けることなく第三者に開示することは禁じられています。本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは、その複製、変更および使用を禁止または規制する条項が規定されたプロダクト使用契約に基づいて提供されます。複製を許可された場合には、複製が部分的であるか全体的であるかを問わず、その複製物にこの営業秘密表示とスターリングコマースの著作権表示を表示するものとします。

FAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料が提供された場合は、Title 48 CFR 52.227-19 による制限付きの権利として提供されます。また、DFAR に規定されることにより米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料とスターリング コマース ソフトウェアが提供された場合は、商業用ソフトウェアと商業用ソフトウェア資料に関する Title 48 CFR 227-7202 の記載に基づくスターリング コマースの一般的な実施許諾契約に基づいて提供されます。

これらの条件の準拠法は、米国オハイオ州法 (法の抵触に関する規定を除く) が適用されます。締結済みの契約に基づいてスターリング コマース ソフトウェアを使用している場合には、これらの条件は当該締結済み契約に優先するものではなく、また、これを修正するものでもありません。

本資料に記載されている製品名は、該当各社の商標または登録商標である場合があります。Gentran 及び Gentran:Server はスターリングコマースの登録商標です。

### サードパーティソフトウェア

スターリング コマース ソフトウェアの一部には、サードパーティ (「サードパーティ ライセンサ」) から提供された製品 (「サードパーティソフトウェア」) が含まれる場合や、サードパーティソフトウェアと同一の記録媒体で配布される場合があります。

### 保証の放棄

本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは「現状のもの」として、またはスターリング コマースのプロダクト使用契約で規定された「限定保証」とともに提供されるものとします。「限定保証」以外には、商品性および特定目的への適合性を含みいかなる明示的および黙示的保証も行われません。スターリングコマースは適宜本表示を改訂し、又はその内容を変更できるものとし、その改訂又は変更をいかなる個人又は法人に対しても通知する義務を負わないものとします。

サードパーティソフトウェアは、商品性の黙示的保証および特定目的への適合性を含めて (ただしこれらに限定されない)、いかなる保証ならびに明示的および黙示的保証も伴わずに「現状のもの」として提供され、いかなる保証も行われません。また、米国国内に居住するか、本ソフトウェアを米国国内で使用している場合、所有権または権利の非侵害に関する明示的および黙示的保証は行われません。

# 目次

## はじめに

<b>概要</b> .....	<b>1-2</b>
▶ はじめに .....	1-2
<b>本書について</b> .....	<b>1-3</b>
▶ 本書の構成 .....	1-3
<b>システムの概要</b> .....	<b>1-5</b>
▶ サポート情報 .....	1-5
▶ Gentran:Server の概要 .....	1-7
▶ Gentran:Server データ トランスレーション処理 .....	1-10

## システム管理者の機能

<b>概要</b> .....	<b>2-3</b>
▶ はじめに .....	2-3
<b>システム構成 – [コントローラ] タブ</b> .....	<b>2-4</b>
▶ 概要 .....	2-4
▶ システムの起動方法 .....	2-8
▶ システムの停止方法 .....	2-12
▶ コントローラの設定を変更する方法 .....	2-14
<b>システム構成 – [システム] タブ</b> .....	<b>2-17</b>
▶ 概要 .....	2-17
▶ ODBC データ ソースの変更方法 .....	2-20
▶ 時間切れ受信確認のチェック頻度を変更する方法 .....	2-21
<b>システム構成 – [メールボックス] タブ</b> .....	<b>2-22</b>
▶ 概要 .....	2-22
▶ メールボックス パラメータの変更方法 .....	2-24
▶ 新しいメールボックス パラメータの作成方法 .....	2-25
▶ メールボックス パラメータの削除方法 .....	2-26
<b>システム構成 – [分割機能] タブ</b> .....	<b>2-27</b>
▶ 概要 .....	2-27
▶ 新しい分割機能の登録の定義方法 .....	2-35
▶ 分割機能の登録の編集方法 .....	2-36
▶ 分割機能の登録の削除方法 .....	2-37
▶ 分割機能の登録の順番を変更する方法 .....	2-38

<b>システム構成 – [ユーザー] タブ</b> .....	<b>2-39</b>
▶ 概要 .....	2-39
▶ 新しいユーザーの追加方法 .....	2-43
▶ ユーザーのアクセス制限の変更および表示方法 .....	2-44
▶ ユーザーの削除方法 .....	2-45
<b>システム構成 – [ディレクトリ] タブ</b> .....	<b>2-46</b>
▶ 概要 .....	2-46
▶ システム データ ストア フォルダの修正方法 .....	2-50
<b>システム構成 – [セキュリティ] タブ</b> .....	<b>2-52</b>
▶ 概要 .....	2-52
▶ Gentran:Server のセキュリティ モードを定義する方法 .....	2-55
<b>システム構成 – [インポート] タブ</b> .....	<b>2-56</b>
▶ 概要 .....	2-56
▶ 新しいインポート指定の定義方法 .....	2-60
▶ インポート指定の編集方法 .....	2-62
▶ インポート指定の削除方法 .....	2-64
▶ インポート指定の順番の変更方法 .....	2-65
<b>システム構成 – [オーディット / 通知] タブ</b> .....	<b>2-66</b>
▶ 概要 .....	2-66
<b>システム構成 – [外部データ] タブ</b> .....	<b>2-67</b>
▶ 概要 .....	2-67
▶ 外部データ オプションの設定方法 .....	2-69
<b>イベント ビューアの使用</b> .....	<b>2-70</b>
▶ 概要 .....	2-70

## オーディット通知システムの使い方

<b>概要</b> .....	<b>3-3</b>
▶ はじめに .....	3-3
▶ 構成の概要 .....	3-7
▶ 構成処理 .....	3-10
<b>システム コンポーネント</b> .....	<b>3-12</b>
▶ 概要 .....	3-12
▶ 構成を行うシステム コンポーネントへのアクセス .....	3-15
<b>オーディット通知サーバー設定の構成</b> .....	<b>3-19</b>
▶ 概要 .....	3-19
▶ [オーディット / 通知サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックス .....	3-22
▶ [依存関係] ダイアログ ボックス .....	3-26
▶ サーバー設定の構成方法 .....	3-28

<b>オーデジット メッセージの操作</b> .....	<b>3-31</b>
▶ 概要 .....	3-31
▶ オーデジット メッセージ コンポーネントの使い方 .....	3-32
▶ オーデジット メッセージの構造と種類 .....	3-33
▶ [Gentran オーデジット メッセージ] ブラウザ .....	3-39
▶ [検索] ダイアログ ボックス .....	3-41
▶ [オーデジット メッセージの定義] ダイアログ ボックス .....	3-42
▶ オーデジット メッセージの追加方法 .....	3-45
▶ オーデジット メッセージ プロパティの修正方法 .....	3-47
▶ 特定のオーデジット メッセージの検索方法 .....	3-49
<b>オペレータ情報の構成</b> .....	<b>3-51</b>
▶ 概要 .....	3-51
▶ [Gentran オペレータ] ブラウザ .....	3-53
▶ [オペレータ プロパティ] ダイアログ ボックス .....	3-54
▶ オペレータの追加方法 .....	3-57
▶ オペレータ プロパティの修正方法 .....	3-59
<b>通知の操作</b> .....	<b>3-61</b>
▶ 概要 .....	3-61
▶ [Gentran 通知] ブラウザ .....	3-65
▶ [通知プロパティ] ダイアログ ボックス .....	3-67
▶ 通知の追加方法 .....	3-73
▶ 通知プロパティの修正方法 .....	3-77
<b>オーデジット ログの使い方</b> .....	<b>3-79</b>
▶ 概要 .....	3-79
▶ [Gentran オーデジット ログ] ブラウザ .....	3-84
▶ [オーデジット ログ エントリの詳細] ダイアログ ボックス .....	3-87
▶ [オーデジット ログ フィルタ] ダイアログ ボックス .....	3-90
▶ [オーデジット ログ 検索] ダイアログ ボックス .....	3-93
▶ オーデジット ログ エントリの詳細の表示方法 .....	3-96
▶ 特定のオーデジット ログ エントリの検索方法 .....	3-97
▶ オーデジット ログ表示のフィルタ方法 .....	3-99
<b>通知ログの使い方</b> .....	<b>3-101</b>
▶ 概要 .....	3-101
▶ [Gentran 通知ログ] ダイアログ ボックス .....	3-105
▶ [通信の詳細] ダイアログ ボックス .....	3-107
▶ 詳細な通知ログ エントリの表示方法 .....	3-111
 <b>インストール後のセットアップ オプション</b>	
▶ 概要 .....	4-2
▶ 既存の Gentran:Server システムを使用できないようにする (アンインストール) 方法 ..	4-4
▶ Gentran:Server インストールのアップグレード方法 .....	4-9
▶ インストールによるコンポーネントの追加方法と削除方法 .....	4-23

## データベース テーブルの使い方

<b>概要</b> .....	<b>A-3</b>
▶ はじめに .....	A-3
<b>データ フロー テーブル</b> .....	<b>A-4</b>
▶ 概要 .....	A-4
▶ ドキュメント テーブル .....	A-5
▶ 外部データ テーブル .....	A-11
▶ 外部データ クロス リファレンス テーブル .....	A-13
▶ グループ テーブル .....	A-16
▶ インターチェンジ テーブル .....	A-21
▶ トラック テーブル .....	A-27
▶ トラッキング テーブル .....	A-31
<b>システム構成テーブル</b> .....	<b>A-32</b>
▶ 概要 .....	A-32
▶ アプリケーション データベース 情報 テーブル .....	A-33
▶ エクスポート テーブル .....	A-36
▶ スケジュール テーブル .....	A-37
▶ 分割機能 テーブル .....	A-39
▶ システム インポート テーブル .....	A-43
▶ トランスレーション オブジェクト テーブル .....	A-44
▶ ユーザー テーブル .....	A-47
<b>パートナー プロファイル テーブル</b> .....	<b>A-48</b>
▶ 概要 .....	A-48
▶ パートナー 管理 テーブル .....	A-49
▶ パートナー 参照 テーブル .....	A-63
<b>オーディット テーブル および 通知 テーブル</b> .....	<b>A-67</b>
▶ 概要 .....	A-67
▶ オーディット コンポーネント ID テーブル .....	A-68
▶ オーディット メッセージ テーブル .....	A-69
▶ オーディット ソース ID テーブル .....	A-71
▶ データ オーディット ログ テーブル .....	A-72
▶ データ オーディット タイプ テーブル .....	A-75
▶ 通知 テーブル .....	A-76
▶ 通知 動作 テーブル .....	A-77
▶ 通知 ログ テーブル .....	A-78
▶ オペレータ テーブル .....	A-81
▶ 処理 オーディット ログ テーブル .....	A-82
<b>メールボックス テーブル</b> .....	<b>A-85</b>
▶ 概要 .....	A-85
▶ AddressBook テーブル .....	A-86
▶ 添付 テーブル .....	A-87
▶ DeliveryRule テーブル .....	A-88

▶ DistributionList テーブル .....	A-89
▶ ファイル テーブル .....	A-90
▶ メールボックス テーブル .....	A-91
▶ メールボックス構成テーブル .....	A-92
▶ メッセージ テーブル .....	A-93
▶ 受信者テーブル .....	A-95
▶ SpoolQueue テーブル .....	A-96

## トラブルシューティング

▶ 概要 .....	B-2
▶ サービス管理マネージャの使用法 .....	B-3
▶ Gentran:Server のトラブルシューティング方法 .....	B-4

## プロセス管理セッションの設定

<b>概要 .....</b>	<b>C-2</b>
▶ はじめに .....	C-2
<b>プロセス管理の使い方 .....</b>	<b>C-3</b>
▶ 概要 .....	C-3
▶ セッションファイルの使用 .....	C-4
▶ セッションファイルの配置 .....	C-5
<b>プロセス管理コマンド .....</b>	<b>C-11</b>
▶ 概要 .....	C-11
▶ Exec_Program .....	C-12
▶ Exec_Program_Ex .....	C-13
▶ File_Copy .....	C-14
▶ File_Delete .....	C-15
▶ File_Rename .....	C-16
▶ GDW_Archive .....	C-17
▶ GDW_Audit_Purge .....	C-18
▶ GDW_Audit_Rpt .....	C-19
▶ GDW_Audit_Write .....	C-21
▶ GDW_Document_Purge .....	C-22
▶ GDW_Document_Rpt .....	C-26
▶ GDW_Export .....	C-36
▶ GDW_ExtData_Delete .....	C-39
▶ GDW_Import .....	C-40
▶ GDW_Partner_Delete .....	C-41
▶ GDW_Partner_Export .....	C-42
▶ GDW_Partner_Import .....	C-43
▶ GDW_Print .....	C-44
▶ GDW_Process_File .....	C-45
▶ GDW_Receive .....	C-46
▶ GDW_Send .....	C-47

▶ GDW_Send_Receive .....	C-48
▶ Terminate_Script .....	C-50

## システム情報

<b>概要 .....</b>	<b>D-2</b>
▶ はじめに .....	D-2
<b>プログラムの説明 .....</b>	<b>D-3</b>
▶ 概要 .....	D-3
▶ プログラム説明表 .....	D-4
<b>フォルダ構造 .....</b>	<b>D-7</b>
▶ 概要 .....	D-7
▶ ユーザー インターフェイス クライアント / コントローラ フォルダ .....	D-8

## パートナー ファイルの配置

<b>概要 .....</b>	<b>E-2</b>
▶ はじめに .....	E-2
<b>パートナー インポート ファイルとパートナー エクスポート ファイル .....</b>	<b>E-4</b>
▶ 概要 .....	E-4
▶ パートナー テーブル .....	E-6
▶ 所在地テーブル .....	E-7
▶ 照合テーブル .....	E-8
▶ クロスリファレンス テーブル .....	E-9
▶ 関係テーブル .....	E-10
▶ インターチェンジ管理テーブル .....	E-15
▶ ファンクショナル グループ管理テーブル .....	E-17
▶ 一般的なエンベロップ セグメント テーブル .....	E-19
<b>パートナー テーブル インポート ファイルとパートナー テーブル エクスポート ファイル .....</b>	<b>E-22</b>
▶ 概要 .....	E-22
▶ 照合テーブル .....	E-23
▶ クロスリファレンス テーブル .....	E-24

## Gentran:Server ユーティリティと Gentran:Server モジュール

<b>Gentran:Server ユーティリティ .....</b>	<b>F-2</b>
▶ 概要 .....	F-2
▶ GNTSTART.EXE ユーティリティ .....	F-3
▶ TOMULTIEXE ユーティリティ .....	F-10
▶ TXTRACE.EXE ユーティリティ .....	F-12
▶ GICHECK.EXE ユーティリティ .....	F-13
▶ XPROCESS ユーティリティ .....	F-18
<b>Gentran:Server モジュール .....</b>	<b>F-25</b>
▶ 概要 .....	F-25
▶ Gentran:Server モジュール .....	F-26



## エラー メッセージ

概要 .....	G-2
▶ はじめに .....	G-2
トランスレータ レポート エラー メッセージ .....	G-3
▶ 概要 .....	G-3
▶ エラー メッセージ .....	G-4
システム エラー メッセージ .....	G-14
▶ アーカイブ エンジン メッセージ .....	G-14
▶ アーカイブ マネージャ メッセージ .....	G-25
▶ オーディット通知サーバー メッセージ .....	G-30
▶ プロセス管理、コミュニケーションズ、およびトランスレータの エラー メッセージ .....	G-37



# はじめに

目次

---

<b>概要</b> .....	<b>2</b>
▶ はじめに .....	2
<b>本書について</b> .....	<b>3</b>
▶ 本書の構成 .....	3
<b>システムの概要</b> .....	<b>5</b>
▶ サポート情報 .....	5
▶ Gentran:Server の概要.....	7
▶ Gentran:Server データ トランスレーション処理 .....	10

---



## 概要

### はじめに

#### はじめに

---

スターリング コマースの電子商取引 (EC) ソフトウェア、Gentran:Server<sup>®</sup> for Windows<sup>®</sup> をご購入いただきありがとうございます。

Gentran:Server には、トレーディング パートナーとの電子データ交換に必要な次のツールが用意されています。

- ▶ データ トランスレーション
- ▶ プロセス管理
- ▶ コミュニケーションズ システム

このソフトウェアおよびサポート ツールは使いやすく、業務にすぐ役立てることができます。

---

# 本書について

## 本書の構成

### はじめに

このマニュアルでは、Gentran:Server の管理に関する基礎的な情報および使用方法について説明します。

### 本書の対象読者

このマニュアルは、次の作業を担当するシステム管理者を対象にしています。

- ▶ EC のインストールおよび実装
- ▶ システムの保守および管理
- ▶ 自動処理の構成および使用

### 前提となる知識

このマニュアルの前提となる知識として、PC および Microsoft® Windows の使用に関する知識が必要です。

### 本書の内容

このマニュアルは、複数の章で構成されています。各章の概要を説明します。

- ▶ 第1章「はじめに」では、このマニュアルの内容、構成、および表記について説明します。また、この章には、このマニュアルおよび Gentran:Server データトランスレーション処理で使用する用語の定義が記載されています。
- ▶ 第2章「システム管理者の機能」では、Gentran:Server のインストールの管理と保守に関する基本的な情報および手順について説明します。
- ▶ 第3章「オーディット通知システムの使い方」では、オーディット通知システムのコンポーネントと機能、エラーレポートと通知機能の構成方法、およびオーディット ログと通知ログを使用してシステム活動をモニターする方法について説明します。
- ▶ 第4章「ポスト インストール セットアップ オプション」では、Gentran:Server のポスト インストール セットアップ プログラムのオプションの使用についての推奨事項を説明します。
- ▶ 付録 A「データベース テーブル」は、テーブルのレコードを作成、更新、削除するときに各データベース テーブルの情報をすばやく参照できるようにする目的で書かれた Gentran:Server データベース テーブルの参照です。また、テーブルの各フィールドの使用目的も記載されています。
- ▶ 付録 B「トラブルシューティング」では、Gentran:Server のトラブルシューティングに関する基礎的な情報を記載し、一般的な Gentran:Server の問題の解決に必要な一連の作業について説明します。

(次のページへ続く)

- ▶ 付録 C 「プロセス管理の手動セットアップ」では、プロセス管理機能を手動で実行する方法について説明します。
- ▶ 付録 D 「システム情報」では、Gentran:Server プログラム (実行ファイル) および既定のフォルダ構造について作業について説明します。
- ▶ 付録 E 「パートナー ファイルの配置」では、パートナー インポート、パートナー エクスポート、パートナー テーブル インポート、およびパートナー テーブル エクスポートのファイルの配置について説明します。
- ▶ 付録 F 「Gentran:Server ユーティリティと Gentran:Server モジュール」では、ユーティリティおよびモジュール プログラムについて説明します。
- ▶ 付録 G 「エラー メッセージ」では、Gentran:Server のエラー メッセージ番号およびその修正方法を解説します。

### オンライン ヘルプ システム

---

このマニュアルの内容の大半がオンライン ヘルプ システムにも記載されています。このマニュアルに記載の全ダイアログ ボックスの要素定義、処理の詳細情報、処理手順の説明は、すべてオンライン ヘルプにも含まれています。

---

# システムの概要

## サポート情報

### はじめに

スターリング コマース社では、Gentran:Server ソフトウェアに関する質問や問題についてお答えするため、熟練した製品サポート担当者によるサポートを提供しています。

### 電話番号

ご利用になるサポート電話番号は、『インストール準備 カード』を参照してください。

### サポートに連絡する前に

迅速なサポートを提供するため、次の事項についてご協力をお願いします。

- ▶ まず、発生した問題を再現してみて、イベントの正確な順序を記録してください。
- ▶ 製品サポートへのお問い合わせの際には、下記の情報をご用意ください。

情報	説明
ユーザー情報	会社名、氏名、電話番号および内線番号、およびケース番号 (以前に報告された問題を照会する場合)。
システム構成	Gentran:Server バージョン (およびインストールされているサービスパック)、プライマリ Gentran システム コントローラおよび問題が発生しているすべてのコンピュータの情報。Windows オペレーティングシステムのバージョン、搭載メモリ、有効ディスク容量、データベースバージョン、Microsoft Data Access (MDAC) のバージョン、および Internet Explorer のバージョン。  ハードウェア、ソフトウェア、およびシステムの構成に対して加えた最近の変更も記入してください。
システム データ ストア	どのコンピュータがシステム データ ストア内にフォルダを格納しているのか。  (次のページへ続く)

情報	説明
エラー メッセージ	表示されたエラー メッセージの正確な語句表現とソフトウェアでのエラーが発生した時点、およびログファイルも記録してください。
試みた解決策	問題の解決を試みた際の手順とその結果の記録、推定される問題の発生回数と問題を再生することができるかどうかを報告してください。

### スターリング コマース社 Support Web Site (英語) へのアクセス

スターリング コマース社 Customer Support Web Site は Gentran:Server for Windows のサポートに関する次の重要な情報が記載されています。

- ▶ サポート サービスの範囲
- ▶ カスタマ サポート ポリシー
- ▶ 優先コール
- ▶ カスタマ サポートの電話番号一覧
- ▶ Support on Demand ケースの作成方法
- ▶ Support on Demand ケースのステータスの確認方法
- ▶ Support on Demand ケースへの情報追加の方法

Customer Support Web Site は常にアップデートされており、スターリング コマース製品のユーザーの皆様にご利用いただけます。この Web サイトには、最新の製品アップデート情報が記載されています。製品情報に関する重要な情報源としてご活用ください。

#### 参照

Customer Support World Wide Web Site へのアクセス方法に関する情報については、『インストール準備 カード』を参照してください。

### マニュアル

Customer Support Web Site にはドキュメント ライブラリがあり、Gentran:Server for Windows マニュアル セットがすべて含まれています。随時このライブラリから製品マニュアルを PDF フォーマットでダウンロードできます。



# Gentran:Server の概要

## 概要

このセクションでは、このマニュアルで使用する Gentran:Server 用語を定義します。これらの用語を理解してから、このマニュアルを読み進めるようにしてください。

## Gentran:Server エグゼクティブ

"Gentran:Server エグゼクティブ" とは、定義されたサーバー上のコミュニケーションおよびトランスレーション機能の実行を制御する Gentran:Server サービスのことです。Gentran:Server エグゼクティブは、Gentran:Server システムの "プライマリ Gentran システム コントローラ" およびすべての "セカンダリ コントローラ" にインストールされます。また、"プライマリ システム コントローラ" では、Gentran:Server エグゼクティブは、重要なシステム情報の集中管理も行います。

## Gentran スケジューラ

"Gentran スケジューラ" は Gentran:Server エグゼクティブのコンポーネントで、スケジュールされたイベントについて、設定された間隔においてイベントのタイミングを確認します。

## Gentran ポーラ

Gentran ポーラは Gentran:Server エグゼクティブのコンポーネントで、あらかじめ設定された間隔において、指定されたファイルの存在をポーリングします。

## コミュニケーション コントローラ

"コミュニケーション コントローラ" は、Gentran:Server とデータを交換する相手組織 (付加価値ネットワーク (VAN) またはトレーディング パートナー) とのコミュニケーションを管理するために使用します。Gentran:Server ファイル インターフェイスを介し、コミュニケーション コントローラは、専用線接続やダイヤルアップ接続だけでなく、サード パーティのコミュニケーションパッケージとの対話もサポートすることができます。

コミュニケーション セッションの完了後に、ポスト コミュニケーション プロセスがコミュニケーション コントローラで実行されます。ポスト コミュニケーションズ プロセスには、アウトバウンド データのコミュニケーション状態の更新、インバウンド データのコンポーネント ドキュメントへの分離、Control Number の確認、およびエラー チェックなどがあります。

### メモ

Gentran:Server システム内の任意のコンピュータをコミュニケーション コントローラにすることができますが、そのシステムにはモデムなどのコミュニケーション機器を介して EC データの送受信機能が装備されており、Gentran:Server システムのコミュニケーション コンポーネントがインストールされている必要があります。

(次のページへ続く)

## システム構成

"システム構成プログラム"を使用すると、システム全体に影響する次のような構成パラメータを変更できます。

- ▶ システム データ ストア フォルダ
- ▶ セキュリティ モード
- ▶ クライアント通知パラメータ
- ▶ オーディット パラメータ
- ▶ コントローラ設定
- ▶ システムで使用される ODBC データ ソース
- ▶ システムに許容されるオーディット エントリの最大数
- ▶ 分割機能の登録
- ▶ ユーザー プロファイル
- ▶ Gentran:Server エグゼクティブ サービスの中止と起動

## システム データ ストア

"システム データ ストア"は、すべての共有 Gentran:Server データの保管場所として使用されます。通常、システム データ ストアは、Gentran:Server システム内の各コンピュータのファイル サーバーとなるコンピュータに置かれます。Gentran:Server システムに置くことができるシステム データ ストアは1つのみですが、必要に応じて、関連付けられたフォルダおよびファイルを複数のコンピュータ (分散システム環境内) に分散させることができます。

### メモ

システム データ ストアが置かれるコンピュータは、Gentran:Server システム内のすべてのコンピュータからアクセス可能でなければなりません。

## セカンダリ コントローラ

Windows ネットワーク内に追加のコントローラ ("セカンダリ コントローラ") を配置できます。これにより、プロセスの負荷を分散でき、より速く効率的なスループットを実現できます。セカンダリ コントローラは、次のいずれかになります。

- ▶ プロセス コントローラ
- ▶ コミュニケーション コントローラ
- ▶ プロセス コントローラとコミュニケーション コントローラ

## 通知

"通知"サブシステムでは、通知パラメータを設定することにより、エラーが発生するタイミングを事前に通知できます。通知パラメータを指定すると、通知プログラムが実行されているユーザー インターフェイス クライアントに警告を送信するか、あるいは指定したオーディット メッセージがオーディット ログに書き込まれた場合に指定したデジタル ページャー番号を呼び出すようにシステムに指示できます。

(次のページへ続く)

---

**データベース**

"データベース"は、Gentran:Server がシステム データを格納するために使用する関連データベースです。このデータベースを使用すると、複数のユーザーが同じデータにアクセスできます。ほかのコンポーネントとデータベースとの対話は、ODBC™ (オープン データベース コネクティビティ) で行われるため、データベース コントローラ上でさまざまなデータベース管理システムを使用できます。

**メモ**

Gentran:Server との使用が認証されているデータベース管理システムを確認するには、『インストール準備 カード』を参照してください。

---

**プライマリ  
Gentran システム  
コントローラ**

"プライマリ システム コントローラ"は、システム内での処理要求の管理と分散、オーディット機能の管理、およびその他すべてのシステム コンポーネントの制御に使用します。

---

**プロセス  
コントローラ**

"プロセス コントローラ"は、システム内の処理要求を管理および分散することにより、システムのトランスレーション負荷を分散して、高速かつ効率的なスループットを実現します。

**メモ**

Gentran:Server システム内のどのコンピュータでも、プロセス コントローラ コンポーネントがインストールされていればプロセス コントローラにできます。

---

**ユーザー  
インターフェイス  
クライアント**

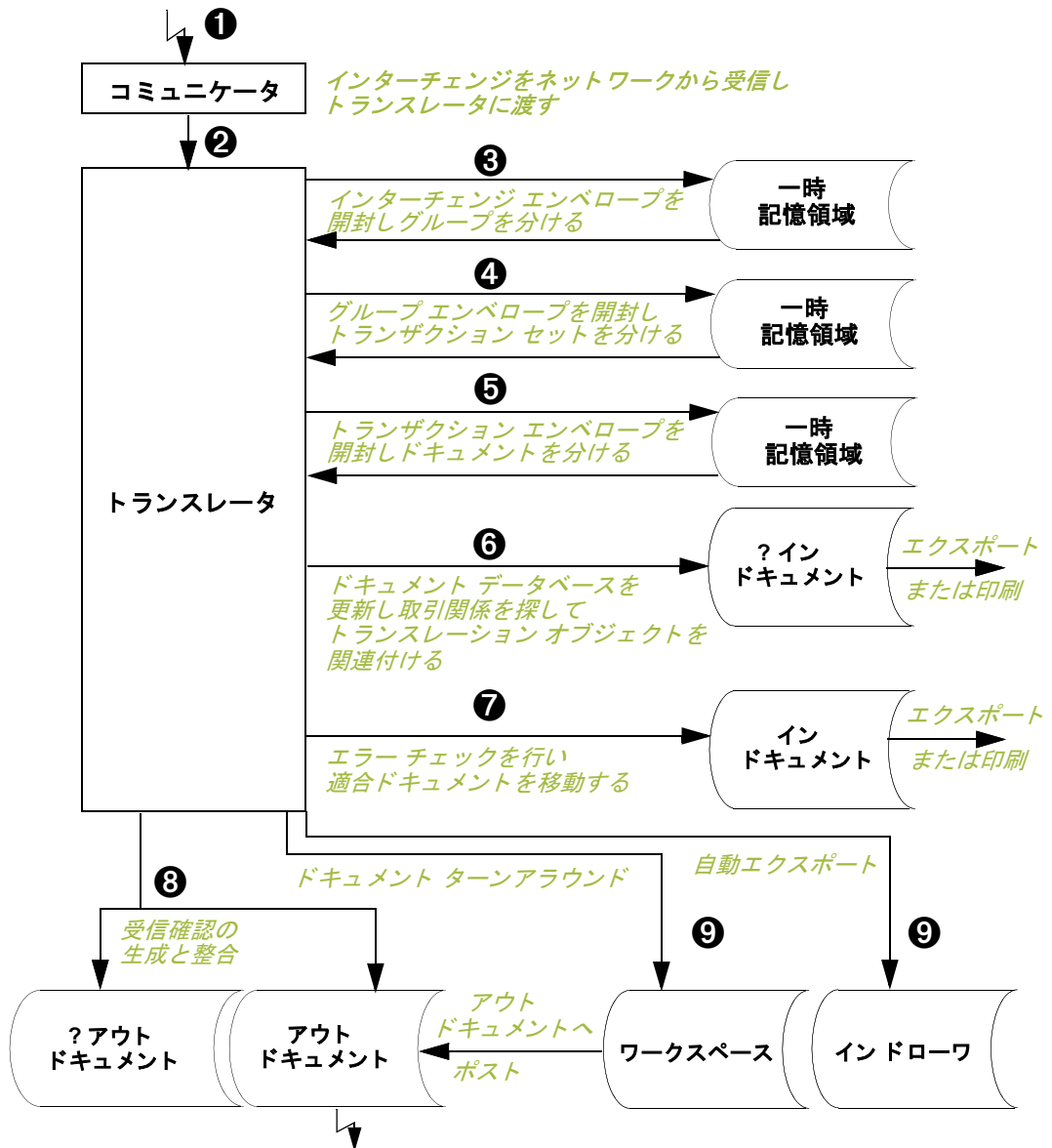
ユーザー インターフェイス クライアントとは、"プライマリ システム コントローラ"または"セカンダリ コントローラ"以外の、Gentran:Server システム内のすべてのコンピュータです。ユーザー インターフェイス クライアントは、システムのモニターおよび制御に必要な機能を提供します。

---

# Gentran:Server データ トランスレーション処理

## インバウンド データのトランス レーション

次の図に、インバウンド トランスレーション処理を示します。



(次のページへ続く)

**インバウンド  
データのトランス  
レーション処理**

インバウンド データのトランスレーションは、次の手順で処理されます。

段階	説明
1	コミュニケータは、ネットワーク経由で、トレーディング パートナーからのインターチェンジを受信します。
2	コミュニケータがインターチェンジをトランスレータに渡します。
3	トランスレータは、インターチェンジ エンベロープを開封し、各グループを一時記憶領域に分けるために、システム インターチェンジ ブレーク トランスレーション オブジェクトを使用します。
4	トランスレータは、グループ エンベロープを開封し、各トランザクション セットを一時記憶領域に分けるために、システム グループ ブレーク トランスレーション オブジェクトを使用します。
5	トランスレータは、システム トランザクション ブレーク トランスレーション オブジェクトを使用して、次を行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ トランザクション エンベロープを開封する</li> <li>▶ 各ドキュメントを、システム データ ストアの別々のファイルに分ける</li> <li>▶ ドキュメントに関する参照情報とともに、レコードをデータベースに書き込む</li> </ul>
6	トランスレータが、各ドキュメントの取引関係を検索するかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 検索する場合は、その関係と関連付けられているエクスポート、ドキュメント ターンアラウンド、および印刷のトランスレーション オブジェクトの識別が行われます。取引関係およびトランスレーション オブジェクトを見つけることができた場合は、そのトランスレーション オブジェクトを使用してドキュメントのチェックが行われます。</li> <li>▶ 検索しない場合 (取引関係またはトランスレーション オブジェクトが見つからない場合) には、そのドキュメントは不適合としてマークされ、[? インドキュメント] に格納されます。</li> </ul>
7	ドキュメントが、EDI スタandard に適合しているかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 適合している場合は、ドキュメントの状態が適合に変更され、[インドキュメント] に格納されます。</li> <li>▶ 適合していない場合は、[? インドキュメント] に格納されたままとなります。詳細なエラー レポートが生成されるので、ユーザーはこれをもとに原因を究明することができます。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

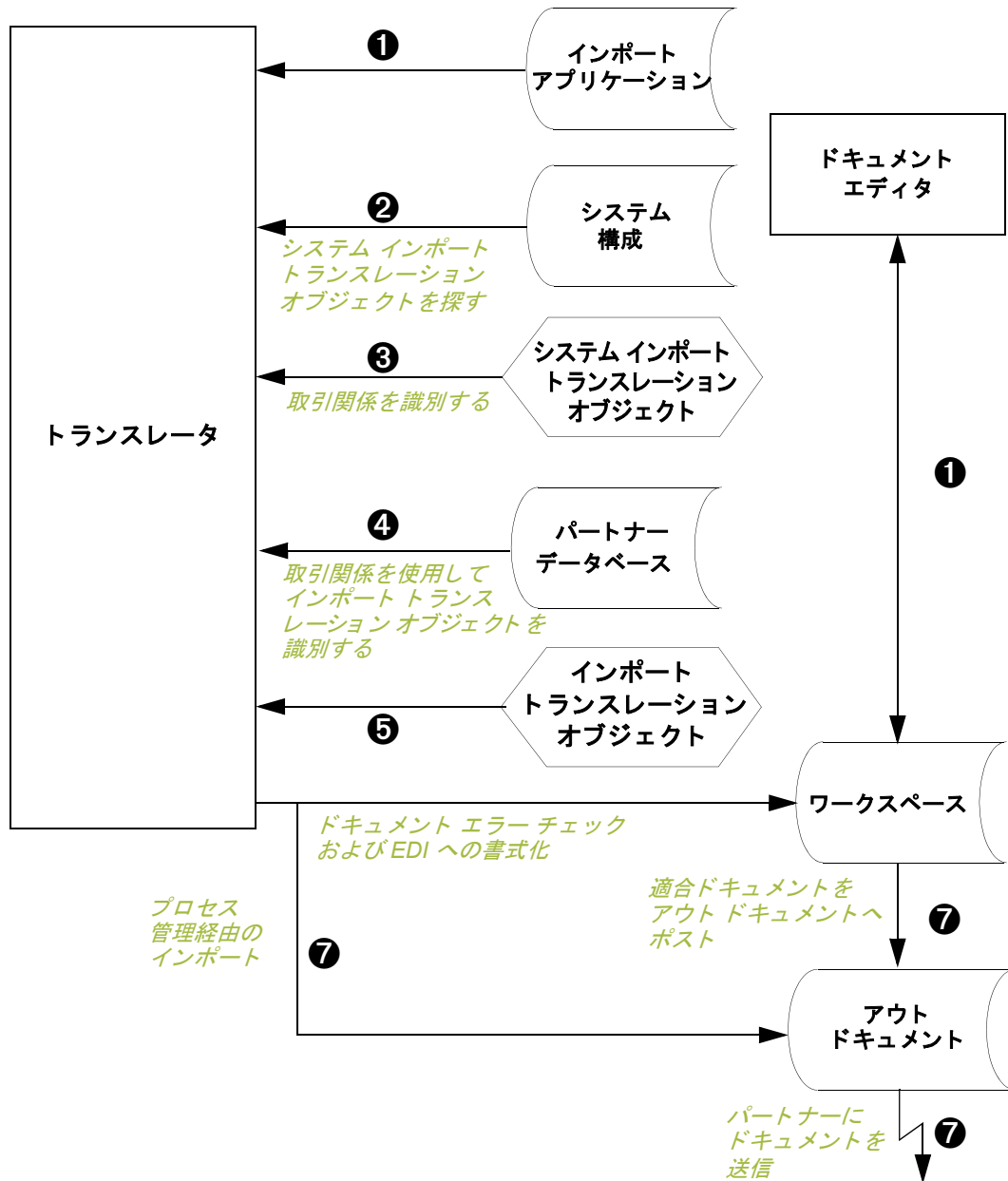
( 続き ) 段階	説明
8	<p>取引関係で、ドキュメントのファンクショナル受信確認が生成されるように指定した場合、トランスレータは、システム受信確認トランスレーションオブジェクトを使用して受信確認を生成します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 適合している受信確認は、送信のため [アウト ドキュメント] に移されます。</li><li>▶ 適合していない受信確認 ( または、受信確認トランスレーションオブジェクトでエラーが発生した場合 ) は、 [ ? アウト ドキュメント ] に移されます。</li></ul> <p>また、トランスレータは、受信確認タイプのトランスレーション ( 例 : 997、CONTRL など ) を受信したときにも受信確認の整合性を取ります。</p>
9	<p>取引関係で自動エクスポートまたは自動ターンアラウンドを指定した場合は、指定されたエクスポート トランスレーション オブジェクトでエクスポートが行われるか、指定されたドキュメントターンアラウンド トランスレーション オブジェクトで適切な応答ドキュメントが生成されます。</p>

---

( 次のページへ続く )

## アウトバウンド データのトランス レーション

次の図に、アウトバウンド トランスレーション処理を示します。



(次のページへ続く)

## アウトバウンド データのトランス レーションプロセス

アウトバウンド データのトランスレーションは、次の手順で処理されます。

段階	説明
1	<p>次の 3 通りのうちのいずれかの方法で、アウトバウンド データのトランスレーションを開始します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 時間限定セッションまたはポーリング セッションを使用して、プロセス管理システムでファイルをインポートします。すべての有効なドキュメントが適合状態でデータベースに書き込まれ、[アウト ドキュメント]に格納されます。無効なドキュメントは不適合状態となり、[?アウト ドキュメント]に格納されます。</li> <li>▶ アプリケーション ファイルをインポートします。手動でインポートしたドキュメントは、[ワークスペース]に格納されます。</li> <li>▶ [ドキュメント エディタ]を使用してドキュメントを入力します(適切なデータ入力トランスレーション オブジェクトが Gentran:Server に登録されている場合のみ)。これらのドキュメントは[ワークスペース]に格納されます。</li> </ul>
2	<p>ファイルをインポートする場合、システム構成からのインポート定義がチェックされ、ファイル名とシステム インポート トランスレーション オブジェクトが照合されます。</p>
3	<p>アプリケーション ファイル内の各ドキュメントに対応する取引関係(パートナー エディタで確立)は、このシステム インポート トランスレーション オブジェクトを使用して識別されます。これにより、ドキュメントの処理にどのインポート マップを使用するかが識別されます。</p>
4	<p>ファイル内のドキュメントに対応する取引関係が識別され、その関係で指定されているインポート トランスレーション オブジェクトが確認されます。</p>
5	<p>トランスレータは、インポート トランスレーション オブジェクトを使用して、ドキュメントのチェックを行います。適合している(有効な)ドキュメントは、OK とマークされます。適合していない(無効な)ドキュメントは、失敗とマークされます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>



( 続き ) 段階	説明
6	まだインポート ファイル内にドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントが処理されるまでステップ 3～5 が繰り返されます。
7	<p>電子商取引 (EC) マネージャ を介して手動でファイルをインポートしたり、[ドキュメント エディタ]を使用した場合は、適合ドキュメントを [アウト ドキュメント] にポストする必要があります。</p> <p><b>メモ</b> [アウト ドキュメント] に格納されたドキュメントは、プロセス管理システムまたは電子商取引 (EC) マネージャの伝送オプションを使用して送信できます。</p>



# システム管理者の機能

## 目次

<b>概要</b> .....	<b>3</b>
▶ はじめに .....	3
<b>システム構成 - [コントローラ] タブ</b> .....	<b>4</b>
▶ 概要 .....	4
▶ システムの起動方法 .....	8
▶ システムの停止方法 .....	12
▶ コントローラの設定を変更する方法 .....	14
<b>システム構成 - [システム] タブ</b> .....	<b>17</b>
▶ 概要 .....	17
▶ ODBC データ ソースの変更方法.....	20
▶ 時間切れ受信確認のチェック頻度を変更する方法 .....	21
<b>システム構成 - [メールボックス] タブ</b> .....	<b>22</b>
▶ 概要 .....	22
▶ メールボックス パラメータの変更方法.....	24
▶ 新しいメールボックス パラメータの作成方法.....	25
▶ メールボックス パラメータの削除方法.....	26
<b>システム構成 - [分割機能] タブ</b> .....	<b>27</b>
▶ 概要 .....	27
▶ 新しい分割機能の登録の定義方法 .....	35
▶ 分割機能の登録の編集方法 .....	36
▶ 分割機能の登録の削除方法 .....	37
▶ 分割機能の登録の順番を変更する方法 .....	38
<b>システム構成 - [ユーザー] タブ</b> .....	<b>39</b>
▶ 概要 .....	39
▶ 新しいユーザーの追加方法 .....	43
▶ ユーザーのアクセス制限の変更および表示方法 .....	44
▶ ユーザーの削除方法 .....	45
<b>システム構成 - [ディレクトリ] タブ</b> .....	<b>46</b>
▶ 概要 .....	46
▶ システム データ ストア フォルダの修正方法.....	50

<b>システム構成 - [セキュリティ] タブ</b> .....	<b>52</b>
▶ 概要 .....	52
▶ Gentran:Server のセキュリティ モードを定義する方法 .....	55
<b>システム構成 - [インポート] タブ</b> .....	<b>56</b>
▶ 概要 .....	56
▶ 新しいインポート指定の定義方法 .....	60
▶ インポート指定の編集方法 .....	62
▶ インポート指定の削除方法 .....	64
▶ インポート指定の順番の変更方法 .....	65
<b>システム構成 - [オーディット / 通知] タブ</b> .....	<b>66</b>
▶ 概要 .....	66
<b>システム構成 - [外部データ] タブ</b> .....	<b>67</b>
▶ 概要 .....	67
▶ 外部データ オプションの設定方法 .....	69
<b>イベント ビューアの使用</b> .....	<b>70</b>
▶ 概要 .....	70

---

# 概要

## はじめに

### この章の目的

この章では、Gentran:Server の管理と保守に関する基本的な情報および手順について説明します。次のようなトピックが含まれています。

- ▶ システムの起動と停止
- ▶ セキュリティの設定
- ▶ 構成パラメータの変更
- ▶ コミュニケーションプロファイルの設定
- ▶ イベント ビューアの使用
- ▶ GNTSTART.EXE と TOMULTI.EXE ユーティリティの使用


### 管理ツール

Gentran:Server には、システム構成など、管理ツールとして使用できるプログラムがいくつか用意されています。

また、重大なエラーやオーディット エラーは Windows のアプリケーション イベント ログ (Windows イベント ビューアからアクセス) に書き込まれるので、このログを使用してハードウェアやソフトウェアの問題を調べることができます。

### システム構成プログラムへのアクセス

次のいずれかの方法で、システム構成プログラムにアクセスできます。

- ▶ Gentran:Server EC マネージャのメイン ツールバーにある [構成] アイコン  をクリックします。
- ▶ [スタート] メニューから [プログラム]、[Gentran Server] の順に選択し、[Gentran Server の構成] を選択して、システム構成プログラムにアクセスします。

既定では [コントローラ] タブが表示されます。

#### メモ

システム構成プログラムにアクセスするには、Gentran:Server にシステム管理者としてログインする必要があります。

## システム構成 - [コントローラ] タブ

### 概要

#### はじめに

---

システム構成の [コントローラ] タブでは、システムの各コントローラの設定を変更することができます。これには、コントローラの **Gentran:Server** サービスを停止および開始することも含まれます。**Gentran:Server** システムは、一連のタスクを適切な順序で実行することにより、いつでも停止および起動できます。

また、[コントローラ] タブを使用すると、**Gentran** ポーラ サービスおよび **Gentran** スケジューラ サービスを開始および停止することもできます。

#### 推奨事項

ネットワークの保守、**Gentran:Server** を実行しているコンピュータのオペレーティング システムのアップグレード、および **Gentran:Server** データベースの保守と再編成を実行する際には、まずシステムを停止してください。

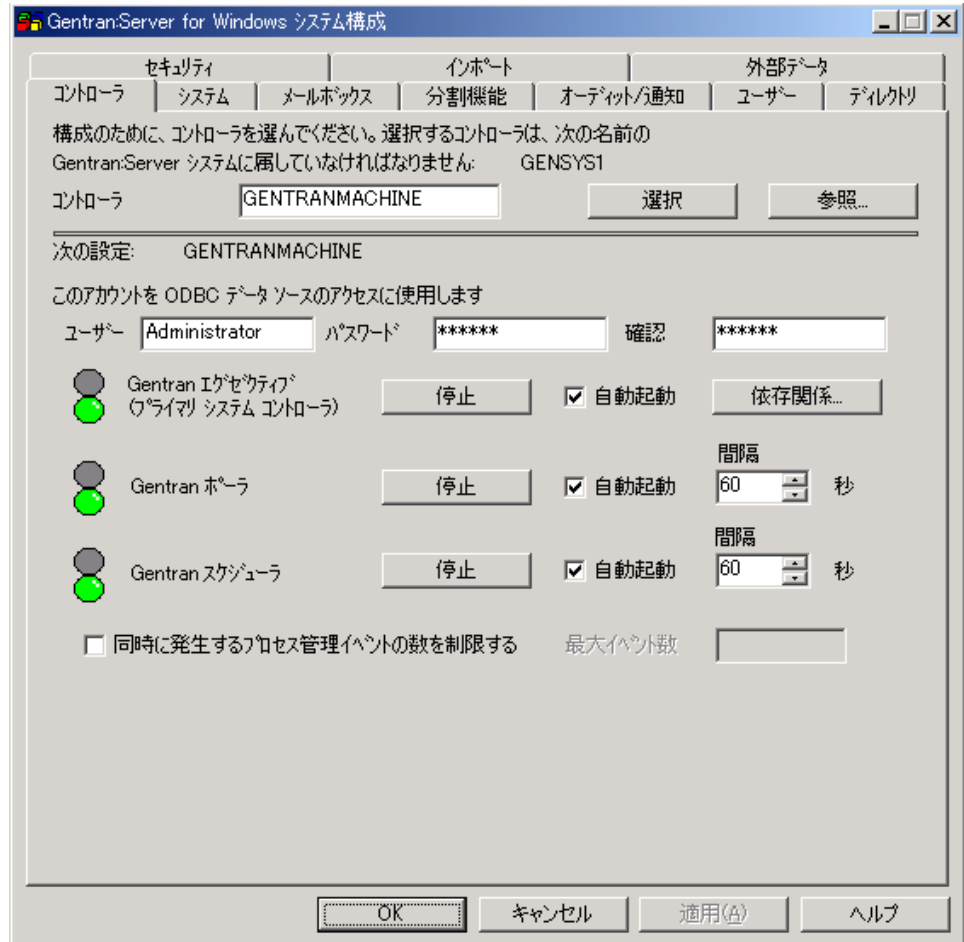
加えて、[コントローラ] タブでは同時に実行できるプロセス管理イベント数の上限を設定することもできます。

---

(次のページへ続く)

図

次に、システム構成の [ コントローラ ] タブを示します。



## 各部と機能

次の表に、[ コントローラ ] タブの各部分とその機能を示します。

各部	機能
コントローラ	<p>選択されているコントローラの名前が表示されます。</p> <p><b>メモ</b> クライアントからシステム構成を開始すると、既定でプライマリ Gentran システム コントローラが表示されます。</p>
選択	<p>選択されているコントローラの設定および開始 / 停止のコントロールが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

各部	機能
参照	[ネットワーク サーバーの選択]ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスから適切なコントローラを選択できます。
ユーザー	選択されているコントローラに Gentran:Server エグゼクティブが使用する ODBC ログオン アカウントのユーザー ID が表示されます。
パスワード	Gentran:Server エグゼクティブが使用する ODBC ログオン アカウントのパスワードが表示されます。
確認	Gentran:Server エグゼクティブが使用する ODBC ログオン アカウントのパスワードを確認します。
停止 / 開始	選択されているコントローラの適切なサービスを停止または開始できます (サービスは左側にリストされています)。
依存関係	Gentran:Server エグゼクティブを開始する前に開始する必要のあるサービスまたはグループを読み込む順番を選択できます。  <b>メモ</b> Gentran:Server エグゼクティブ サービスが依存するサービスは、次のように順序付けられている必要があります。 1. Gentran オーディット通知サービス 2. Gentran:Server メールボックス サービス 3. Gentran:Server コミュニケーションズ サービス (インストールされている場合)
自動起動	Gentran:Server エグゼクティブ サービスを自動的に開始したり、選択されているコントローラの Gentran ポーラ サービスや Gentran スケジューラ サービスを Gentran:Server エグゼクティブの開始時に自動的に開始したりできます。
間隔	ポーリングまたはスケジュールされているイベントの Gentran:Server によるチェック実施間隔を変更できます。
同時に発生するプロセス管理イベントの数を制限する	同時に発生するプロセス管理イベントの数を制限できます。
最大イベント数	同時に実行できるプロセス管理イベントの数が表示されます。

(次のページへ続く)



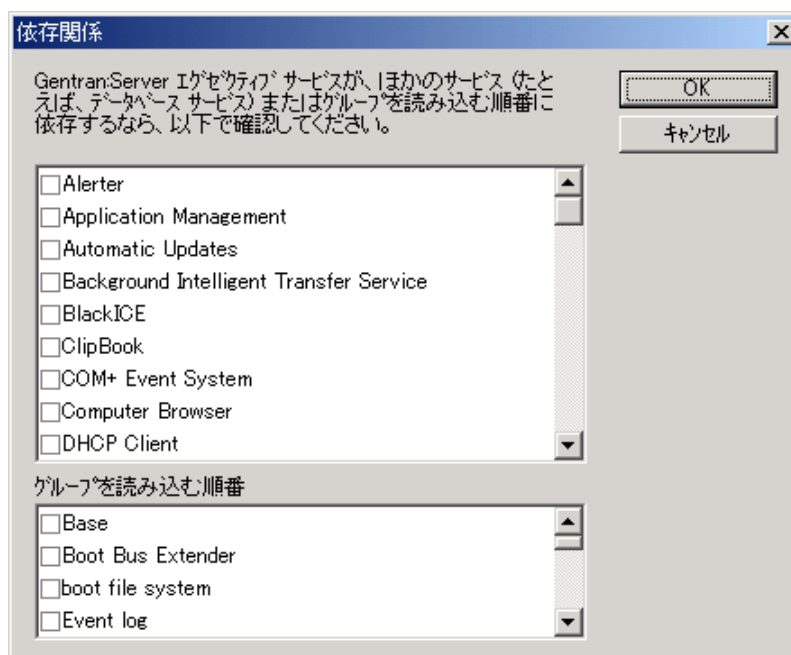
## 依存関係

[コントローラ] タブの [依存関係] をクリックすると、Gentran:Server エグゼクティブを開始する前に開始する必要があるサービスまたはグループを読み込む順番を選択することで、依存関係を指定できます。Gentran:Server エグゼクティブ サービスは、インストールされている次の3つのサービスに依存します。

- ▶ RPC サービス
- ▶ MSSQL サービス
- ▶ SQL エグゼクティブ サービス



次の図に、[依存関係] ダイアログ ボックスを示します。



### メモ

Gentran:Server エグゼクティブ サービスは、Gentran オーディット通知、Gentran:Server メールボックス、および Gentran:Server コミュニケーションズ サービスにも依存しています (サービスの順序は、この文の記述のとおりです)。

### 注意

依存関係の変更は慎重に行う必要があります。依存関係の変更が適切かどうかを確認してください。

## システムの起動方法

### はじめに

Gentran:Server システムは、システム構成プログラムがインストールされているユーザー インターフェイス クライアントまたはコントローラから起動できます。

#### メモ

- ▶ システムを起動するには、Windows 管理者権限および Gentran:Server 管理者権限が必要です。
- ▶ インストールした Gentran:Server が HIPPA に対応している場合は、デスクトップでパスワード保護されたスクリーン セーバーがアクティブになっていなければ、アクティブにするまで Gentran:Server にログオンできません。

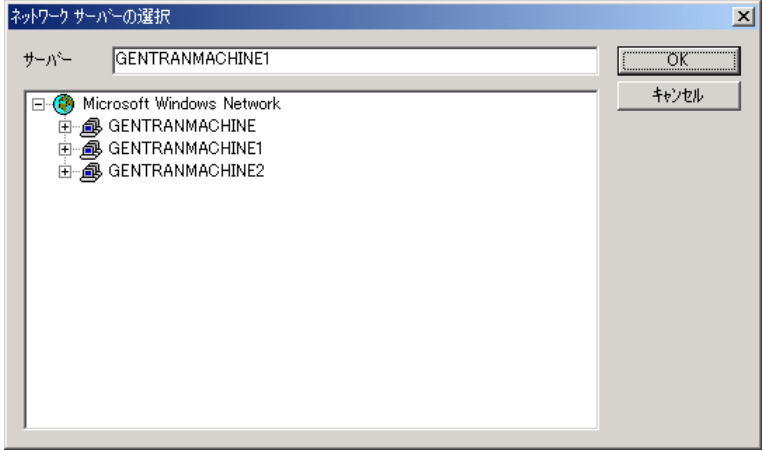
### 手順

Gentran:Server システムを起動するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>システム構成プログラムがインストールされているコンピュータの [ スタート ] メニューから、[ プログラム ]、[ Gentran Server ]、[ Gentran Server の構成 ] の順に選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> システムが停止していることを知らせるメッセージ ボックスが表示されます。</p> <p><b>メモ</b> 使用するセキュリティ モードによっては、Gentran:Server をまだ実行していないときに Gentran:Server プログラム (システム構成など) を開始すると、[ ログイン ] ダイアログ ボックスが表示される場合があります。</p>
2	<p>[OK] をクリックして、メッセージを確認します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ システム構成 ] ダイアログ ボックス ([ コントローラ ] タブ) が表示されます。</p> <p><b>メモ</b> [ コントローラ ] タブでは、Windows の起動時に Gentran:Server エグゼクティブが自動的に開始するように設定できます。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
3	<p>[ コントローラ ] ボックスに、プライマリ システム コントローラの名前が表示されているかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示されている場合は、ステップ 4 に進みます。</li> <li>▶ 表示されていない場合は、[ コントローラ ] ボックスにコントローラ名を入力し、[ 選択 ] をクリックして、選択したコントローラの設定および開始 / 停止のコントロールを表示します。</li> </ul>
4	<p>Gentran:Server エグゼクティブ ( プライマリ システム コントローラ ) の右にある [ 開始 ] をクリックして、Gentran:Server エグゼクティブを開始し、システムを起動します。</p> <p><b>システムからの応答</b> Gentran:Server システムが起動します。Gentran:Server エグゼクティブが正しく開始されると、Gentran ポーラおよび Gentran スケジューラの [ 開始 ] ボタンが表示されます。</p>
5	<p>選択されているコントローラの Gentran:Server エグゼクティブサービスを Windows システムの起動時に起動するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 起動する場合は、Gentran:Server エグゼクティブの [ 停止 / 開始 ] ボタンの右にある [ 自動起動 ] チェックボックスをオンにします。</li> <li>▶ 起動しない場合は、ステップ 6 に進みます。</li> </ul>
6	<p>Gentran:Server エグゼクティブ サービスが依存しているサービスの順序が適切かどうかを確認します。[ 依存関係 ] をクリックして、Gentran:Server エグゼクティブを開始する前に起動する必要のある次のサービスまたはグループを読み込む順番を選択します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Gentran オーディット通知サービス</li> <li>2. Gentran:Server メールボックス サービス</li> <li>3. Gentran:Server コミュニケーションズ サービス ( インストールされている場合 )</li> </ol> <p><b>注意</b> 依存関係の変更は慎重に行う必要があります。依存関係の変更が適切かどうかを確認してください。</p> <p><b>参照</b> Gentran:Server エグゼクティブ サービスが依存するサービスの詳細については、「<a href="#">依存関係</a>」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
7	<p>Gentran ポーラ サービスを起動するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 起動する場合は、Gentran ポーラの右にある [ 開始 ] をクリックします。</li> <li>▶ 起動しない場合は、ステップ 8 に進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b> Gentran ポーラは、Gentran:Server エグゼクティブの開始時に自動的に開始するよう設定できます。また、Gentran ポーラがシステムをポーリングする間隔も指定できます。</p> <p><b>参照</b> Gentran ポーラを自動的に開始する方法、およびポーリング間隔の設定の詳細については、「<a href="#">コントローラの設定を変更する方法</a>」を参照してください。</p>
8	<p>Gentran スケジューラ サービスを起動するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 起動する場合は、Gentran スケジューラの右にある [ 開始 ] をクリックします。</li> <li>▶ 起動しない場合は、ステップ 9 に進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b> Gentran スケジューラは、Gentran:Server エグゼクティブの開始時に自動的に開始するよう設定できます。また、スケジュールされているイベントを Gentran スケジューラがチェックする間隔も指定できます。</p> <p><b>参照</b> Gentran スケジューラを自動的に起動する方法、およびスケジュール間隔の設定の詳細については、「<a href="#">コントローラの設定を変更する方法</a>」を参照してください。</p>
9	<p>システムに他のコントローラがあるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ある場合は、ステップ 10 に進みます。</li> <li>▶ ない場合は、ステップ 13 に進みます。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
10	<p>[ コントローラ ] ボックスにセカンダリ コントローラの名前を入力するか、[ 参照 ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ ネットワーク サーバーの選択 ] ダイアログ ボックスが表示されます。適切なコントローラを選択し、[ OK ] をクリックします。</p> 
11	選択されているコントローラの設定および開始 / 停止コントロールを表示するには、[ 選択 ] をクリックします。
12	ステップ 4 ～ 9 を実行します。
13	[ OK ] をクリックして、システム構成プログラムを終了します。

## システムの停止方法

### はじめに

Gentran:Server システムは、システム構成プログラムがインストールされているユーザー インターフェイス クライアントまたはコントローラから停止できます。

#### メモ

システムを停止するには、Windows 管理者権限および Gentran:Server 管理者権限が必要です。

#### 注意

プライマリ システム コントローラの Gentran:Server エグゼクティブ サービスを停止する前に、すべてのセカンダリ コントローラ上の Gentran:Server エグゼクティブ サービスを停止する必要があります。セカンダリ コントローラを停止する前にプライマリ システム コントローラを停止すると、セカンダリ コントローラでエラーが発生します。

### 手順

Gentran:Server システムを停止するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>Gentran:Server システムにログインしているユーザーがいないことを確認します。</p> <p><b>推奨事項</b> Windows Server のドメイン マネージャを使用して、直ちにログオフするよう促すメッセージをすべてのユーザーに送信します。</p>
2	<p>[ スタート ] メニューから、[ プログラム ]、[ Gentran Server ]、[ Gentran Server の構成 ] の順に選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ システム構成 ] ダイアログ ボックス ([ コントローラ ] タブ) が表示されます。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ システムにセカンダリ コントローラがあるかどうかによって、次を実行します。</li> <li>▶ ある場合は、[ コントローラ ] タブの [ コントローラ ] ボックスにセカンダリ コントローラの名前を入力します。</li> <li>▶ ない場合は、[ コントローラ ] ボックスにプライマリ コントローラの名前を入力します。</li> </ul> <p><b>別の操作方法</b> [ 参照 ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ ネットワーク サーバーの選択 ] ダイアログ ボックスが表示されます。適切なコントローラを選択し、[ OK ] をクリックします。</p>
4	<p>[ 選択 ] をクリックし、選択されているコントローラの設定および開始 / 停止コントロールを表示します。</p>
5	<p>Gentran:Server エグゼクティブの右にある [ 停止 ] をクリックして、Gentran:Server エグゼクティブを無効にし、システムを停止します。</p> <p><b>システムからの応答</b> 警告が表示されます。</p>
6	<p>[ はい ] をクリックして、Gentran:Server エグゼクティブ サービスを停止します。</p> <p><b>システムからの応答</b> Gentran:Server システムが停止します。</p>
7	<p>ステップ 3 ～ 6 を実行して、Gentran:Server システムにある他のコントローラの Gentran:Server エグゼクティブ サービスをそれぞれ停止します。</p> <p><b>メモ</b> プライマリ システム コントローラの Gentran:Server エグゼクティブ サービスは、最後に停止してください。</p>
8	<p>[ OK ] をクリックして、システム構成プログラムを終了します。</p>

## コントローラの設定を変更する方法

### はじめに

[コントローラ] タブでは、同時に実行できるプロセス管理イベント数の上限を設定することができます。また、ODBC ログオン アカウントを変更したり、Gentran:Server サービスの自動起動を指定したり、データのポーリング間隔やスケジュールされているイベントのチェック実施間隔を変更したりできます。

#### メモ

同時に実行されるイベントの数を制限することにより、プロセスをより効率的に実行できます。アクティブなイベントの数が設定されている上限に達すると、それ以降のアクティブなイベントはブロックされた状態になります。ブロックされたイベントは、現在実行されているイベントの処理が完了すると実行されます。

### 手順

コントローラ設定を変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[スタート] メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成] の順に選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [システム構成] ダイアログ ボックス ([コントローラ] タブ) が表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [コントローラ] タブの [コントローラ] ボックスに、コントローラの名前を入力します。</li> <li>▶ [選択] をクリックし、選択されているコントローラの設定および開始 / 停止コントロールを表示します。</li> </ul> <p><b>メモ</b> [コントローラ] タブのボックスは、システムのコントローラであるコンピュータが選択されると、アクティブになります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>



( 続き ) ステップ	操作
3	<p>Gentran:Server エグゼクティブ サービスが使用する ODBC ログオンアカウントを変更する場合は、次の手順に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 設定 ] セクションの [ ユーザー ] ボックスに、Gentran:Server エグゼクティブが使用する ODBC ログオンアカウントのユーザー ID を入力します。</li> <li>▶ [ ユーザー ] ボックスの右にある [ パスワード ] ボックスに、Gentran:Server エグゼクティブが使用する ODBC ログオンアカウントのパスワードを入力します。</li> <li>▶ [ パスワード ] ボックスの右にある [ 確認 ] ボックスに、Gentran:Server エグゼクティブが使用する ODBC ログオンアカウントのパスワードをもう一度入力します。</li> </ul>
4	<p>Windows システムの起動時に、選択されているコントローラで Gentran:Server エグゼクティブ サービスが開始するよう設定するには、Gentran:Server エグゼクティブの [ 停止 / 開始 ] ボタンの右にある [ 自動起動 ] チェックボックスをオンにします。</p>
5	<p>Gentran:Server エグゼクティブ サービスが依存しているサービスの順序が適切かどうかを確認します。[ 依存関係 ] をクリックして、Gentran:Server エグゼクティブを開始する前に起動する必要がある次のサービスまたはグループを読み込む順番を選択します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Gentran オーディット通知サービス</li> <li>2. Gentran:Server メールボックス サービス</li> <li>3. Gentran:Server コミュニケーションズ サービス ( インストールされている場合 )</li> </ol> <p>Gentran:Server エグゼクティブを開始する前に起動する必要があるその他のインストール済みのサービス ( データベース管理システムなど ) またはグループを読み込む順番が [ 依存関係 ] ダイアログボックスで選択されていることを確認します。</p> <p><b>メモ</b> 選択されているコントローラがデータベース コントローラでもある場合は、Gentran:Server エグゼクティブが自動的に起動する前に、必ずデータベース管理システムを有効にしておく必要があります。</p>
6	<p>Gentran:Server エグゼクティブの開始時に、選択されているコントローラで Gentran ポーラ サービスを開始したい場合は、Gentran ポーラの [ 停止 / 開始 ] ボタンの右にある [ 自動起動 ] チェックボックスをオンにします。</p>
7	<p>Gentran:Server によるデータのコントローラのポーリング間隔を変更する場合は、Gentran ポーラの [ 停止 / 開始 ] ボタンの右にある [ 間隔 ] ボックスで間隔を選択します。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
8	Gentran:Server エグゼクティブの起動時に、選択されているコントローラで Gentran スケジューラ サービスを開始したい場合は、Gentran スケジューラの [ 停止 / 開始 ] ボタンの右にある [ 自動起動 ] チェックボックスをオンにします。
9	スケジュールされているイベントの Gentran:Server によるチェック実施間隔を変更する場合は、Gentran スケジューラの [ 停止 / 開始 ] ボタンの右にある [ 間隔 ] ボックスで間隔を選択します。
10	<p>同時に発生するプロセス管理イベントの数を制限するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 制限する場合は、[ 同時に発生するプロセス管理イベントの数を制限する ] チェックボックスをオンにして、[ 最大イベント数 ] ボックスに同時に実行できるプロセス管理イベントの数を入力します。</li> </ul> <p><b>メモ</b> 変更を有効にするには、Gentran:Server エグゼクティブサービスをいったん停止して再度開始する必要があります。システムを停止および起動する方法の詳細については、「<a href="#">システムの起動方法</a>」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 制限しない場合は、ステップ 11 に進みます。</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [OK] をクリックして、システム構成プログラムを終了します。</li> <li>▶ または、[ 適用 ] をクリックして、システム構成を終了せずに、変更を保存します。</li> </ul>

# システム構成 – [システム] タブ

## 概要

### はじめに

システム構成の [システム] タブでは、次の処理を実行できます。

- ▶ ODBC データ ソースの変更
- ▶ Gentran:Server が使用するメールボックスの選択
- ▶ 時間切れ受信確認のチェック実施間隔の指定
- ▶ 受信確認の延期を生成する間隔の指定
- ▶ 受信確認の延期を整合する間隔の指定
- ▶ ほぼ同時に大量に送られてくる容量の小さなファイルを自動的に " バッチ処理 " する連結の間隔の指定

ODBC データ ソースとは、データベースを識別するため ODBC ドライバに渡されるパラメータのセットです。Gentran:Server データベースを他のコンピュータに移動したり、データベース製品を変更したりする際には、ODBC データ ソースの変更が必要となる場合があります。

### 注意

ODBC データ ソースを変更すると、そのデータ ソースによって指定されていた Gentran:Server データベースには接続できなくなるので、変更は慎重に行う必要があります。

[システム] タブでは、時間切れ受信確認のチェック頻度を指定できます。これにより、時間切れ受信確認のチェック頻度を少なくしたり、チェック機能を完全に無効にしたりできます。時間切れのチェック頻度を少なくする、またはチェック機能を無効にすることにより、システムのスループット速度を向上できる場合があります。

加えて、受信確認の延期の生成および整合する間隔の設定、およびほぼ同時に大量に送られてくる容量の小さなファイルを自動的に " バッチ処理 " する連結の間隔を指定できます。

### メモ

設定されたこれらの間隔の開始時間は、Gentran:Server エグゼクティブ サービスが起動ルーチンを完了する時刻によります。たとえば、エグゼクティブ サービスが午前 8 時 24 分 32 秒に開始した場合、間隔が 30 秒であれば、延期された処理は毎分 32 秒と 02 秒の時点で実行されます。また、間隔が 15 分に設定されている場合、延期された処理は毎時 39 分、54 分、09 分、および 24 分の時点で実行されます。

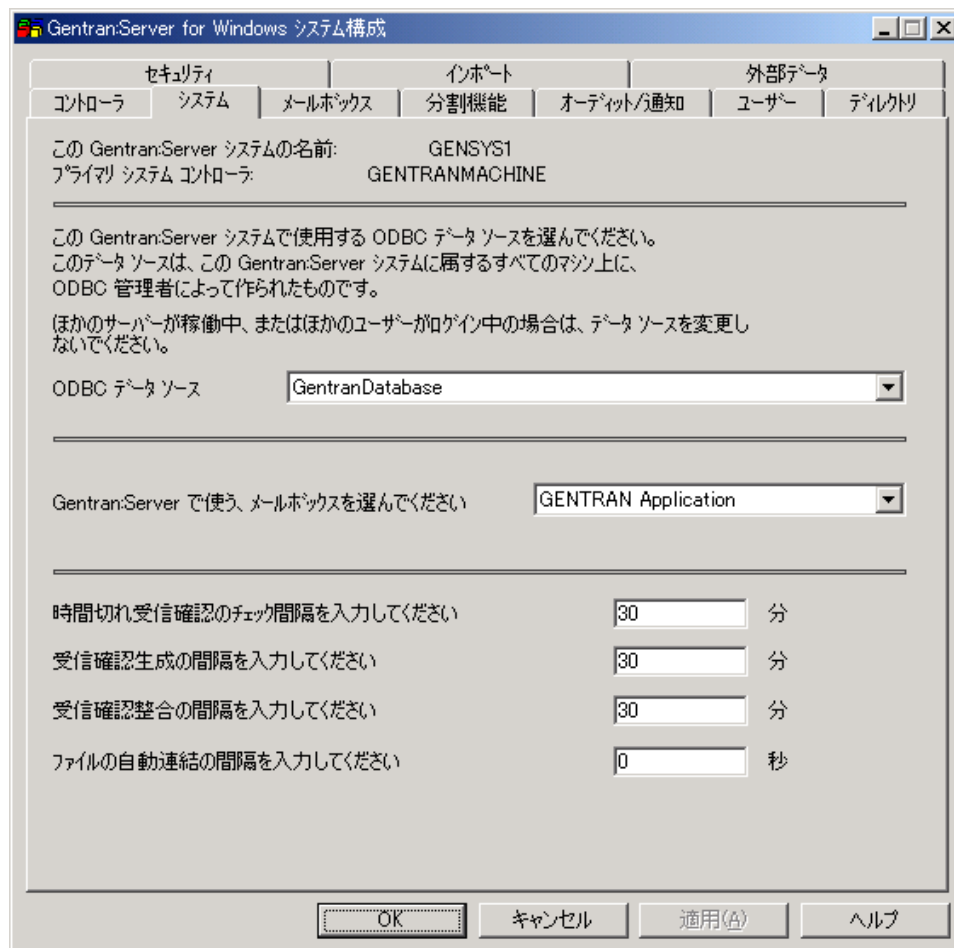
### 参照

受信確認の延期または即時処理のフラグ ( パートナー エディタの [ インバウンド関係 ] ダイアログ ボックス ([ 詳細 ] オプション) ) を設定する方法の詳細については、『ユーザー ガイド』の「受信確認の使い方」を参照してください。

( 次のページへ続く )

図

次の図に、システム構成の [システム] タブを示します。



(次のページへ続く)

## 各部と機能

次の表に、[システム]タブの各部分とその機能を示します。

各部	機能
ODBC データ ソース	Gentran:Server データベースにアクセスするため指定される ODBC データ ソースの名前が表示されます。
Gentran:Server で使う、メールボックスを選んでください	Gentran:Server が使用するメールボックスが表示されます。
時間切れ受信確認のチェック間隔を入力してください	時間切れの受信確認をチェックする分単位の間隔 (値は整数) が表示されます。
受信確認生成の間隔を入力してください	受信確認を生成する分単位の間隔 (値は整数) が表示されます。 <b>メモ</b> この機能を使用して、受信確認の処理を延期することができます。
受信確認整合の間隔を入力してください	受信確認との整合性をとる分単位の間隔 (値は整数) が表示されます。 <b>メモ</b> この機能を使用して、受信確認の処理を延期することができます。
ファイルの自動連結の間隔を入力してください	容量の小さなファイルを 1つのファイルに連結して処理 (バッチ) する間隔 (秒単位) が表示されます。 <b>メモ</b> ほぼ同時に大量に送られてくる容量の小さなファイルを自動的にバッチ処理したい場合、この機能は効果的です。

## ODBC データ ソースの変更方法

### はじめに

ODBC データ ソースとは、データベースを識別するため ODBC ドライバに渡されるパラメータのセットです。さまざまな理由で、指定されている ODBC データ ソースを変更しなければならない場合があります。

### 例

Gentran:Server データベースを他のコンピュータに移動したり、データベース製品を変更したりした場合は、ODBC データ ソースを変更する必要がある場合があります。

### 注意

- ▶ ODBC データ ソースを変更すると、そのデータ ソースによって指定されていた Gentran:Server データベースには接続できなくなるので、変更は慎重に行う必要があります。
- ▶ データ ソースは、Gentran:Server にログオンしているユーザーがいないときに変更してください。

### 手順

ODBC データ ソースを変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログボックス([コントローラ]タブ)が表示されます。
2	[システム]タブを選択します。
3	[システム]タブの[ODBC データ ソース]リストで、Gentran:Server データベースにアクセスするため指定される ODBC データ ソースの名前を選択します。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [OK]をクリックして、システム構成プログラムを終了します。</li> <li>▶ または、[適用]をクリックして、システム構成を終了せずに、変更を保存します。</li> </ul>

## 時間切れ受信確認のチェック頻度を変更する方法

### はじめに

この機能を使用すると、時間切れ受信確認のチェック頻度を分単位 (値は整数) で指定できます。これにより、時間切れ受信確認のチェック頻度を少なくしたり、チェック機能を完全に無効にしたりできます。

### 使用目的

時間切れ受信確認のチェック頻度を少なくする、またはチェック機能を無効にすることにより、システムのスループット速度を向上できる場合があります。

### 手順

時間切れ受信確認のチェック頻度を変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログボックス([コントローラ]タブ)が表示されます。
2	[システム]タブを選択します。
3	時間切れ受信確認のチェックボックスに、時間切れ受信確認をチェックする間隔を分単位(値は整数)で入力します。  <b>メモ</b> 値としてゼロを入力すると、時間切れ受信確認のチェック機能は完全に無効になります。
4	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ [OK] をクリックして、システム構成プログラムを終了します。</li><li>▶ または、[適用] をクリックして、システム構成を終了せずに、変更を保存します。</li></ul>

## システム構成 – [ メールボックス ] タブ

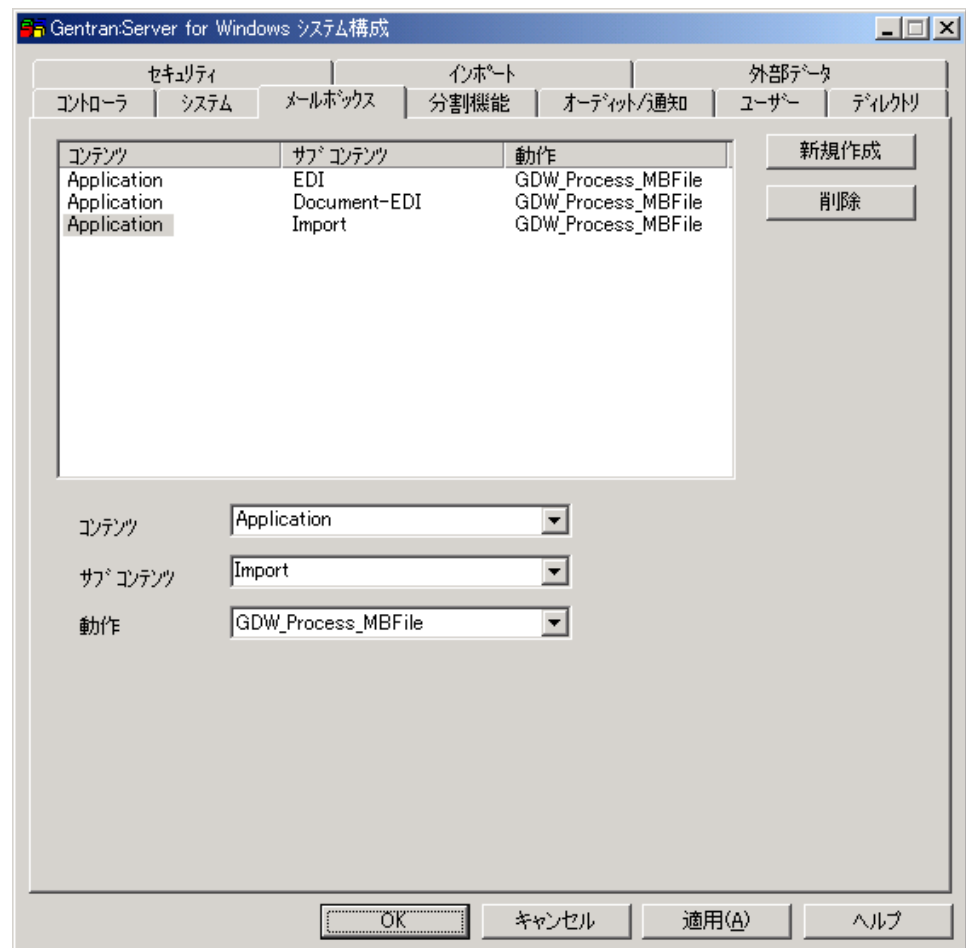
### 概要

#### はじめに

[ システム構成 ] ダイアログ ボックスの [ メールボックス ] タブでは、メールボックス サブシステムのパラメータを表示、変更、作成、および削除できます。また、メールボックスが処理するデータの型や、それぞれの型に対するシステムの動作を指定できます。

#### 図

次に、システム構成の [ メールボックス ] タブを示します。



(次のページへ続く)



## 各部と機能

次の表に、[ メールボックス ] タブの各部分とその機能を示します。

各部	機能
( リスト )	定義済みのメールボックス パラメータが表示されます。
新規作成	新しいメールボックスの設定を定義できます。
削除	選択されたメールボックスの設定を削除します。
コンテンツ	メッセージのコンテンツ タイプが表示されます。 <b>メモ</b> この値の大文字と小文字は区別されます。
サブコンテンツ	メッセージのサブコンテンツのタイプが表示されます。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [Import]</li> <li>▶ [Document-EDI]</li> <li>▶ [EDI]</li> <li>▶ [RosettaNet] (Gentran:Server for RosettaNet をインストールしている場合のみ)</li> </ul> <b>メモ</b> この値の大文字と小文字は区別されます。
動作	指定されたコンテンツおよびサブコンテンツのタイプが出現するときに実行されるシステムの動作が表示されます。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [GDW_Process_MBFile] (インバウンド伝送からメールボックスのファイル进行处理)</li> <li>▶ [GDW_Import] (指定されたファイルからGentran:Serverの"インポート"機能を実行)</li> <li>▶ [GDW_MBImport] (指定されたファイルからGentran:Serverの"メールボックスインポート"機能を実行)</li> </ul>

## メールボックス パラメータの変更方法

### 手順

メールボックス パラメータを変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ スタート ] メニューから、[ プログラム ]、[ <b>Gentran Server</b> ]、[ <b>Gentran Server の構成</b> ] の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [ システム構成 ] ダイアログ ボックス ([ コントローラ ] タブ) が表示されます。
2	[ メールボックス ] タブを選択します。
3	[ コンテンツ ] 列で、修正するパラメータ セットを選択します。
4	[ コンテンツ ] リストで、メッセージ コンテンツ タイプを選択または入力します。
5	[ サブコンテンツ ] リストで、メッセージ サブコンテンツ タイプを選択または入力します。
6	[ 動作 ] リストで、指定されたコンテンツおよびサブコンテンツ タイプが出現するときに実行されるシステムの動作を選択します。
7	[ <b>OK</b> ] をクリックします。  <b>システムからの応答</b> メッセージが表示され、変更を有効にするにはプライマリ Gentran システム コントローラをいったん停止してから再度開始する必要があることが通知されます。
8	[ <b>OK</b> ] をクリックします。  <b>システムからの応答</b> [ コントローラ ] タブが表示されるので、プライマリ Gentran システム コントローラを停止して再起動します。詳細については、「 <a href="#">システムの停止方法</a> 」を参照してください。
9	[ <b>OK</b> ] をクリックして、システム構成プログラムを終了します。

## 新しいメールボックス パラメータの作成方法

### 手順

新しいメールボックス パラメータを作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ スタート ] メニューから、[ プログラム ]、[ Gentran Server ]、[ Gentran Server の構成 ] の順に選択します。 <b>システムからの応答</b> [ システム構成 ] ダイアログ ボックス ([ コントローラ ] タブ) が表示されます。
2	[ メールボックス ] タブを選択します。
3	[ メールボックス ] タブで、[ 新規作成 ] をクリックします。 <b>システムからの応答</b> 新しいメールボックスの設定を定義できます。
4	[ コンテンツ ] リストで、メッセージ コンテンツ タイプを選択または入力します。
5	[ サブコンテンツ ] リストで、メッセージ サブコンテンツ タイプを選択または入力します。
6	[ 動作 ] リストで、指定されたコンテンツおよびサブコンテンツ タイプが出現するときに実行されるシステムの動作を選択します。
7	[ OK ] をクリックします。 <b>システムからの応答</b> メッセージが表示され、変更を有効にするにはプライマリ Gentran システム コントローラをいったん停止してから再起動する必要があることが通知されます。
8	[ OK ] をクリックします。 <b>システムからの応答</b> [ コントローラ ] タブが表示されるので、プライマリ Gentran システム コントローラを停止して再起動します。詳細については、「 <a href="#">システムの停止方法</a> 」を参照してください。
9	[ OK ] をクリックして、システム構成プログラムを終了します。

## メールボックス パラメータの削除方法

### 手順

メールボックス パラメータを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログボックス([コントローラ]タブ)が表示されます。
2	[メールボックス]タブを選択します。
3	[コンテンツ]列で、削除するメールボックス パラメータを選択し、[削除]をクリックします。  <b>注意</b> 選択されたメールボックス パラメータは、警告なしに削除されます。
4	[OK]をクリックして、システム構成プログラムを終了します。

# システム構成 – [ 分割機能 ] タブ

## 概要

### はじめに

---

[ システム構成 ] ダイアログ ボックスの [ 分割機能 ] タブでは、Gentran:Server の分割機能の登録を定義および編集できます。既定の分割機能の登録は、システムにインストールされています。分割機能の各登録には、受信したデータのインターチェンジを識別および分割するために必要なパラメータが含まれています。

### 使用する場合

---

独自のスタンダードを実装したり、実装している EDI スタンダードを変更したりするときには、分割機能の登録の定義、編集、または削除が必要となる場合があります。

#### 注意

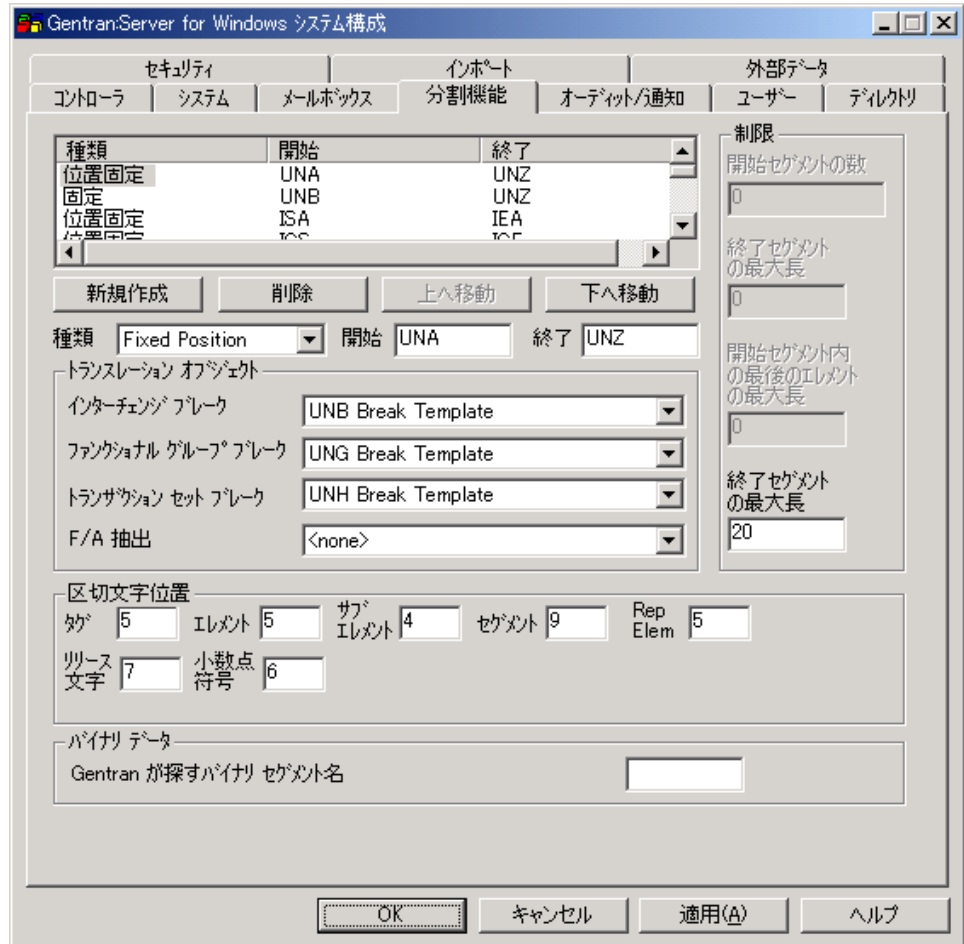
Gentran:Server に標準装備されている既定の分割機能の登録は変更したり削除したりしないよう強くお勧めします。

---

( 次のページへ続く )

図

次に、システム構成の [ 分割機能 ] タブを示します。



## 各部と機能

次の表に、[ 分割機能 ] タブの各部分とその機能を示します。

各部	機能
新規作成	新しい分割機能の登録を定義できます。
削除	選択した分割機能の登録を削除します。 <b>推奨事項</b> Gentran:Server に標準装備されている既定の分割機能の登録は削除しないでください。
上へ移動	分割機能の登録をリスト内で上に移動します。  (次のページへ続く)

( 続き ) 各部	機能
下へ移動	分割機能の登録をリスト内で下に移動します。
種類	<p>分割機能の登録の種類が表示されます。</p> <p><b>値</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 固定 ] では、EDI データに定義済みの区切文字のセットが含まれている必要があります。[ 固定 ] は、既定の値です。</li> <li>▶ [ 位置固定 ] では、区切文字が EDI データの定義された位置に存在する必要があります。システムは、この位置を基に区切文字を特定します。</li> <li>▶ [ 位置可変 ] では、インターチェンジの開始セグメントと終了セグメント、エレメント区切文字の位置 ( 区切文字を特定するために使用される情報 )、開始セグメントのエレメントの数、開始セグメントの最大長、および開始セグメントと終了セグメントに含まれる最後のエレメントの最大長が定義されている必要があります。</li> <li>▶ [ 固定長 ] では、終了セグメントの最大長が定義されている必要があります。</li> <li>▶ [ CII ] では、データは CII スタANDARD である必要があります。</li> <li>▶ [ XML ] では、データは開始セグメントが定義されている XML データである必要があります。</li> <li>▶ [ NCPDP バッチ ] では、データは NCPDP バッチ データである必要があります。</li> </ul> <p><b>メモ</b> NCPDP バッチの分割機能の登録は、1 つしか定義できません。定義済みの NCPDP バッチ分割機能の登録が既に存在するときに、NCPDP バッチの分割機能の登録を新たに追加しようとすると、NCPDP バッチの 2 つ目のエントリは作成できないことを通知するメッセージが表示されます。</p> <p><b>メモ</b> [ 種類 ] の値を変更すると、[ 分割機能 ] タブの他のボックスがアクティブまたは非アクティブになります。</p>
開始	インターチェンジの開始セグメントが表示されます。
終了	インターチェンジの終了セグメントが表示されます。  ( 次のページへ続く )

( 続き ) 各部	機能
インターチェンジ ブレイク	<p>インターチェンジを分割するのに使用されるインターチェンジブレイク トランスレーション オブジェクトが表示されます。</p> <p><b>メモ</b> このリストには、登録されているインターチェンジブレイク トランスレーション オブジェクトだけが表示されます。</p>
ファンクショナル グループブレイク	<p>インターチェンジ内のファンクショナルグループを分割するのに使用されるファンクショナルグループブレイク トランスレーション オブジェクトが表示されます。</p> <p><b>メモ</b> このリストには、登録されているインターチェンジブレイク トランスレーション オブジェクトだけが表示されます。</p>
トランザクション セット ブレイク	<p>インターチェンジ内のトランザクション セットを分割するのに使用されるトランザクション セット ブレイク トランスレーション オブジェクトが表示されます。</p> <p><b>メモ</b> このリストには、登録されているインターチェンジブレイク トランスレーション オブジェクトだけが表示されます。</p>
F/A 抽出	<p>インターチェンジレベルのファンクショナル受信確認をインターチェンジから抽出するのに使用されるファンクショナル受信確認ブレイク トランスレーション オブジェクトが表示されます。</p> <p><b>メモ</b> このリストには、登録されているインターチェンジブレイク トランスレーション オブジェクトだけが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) 各部	機能
タグ	<p>使用しているスタンダードに応じて、次の値が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 種類が [ 固定 ] である場合は、タグ セパレータが表示されます。</li> <li>▶ 種類が [ 位置固定 ] である場合は、インターチェンジにおけるタグ セパレータの位置が表示されます。</li> </ul> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 位置固定 ] の場合、システムはこの値を使用してタグ セパレータを特定し、インターチェンジを分割します。</li> <li>▶ 使用しているスタンダードでタグ セパレータが使用されない場合は、[ タグ ] ボックスに「0」(ゼロ)を入力します。</li> </ul>
エレメント	<p>使用しているスタンダードに応じて、次の値が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 種類が [ 固定 ] である場合は、エレメント セパレータが表示されます。</li> <li>▶ 種類が [ 位置固定 ] である場合は、インターチェンジにおける最初のエレメント セパレータの位置が表示されます。</li> <li>▶ 種類が [ 位置可変 ] である場合は、インターチェンジにおける最初のエレメント 区切文字の位置が表示されます。</li> </ul> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 位置固定 ] および [ 位置可変 ] の場合、システムはこの値を使用してエレメント 区切文字を特定し、インターチェンジを分割します。</li> <li>▶ 使用しているスタンダードでエレメント セパレータが使用されない場合は、[ エレメント ] ボックスに「0」(ゼロ)を入力します。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) 各部	機能
サブエレメント	<p>使用しているスタンダードに応じて、次の値が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 種類が [ 固定 ] である場合は、サブエレメント セパレータが表示されます。</li> <li>▶ 種類が [ 位置固定 ] である場合は、インターチェンジにおける最初のサブエレメント セパレータの位置が表示されます。</li> </ul> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 位置固定 ] の場合、システムはこの値を使用してサブエレメント区切文字を特定し、インターチェンジを分割します。</li> <li>▶ 使用しているスタンダードでサブエレメント セパレータが使用されない場合は、[ サブエレメント ] ボックスに「0」(ゼロ)を入力します。</li> </ul>
セグメント	<p>使用しているスタンダードに応じて、次の値が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 種類が [ 固定 ] である場合は、セグメント ターミネータが表示されます。</li> <li>▶ 種類が [ 位置固定 ] である場合は、インターチェンジにおける最初のセグメント ターミネータの位置が表示されます。</li> </ul> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 位置固定 ] の場合、システムはこの値を使用してセグメント ターミネータを特定し、インターチェンジを分割します。</li> <li>▶ 使用しているスタンダードでセグメント ターミネータが使用されない場合は、[ セグメント ] ボックスに「0」(ゼロ)を入力します。</li> </ul>
Rep Elem	<p>使用しているスタンダードで繰り返しデータ エレメントを含む複合フィールドが使用されている場合は、インターチェンジにおける繰り返しエレメント セパレータの場所が表示されます。これらのフィールドは、リアルタイム伝送では処理できないほど多くの発生を含むことができるよう書式化されている場合があります。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) 各部	機能
リリース文字	<p>使用しているスタンダードに応じて、次の値が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 種類が [ 固定 ] である場合は、リリース指示記号が表示されます。</li> <li>▶ 種類が [ 位置固定 ] である場合は、インターチェンジにおける最初のリリース指示記号の位置が表示されます。</li> </ul> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 位置固定 ] の場合、システムはこの値を使用してリリース指示記号の区切文字を特定し、インターチェンジを分割します。</li> <li>▶ 使用しているスタンダードでリリース指示記号が使用されない場合は、[ リリース文字 ] ボックスに「0」(ゼロ)を入力します。</li> </ul>
小数点符号	<p>使用しているスタンダードに応じて、次の値が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 種類が [ 固定 ] である場合は、小数点の表記記号が表示されます。</li> <li>▶ 種類が [ 位置固定 ] である場合は、数値フィールドの小数点を表すコンマ (,) またはピリオド (.) が表示されます。</li> <li>▶ 種類が [ 位置可変 ] である場合は、数値フィールドの小数点を表すコンマ (,) またはピリオド (.) が表示されます。</li> </ul> <p><b>メモ</b></p> <p>使用しているスタンダードで小数点が表示されない場合は、[ 小数点符号 ] ボックスに「0」(ゼロ)を入力します。</p>
Gentran が探す バイナリ セグメント名	<p>データ内で検索されるバイナリ セグメントの名前を指定します。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[BIN]</b> (バイナリ セグメントの名前)</li> <li>▶ <b>[BDS]</b> (バイナリ セグメントの名前)</li> <li>▶ または、このエディット ボックスを空白にしておくことができます。空白は、データにバイナリ セグメントが含まれないことを示します。この場合、バイナリ セグメントはチェックされません。</li> </ul> <p><b>メモ</b></p> <p>上記以外の値を入力すると、正しい値を入力するよう警告するメッセージが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) 各部	機能
開始セグメントの数	<p>インターチェンジ開始セグメントに含まれるエレメントの数が表示されます。</p> <p><b>メモ</b> セグメント ターミネータを特定するために使用されるコントロールです ( システムは、最後のエレメントに含まれる英数字以外の最初の文字をセグメント ターミネータとして認識します )。</p>
開始セグメントの最大長	<p>インターチェンジ開始セグメントの最大長が表示されます。</p> <p><b>メモ</b> セグメント ターミネータを特定するために使用されるコントロールです ( システムは、開始セグメントの最大長を超えるセグメント ターミネータは検索しません )。</p>
開始セグメント内の最後のエレメントの最大長	<p>インターチェンジ開始セグメントに含まれる最後のエレメントの最大長が表示されます。</p> <p><b>メモ</b> セグメント ターミネータを特定するために使用されるコントロールです ( システムは、開始セグメントに含まれる最後のエレメントの最大長を超えるセグメント ターミネータは検索されません )。</p>
終了セグメントの最大長	<p>インターチェンジ終了セグメントの最大長が表示されます。</p> <p><b>メモ</b> インターチェンジの終端を識別するために使用されるコントロールです。</p>

## 新しい分割機能の登録の定義方法

### はじめに

独自のスタンダードを実装したり、実装している EDI スタンダードを変更したりするときには、新しい分割機能の登録を定義する必要があります。

### 手順

新しい分割機能の登録を定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログボックス([コントローラ]タブ)が表示されます。
2	[分割機能]タブを選択します。
3	[新規作成]をクリックします。  <b>システムからの応答</b> 新しい分割機能の登録を定義できます。
4	[種類]リストで、分割機能の登録の種類を選択します。
5	次の値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [開始]ボックス(使用できる場合)</li> <li>▶ [終了]ボックス(使用できる場合)</li> <li>▶ [トランスレーションオブジェクト]セクションで、ドロップダウンリストから適切なブレードトランスレーションオブジェクトを選択します。</li> <li>▶ [区切文字]セクションで、使用しているスタンダードに応じた区切文字を指定します。</li> </ul> <b>参照</b> 詳細については、「各部と機能」を参照してください。
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [OK]をクリックして、システム構成プログラムを終了します。</li> <li>▶ または、[適用]をクリックして、システム構成を終了せずに、変更を保存します。</li> </ul>

## 分割機能の登録の編集方法

### はじめに

独自のスタンダードを実装したり、実装している EDI スタンダードを変更したりするときには、分割機能の登録の修正が必要となる場合があります。

#### 注意

Gentran:Server に標準装備されている既定の分割機能の登録は変更しないよう強くお勧めします。

### 手順

分割機能の登録を編集するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログボックス([コントローラ]タブ)が表示されます。
2	[分割機能]タブを選択します。
3	[分割機能]タブの[種類]列で、編集する分割機能の登録を選択します。
4	種類を変更する場合は、[種類]リストで分割機能の登録の種類を選択します。
5	必要に応じて、次の値を修正します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [開始]ボックス(使用できる場合)</li> <li>▶ [終了]ボックス(使用できる場合)</li> <li>▶ [トランスレーションオブジェクト]セクションで、ドロップダウンリストから適切なブレイクトランスレーションオブジェクトを選択します。</li> <li>▶ [区切文字]セクションで、使用しているスタンダードに応じた区切文字を指定します。</li> </ul> <b>参照</b> 詳細については、「各部と機能」を参照してください。
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [OK]をクリックして、システム構成プログラムを終了します。</li> <li>▶ または、[適用]をクリックして、システム構成を終了せずに、変更を保存します。</li> </ul>

## 分割機能の登録の削除方法

### はじめに

独自のスタンダードを実装したり、実装している EDI スタンダードを変更したりするときには、分割機能の登録の削除が必要となる場合があります。

#### 注意

Gentran:Server に標準装備されている既定の分割機能の登録は削除しないよう強くお勧めします。

### 手順

分割機能の登録を削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。 <b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログボックス([コントローラ]タブ)が表示されます。
2	[分割機能]タブを選択します。
3	[種類]列で、削除する分割機能の登録を選択し、[削除]をクリックします。 <b>システムからの応答</b> 選択された分割機能の登録は、警告なしに削除されます。
4	[OK]をクリックして、システム構成プログラムを終了します。

## 分割機能の登録の順番を変更する方法

### はじめに

インターチェンジは、[分割機能]タブの分割機能リストにある登録の順番に従って分割されるため、分割機能リストの並べ替えが必要となる場合があります。

### 例

したがって、UNA セグメントのいずれかを定義する前に UNB セグメントの分割機能の登録を定義した場合は、(UNB は UNA に埋め込まれるため) リスト内で UNA 登録が UNB 登録より先に表示されるよう順番を変更し、インターチェンジが適切な順番で処理されるようにすることができます。

### 手順

分割機能の登録の順番を変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログ ボックス ([コントローラ]タブ) が表示されます。
2	[分割機能]タブを選択します。
1	[分割機能]タブの [種類]列で、移動する分割機能の登録を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [上へ移動]をクリックして、その分割機能の登録をリスト内で上へ移動します。</li> <li>▶ または、[下へ移動]をクリックして、その分割機能の登録をリスト内で下へ移動します。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [OK]をクリックして、システム構成プログラムを終了します。</li> <li>▶ または、[適用]をクリックして、システム構成を終了せずに、変更を保存します。</li> </ul>



# システム構成 - [ユーザー] タブ

## 概要

### はじめに

---

システム構成の [ユーザー] タブでは、Gentran:Server のユーザーを管理できます。システム セキュリティは、システムにログオンできるユーザーや、ユーザーが利用できる機能を管理する、重要な継続的ステップです。セキュリティにより、システムの特定の領域を変更できるユーザーを限定して、データの整合性を守ることができます。

### メモ

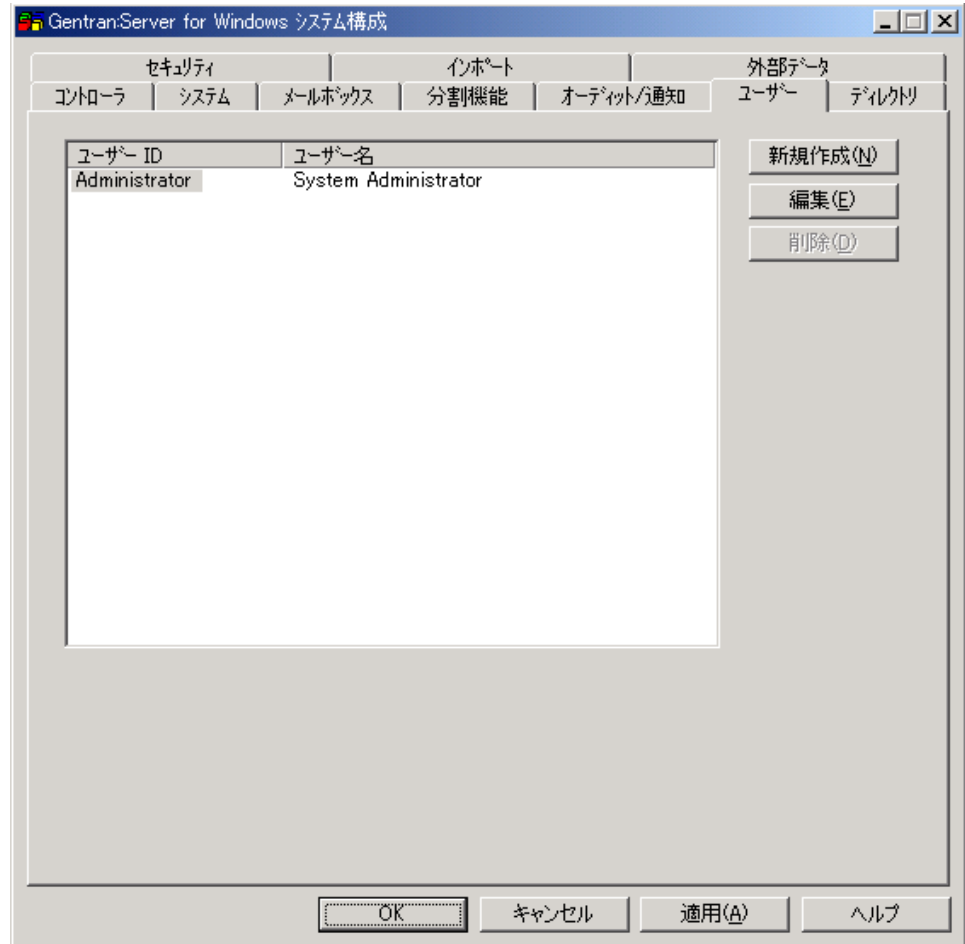
- ▶ システムに Gentran:Server のユーザーを追加する必要があります。
- ▶ Gentran:Server を "統合" セキュリティ モードで実行している場合、Gentran:Server のユーザー ID と Windows のユーザー ID が一致していれば、ユーザーは Gentran:Server へのログオンを要求されません。
- ▶ Gentran:Server システムで "統合" セキュリティを使用している場合、ユーザーの Windows パスワードが変更されたときには、そのユーザーの Gentran:Server およびデータベースのパスワードにも変更が必要となる場合があります。

---

(次のページへ続く)

図

次の図に、システム構成の [ ユーザー ] タブを示します。



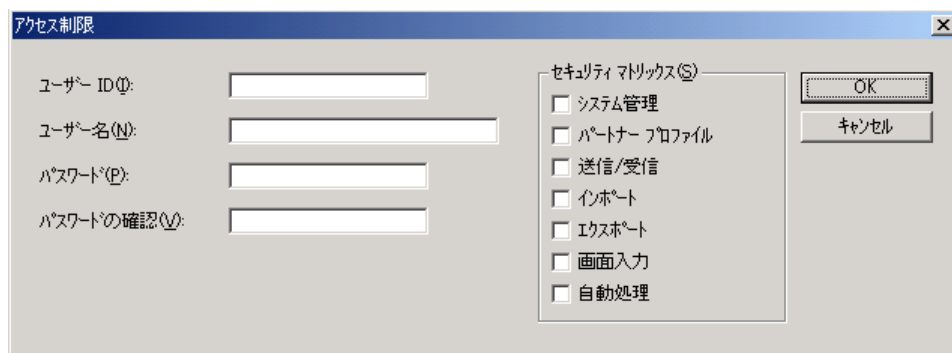
### ユーザー タブの各部と機能

次の表に、[ ユーザー ] タブの各部分とその機能を示します。

各部	機能
( リスト )	定義済みの Gentran:Server ユーザーのリストが表示されます。
新規作成	新しいユーザーを定義できる [ アクセス制限 ] ダイアログ ボックスが表示されます。
編集	ユーザー アクセス パラメータを変更できる [ アクセス制限 ] ダイアログ ボックスが表示されます。
削除	選択されているユーザーを削除します。

### [アクセス制限] ダイアログ ボックス

次に、[アクセス制限]ダイアログ ボックスを示します。



### [アクセス制限] ダイアログ ボックス の各部と機能

次の表に、[アクセス制限]ダイアログ ボックスの各部分とその機能を示します。

各部	機能
ユーザー ID	ユーザーの一意のログオン識別子が表示されます。
ユーザー名	ユーザーの名前が表示されます。
パスワード パスワードの確認	ユーザーのパスワードが表示されます。 <b>メモ</b> パスワードは、[パスワードの確認]ボックスで確認する必要があります。  (次のページへ続く)

各部	機能
セキュリティ マトリックス	<p>ユーザーのアクセス権を選択できます。</p> <p>システム管理者は、他のユーザーの設定を更新してシステム管理者権限を与えたり、自分のシステム管理者権限を削除することもできます。自分の権限を変更し、いったんプロファイルを保存すると、権限をリセットできなくなる場合があります。</p> <p><b>メモ</b> システム管理者権限を持つユーザーがシステムに一人しか存在しない場合、そのユーザーから管理者権限を削除することはできません。</p> <p>有効な選択肢は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[システム管理]</b>を選択すると、システム管理者権限が与えられます。</li> </ul> <p><b>注意</b> システム管理者として割り当てるユーザーは、慎重に検討してください。システム構成プログラムには、システム管理者だけがアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[パートナー プロファイル]</b>を選択すると、パートナー エディタとパートナーのウィザードへのアクセス権が与えられます。</li> <li>▶ <b>[送信/受信]</b>を選択すると、データを送受信するアクセス権が与えられます。</li> <li>▶ <b>[インポート]</b>を選択すると、データをインポートするアクセス権が与えられます。</li> <li>▶ <b>[エクスポート]</b>を選択すると、データをエクスポートするアクセス権が与えられます。</li> <li>▶ <b>[画面入力]</b>を選択すると、ドキュメント エディタ (画面入力) サブシステムへのアクセス権が与えられます。</li> <li>▶ <b>[自動処理]</b>を選択すると、プロセス管理サブシステムへのアクセス権が与えられます。</li> </ul>

## 新しいユーザーの追加方法

### はじめに

新しいユーザーを設定できるのは、システム管理者権限を持つユーザーだけです。システム管理者権限を持っていない場合は、担当のセキュリティ管理者に依頼して設定を完了する必要があります。

#### メモ

Gentran:Server で、ユーザーは各自、自分のパスワードを変更できます。

### 手順

新しいユーザーを追加するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。 <b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログ ボックス ([コントローラ]タブ) が表示されます。
2	[ユーザー]タブを選択します。
3	[ユーザー]タブで、[新規作成]をクリックします。 <b>システムからの応答</b> [アクセス制限]ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[ユーザー ID]ボックスに、このユーザーの一意のログオン識別子を入力します。
5	[ユーザー名]ボックスに、このユーザーの名前を入力します。
6	[パスワード]ボックスに、ユーザーのパスワードを入力します。
7	[パスワードの確認]ボックスに、ユーザーのパスワードをもう一度入力します。
8	[セキュリティマトリックス]セクションで、ユーザーがアクセスする必要のあるシステム内の領域を選択します。
9	[OK]をクリックして、[アクセス制限]ダイアログ ボックスを閉じます。
10	[OK]をクリックして、システム構成プログラムを終了します。

## ユーザーのアクセス制限の変更および表示方法

### はじめに

ユーザーのアクセス制限プロファイルを変更できるのは、システム管理者権限を持つユーザーだけです。システム管理者権限を持つユーザーは、自分のプロファイルだけでなく、他のすべてのユーザーのシステム アクセス権も変更できます。

#### メモ

システム管理者権限を持つユーザーがシステムに一人しか存在しない場合、そのユーザーから管理者権限を削除することはできません。

### 手順

ユーザーのアクセス制限プロファイルを変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログ ボックス ([コントローラ]タブ) が表示されます。
2	[ユーザー]タブを選択します。
3	変更したいユーザーのユーザー ID を選択し、[編集]をクリックします。  <b>システムからの応答</b> [アクセス制限]ダイアログ ボックスが表示されます。
4	ユーザー名を修正するには、[ユーザー名]ボックスにこのユーザーの名前を入力します。
5	ユーザーのパスワードを修正するには、次のボックスにパスワードを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [パスワード]ボックス</li> <li>▶ [パスワードの確認]ボックス</li> </ul>
6	[セキュリティマトリックス]セクションで、ユーザーがアクセスする必要のあるシステム内の領域を選択します。
7	[OK]をクリックして、[アクセス制限]ダイアログ ボックスを閉じます。
8	[OK]をクリックして、システム構成プログラムを終了します。

## ユーザーの削除方法

### はじめに

システムからユーザー アクセス プロファイルを削除できるのは、セキュリティ管理者 (システム管理者権限を持つユーザー) だけです。

#### メモ

システム管理者権限を持つユーザーが一人しか存在しない場合、そのユーザーをシステムから削除することはできません。

### 手順

ユーザーを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログ ボックス ([コントローラ]タブ) が表示されます。
2	[ユーザー]タブを選択します。
3	削除するユーザーのユーザー ID を選択し、[削除]をクリックします。  <b>システムからの応答</b> 削除を確認するダイアログ ボックスが表示されます。
4	[OK]をクリックして、選択されているユーザーを削除します。
5	[OK]をクリックして、システム構成プログラムを終了します。

# システム構成 – [ディレクトリ] タブ

## 概要

### はじめに

---

[システム構成] ダイアログ ボックスの [ディレクトリ] タブでは、Gentran:Server のインストール時に作成したシステム データ ストア フォルダを修正できます。

また、ドキュメントやトランスレータ レポートのフォルダ (インバウンド インターチェンジとアウトバウンド インターチェンジ、ドキュメント、およびトランスレータ レポート) を、ファイルの作成日や日時に基づく階層型のファイル構造として構成することもできます。

#### メモ

階層型ファイル構造を使用すると、1つのフォルダに大量のファイルが保存されることを避け、またフォルダの操作性が向上されるので、システムの機能が向上します。

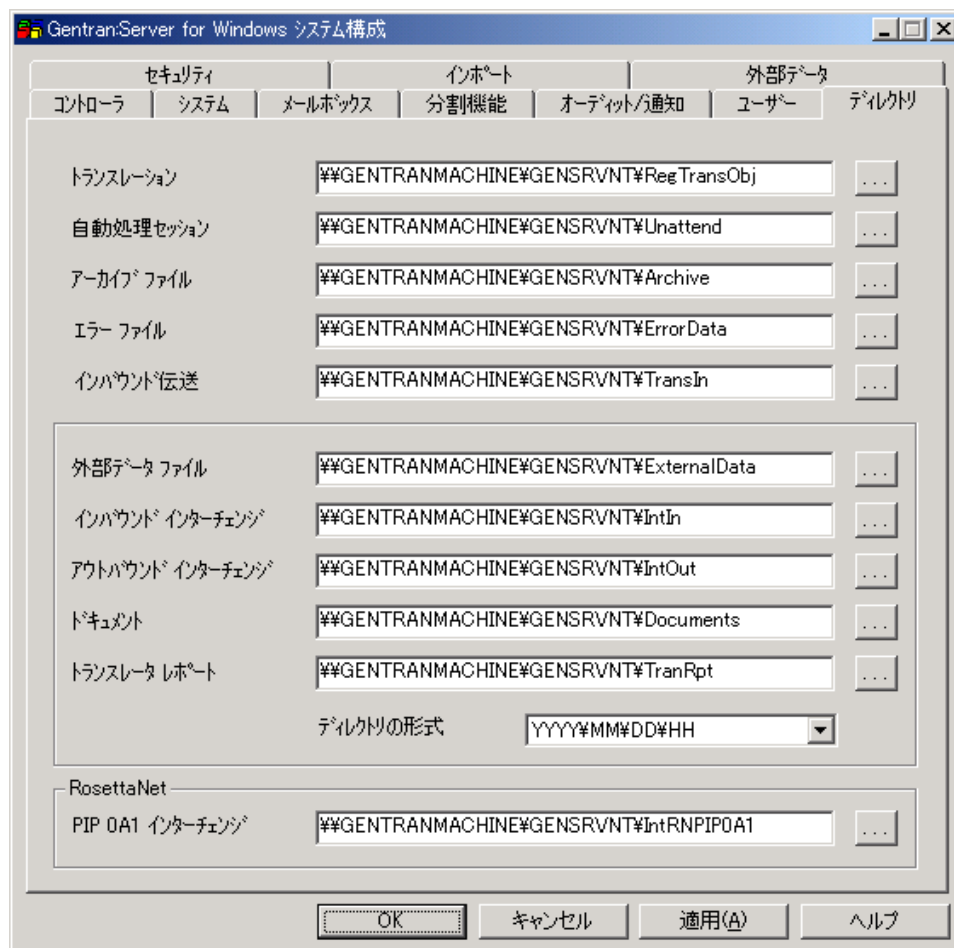
---

(次のページへ続く)



図

次に、システム構成の [ ディレクトリ ] タブを示します。



(次のページへ続く)

## 各部と機能

次の表に、[ ディレクトリ ] タブの各部分とその機能を示します。

各部	機能
トランスレーション オブジェクト	登録済みのトランスレーション オブジェクトが表示 されます。  <b>メモ</b> 既定値は [RegTransObj] です。
自動処理セッション	すべてのプロセス管理イベント、セッション、および カレンダーのファイルが表示されます。  <b>メモ</b> 既定値は [Unattend] です。
アーカイブ ファイル	すべてのアーカイブ ファイルが表示されます。  <b>メモ</b> 既定値は [Archive] です。
エラー ファイル	分割機能で認識されなかったインターチェンジやネッ トワーク レポートが表示されます。  <b>メモ</b> 既定値は [ErrorData] です。
インバウンド 伝送	メールボックス インポート ファイルが表示されます。  <b>メモ</b> 既定値は [TransIn] です。  <b>メモ</b> TRANSIN ディレクトリに設定するパスは、[ インポー ト ] タブでメールボックス インポートに対して指定 する UNC ファイルのパスと一致している必要があり ます。  <b>参照</b> インポート指定を設定する方法の詳細については、 「 <a href="#">システム構成 - [ インポート ] タブ</a> 」を参照してくだ さい。
外部データ ファイル	すべての外部データ ファイルのコピーが表示され ます。  <b>メモ</b> 既定値は [ExternalData] です。
インバウンド インターチェンジ	受信されたすべてのインターチェンジが表示され ます。  <b>メモ</b> 既定値は [IntIn] です。

( 次のページへ続く )

各部	機能
アウトバウンド インターチェンジ	送信されたすべてのインターチェンジが表示されます。  <b>メモ</b> 既定値は [IntOut] です。
ドキュメント	すべてのドキュメント ファイルが表示されます。  <b>メモ</b> 既定値は [Documents] です。
トランスレータ レポート	すべてのトランスレータ レポートが表示されます。  <b>メモ</b> 既定値は [TranRpt] です。
ディレクトリの形式	ドキュメントやトランスレータ レポートのフォルダを、ファイルの作成日や日時に基づく階層型のファイル構造として構成できます。  使用できるオプションは、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [なし] (既定値です)</li> <li>▶ [YYYY/MM/DD] (日付別にファイルを分類。日付書式は #YYYY/MM/DD)</li> <li>▶ [YYYY/MM/DD/HH] (日時別にファイルを分類。日時の書式は #YYYY/MM/DD/HH)</li> </ul> <b>メモ</b> このオプションでディレクトリ構造を設定すると、4桁表記の年に対応する階層レベルを最上位に持つ構造が作成されます。その下位に2桁表記の月および2桁表記の日に対応するレベルが作成され、指定された書式によっては、さらに2桁表記の時間(24時間形式)のレベルが作成されます。  ディレクトリ構造の変更は、既存の構造には影響を与えません。新たにシステムに読み込まれるファイルは、ここで指定される階層レベルに格納されます。
PIP 0A1 インターチェンジ	すべてのアウトバウンド PIP 0A1 エラー通知動作のインターチェンジ (Gentran:Server for RosettaNet バージョン 5.0 がインストールされている場合) が表示されます。  <b>メモ</b> 既定値は [IntRNPIP0A1] です。
... (参照)	[ディレクトリの選択] ダイアログ ボックスから適切なフォルダを選択できます。

## システム データ ストア フォルダの修正方法

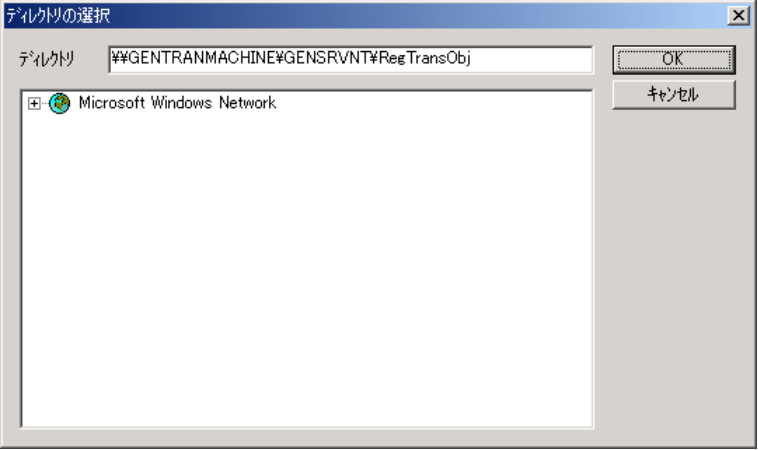
### はじめに

システム構成プログラムを使用すると、Gentran:Server のインストール時に作成されるシステム データ ストア フォルダを修正できます。

### 手順

システム データ ストア フォルダを修正するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログボックス([コントローラ]タブ)が表示されます。
2	[ディレクトリ]タブを選択します。  (次のページへ続く)

( 続き ) ステップ	操作
3	<p>[ディレクトリ] タブで、次のいずれかの方法でシステム データ ストア フォルダを修正します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 適切なボックスにパスとフォルダを入力します。</li> <li>▶ または、[...] (参照) をクリックして、フォルダを選択します。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> [ディレクトリの選択] ダイアログ ボックスが表示されます (ファイルパスを選択して [OK] をクリックします)。</p>  <p><b>注意</b> Gentran:Server を分散環境で実行している場合は、すべてのフォルダを (ドライブ マッピングを使用するのではなく) UNC 書式で入力する必要があります。</p> <p>参照 (...) ボタンをクリックして [ディレクトリの選択] ダイアログ ボックスからフォルダを選択した場合は、自動的に UNC 書式でフォルダが指定されます。</p>
4	<p>ドキュメントやトランスレータ レポートのフォルダ (インバウンド インターチェンジとアウトバウンド インターチェンジ、ドキュメント、およびトランスレータ レポート) を、ファイルの作成日や日時に基づく階層型のファイル構造として構成するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 構成する場合は、[ディレクトリの形式] リストでファイル構造を選択します。</li> <li>▶ 構成しない場合は、ステップ 5 に進みます。</li> </ul>
5	[OK] をクリックして、システム構成プログラムを終了します。

## システム構成 - [セキュリティ] タブ

### 概要

#### はじめに

[システム構成] ダイアログ ボックスの [セキュリティ] タブでは、システムのセキュリティ モードを定義できます。Gentran:Server では、次の 3 つのセキュリティ モードがサポートされています。

- ▶ "統合"
- ▶ "混合"
- ▶ "標準"

#### 推奨事項

Gentran:Server とデータベースのセキュリティ モードは同じにしておくことをお勧めします。

#### メモ

使用するセキュリティ モードによっては、Gentran:Server をまだ実行していないときに Gentran:Server プログラム (システム構成など) を起動すると、[ログイン] ダイアログ ボックスが表示される場合があります。

#### 注意

ODBC データ ソースが "統合" または "混合" のセキュリティ モードをサポートしていない、またはサポートするよう構成されていない場合は、個別のログオンが必要となる場合があります。

#### "統合" セキュリティ モード

"統合" は、推奨されているセキュリティ モードです。このモードでは、Gentran:Server のユーザー ID が Windows の ID と同じであれば、Gentran:Server へのサインオンは要求されません。

#### 単体のシステムの場合

構成されているシステムが 1 つしかない場合、このモードでは、ログインに失敗しない限り、別のユーザーとして Gentran:Server にログインすることはできません。ログインに失敗すると、[ログイン] ダイアログ ボックスが表示され、システムへのアクセス権が確認されます。

#### 複数のシステムがある場合

構成されているシステムが複数ある場合、"統合" セキュリティ モードでは、[ログイン] ダイアログ ボックスが表示され、適切な Gentran:Server システムを選択できます ([ログイン] ダイアログ ボックスでは、ユーザー ID およびパスワードは無効です)。

(次のページへ続く)

---

**" 混合 "**  
**セキュリティ モード**

" 混合 " セキュリティ モードでは、毎回 Gentran:Server の [ ログイン ] ダイアログ ボックスが表示されます。Windows のユーザー名が既定値です。

Gentran:Server ユーザー ID が Windows のユーザー ID と同じである場合は、[ ログイン ] ダイアログ ボックスで **[OK]** をクリックします。この場合、パスワードの確認は行われず、ユーザーは Gentran:Server にログインできます。

既定のユーザー名を変更すると、パスワードの入力が求められ、Gentran:Server にログインする前にパスワードの確認が行われます。このモードを使用すると、ユーザーの名前で簡単にログインできるほかに、別のユーザーとしてログインすることもできます。

---

**" 標準 "**  
**セキュリティ モード**

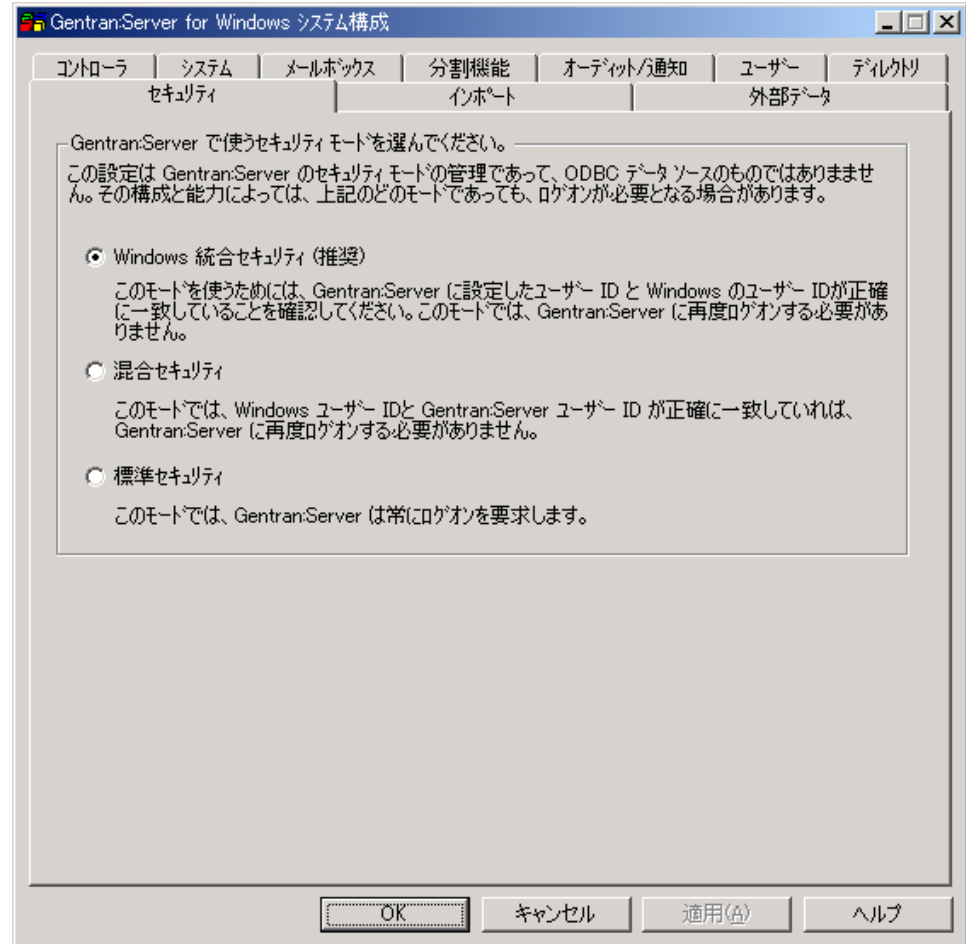
" 標準 " セキュリティ モードでは、毎回 Gentran:Server へのログインを行う必要があります。[ ログイン ] ダイアログ ボックスでは、Windows のユーザー名が既定値で表示されます。

---

( 次のページへ続く )



次に、システム構成の [セキュリティ] タブを示します。





## Gentran:Server のセキュリティ モードを定義する方法

### 手順

Gentran:Server のセキュリティ モードを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ スタート ] メニューから、[ プログラム ]、[ Gentran Server ]、[ Gentran Server の構成 ] の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [ システム構成 ] ダイアログ ボックス ([ コントローラ ] タブ) が表示されます。
2	[ セキュリティ ] タブを選択します。
3	適切な Gentran:Server セキュリティ モードのオプションを選択します。
4	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ [OK] をクリックしてセキュリティ モードを保存し、[ システム構成 ] ダイアログ ボックスを閉じます。</li><li>▶ または、[ 適用 ] をクリックして、システム構成を終了せずに、セキュリティ モードを保存します。</li></ul>

## システム構成 – [ インポート ] タブ

### 概要

#### はじめに

[システム構成] ダイアログ ボックスの [インポート] タブでは、特定の拡張子を持つ特定の場所にあるファイルをトランスレーションする際に使用するインポートまたはシステム インポート トランスレーション オブジェクトを指定できます。

#### メモ

インポートまたはシステム インポート トランスレーション オブジェクトは、パートナー関係を特定するキーを構築するために使用されます。次いで、特定されたパートナー関係に基づき、データのトランスレーションで使用されるトランスレーション オブジェクトが特定されます。

#### 使用する場合

各インポート ファイル タイプに対して、インポート処理中にトランスレーションを開始するために使用するインポートまたはシステム インポート トランスレーション オブジェクトを指定するインポート指定を定義する必要があります。必要に応じて、ワイルド カード (\*) を使用できます。

#### 参照

インポートおよびシステム インポート トランスレーション オブジェクトの詳細については、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』の「インポート処理の設定」を参照してください。

(次のページへ続く)

## ファイルタイプと ファイル名

インポートするファイルは、ファイルのタイプまたは特定のファイル名で指定できます。

### 推奨事項

パスとフォルダを指定する方法より、ファイルタイプを指定する方法を推奨します。ファイルタイプを指定すれば、ユーザーは UNC ファイル名を使用せずに、自分のローカルドライブから特定のタイプのファイルをインポートできるからです。

### インポートが機能しない場合

次のいずれかの場合、インポートは正常に機能しません。

- ▶ システム構成の [ インポート ] タブで UNC ファイル名を指定し、インポートでローカルドライブ (C ドライブなど) を指定する場合。
- ▶ システム構成の [ インポート ] タブでファイルタイプまたはファイル名を指定し、インポートで UNC ファイル名を指定する場合。
- ▶ 指定したインポートフォルダに2つの異なる共有が設定されており、システム構成の [ インポート ] タブが一方を使用し、インポートで他方を使用する場合。

### インポートが成功する場合

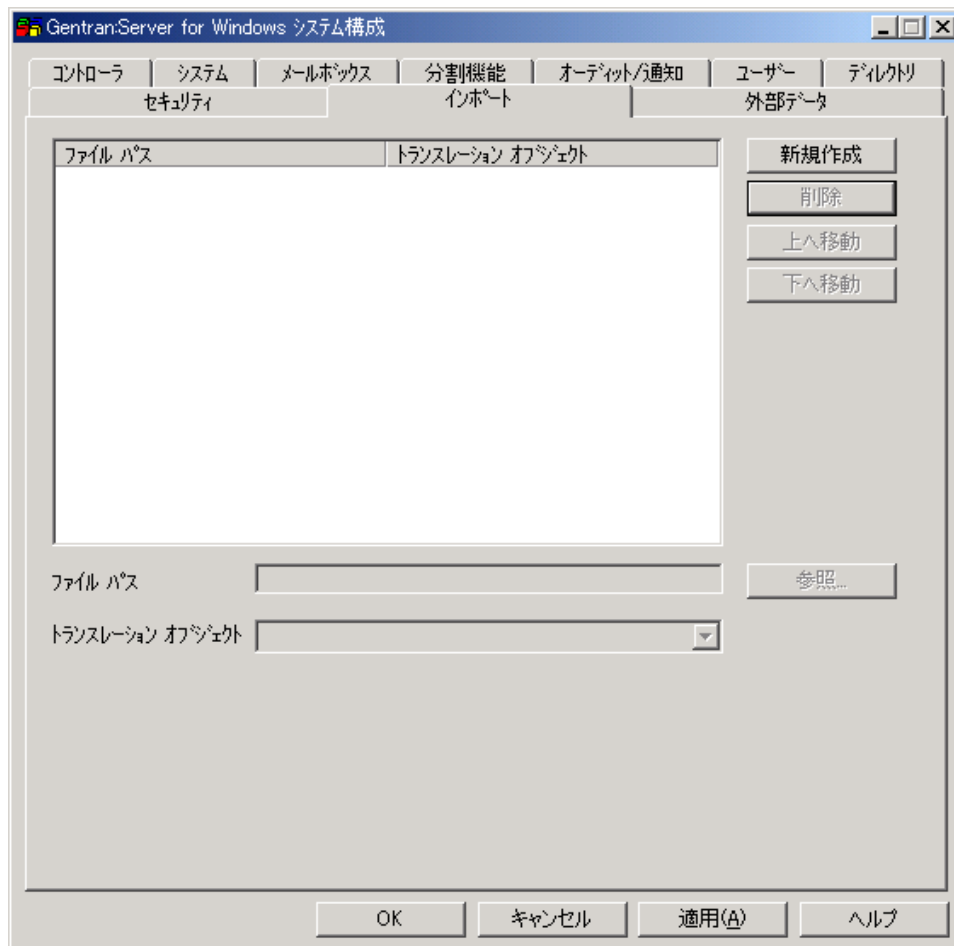
次のいずれかの場合、インポートは正常に機能します。

- ▶ システム構成の [ インポート ] タブで UNC ファイル名を指定し、インポートでマッピングされたドライブ (例、F ドライブなど) を指定する場合。
- ▶ システム構成の [ インポート ] タブとインポートの両方で、UNC ファイル名を指定する場合 (ただし、両方で同じ共有を使用する場合)。
- ▶ システム構成の [ インポート ] タブとインポートの両方で、ファイルタイプまたはファイル名を指定する場合。

(次のページへ続く)

図

次に、システム構成の [ インポート ] タブを示します。



(次のページへ続く)

## 各部と機能

次の表に、[ インポート ] タブの各部分とその機能を示します。

各部	機能
( リスト )	定義済みのインポート指定が表示されます。
新規作成	新しいインポート指定を定義できます。
削除	選択したインポート指定を削除します。
上へ移動	インポート指定をリスト内で上に移動します。
下へ移動	インポート指定をリスト内で下に移動します。
参照	[ ディレクトリの選択 ] ダイアログ ボックスからファイルのパスを選択できます。
ファイルパス	ファイルのパスおよびタイプ ( または特定のファイル名 ) が表示されます。 <b>メモ</b> 特定のファイル名を入力するか、ワイルドカード (*) を使用して特定の拡張子を持つファイルすべて (*.txt など) を指定できます。
トランスレーション オブジェクト	指定タイプのファイルのインポートの際に、そのファイルのトランスレーションを開始するために使用するインポートまたはシステム インポート トランスレーション オブジェクトを表示します。 <b>メモ</b> [ トランスレーション オブジェクト ] リストには、システムで登録されている各インポートおよびシステム インポート トランスレーション オブジェクトの説明が表示されます。

## 新しいインポート指定の定義方法

### はじめに

インポートする各ファイルタイプに対して、インポート指定(ファイルの場所、ファイル名、ファイル拡張子など)を定義する必要があります。インポート指定でまだ定義されていない特定の場所にあるファイル、特定の名前のファイル、または特定のファイル拡張子を持つファイルをインポートするには、新しいインポート指定を作成する必要があります。

### 手順

インポート指定を定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。 <b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログボックス([コントローラ]タブ)が表示されます。
2	[インポート]タブを選択します。
3	[新規作成]をクリックします。 <b>システムからの応答</b> 新しいインポート指定を定義できます。 <span style="float: right;">(次のページへ続く)</span>

( 続き ) ステップ	操作
4	<p>次のいずれかの方法で、[ ファイルパス ] ボックスに入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルタイプを入力します。</li> <li>▶ [ 参照 ] をクリックして、フォルダを選択します。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> [ ディレクトリの選択 ] ダイアログ ボックスが表示されます ( ファイルパスを選択し、[ OK ] をクリックします )。</p> <p><b>推奨事項</b> このボックスで、パスとフォルダを指定するより、ファイルタイプを入力するよう推奨します。ファイルタイプを指定すれば、ユーザーは UNC ファイル名を使用せずに、自分のローカルドライブから特定のタイプのファイルをインポートできるからです。</p> <p><b>メモ</b> メールボックス インポートの場合は、UNC パスとファイル名を指定する必要があります。この場合は、[ ディレクトリ ] タブで TRANSIN ディレクトリに設定したパスと同一のパスを指定してください。</p> <p><b>参照</b> ディレクトリ設定の詳細については、「<a href="#">システム構成 - [ ディレクトリ ] タブ</a>」を参照してください。</p>
5	<p>[ トランスレーション オブジェクト ] リストで、指定タイプのファイルのインポートの際にそのファイルのトランスレーションを開始するために使用するインポートまたはシステム インポート トランスレーション オブジェクトを選択します。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ OK ] をクリックして、システム構成プログラムを終了します。</li> <li>▶ または、[ 適用 ] をクリックして、システム構成を終了せずに、インポート指定を保存します。</li> </ul>

## インポート指定の編集方法

### はじめに

既存のインポート指定を編集できます。既存のインポート指定で設定されているファイルのインポート元、特定のファイル名、またはファイル拡張子を変更する場合は、インポート指定を編集する必要があります。

### 手順

インポート指定を編集するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログボックス([コントローラ]タブ)が表示されます。</p>
2	[インポート]タブを選択します。
3	[ファイルパス]列で、編集するインポート指定を選択し、そのインポート指定を表示します。
4	<p>次のいずれかの方法で、[ファイルパス]ボックスに入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルタイプを入力します。</li> <li>▶ [参照]をクリックして、フォルダを選択します。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> [ディレクトリの選択]ダイアログボックスが表示されます(ファイルパスを選択し、[OK]をクリックします)。</p> <p><b>推奨事項</b> このボックスで、パスとフォルダを指定するより、ファイルタイプを入力するよう推奨します。ファイルタイプを指定すれば、ユーザーはUNCファイル名を使用せずに、自分のローカルドライブから特定のタイプのファイルをインポートできるからです。</p> <p><b>メモ</b> メールボックスインポートの場合は、UNCパスとファイル名を指定する必要があります。この場合は、[ディレクトリ]タブでTRANSINディレクトリに設定したパスと同一のパスを指定してください。</p> <p><b>参照</b> ディレクトリ設定の詳細については、「<a href="#">システム構成-[ディレクトリ]タブ</a>」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>



( 続き ) ステップ	操作
5	[トランスレーション オブジェクト] リストで、指定タイプのファイルのインポートの際にそのファイルのトランスレーションを開始するために使用するインポートまたはシステム インポート トランスレーション オブジェクトを選択します。
6	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ <b>[OK]</b> をクリックして、システム構成プログラムを終了します。</li><li>▶ または、<b>[適用]</b> をクリックして、システム構成を終了せずに、インポート指定を保存します。</li></ul>

## インポート指定の削除方法

### 手順

インポート指定を削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、 [Gentran Server の構成]の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログボックス([コントローラ]タブ)が表示されます。
2	[インポート]タブを選択します。
3	[ファイルパス]列で、削除するインポート指定を選択し、[削除] をクリックします。  <b>注意</b> インポート指定は、警告なしに削除されます。
4	[OK]をクリックして、システム構成プログラムを終了します。

## インポート指定の順番の変更方法

### はじめに

同じファイルパスに対して1つ以上のトランスレーションオブジェクトを定義している場合、インポート指定リストの順番の変更が必要な場合があります。

1つ以上のインポート指定でまったく同じファイルパスが指定されている場合、システムは[インポート]タブで最初にリストされているインポート指定を使用して、パートナー関係を特定するキーを作成します。次いで、特定したパートナー関係に基づき、データのトランスレーションで使用するトランスレーションオブジェクトを特定します。

### メモ

リスト内で、\*\* (指定パス内のすべてのファイル) を含むファイルパスが他のすべてのファイル指定より前にある場合、それ以降のファイル指定はすべて無視されます。

### 手順

インポート指定の順番を変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログボックス([コントローラ]タブ)が表示されます。
2	[インポート]タブを選択します。
3	[ファイルパス]列で、順番を変更するインポート指定を選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>▶ [上へ移動]をクリックして、インポート指定をリスト内で上に移動します。</li><li>▶ [下へ移動]をクリックして、インポート指定をリスト内で下に移動します。</li></ul>
4	[OK]をクリックして、システム構成プログラムを終了します。

## システム構成 – [オーデジット / 通知] タブ

### 概要

#### はじめに

---

[オーデジット / 通知] タブでは、オーデジット通知サブシステムにアクセスして、すべてのオーデジットおよび通知パラメータを設定できます。

#### 参照

詳細については、「[オーデジット通知システムの使い方](#)」を参照してください。

---

# システム構成 – [ 外部データ ] タブ

## 概要

### はじめに

[システム構成] ダイアログ ボックスの [外部データ] タブでは、Gentran:Server が外部データ ファイルをシステム データ ストアにコピーする方法を定義できます。次のシステム動作が生じた場合に、外部データ ファイルのコピーを行うよう指定できます。

- ▶ ファイル処理
- ▶ インポート
- ▶ エクスポート

メールボックスから受信したインバウンド データを処理する場合と、メールボックスを介して受信したインポート データを処理する場合 (メッセージ コンテンツ タイプがアプリケーション / インポートの場合) は、常にデータが外部データ フォルダへコピーされます。したがって、[外部データ] タブでユーザーが設定できるのは、上記パラメータのみです。

いずれの場合でも、システムは Gentran:Server でデータを処理するために、メールボックス メッセージからデータを抽出します。これらの外部データは常に外部データ フォルダにコピーされます。

Gentran:Server からメールボックスへ送信されたアウトバウンド データについては、メールボックス メッセージと関連付けられるので外部データ フォルダに保存されません。したがって、データがアウトバウンド送信され、メールボックス内のそのデータが削除またはアーカイブされた場合、そのデータは Gentran:Server 外部データ ビューでは表示できません。

### メモ

ファイル処理、外部データのインポート、エクスポートのいずれもコピーするよう指定しないと、Gentran:Server ドキュメント ブラウザで、外部データ ファイルを表示するオプションは使用できません。

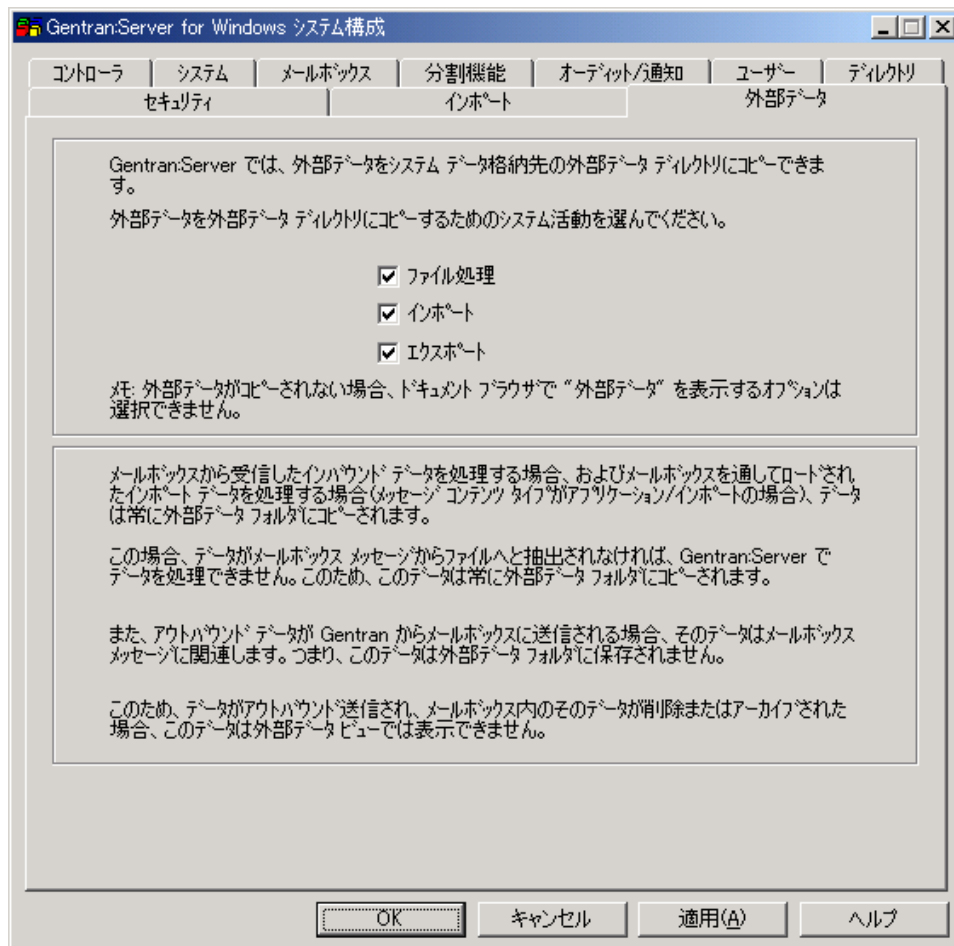
### 参照

外部データの表示に関する詳細については、『ユーザー ガイド』の「[アーカイブと復元の使い方](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

図

次の図に、システム構成の [ 外部データ ] タブを示します。



## 各部と機能

次の表に、[ 外部データ ] タブの各部とその機能を示します。

各部	機能
ファイル処理	ファイル処理に関連する外部データを外部データ フォルダへコピーすることを示します ( 選択されている場合 )。
インポート	インポートに関連する外部データを外部データ フォルダへコピーすることを示します ( 選択されている場合 )。
エクスポート	エクスポートに関連する外部データを外部データ フォルダへコピーすることを示します ( 選択されている場合 )。

## 外部データ オプションの設定方法

### 手順

Gentran:Server で外部データ オプションを定義するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [システム構成]ダイアログボックス([コントローラ]タブ)が表示されます。
2	[外部データ]タブを選択します。
3	外部データファイルのコピーを実施する Gentran:Server 動作のチェックボックスをオンにします。
4	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ [OK] をクリックして設定を保存し、[システム構成]ダイアログボックスを閉じます。</li><li>▶ または、[適用] をクリックして、システム構成を終了せずに、設定を保存します。</li></ul>

# イベント ビューアの使用

## 概要

### はじめに

Windows イベント ビューアを使用して、Windows アプリケーション イベント ログを表示できます。Gentran:Server は、オーディット ログへ書き込めないエラー (データベースを開く際のエラーなど) やオーディット エラー (オーディット ログへの書き込み不能など) などの重大なエラーを Windows アプリケーション イベント ログへ書き込みます。

Windows アプリケーション イベント ログ サービスは、Windows を起動すると自動的に開始します。既定では、Gentran:Server は、Gentran:Server を実行しているコンピュータのアプリケーション イベント ログに、これらの重大なエラーを書き込みます。

#### メモ

Gentran:Server を Windows 98 または Windows Millennium Edition コンピュータで実行している場合、Gentran:Server はホーム フォルダのテキスト ファイル (Gentranevent.log) に重大なエラーを書き込みます。

#### メモ

- 通知パラメータを設定して、これらのメッセージが通知コンポーネントへ送信されるようにすることもできます。
- Gentran:Server で、ユーザー定義のオーディット メッセージを Windows イベント ログに書き込むよう指定することができます。

#### 参照

- 通知パラメータの設定に関する詳細については、「[通知の追加方法](#)」を参照してください。
- オーディット メッセージを Windows イベント ログへ書き込むよう指定する方法については、「[オーディット メッセージの追加方法](#)」を参照してください。

### 使用目的

Gentran:Server によりアプリケーション イベント ログに書き込まれる情報の中には、ハードウェアまたはソフトウェア問題の分析に役立つ情報が含まれている場合があります。また、システム管理者は Gentran:Server の Windows アプリケーション イベント ログを定期的に確認することで、Gentran:Server の処理に影響が生じる前に、問題を発見し、エラーを検出、修正できる場合があります。

(次のページへ続く)



## イベント ログの 表示

適切なセキュリティ権限でログオンしているシステム管理者は、アクセス権を持つ各コンピュータのアプリケーション イベント ログを表示できます。

### 推奨事項

システム管理者は、Gentran:Server が実行されている各コンピュータのアプリケーション イベント ログを定期的に参照するようお勧めします。

アプリケーション イベント ログは、Windows イベント ビューアで表示できます。通常イベント ビューアは、Windows の [ スタート ] メニューから、[ プログラム ]、[ 管理ツール ] の順に選択し、[ 管理ツール ] グループの中にあるイベント ビューア アイコンをクリックすることで表示できます。

### メモ

各コンピュータの Windows アプリケーション イベント ログには、Gentran:Server によって記録されたメッセージだけでなく、同じコンピュータで実行されている他の Windows アプリケーションによって記録されたメッセージも含まれています。ただし、アプリケーション イベント ログでイベントの表示をフィルタして、Gentran:Server のイベントだけを表示できます。

### 参照

イベント ログの記録と表示に関する詳細については、Windows イベント ビューアのオンライン ヘルプを参照してください。



# オーディット通知システムの使い方

## 目次

<b>概要</b> .....	<b>3</b>
▶ はじめに .....	3
▶ 構成の概要 .....	7
▶ 構成処理 .....	10
<b>システム コンポーネント</b> .....	<b>12</b>
▶ 概要 .....	12
▶ 構成を行うシステム コンポーネントへのアクセス .....	15
<b>オーディット通知サーバー設定の構成</b> .....	<b>19</b>
▶ 概要 .....	19
▶ [オーディット / 通知サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックス .....	22
▶ [依存関係] ダイアログ ボックス .....	26
▶ サーバー設定の構成方法 .....	28
<b>オーディット メッセージの操作</b> .....	<b>31</b>
▶ 概要 .....	31
▶ オーディット メッセージ コンポーネントの使い方 .....	32
▶ オーディット メッセージの構造と種類 .....	33
▶ [Gentran オーディット メッセージ] ブラウザ .....	39
▶ [検索] ダイアログ ボックス .....	41
▶ [オーディット メッセージの定義] ダイアログ ボックス .....	42
▶ オーディット メッセージの追加方法 .....	45
▶ オーディット メッセージ プロパティの修正方法 .....	47
▶ 特定のオーディット メッセージの検索方法 .....	49
<b>オペレータ情報の構成</b> .....	<b>51</b>
▶ 概要 .....	51
▶ [Gentran オペレータ] ブラウザ .....	53
▶ [オペレータ プロパティ] ダイアログ ボックス .....	54
▶ オペレータの追加方法 .....	57
▶ オペレータ プロパティの修正方法 .....	59

<b>通知の操作</b> .....	<b>61</b>
▶ 概要 .....	61
▶ [Gentran 通知] ブラウザ .....	65
▶ [通知プロパティ] ダイアログ ボックス .....	67
▶ 通知の追加方法 .....	73
▶ 通知プロパティの修正方法 .....	77
<b>オーデジット ログの使い方</b> .....	<b>79</b>
▶ 概要 .....	79
▶ [Gentran オーデジット ログ] ブラウザ .....	84
▶ [オーデジット ログ エントリの詳細] ダイアログ ボックス .....	87
▶ [オーデジット ログ フィルタ] ダイアログ ボックス .....	90
▶ [オーデジット ログ 検索] ダイアログ ボックス .....	93
▶ オーデジット ログ エントリの詳細の表示方法 .....	96
▶ 特定のオーデジット ログ エントリの検索方法 .....	97
▶ オーデジット ログ表示のフィルタ方法 .....	99
<b>通知ログの使い方</b> .....	<b>101</b>
▶ 概要 .....	101
▶ [Gentran 通知ログ] ダイアログ ボックス .....	105
▶ [通信の詳細] ダイアログ ボックス .....	107
▶ 詳細な通知ログ エントリの表示方法 .....	111

---

# 概要

## はじめに

### この章の目的

この章では、次の内容について説明します。

- ▶ オーディット通知システムのコンポーネントと機能
- ▶ エラーレポートと通知機能の構成方法
- ▶ オーディット ログと通知ログを使用してシステム活動をモニターする方法

### オーディット通知システムについて

オーディット通知システムは、エラーを識別するためのソフトウェア コンポーネントで、Gentran:Server と共にインストールされます。このシステムを使用して、Gentran:Server およびその関連システム ( メールボックス、アーカイブ、ユーザー システムなど ) 内でのオーディット メッセージの生成および通知動作を構成できます。

### Microsoft® Outlook® の要件

プライマリ Gentran システム コントローラに、Microsoft Outlook をインストールしている必要があります。Microsoft 社により実施されたセキュリティの変更により、Office XP 以降の Outlook (Outlook 2002 以降を含む) では、メッセージを自動的に送信するために、Outlook で Microsoft Exchange Server の使用を構成する必要があります。さらに、プライマリ Gentran システム コントローラは、Microsoft Exchange Server と同じドメインまたは同様に信頼されたドメイン内に存在する必要があります。

#### 注意

Outlook で別の構成を使用すると、Outlook クライアントが起動していない限り、メッセージを自動的に送信できなくなります。

#### メモ

E メールバックエンドに Microsoft Exchange を使用している場合、Gentran:Server メールボックス サービスは Exchange メールボックスへのアクセスが許可されているドメイン アカウントを使用する必要があります。これにより、Gentran:Server メールボックス サービスは、パスワードを入力せずにメールボックスに直接ログオンできるようになります。

( 次のページへ続く )

## 主な用語

次の表は、この章で使用される主な用語を示します。

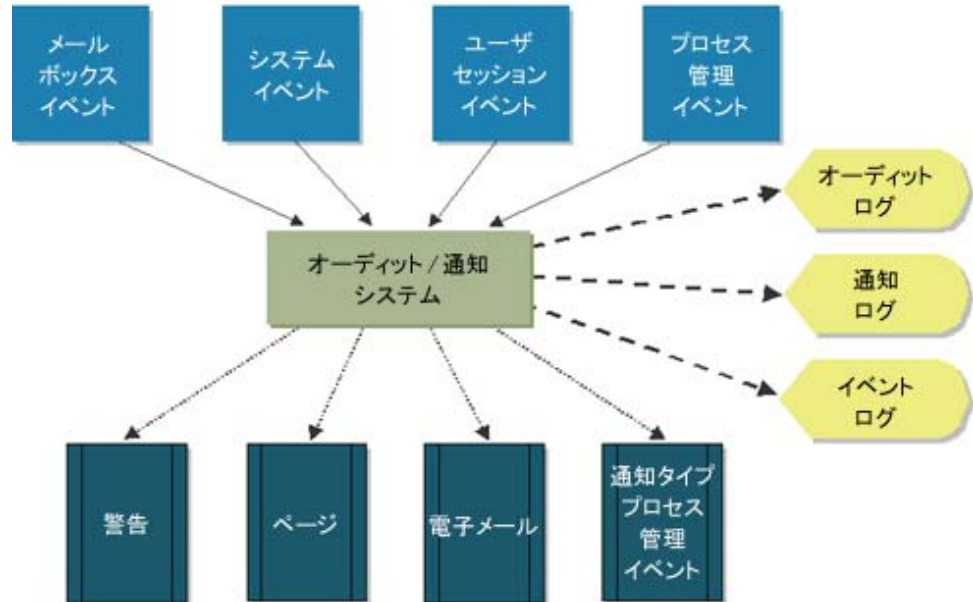
用語	説明
オーディット メッセージ	オーディット メッセージはオーディット通知システムで定義され、説明文や他の情報を使用して、システムが処理している内容に関する概要データのログを記録します。システムコンポーネントは、コンポーネントで発生している処理を示す特定のオーディット メッセージを記録するようオーディット通知サーバーに対して要求します。
オーディット ログ エントリ	オーディット通知サーバーによって、オーディット メッセージがオーディット ログに書き込まれると、その情報がオーディット ログ エントリとして表示されます。このエントリにより、ユーザーはシステム活動をモニターできます。
ソース	オーディット メッセージを生成するシステムまたはファンクショナルシステム領域 (Gentran:Server、アーカイブ、ユーザーシステムなど)。  <b>メモ</b> オーディット メッセージ番号では、ソースはソース ID と呼ばれる数値で表されます。
コンポーネント	オーディット メッセージを生成する特定のソースの構成要素 (Gentran:Server 自動処理プログラムなど)。  <b>メモ</b> オーディット メッセージ番号では、コンポーネントはコンポーネント ID と呼ばれる数値で表されます。
メッセージ ID	コンポーネントの特定のエラーを示す 1 ～ 65535 の番号。  (次のページへ続く)

( 続き ) 用語	説明
オーディット メッセージ番号	<p>オーディット メッセージに割り当てられる番号。3つの識別フィールド ( ソース ID、コンポーネント ID、およびメッセージ ID) で構成されます。</p> <p><b>例</b> 1-1-1000</p> <p>この例で、最初の 1 はソース ID を、2 番目の 1 はコンポーネント ID を、最後の 1000 はメッセージ ID を示します。</p> <p><b>参照</b> ソースおよびコンポーネントの数値については、「<a href="#">ソースおよびコンポーネントの数値</a>」を参照してください。</p>
通知	<p>特定のエラー メッセージが生成されたときにオーディット通知システムによって開始される、ユーザー定義の E メール、ページャー、警告メッセージ、または通知タイプのプロセス管理イベント。</p>
通知ログ エントリ	<p>通知ログに表示される項目。オーディット通知システムによって生成された通知の情報を要約します。</p>
イベント ID	<p>オーディット通知システムによってすべてのシステム イベントに割り当てられる一意の番号 ( およびオーディット ログ エントリ )。同じプロセス管理イベント、ユーザーセッション、またはシステムが生成するイベントから生成されたオーディット ログ エントリには、同じイベント ID 番号が割り当てられます。既定では、同じイベント ID のエントリは、オーディット ログ表示で同じグループに分類されます。</p>
オペレータ	<p>特定のオーディット メッセージが生成された場合に、通知を受け取るようシステムで設定されているユーザー。</p>

( 次のページへ続く )

## システム フロー

次の図に、オーディット通知システム内のデータのフローを示します。

システムでの  
フローの説明

次の表に、オーディット通知システムのフローを説明します。

段階	説明
1	処理中にイベントが発生し、オーディット メッセージの生成が開始します。
2	適切なシステムまたはシステム コンポーネント により、オーディット 通知サーバーにオーディット メッセージが送信されます。
3	オーディット通知サーバーにより、設定された送信先にメッセージが送信されます。送信先には、オーディット ログ、Windows イベント ログ、通知ログのいずれかまたはすべてを指定できます (通知がオーディット メッセージ用に生成される場合)。
4	生成されたメッセージに適用される通知の設定内容に従い、オーディット通知サーバーにより、特定のオペレータに対して通知 (警告メッセージ、E メール、ページャー) が行われるか、プロセス管理イベントが開始します。



## 構成の概要

### はじめに

オーディット通知システムは、必要に応じて多様に構成できます。このトピックでは、使用例を挙げて構成オプションを説明します。

### オーディット通知システムの使用目的

処理活動のモニター(またはオーディット)は、エラーを特定し、修正する上で重要です。オーディット通知システムを使うと、エラーとモニターするシステム活動を特定し、効率よくそれらのエラーをモニターして対応できるだけでなく、エラーを修正する必要がある場合に適切な担当者にそのエラーを知らせることもできます。オーディット通知システムでは、次の処理を実行できます。

- ▶ オーディット メッセージを修正および追加する
- ▶ オーディット ログで参照する必要のないメッセージを非表示にする
- ▶ 特定のエラーが発生した場合の通知先を設定する
- ▶ 同一のエラーに対する複数の応答(通知)を構成する
- ▶ 簡単に参照できるようにオーディット ログ表示を並べ替える

### 使用例

オーディット通知システムを使うと、合計金額が指定した額を超える請求書を受け取る度に、新しいオーディット メッセージを生成するよう設定できます。次いで、請求書処理する担当者に、Eメールで通知するよう構成できます。

### オーディットメッセージに含まれる情報

オーディット メッセージには、次のような処理およびユーザー活動の概要が含まれます。

- ▶ プロセス管理イベントで発生するステップ
- ▶ ドキュメントの編集者
- ▶ メールボックスの作成者
- ▶ 処理のエラー情報(トランスレーション エラーやパートナーが見つからないなど)
- ▶ コミュニケーション エラー
- ▶ データベース エラーやネットワーク エラーなどのシステム エラー

(次のページへ続く)

## イベント ID の 使用目的

イベント番号は、同一のプロセス管理イベント、ユーザーセッション、メールボックス イベント、またはシステム生成のイベントで生成されたオーディットログ エントリすべてで同じになります。既定では、同じイベント ID のエントリは、オーディット ログで同じグループに分類されます (同一イベントのエントリは日時で並べ替えられます)。これにより、関連するイベントをオーディットログの中から簡単に見つけることができます。

### 例

2つのプロセス管理イベントが同時に発生した場合は、オーディット ログ エントリに関連付けられたそれぞれのイベント ID を確認することで、いずれのイベントに対応するエントリかを容易に区別できます。

## オーディット メッセージの処理を カスタマイズする 方法

オーディット通知システムでは、システム活動を重要度に従いモニターできるように、オーディット メッセージとオーディット ログ表示をカスタマイズできます。

### 例

- ▶ **システム定義のオーディット メッセージをカスタマイズします。**  
システム定義のオーディット メッセージとは、Gentran:Server によって生成されるメッセージです。この記述メッセージ テキストに情報を追加し、そのメッセージのオーディット ログ表示に、カスタマイズされた情報を含めることができます。メッセージは、その重要度に応じて、Windows イベント ログおよびオーディット ログに書き込むよう設定できます。
- ▶ **ユーザー作成のオーディット メッセージをシステムに追加します。**  
オーディット通知システムでは、オーディット ログに書き込むユーザー作成のオーディット メッセージを定義し、次いでプロセス管理や拡張ルールを使用して、それらのメッセージをオーディット ログへ書き込むよう構成できます。これらのメッセージは、"ユーザー定義" のオーディット メッセージと呼ばれます。

### 参照

ユーザー定義のメッセージをオーディット ログへ書き込むよう Gentran:Server コンポーネントを構成する方法については、「[プロセス管理の使い方](#)」および「[拡張ルールの使い方](#)」の章を参照してください。

- ▶ **オーディット ログ表示をカスタマイズする。**
  - 列の見出しをクリックするか、日/時表示またはイベント表示を指定し、表示リストのメッセージを並べ替えることができます。
  - 条件フィルタ機能を使用し、指定した条件を満たすメッセージだけを表示できます。
  - オーディット ログで一度に表示できるデータの量を指定し、情報をすばやく表示できます。
  - 必要なイベントのメッセージをオーディット ログに書き込むよう指定できます。また、不要なオーディット メッセージをオーディット ログに書き込まないように指定することもできます。こうすることで、オーディット ログが不要なデータで一杯になることを避けることができます。

(次のページへ続く)

## システムでオペレータを定義する目的

オーディット通知システムで、特定のオーディット メッセージが生成されたときに通知を受信するユーザー (オペレータ) の識別情報を設定する必要があります。識別情報には、名前、Eメールの情報、およびページャー番号などが含まれます。通知の設定時には、指定した受信者のオペレータの定義が使用されます。

## 通知の使用目的

通知は、定義したオペレータにシステム活動についての警告を知らせるために使用します。通知を設定するには、次の情報を指定します。

- ▶ 通知を開始するオーディット メッセージまたはオーディット メッセージのタイプ
- ▶ 通知を受信するオペレータ
- ▶ 通知動作のタイプ (Eメール、警告メッセージ、ページャー)

オーディット通知システムでは、次のような設定を行えます。

- ▶ **通知の条件**

通知は、次のメッセージの応答として送信できます。

  - 特定のオーディット メッセージ
  - 指定レベル (警告メッセージなど) のオーディット メッセージすべて
  - 特定の機能ソースまたはコンポーネント (Gentran:Server または サーバー / 構成プログラムなど) によって生成されたオーディット メッセージすべて
- ▶ **通知の種類**

通知は、警告メッセージ、ページャー、Eメール、またはプロセス管理イベントなどで行うよう設定できます。
- ▶ **オーディット メッセージ 1 つに対して送信される通知の数**

たとえば、1 つのオーディット メッセージに対して、複数のオペレータにページャーおよび Eメールで通知できるように設定できます。

## 構成処理

### はじめに

オーディットおよび通知の構成は、継続して行う作業です。必要に応じてメッセージ、オペレータ、通知プロパティを変更したり、オーディット ログの表示を調整したりできます。システムは **Gentran:Server** を正常にインストールした後すぐに使用できる状態になりますが、通知は適切な構成を行うまで送信されません。

別のシステム コンポーネントを構成する場合、構成によっては論理的な順序で行う必要があります。

### 例

- ▶ 通知をページャーまたは E メールで送信するには、特定のサーバー設定が必要です。
- ▶ すでにシステムを使用している場合は、オペレータへの通知を追加する前に、通知の送信先オペレータを設定する必要があります。

### 構成処理

次の表に、オーディットや通知を構成するための標準的な手順を示します。

段階	説明
1	オーディット通知サーバーが E メールおよびページャーの通知を送信できるように、データベース情報とモデム情報を構成します。 <b>参照</b> サーバー設定の構成については、「 <a href="#">オーディット通知サーバー設定の構成</a> 」を参照してください。
2	オペレータ情報を定義します。 <b>参照</b> システムでオペレータを定義する方法については、「 <a href="#">オペレータ情報の構成</a> 」を参照してください。
3	定義したオペレータに対して、通知を設定します。 <b>参照</b> 通知の設定については、「 <a href="#">通知の操作</a> 」を参照してください。
4	必要に応じて、システム生成のオーディット メッセージを修正します。 <b>参照</b> オーディット メッセージの修正については、「 <a href="#">オーディット メッセージの操作</a> 」を参照してください。  (次のページへ続く)

( 続き ) 段階	説明
5	<p>必要に応じて、新しいオーディット メッセージを定義します。</p> <p><b>参照</b> 新規オーディット メッセージの定義については、「<a href="#">オーディット メッセージの操作</a>」を参照してください。</p>
6	<p>必要に応じて、次の方法でオーディット ログ表示を調整します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 並べ替え順および列の順序を設定します。</li><li>▶ 必要に応じて、選択したエントリだけが表示されるように表示のフィルタを設定します。</li><li>▶ エントリを既定の順序 ( イベント ID ) でリストしない場合は、日 / 時による並べ替えを指定します。</li><li>▶ 一度に表示するデータ ( オーディット ログのエントリ ) を調整する場合は、既定のページサイズを変更します。</li></ul> <p><b>メモ</b> これらの設定は、現在のセッションだけで維持されます。次回システムを使用する際には、ユーザー設定をリセットするか、既定の設定を使用する必要があります。</p> <p><b>参照</b> オーディット ログ表示のカスタマイズについては、「<a href="#">オーディット ログの使い方</a>」を参照してください。</p>

# システム コンポーネント

## 概要

### はじめに

次に示す 6 つのシステム コンポーネントで、オーディット メッセージと通知操作を構成したり、システム活動をモニターするために使用する機能を表示できます。

- ▶ サーバー設定
- ▶ オーディット メッセージ
- ▶ オーディット ログ
- ▶ オペレータ
- ▶ 通知
- ▶ 通知ログ

この項では、上記のシステム コンポーネントと、構成可能なそれらのコンポーネントを表示する [Gentran:Server for Windows システム構成] ダイアログ ボックスについて説明します。

### システム コンポーネント

次の表に、オーディットおよび通知動作を設定するためのシステム コンポーネントとその説明を示します。

コンポーネント	機能
サーバー設定	<p>次に示すデータベースおよび通知に関連する情報の構成を行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ システムが使用する ODBC データ ソース</li> <li>▶ システムが Gentran:Server データベース システムにアクセスするために使用する ID とパスワード</li> <li>▶ オーディット通知システムで使用される依存関係 (データベース サービスまたはグループを読み込む順番)</li> <li>▶ 通知の送信に使用される MAPI プロファイルおよび通信ポート</li> </ul> <p>このコンポーネントから、オーディット通知システムの機能を開始および停止することもできます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

<p>( 続き ) コンポーネント</p>	<p>機能</p>
<p>オーディット メッセージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ システムで定義されているオーディット メッセージすべてのリストを表示します。</li> <li>▶ 次の処理を実行できます。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>— Gentran:Server によって定義されたメッセージのオーディット メッセージ情報 ( オーディット ログや Windows イベント ログを含め、メッセージが書き込まれるログなど ) を一部変更する</li> <li>— 個人用 ( ユーザー定義 ) のオーディット メッセージを追加、変更、および削除する</li> <li>— 特定のオーディット メッセージを検索する</li> </ul> </li> </ul>
<p>オーディット ログ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ システム コンポーネントによって書き込まれたオーディット ログ エントリのリストを表示します。</li> <li>▶ 同じシステム イベント ( 特定のプロセス管理イベントまたはユーザー セッションなど ) で生成されたオーディット ログ エントリを簡単に参照できるように、同じイベント ID 番号で識別します。</li> <li>▶ 次の処理を実行できます。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>— オーディット ログ エントリ ( 列、並べ替え順、ページ サイズ ) の表示方法をカスタマイズする</li> <li>— フィルタの条件を使用し、表示するメッセージの条件を指定する</li> <li>— 特定のエントリを検索する</li> <li>— オーディット ログ エントリの詳細なプロパティを表示する</li> </ul> </li> </ul>
<p>オペレータ</p>	<p>次の処理を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 通知を受け取るユーザーの E メール アドレスやページャー情報などのプロパティを定義または変更する</li> <li>▶ 通知を追加および削除する</li> <li>▶ オペレータに設定した E メールまたはページャー情報が正しいことをテストする</li> </ul> <p style="text-align: right; color: green;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) コンポーネント	機能
通知	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ システムで定義されている通知すべてのリストを表示します。</li> <li>▶ 次の処理を実行できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>— 通知を追加、変更、および削除する</li> <li>— 通知の詳細なプロパティを表示する</li> </ul> </li> <li>▶ 通知には、次の設定を行えます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>— 特定のオーディット メッセージまたは重要度 ( 警告メッセージなど ) に基づいて通知を行うよう設定する</li> <li>— メッセージを生成する特定の機能ソースまたはコンポーネント ( トランスレータなど ) に基づいて通知を行うよう設定する</li> <li>— 通知の手段 ( 警告メッセージ、ページャー、E メール、またはプロセス管理イベント ) を設定する</li> <li>— 任意の通知タイプ ( ページャーと E メールなど ) の組み合わせで、複数の応答を設定する</li> <li>— 複数のオペレータに送信するよう設定する</li> </ul> </li> </ul>
通知ログ	<p>次の処理を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ユーザー自身に対して生成された通知のリストを表示する</li> <li>▶ 生成された通知すべてのリストを表示する</li> <li>▶ 通知ログ エントリの詳細なプロパティを表示する</li> <li>▶ 通知ログを開いてログオンしている間に、通知ログの警告を受信する</li> <li>▶ ユーザー自身に対して生成された通知ログ エントリをすべて削除する</li> <li>▶ 生成された通知ログ エントリをすべて削除する</li> </ul>



## 構成を行うシステム コンポーネントへのアクセス

### はじめに

[Gentran:Server for Windows システム構成] ダイアログ ボックス ([ オーディット / 通知 ] タブ) では、オーディット通知システム コンポーネントへアクセスして、オーディットおよび通知を構成できます。アクセスできるコンポーネントは、次のとおりです。

- ▶ オーディット メッセージ
- ▶ 通知
- ▶ オペレータ
- ▶ サーバー設定

### メモ

このダイアログ ボックスで、オーディット ログの内容を削除することもできます。

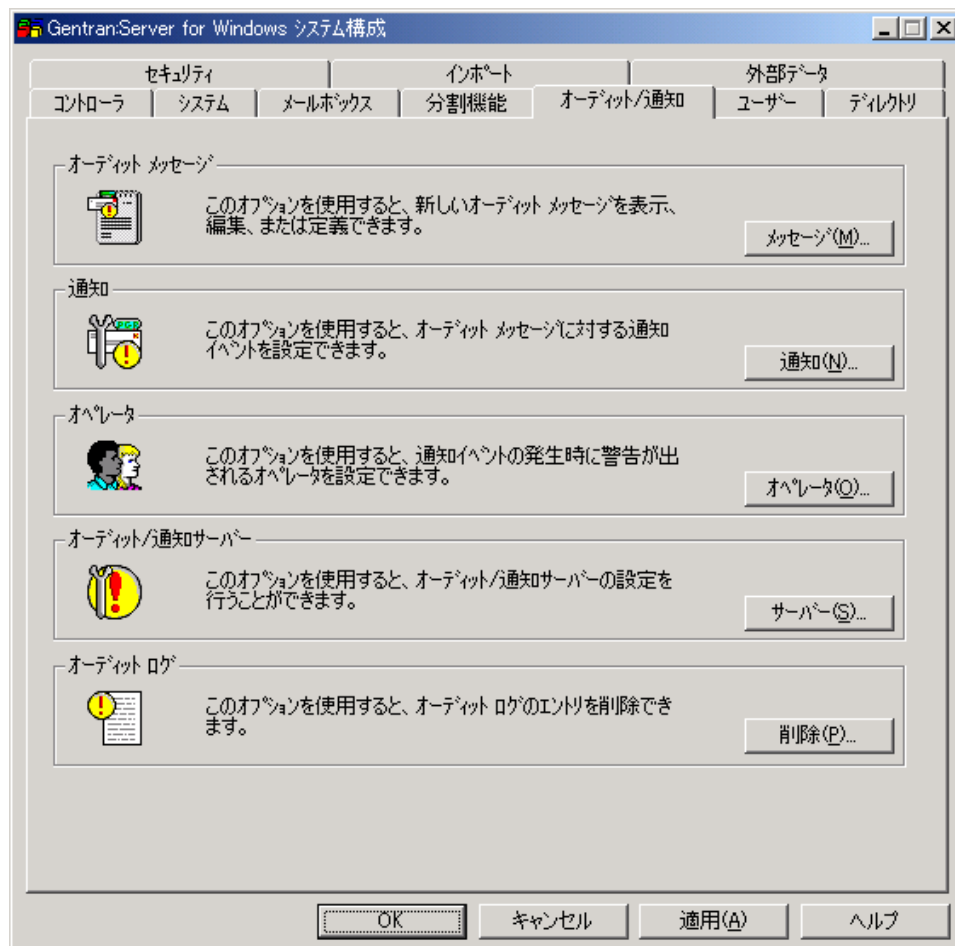
### 参照

この機能の詳細については、「[オーディット ログの削除](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

**[システム構成] ダイアログボックス**

次に、[システム構成] ダイアログボックス ([オーディット / 通知] タブ) を示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[システム構成]ダイアログ ボックス ([ オーデジット / 通知 ] タブ) の各部とその機能を示します。

各部	機能
メッセージ	<p>[Gentran オーデジット メッセージ]ブラウザを開き、オーデジット メッセージのリストを表示します。このダイアログ ボックスから別のダイアログ ボックスを表示して、次の処理を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Gentran:Server で定義されているメッセージのユーザー関連オーデジット メッセージ情報を変更する</li> <li>▶ 個人用 (ユーザー定義) のオーデジット メッセージを追加、変更、および削除する</li> <li>▶ 特定のオーデジット メッセージを検索する</li> </ul>
通知	<p>[GENTRAN 通知]ダイアログ ボックスを開き、システムで定義されている通知のリストを表示します。このダイアログ ボックスから別のダイアログ ボックスを表示して、通知を追加、変更、および削除できます。</p>
オペレータ	<p>[Gentran オペレータ]ブラウザを開き、システムで定義されているオペレータのリストを表示します。このダイアログ ボックスから別のダイアログ ボックスにアクセスして、次の処理を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オペレータを追加および削除する</li> <li>▶ E メールアドレスやページャ番号など、オペレータのプロパティを変更する</li> </ul>
サーバー	<p>データベースおよび通知サーバー オプション ( 通信ポートおよび MAPI プロファイルなど ) および、設定サービスの依存関係を構成する [Gentran オーデジット / 通知サーバーのプロパティ]ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログ ボックスで、オーデジット通知サーバーを停止および開始できます。</p>
削除	<p>オーデジット ログの内容を削除します。</p> <p><b>メモ</b>                      オーデジット ログは、プロセス管理セッションで <code>GDW_Audit_Purge</code> コマンドを使用することで削除することもできます。</p> <p><b>参照</b>                      プロセス管理の詳細については、『ユーザー ガイド』を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



各部	機能
OK	変更した構成を更新して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。
適用	変更した構成に更新して、ダイアログ ボックスを開いた状態にしておきます。

**【システム構成】  
ダイアログ ボックス  
を表示する方法**

---

[Gentran:Server for Windows システム構成] ダイアログ ボックスを表示するには、[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。[システム構成] ダイアログ ボックスが表示されたら、[オーディット / 通知] タブを選択します。

---

# オーディット通知サーバー設定の構成

## 概要

### はじめに

オーディット通知サーバーは、オーディット通知システムの正常な操作に欠かせない、いくつかの機能を実行します。次に、オーディット通知サーバーが実行する機能を示します。

- ▶ イベント ID の生成
- ▶ オーディット ログへのエントリの書き込み
- ▶ Windows イベント ログへのエントリの書き込み
- ▶ 通知の生成
- ▶ 通知ログへのエントリの書き込み

オーディット通知サーバー処理を適切に機能させるためには、いくつかのオーディット通知サーバー設定を指定する必要があります。

### メモ

オーディット通知サーバーは、個別の Windows サービスとして実行されます。

### サーバー機能の説明

次の表に、オーディット通知サーバーによって実行される機能を示します。

機能	説明
イベント ID の生成	新しいプロセス管理セッションや対話型のユーザーセッションが開始すると、Gentran:Server プログラムはオーディット通知サーバーに対し、新しいイベント ID を生成するよう要求します。
オーディット ログへのエントリの書き込み	Gentran:Server プログラムはメッセージをオーディット ログへ書き込んだ後、オーディット通知サーバーに対して、オーディット メッセージをオーディット ログ データベース テーブルに書き込むよう要求します。
Windows イベント ログへのエントリの書き込み	システムが、Windows イベント ログへ書き込むよう設定されているオーディット メッセージをオーディット通知データベース テーブルに書き込むと、オーディット通知サーバーは、オーディット通知システムが実行されているコンピュータの Windows イベント ログに、そのメッセージを書き込みます。

(次のページへ続く)

<b>( 続き ) 機能</b>	<b>説明</b>
通知の生成	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ システムはオーディット ログをエントリに書き込むときに、そのオーディットが通知を行うよう設定されているかどうかを確認します。通知を行うよう設定されている場合、オーディット通知サーバーはその通知に対して設定されている動作 ( ページャーや E メール の送信、警告の生成、またはプロセス管理イベントの開始 ) を開始します。</li><li>▶ ユーザーが通知ログをアクティブに設定している場合、オーディット通知サーバーは、アクティブなユーザーへの新しい通知が生成されたことを通知ログプログラムに通知します。次いで、通知ログはそのユーザーに対して警告メッセージを生成します。</li></ul> <p><b>メモ</b> オーディット通知サーバーが、通知で定義されている動作を実行できない場合、サーバーはエントリを Windows イベント ログおよびオーディット ログに書き込みます。</p>
通知ログへのエントリの書き込み	E メール、ページャー、または警告通知の動作を実行した後、オーディット通知サーバーは通知ログを更新します。

---

( 次のページへ続く )

## オーディット 通知サーバーの ダイアログボックス

次の表に、サーバー コンポーネントを構成するダイアログ ボックスを示します。

ダイアログ ボックス	機能
Gentran オーディット / 通知サーバーの プロパティ	<p>次に示すデータベースおよび通知に関連する情報の構成を行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ システムが使用する ODBC データ ソース</li> <li>▶ システムが Gentran:Server データベース システムにアクセスするために使用する ID とパスワード</li> <li>▶ 通知の送信に使用される MAPI プロファイルおよび通信ポート</li> </ul> <p>このダイアログ ボックスから、オーディット通知サーバーの機能を開始および停止することもできます。</p>
依存関係	<p>Gentran オーディット通知の動作が、他のインストール済みサービス (データベース サービスなど) やグループを読み込む順番に依存しているかどうかを指定できます。</p> <p><b>メモ</b> 適切な依存関係が選択されていないと、必要なアクセスが行えなくなり、システムは起動できなくなります。</p>

## オーディット通知 処理の開始と停止

オーディット通知システムは、Gentran:Server と同時に自動的に起動します。ただし、[Gentran オーディット / 通知サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックスの [サービスの開始 / サービスの停止] を使用して、システムを停止および再起動することができます。

### メモ

他のサービスが、オーディット通知システムに依存している場合があります。この場合、[サービスの停止] を選択すると、同時に停止する他のシステムを示すメッセージ ボックスが表示され、操作を続けるかどうか確認が行われます。

## [オーディット / 通知サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックス

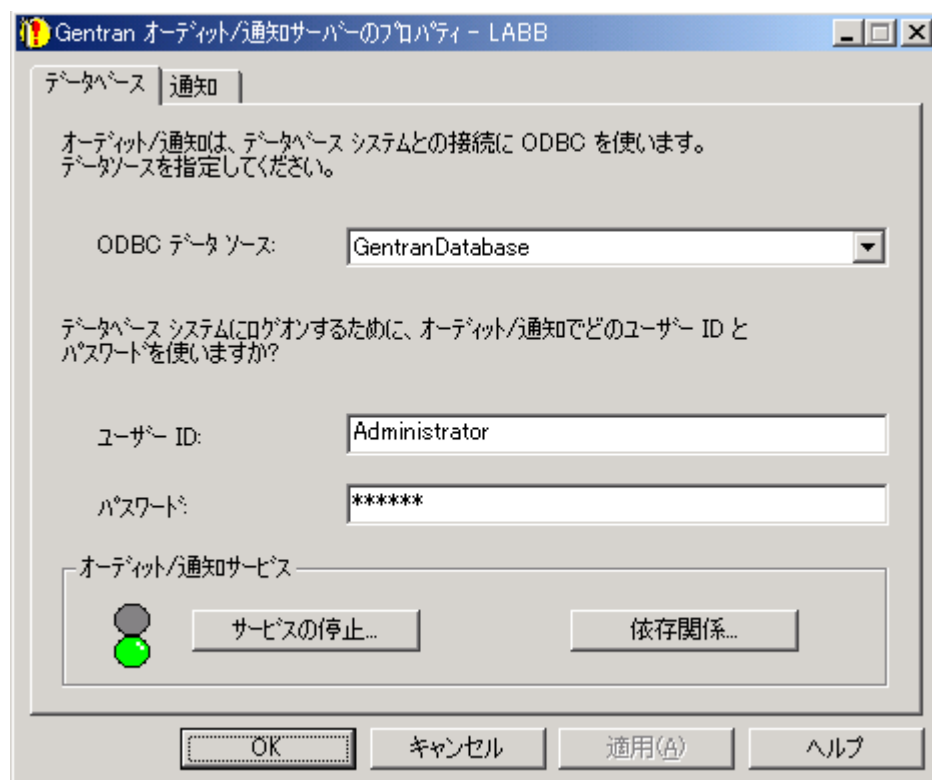
### はじめに

[Gentran オーディット / 通知サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックスでは、データベースと通知サーバーに関連する情報を構成できます。このダイアログ ボックスで、サービスを停止または開始することもできます。[Gentran オーディット / 通知サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックスには、次の2つのタブがあります。

- ▶ データベース
- ▶ 通知

### [データベース] タブ

次の図に、[Gentran オーディット / 通知サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックス ([データベース] タブ) を示します。



(次のページへ続く)



**各部と機能**

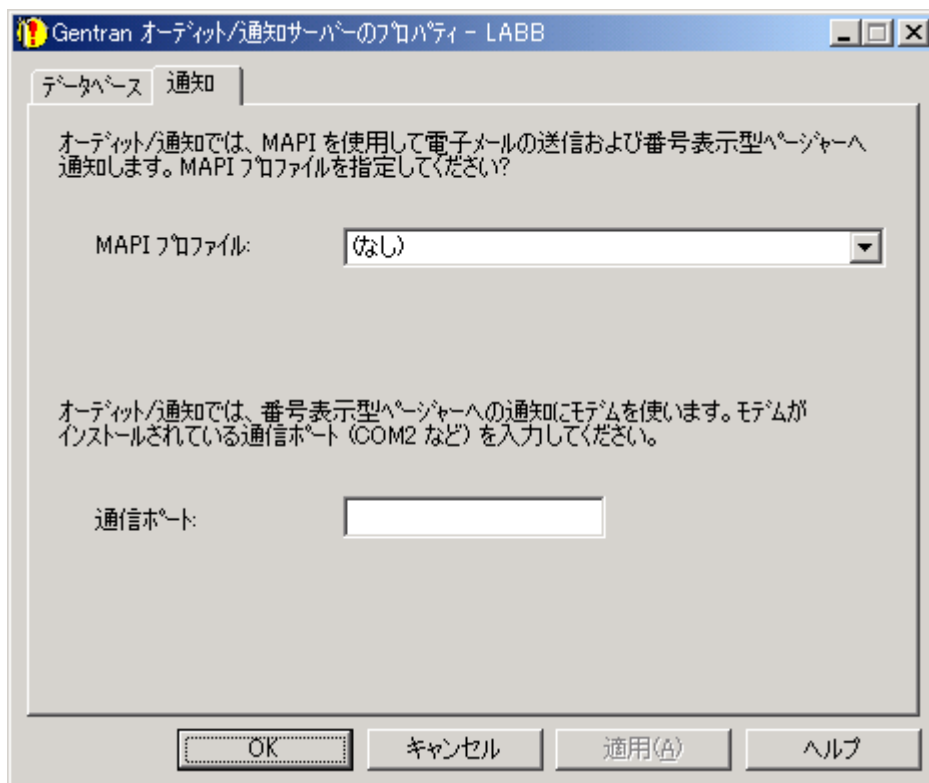
次の表に、[Gentran オーデイト / 通知サーバーのプロパティ]ダイアログ ボックス ([ データベース ] タブ ) の各部とその機能を示します。

各部	機能
ODBC データ ソース	システムが Gentran:Server オーデイト通知データベース テーブルにアクセスするために使用する ODBC データ ソースを指定します。
ユーザー ID	オーデイト通知システムがデータベース システムにログオンするために使用するユーザー ID ( データベース管理者が作成 ) を指定します。
パスワード	オーデイト通知システムがデータベース システムにログオンするために使用するパスワード ( データベース管理者が作成 ) を指定します。
サービスの開始 / サービスの停止	オーデイト通知システムを起動または停止します。 <b>メモ</b> オーデイト通知システムは、Gentran:Server と同時に自動的に起動します。サービスを停止した場合でも、[ サービスの開始 ] を使用して、システムを再起動できます。
依存関係	[ 依存関係 ] ダイアログ ボックスを表示します。
OK	入力した情報で [ オーデイト通知サーバーのプロパティ ] を更新して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	サーバーのプロパティに変更を適用せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

( 次のページへ続く )

## 【通知】タブ

次に、[Gentran オーディット / 通知サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックス ([通知] タブ) を示します。



(次のページへ続く)

**各部と機能**

次の表に、[Gentran オーディット / 通知サーバーのプロパティ]ダイアログ ボックス ([通知] タブ) の各部とその機能を示します。

各部	機能
MAPI プロファイル	<p>E メールおよびページャ通知の送信に使用する MAPI プロファイルを指定します。</p> <p><b>参照</b>                      オーディット通知で MAPI を使用する要件の詳細については、「<a href="#">Microsoft® Outlook® の要件</a>」を参照してください。</p> <p>MAPI プロファイルの設定方法については、使用する MAPI メッセージング ソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。</p> <p><b>メモ</b>                      通知の MAPI プロファイルは、オーディット通知サービスと同じ Windows ログインおよびパスワードを使用して設定する必要があります。つまり、ユーザーはその ID とパスワードを使用して Windows にログインし、MAPI プロファイルを作成する必要があります。同じ ID とパスワードを使用しないと、MAPI プロファイルはオーディット通知で使用できなくなります。</p>
通信ポート	<p>モデムがインストールされている通信ポートを指定します。</p>
<b>OK</b>	<p>入力した情報で [オーディット通知サーバーのプロパティ] を更新して、ダイアログ ボックスを閉じます。</p>
キャンセル	<p>サーバーのプロパティに変更を適用せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。</p>
ヘルプ	<p>状況依存ヘルプを表示します。</p>

## [ 依存関係 ] ダイアログ ボックス

### はじめに

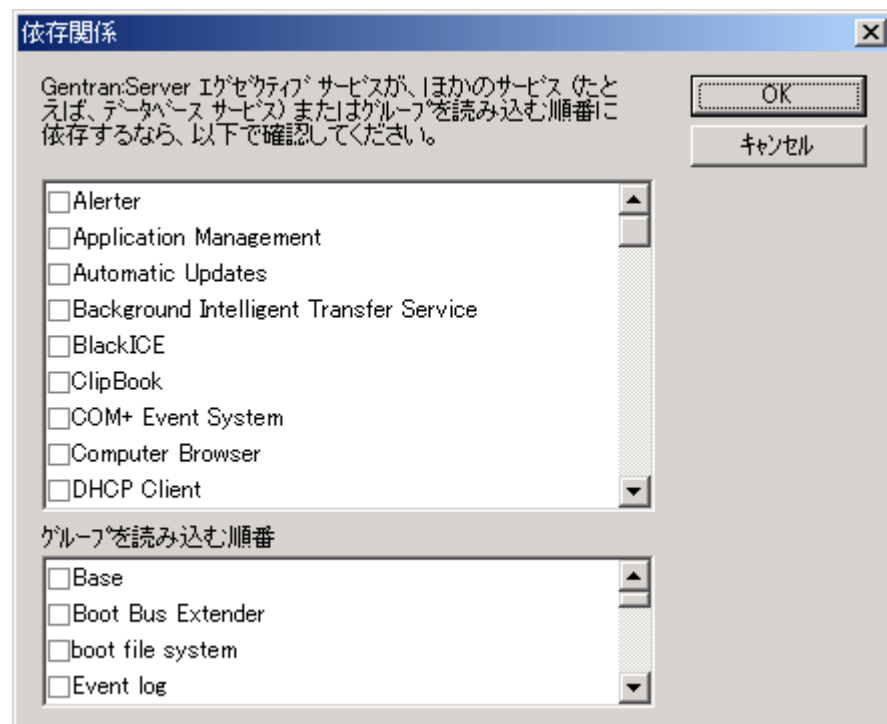
[ 依存関係 ] ダイアログ ボックスでは、オーディット通知システムの操作が、他のインストール済みサービス ( データベース サービス など ) やグループを読み込む順番に依存しているかどうかを指定できます。

### メモ

適切な依存関係が選択されていないと、依存するサービスが起動しているとき以外は必要なアクセスが行えなくなり、システムは起動できなくなります。

### [ 依存関係 ] ダイアログ ボックス

次に、[ 依存関係 ] ダイアログ ボックスを示します。



### メモ

Gentran:Server エグゼクティブ サービスも、Gentran オーディット通知、Gentran:Server メールボックス、および Gentran:Server コミュニケーションズ サービスの順に依存しています。

( 次のページへ続く )

## 各部と機能

次の表に、[依存関係]ダイアログ ボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
Gentran オーディット / 通知サービスが他のインストール済みサービスに依存している場合	オーディット通知システムの操作に必要なインストール済みのサービス (データベース サービスなど) を指定します。
グループを読み込む順番	オーディット通知システムの操作に必要な、グループを読み込む順番を指定します。
OK	入力した情報でオーディット通知サーバーの依存関係プロパティを更新して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	[依存関係]ダイアログ ボックスに変更を適用せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

## サーバー設定の構成方法

### はじめに

オーディット通知サーバー設定の構成は、[Gentran オーディット / 通知サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックスと [依存関係] ダイアログ ボックスで行います。

#### メモ

オーディット通知サーバー設定を構成する前に、MAPI プロファイルを設定する必要があります。

#### 参照

MAPI プロファイルの設定方法については、使用する MAPI メッセージング ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

### 手順

データベース プロパティを構成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
<b>データベース設定の構成</b>	
1	[ スタート ] メニューから、[ プログラム ]、[ Gentran Server ]、[ Gentran Server の構成 ] の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [Gentran:Server for Windows システム構成] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[ オーディット / 通知 ] タブを選択して、[ サーバー ] をクリックします。  <b>システムからの応答</b> [Gentran オーディット / 通知サーバーのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[ データベース ] タブを選択します。
4	[ODBC データ ソース] リストで、適切なデータ ソースを選択します。
5	[ ユーザー ID ] ボックスに、オーディット通知システムがデータベース システムにログオンするために使用するユーザー ID を入力します。
6	[ パスワード ] ボックスに、オーディット通知システムがデータベース システムにログオンするために使用するパスワードを入力します。  ( 次のページへ続く )

( 続き ) ステップ	操作
7	[ 依存関係 ] をクリックします。  <b>システムからの応答</b> [ 依存関係 ] ダイアログ ボックスが表示されます。
8	インストールされたサービスのリストで、オーディット通知システムが依存するサービスを選択します。  <b>例</b> オーディット通知システムはデータベースを使用します。したがって、どのデータベース サービスも、通知サービスより先に起動している必要があります。データベース サービスが通知サービスより先に起動していないと、通知サービスは起動できません。
9	[ グループを読み込む順番 ] リストで、オーディット通知システムで使用する、グループを読み込む順番を選択します。
10	[ OK ] をクリックします。  <b>システムからの応答</b> 依存関係の情報が保存され、[ Gentran オーディット / 通知サーバーのプロパティ ] ダイアログ ボックスが再び表示されます。
<b>通知設定の構成</b>	
1	[ 通知 ] タブを選択します。  <b>システムからの応答</b> [ 通知 ] タブがアクティブになった状態で、[ Gentran オーディット / 通知サーバーのプロパティ ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	通知を E メールで送信するかどうかによって次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ E メールで送信する場合は、[ MAPI プロファイル ] ボックスで、E メールおよびメールアドレス表示型ペーজァーの通知で使用するプロファイルの名前を選択します。</li> <li>▶ E メールで送信しない場合は、ステップ 3 に進みます。</li> </ul>
3	通知を電話番号表示型ペーজァーで送信するかどうかによって次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 電話番号表示型ペーজァーで送信する場合は、[ 通信ポート ] ボックスで、モデム ( 電話番号表示型ペーজァーの通知で使用 ) がインストールされている通信ポートの名前を入力します。</li> <li>▶ 電話番号表示型ページァーで送信しない場合は、ステップ 4 に進みます。</li> </ul> <p style="text-align: right; color: green;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
4	[OK] をクリックします。 <b>システムからの応答</b> [ 通知 ] タブの設定が保存され、システムを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
5	[ サービスの開始 / サービスの停止 ] をクリックして、オーディット通知システムを再起動し、設定を有効にします。

---



# オーディット メッセージの操作

## 概要

### はじめに

---

オーディット メッセージには、次のような処理およびユーザー活動の概要が含まれます。

- ▶ プロセス管理イベントで発生するステップ
- ▶ ドキュメントの編集者
- ▶ メールボックスの作成者
- ▶ 処理のエラー情報 (トランスレーション エラーや受信者が見つからないなど)
- ▶ コミュニケーション エラー
- ▶ データベース エラーやネットワーク エラーなどのシステム エラー

### この項の内容

---

この項では、次の内容について説明します。

- ▶ オーディット メッセージのカスタマイズ
  - ▶ オーディット メッセージ タイプと構造
  - ▶ オーディット メッセージ コンポーネントに関連するダイアログ ボックス
  - ▶ オーディット メッセージ コンポーネントの使用方法
-

## オーディット メッセージ コンポーネントの使い方

### はじめに

この項では、オーディット メッセージ コンポーネントの使用方法を説明します。

### オーディット メッセージをカスタマイズする方法

オーディット通知システムのオーディット メッセージ コンポーネントを使用して、メッセージやメッセージの説明を追加したり、修正できます。これによりシステム コンポーネントがオーディット ログにメッセージを書きこむ際に、表示される情報を使用目的に沿ったものにして、システム活動のモニターを容易に行えるようにしたり、特定のメッセージに対してエラーを通知するなどの応答を設定できます。

また、オーディット ログから除外するメッセージの情報レベルを指定して、不要なメッセージがログに書き込まないようにすることもできます。

### オーディット メッセージ コンポーネントの使用目的

オーディット メッセージ コンポーネントを使用して、次の処理を実行できます。

- ▶ システムで定義されているオーディット メッセージすべてのリストを表示する
- ▶ Gentran:Server によって定義されたメッセージのオーディット メッセージプロパティを一部修正する
- ▶ 個人用のオーディット メッセージを追加、修正、および削除する
- ▶ 特定のオーディット メッセージを検索する
- ▶ 他のユーザーによって変更された内容を表示するため、オーディット メッセージのリストをリフレッシュする

### リフレッシュ機能

[表示] メニューから [リフレッシュ] を選択するか、**F5** を押すことで、オーディット メッセージ リストをリフレッシュし、他のユーザーによって変更された内容を表示できます。

### オーディット メッセージの削除

削除したいメッセージを選択して [削除] を押して、[Gentran オーディット メッセージ] ブラウザのオーディット メッセージを削除できます。

#### メモ

システム定義のオーディット メッセージは削除できません。

## オーディット メッセージの構造と種類

### はじめに

この項では、オーディット メッセージの構造とさまざまな種類について説明します。

### オーディット メッセージの構造

次の表に、オーディット メッセージを定義するフィールドを示します。

コンポーネント	説明
ソース	オーディット メッセージを生成するシステムまたはファンクショナルシステム領域 (Gentran:Server、アーカイブ、ユーザーシステムなど) を示します。
ソース ID	ソースを表す数字の識別子。
コンポーネント	オーディット メッセージを生成するソースの構成要素 (Gentran:Server プロセス管理プログラムなど) を示します。
コンポーネント ID	コンポーネントを表す数字の識別子。
メッセージ ID	コンポーネントの特定のエラーを示す 1 ~ 65535 の番号。  <b>メモ</b> 1 ~ 49,999 の値は、ソースおよびコンポーネントに一意のオーディット メッセージで使用されます。 50,000 ~ 65,535 の値は、同一ソース内の 1 つ以上のコンポーネントで生成される場合のあるオーディットメッセージに使用されます (共通オーディットメッセージ)。
オーディット番号	オーディット メッセージのソース ID、コンポーネント ID、およびメッセージ ID を示す識別番号。  <b>例</b> 1-1-1010 この例で、ソースは Gentran:Server (1)、コンポーネントは EDIMGR (1)、メッセージ ID はメッセージ [Gentran:Server クライアントの開始] (1010) を示します。  (次のページへ続く)

( 続き ) コンポーネント	説明
レベル	<p>エラーの重要度を示します。オーデジット ログでは、この値がアイコンで示されます。</p> <p>レベルの値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 情報 ]</li> <li>▶ [ 警告 ]</li> <li>▶ [ エラー ]</li> <li>▶ [ オーデジット正常終了 ]</li> <li>▶ [ オーデジット エラー ]</li> </ul> <p><b>メモ</b> [オーデジット正常終了]と[オーデジット エラー]はセキュリティのレベルであり、Windows イベント ログのレベルのように、リソースへのアクセスに成功または失敗したかを示す目的で使用されます。</p>
タイプ	<p>オーデジット メッセージのタイプ ( 処理、またはドキュメントやインターチェンジなどのデータに関連するタイプなど ) を示します。</p> <p><b>参照</b> さまざまなオーデジット メッセージの種類に関する詳細については、「<a href="#">オーデジット メッセージタイプ</a>」を参照してください。</p>
メッセージ テキスト	<p>オーデジット メッセージの説明テキスト。</p> <p><b>例</b> [Gentran:Server クライアントの開始]</p> <p><b>メモ</b> オーデジット メッセージテキストで % 記号を使用することで、ユーザーは自分が定義するメッセージに変数を挿入できます。システム定義のメッセージの場合は、システムによって % 記号の部分に変数が挿入されます。% 変数がシステム定義のオーデジット メッセージで使用されている場合、変数の値 ( または定義 ) は、システム活動に応じて、実行時に決定されます。</p> <p><b>例</b> [ANServer の機能 %2 の起動エラー]</p> <p>この例で、%1 は特定のエラーを、%2 は起動エラーが発生したプログラムの機能 ( データベースへのログインや、レジストリからの値の読み込みなど ) を示します。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) コンポーネント	説明
オーディット ログ	このオプションは、該当するダイアログ ボックスで選択されます。このオプションが選択されている場合、オーディット メッセージタイプに従って、メッセージがオーディット ログ、データ オーディット表示、またはトラック情報表示に書き込まれることを示します。
イベント ログ	このオプションは該当するダイアログ ボックスで選択されます。このオプションが選択されている場合、メッセージが、オーディット通知サーバーを実行しているコンピュータの Windows イベント ログに書き込まれることを示します。  <b>参照</b> Windows イベント ログの詳細については、Windows のマニュアルを参照してください。

**ソースおよび  
コンポーネントの  
数値**

次の表に、メッセージのソースおよびコンポーネント値に使用される数値を示します。

ソース	コンポーネント
0 — ALL	0 — ALL ( メッセージはソース内のすべてのコンポーネントによって生成される場合があります )
1 — Server	0 — ALL ( 共通 ) 1 — EDIMGR 2 — RPCSRV (Gentran:Server エグゼクティブ サービス) 3 — Unattende 4 — partner_editor 5 — Configuration 6 — Commpost 7 — Process Control
2 — Mailbox	0 — ALL ( 共通 ) 1 — Server 2 — Trace 3 — Exe_agent 4 — File_system_adapter 5 — MAPI_adapter 6 — Mailbox_client
3 — Translator	0 — ALL ( 共通 ) 1 — Translator  ( 次のページへ続く )

( 続き ) ソース	コンポーネント
5 — Audit	0 — ALL ( 共通 ) 1 — Audit Notification Server 2 — Audit Context 3 — Notifications 4 — Audit Message User Interface 5 — Operators 6 — Server Settings
6 — Comm	0 — ALL ( 共通 ) 1 — GenCom97 2 — GenComPC 3 — GenCom UI 4 — ComStart
7 — Archive	0 — ALL ( 共通 ) 1 — Archive Engine 2 — Archive Manager
99 — User	0 — ALL ( 共通 ) 99 — User

### オーディット メッセージ タイプ

システムは、処理に関連するオーディット メッセージと、データに関連するオーディット メッセージを生成します。処理オーディット メッセージは、プロセス管理イベントで発生するステップや、コミュニケーション エラーなど、ユーザーの動作および処理の情報とエラーを示します。データ オーディット メッセージは、メッセージの作成、転送、または配送が完了したことなど、システム内の特定のドキュメント、インターチェンジ、メッセージまたは添付に関する情報を示します。

#### メモ

処理メッセージは、オーディット ログへの書き込み後、オーディット ログで参照できます。データ オーディット メッセージは、トラック情報およびデータ オーディット 表示で参照できます。

システムは、すべてのオーディット メッセージに対して、タイプの値を割り当てます。この値により、オーディット メッセージを開始した活動のタイプを特定できます。処理タイプはこうして識別されます。データ オーディット メッセージ タイプは、次のとおりです。

- ◆ document
- ◆ interchange
- ◆ external data
- ◆ session
- ◆ message
- ◆ attachment

( 次のページへ続く )

**オーディット  
メッセージ タイプ  
( 続き )**

**例**

次の表に、処理およびデータ オーディット メッセージの例を示します。

<p><b>オーディット メッセージ タイプ</b></p>	<p><b>例</b></p>
<p>処理</p>	<p>ユーザーが Gentran:Server にサインオンし、Gentran:Server クライアントを開始すると、次のオーディット メッセージがオーディット ログへ書き込まれます。[1-1-1010 Gentran:Server クライアントの開始]</p>
<p>処理</p>	<p>プロセス管理が自動処理プログラムを開始して、セッション ファイルの処理を開始すると、自動処理プログラムによって次のメッセージがオーディット ログへ書き込まれます。[1530 プロセス管理セッションを開始]</p>
<p>データ</p>	<p>Gentran:Server エグゼクティブ サービスが時間切れチェック 論理を実行した結果、トレーディング パートナーによって受信確認されていないインターチェンジが見つかり、Gentran:Server エグゼクティブ サービスによって次のデータ オーディット メッセージが書き込まれます。 [1-2-3000 受信確認状態は時間切れに変更されました]</p>

( 次のページへ続く )

### 共通オーディット メッセージ

共通オーディット メッセージとは、同一のソース内にある 1 つ以上のコンポーネントによって書き込まれる場合のあるオーディット メッセージです (異なるソースで同じメッセージを生成することはできません)。

#### 例

Gentran:Server 内で、自動処理プログラムは、データベースを開く際にエラーが発生したことを示すオーディット メッセージを生成する場合があります。同様に、RPCSRV プログラムも、同じエラーが発生したことを示す同一のオーディット メッセージを生成する場合があります。

共通オーディット メッセージは、コンポーネント値 [ALL] としてシステムで定義されています (対応するコンポーネント ID の数値は 0)。ただし、共通オーディット メッセージがオーディット ログに書き込まれるときには、オーディット メッセージを生成したコンポーネントが区別されます。

#### 例

自動処理プログラムと RPCSRV プログラムの両方がメッセージ 51000 をオーディット ログに書き込んだ場合、オーディット ログ エントリで、ソースは [Server]、コンポーネントはそれぞれ [Unattended] および [RPCSRV]、そしてメッセージ ID は [51000] として表示されます。ただし、オーディット メッセージ テーブル (メッセージ情報を参照、追加、および修正できるテーブル) には、メッセージが [Server-ALL-1-0-51000] として表示されます。

### オーディット メッセージの ダイアログ ボックス

次の表に、オーディット メッセージ コンポーネントを構成するダイアログ ボックスを示します。

ダイアログ ボックス	機能
Gentran オーディット メッセージ	オーディット メッセージを表示および削除できます。
検索	特定のオーディット メッセージを探すための検索条件 (特定のメッセージ テキストやレベル) を入力できます。
オーディット メッセージの定義	次の処理を実行できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ システム定義のオーディット メッセージのプロパティを表示する</li> <li>▶ システム定義のオーディット メッセージのプロパティを一部修正する</li> <li>▶ オーディット メッセージを作成する</li> <li>▶ ユーザー定義のオーディット メッセージのプロパティを表示および修正する</li> </ul>



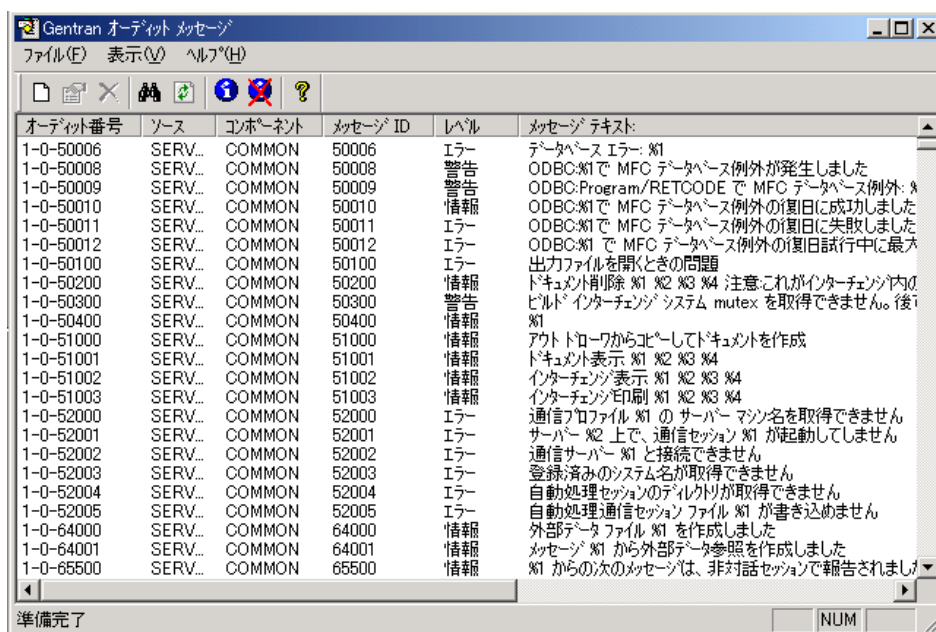
## [Gentran オーディット メッセージ] ブラウザ

### はじめに

[Gentran オーディット メッセージ] ブラウザでは、オーディット メッセージを表示したり、ユーザー定義のオーディット メッセージをシステムから削除したりできます。このブラウザから、オーディット メッセージの追加や修正を行うこともできます。

### [Gentran オーディット メッセージ] ブラウザ

次に、[Gentran オーディット メッセージ] ブラウザを示します。



(次のページへ続く)

## 各部と機能

次の表に、[Gentran オーディット メッセージ] ブラウザの各部とその機能を示します。

各部	機能
オーディット番号	オーディット メッセージのソース ID、コンポーネント ID、およびメッセージ ID を示します。ソースとコンポーネントは、他のシステム内で生成されたメッセージと簡単に区別できるように、数値によって表されます。  <b>参照</b> 使用される数値のリストについては、「 <a href="#">ソースおよびコンポーネントの数値</a> 」を参照してください。
ソース	メッセージを生成するシステム (Gentran:Server、メールボックス、ユーザー システムなど) を示します。
コンポーネント	オーディット メッセージを生成する指定されたソースの構成要素 (Gentran:Server 自動処理プログラムなど) を示します。
メッセージ ID	コンポーネントの特定のエラーを示す 1 ~ 65535 の番号。
レベル	エラーの重要度またはイベントの状態を示します。  レベルの値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 情報 ]</li> <li>▶ [ 警告 ]</li> <li>▶ [ エラー ]</li> <li>▶ [ オーディット正常終了 ]</li> <li>▶ [ オーディット エラー ]</li> </ul>
メッセージ テキスト	オーディット メッセージの説明テキスト。

## [検索]ダイアログボックス

### はじめに

[検索]ダイアログボックスでは、特定のオーディットメッセージを探すための検索条件(メッセージテキストやメッセージIDなど)を入力できます。

### [検索]ダイアログボックス

次に、[検索]ダイアログボックスを示します。



### 各部と機能

次の表に、[検索]ダイアログボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
検索条件	メッセージの検索に使用する条件を示します。
検索する文字列	検索条件の特定のプロパティ値を指定します。 <b>例</b> 検索条件: メッセージテキスト 検索対象: トランスレーション エラー
次を検索	リスト内で、選択した条件に一致する次のオーディットメッセージを検索します。
キャンセル	検索を終了し、[検索]ダイアログボックスを閉じます。
上へ	リスト内の現在の位置より前にあるメッセージの中から、選択した条件に一致するオーディットメッセージを検索します。
下へ	リスト内の現在の位置より後にあるメッセージの中から、選択した条件に一致するオーディットメッセージを検索します。

## 【オーディット メッセージの定義】ダイアログ ボックス

### はじめに

Gentran:Server でオーディット メッセージがシステム定義されていないシステム活動を記録したい場合は、オーディット通知システムで、必要なオーディットメッセージを作成することができます。

### メモ

ユーザーが作成したオーディット メッセージは、"ユーザー定義" のオーディットメッセージと呼ばれます。

【オーディット メッセージの定義】ダイアログ ボックスを使用して、既存のオーディット メッセージのプロパティを修正することもできます。これらのオプションにより、システムが生成するメッセージをカスタマイズできます。

### 【オーディット メッセージの定義】 ダイアログ ボックス

次に、【オーディット メッセージの定義】ダイアログ ボックスを示します。

オーディット メッセージの定義

オーディット番号: 99-99-1  
ソース: ユーザー  
エンドポイント: ユーザー  
メッセージ ID: 1

ユーザー/システム メッセージ: ユーザー定義

場所

オーディット ログへの書き込み  
 イベント ログへの書き込み

レベル: 情報  
オーディット メッセージの種類: Processing

メッセージ テキスト:  
追加 (ユーザー) メッセージ テキスト:

OK(O)      キャンセル(C)      ヘルプ(H)

(次のページへ続く)

**各部と機能**

次の表に、[オーディット メッセージの定義] ダイアログ ボックスの各部とその機能を示します。

**メモ**

表で特に指摘のない限り、システム定義のメッセージで使用されるこれらのフィールドは変更できません。

各部	機能
オーディット番号	オーディット メッセージのソース ID、コンポーネント ID、およびメッセージ ID を示す識別番号。
ソース	新しいメッセージに適用される既定値のソース (ユーザー) またはメッセージのシステム ソース (Gentran:Server、メールボックスなど) を示します。
コンポーネント	オーディット メッセージを生成するシステム (特定のソース内) の構成要素 (Gentran:Server 自動処理プログラムなど) を示します。
メッセージ ID	メッセージ ID 番号を示します。既定では、新しいメッセージには、現在使用されていない最も大きなメッセージ ID の値が割り当てられます。別の値を指定することもできます。
ユーザー/システムメッセージ	メッセージがユーザー定義またはシステム定義かを示します。
オーディット ログへの書き込み	メッセージがオーディット ログに書き込まれるかどうかを示します。
イベント ログへの書き込み	<p>メッセージが Windows イベント ログに書き込まれるかどうかを示します。</p> <p><b>メモ</b> 一部のシステム定義オーディット メッセージでは、このオプションの選択または選択解除が行えます。</p>
レベル	<p>オーディット メッセージのレベルを示します。</p> <p>レベルのタイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 情報 ]</li> <li>▶ [ 警告 ]</li> <li>▶ [ エラー ]</li> <li>▶ [ オーディット正常終了 ]</li> <li>▶ [ オーディット エラー ]</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) 各部	機能
オーデイト メッセージの種類	<p>オーデイト メッセージのタイプを示します。</p> <p>使用できる値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [Processing]</li> <li>▶ [Document]</li> <li>▶ [Interchange]</li> <li>▶ [External data]</li> <li>▶ [Session]</li> <li>▶ [Message]</li> <li>▶ [Attachment]</li> </ul>
メッセージ テキスト	メッセージの説明テキストを示します。
追加 ( ユーザー ) メッセージ テキスト	<p>追加のメッセージの説明テキストを示します。</p> <p><b>メモ</b> このフィールドで、システム定義のメッセージにメッセージ テキストを追加できます。</p>
<b>OK</b>	新しいメッセージを追加するか、既存のメッセージに対する変更を適用し、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	変更または追加した内容をキャンセルし、既存の構成を維持した状態でダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

## オーディット メッセージの追加方法

### はじめに

[オーディット メッセージの定義] ダイアログ ボックスでメッセージプロパティを定義することで、オーディット メッセージを追加できます。

### 使用する場合

この手順は、Gentran:Server にシステム定義のオーディット メッセージがないシステム活動を記録するためのオーディット メッセージが必要な場合に使用します。

#### メモ

オーディット メッセージを追加した後、プロセス管理または拡張ルールを使用して、メッセージがオーディット ログへ書き込まれるよう構成する必要があります。

#### 参照

ユーザー定義のオーディット メッセージをオーディット ログへ書き込むよう Gentran:Server コンポーネントを構成する方法については、「[プロセス管理の使い方](#)」および「[拡張ルールの使い方](#)」の章を参照してください。

### 手順

オーディット メッセージを追加するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [Gentran:Server for Windows システム構成] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>[オーディット / 通知] タブを選択して、[メッセージ]をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [Gentran オーディット メッセージ] ブラウザが表示されます。</p>
3	<p>[ファイル]メニューから [新しいオーディット メッセージ] を選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [オーディット メッセージの定義] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) ステップ	操作
4	既定値を使用しない場合は、メッセージ ID を変更します (既定値は使用されていない最も大きなメッセージ ID)。
5	[レベル] リストで、レベルを選択します。
6	オーデット メッセージの種類を選ぶリストから、メッセージの種類を選択します。
7	メッセージをオーデット ログに書き込む場合は、[オーデット ログへの書き込み]を選択します。
8	メッセージを Windows イベント ログに書き込む場合は、[イベント ログへの書き込み]を選択します。
9	[メッセージテキスト] フィールドに、メッセージの説明テキストを入力します。
10	[OK] をクリックします。  <b>システムからの応答</b> 新しいメッセージがリストに追加されて、ダイアログ ボックスが閉じられ、[Gentran オーデット メッセージ] ブラウザが表示されます。



## オーディット メッセージ プロパティの修正方法

### はじめに

[ オーディット メッセージの定義 ] ダイアログ ボックスを使用して、オーディット メッセージのプロパティを修正できます。

### 使用する場合

この手順は、次の場合に使用します。

- ▶ オーディット通知システムに対して、システム定義のオーディット メッセージをオーディット ログまたは Windows イベント ログに書き込むよう指定する場合
- ▶ システム定義のメッセージに、メッセージの説明テキストを追加する場合
- ▶ ユーザー定義のオーディット メッセージのプロパティを修正する場合

### 手順

オーディット メッセージのプロパティを編集するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[ スタート ] メニューから、[ プログラム ]、[ <b>Gentran Server</b> ]、[ <b>Gentran Server の構成</b> ] の順に選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [Gentran:Server for Windows システム構成] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>[ オーディット / 通知 ] タブを選択して、[ <b>メッセージ</b> ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [Gentran オーディット メッセージ] ブラウザが表示されます。</p>
3	<p>修正するメッセージをダブルクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> 選択したメッセージのプロパティを示す [ オーディット メッセージの定義 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
4	<p>必要に応じて、ダイアログ ボックスのフィールドの値を変更します。</p> <p><b>メモ</b> 編集するオーディット メッセージのタイプによっては、特定のプロパティの変更が制限されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ システム定義された情報レベルのメッセージでは、次の処理を実行できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>— オーディット ログおよびイベント ログのオプションを変更し、オーディット メッセージの書き込み先であるログを指定する</li> <li>— 追加のメッセージ テキストを入力するボックスで、テキストを追加または変更する</li> </ul> </li> <li>▶ システム定義された非情報レベルのメッセージでは、この追加メッセージ テキストを入力するボックスの内容だけを修正できます。</li> <li>▶ ユーザー定義のオーディット メッセージでは、[ オーディット 番号 ] フィールド 以外のすべてのフィールドと、既定値がユーザーに設定されている [ ソース ] および [ コンポーネント ] フィールドの内容を修正できます。</li> </ul>
5	<p>[OK] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> オーディット メッセージに対する変更が適用されて、ダイアログ ボックスが閉じられ、[Gentran オーディット メッセージ] ブラウザが表示されます。</p>

## 特定のオーディット メッセージの検索方法

### はじめに

[Gentran オーディット メッセージ] ブラウザで特定のオーディット メッセージを検索するには、[検索] ダイアログ ボックスで、目的のメッセージを特定できるプロパティを指定します。

### 使用する場合

この手順は、メッセージを検索して、そのプロパティを検討または変更する場合に使用します。

### 手順

特定のオーディット メッセージを検索するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート] メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成] の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [Gentran:Server for Windows システム構成] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[オーディット / 通知] タブを選択して、[メッセージ] をクリックします。  <b>システムからの応答</b> [Gentran オーディット メッセージ] ブラウザが表示されます。
3	[ファイル] メニューから [検索] を選択します。  <b>システムからの応答</b> [検索] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[検索条件] リストで、使用する検索条件のタイプを選択します。  <b>例</b> メッセージ テキスト メッセージ ID
5	[検索する文字列] ボックスに、検索対象となる特定のプロパティを入力します。  <b>例</b> たとえば、[検索条件] が [メッセージ テキスト] の場合は、[検索する文字列] ボックスに「変更された受信確認状態」のように入力します。  (次のページへ続く)

( 続き ) ステップ	操作
6	<p>リストの現在の位置から上方向または下方向のどちらへ向かって検索するかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ リスト内の現在の位置より前にあるメッセージの中から検索する場合は、[上へ]を選択します。</li> <li>▶ リスト内の現在の位置より後にあるメッセージの中から検索する場合は、[下へ]を選択します。</li> </ul>
7	<p>[次を検索]をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [Gentran オーデジット メッセージ]ブラウザのリストで、検索されたメッセージが反転表示されます。</p> <p>[次を検索]を再度クリックすることで、入力した条件で一致する次のオーデジット メッセージを検索できます。</p> <p><b>メモ</b> 入力した条件に一致するメッセージが見つからない場合は、情報メッセージが表示されます。</p>
8	<p>反転表示されたメッセージをダブルクリックして、そのプロパティを検討または変更します。</p> <p><b>システムからの応答</b> 選択したメッセージの [オーデジット メッセージの定義] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>

# オペレータ情報の構成

## 概要

### はじめに

オペレータとは、特定のオーディット メッセージがシステム コンポーネントによって生成された場合に、通知を受け取るようシステムで定義されているユーザーです。

通知の受信者を構成するときに、システムがその受信者のオペレータ定義を使用できるように、名前、E メールアドレス、ページャー番号などのオペレータ情報をあらかじめ定義する必要があります。

オーディット通知システムのオペレータ コンポーネントを使用して、次の処理を実行できます。

- ▶ システムで定義されているオペレータすべてのリストを表示する
- ▶ オペレータ プロパティを表示および修正する
- ▶ リストに新しいオペレータを追加する
- ▶ オペレータを削除する
- ▶ 定義したオペレータに対して、テスト通知を送信する
- ▶ 他のユーザーによって変更された内容を表示させるため、オペレータのリストをリフレッシュする

### オペレータの ダイアログ ボックス

次の表に、オペレータ コンポーネントを構成するダイアログ ボックスを示します。

ダイアログ ボックス	機能
Gentran オペレータ	オペレータを表示および削除できます。
オペレータ プロパティ	オペレータ情報を表示および修正できます。また、入力したプロパティに基づいて、システムによる通知の生成をテストできます。
新しいオペレータの プロパティ	通知を受信するオペレータを追加できます。また、入力したプロパティに基づいて、システムによる通知の生成をテストできます。

(次のページへ続く)

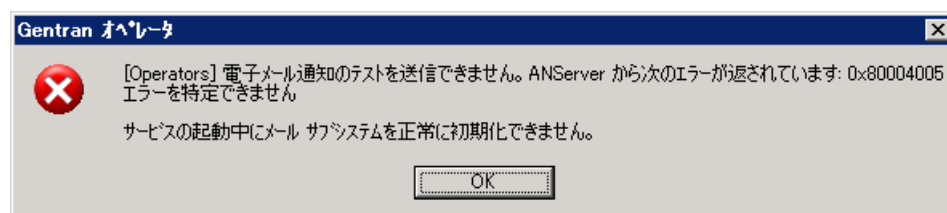
## テスト機能

オペレータ コンポーネントには、オペレータに対して試験用の通知を送信するテスト機能が用意されており、プロパティのダイアログ ボックスで入力したオペレータ情報が有効かどうかをテストできます。テスト通知は、通知ログの警告メッセージ、E メール、ページャーで行えます。

通知テストが成功したかどうかを確認する方法は、テスト対象となる通知タイプおよびテストの実際の成否によって異なります。

- ▶ 警告メッセージによる通知の場合、指定オペレータは有効な Windows ユーザー ID でログオンし、[Gentran 通知ログ] ダイアログ ボックスを開いておく必要があります。
- ▶ ページャーおよび E メールによる通知の場合、テスト実施者は指定オペレータに問い合わせ、そのオペレータの E メール アカウントまたはページャーでテスト通知を受信したことを確認する必要があります。
- ▶ E メールまたはページャー テスト通知の生成でエラーが発生すると、問題の種類を示すエラー メッセージが表示されます。

## 例



## リフレッシュ機能

オペレータ コンポーネントでは、他のユーザーによって変更された内容を表示するため、[Gentran オペレータ] ブラウザをリフレッシュすることができます。リフレッシュするには、[表示] メニューから [リフレッシュ] を選択するか、**F5** を押します。

## オペレータの削除

オペレータのエントリが不要になった場合は、そのエントリを選択して、[削除] を押すことにより、[Gentran オペレータ] ブラウザの [オペレータ] リストから削除できます。

### メモ

オペレータを削除すると、そのオペレータが受信者として構成されているすべての通知がシステムから削除されます。

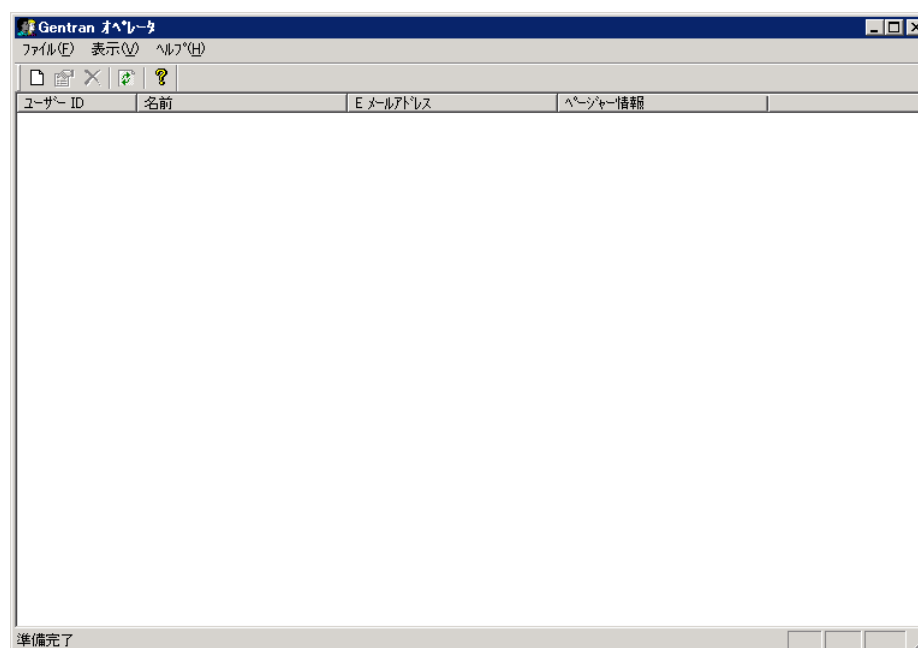
## [Gentran オペレータ] ブラウザ

### はじめに

[Gentran オペレータ] ブラウザには、システムで定義されているオペレータのリストが表示されます。このリストから、オペレータを削除できます。

### [Gentran オペレータ] ブラウザ

次に、[Gentran オペレータ] ブラウザを示します。



### 各部と機能

次の表に、[Gentran オペレータ] ブラウザの各部とその機能を示します。

各部	機能
ユーザー ID	オペレータの Windows 識別子を表示します。
名前	オペレータ名を表示します。
E メール アドレス	オペレータの E メールアドレスを表示します。
ページャー情報	オペレータが使用する電話番号表示型ページャー番号 (9, 111-1111 など) またはメールアドレス表示型ページャーの E メールアドレスのいずれかを指定します。

## 【オペレータ プロパティ】ダイアログ ボックス

### はじめに

選択した通知を特定のユーザー (オペレータ) へ送信するよう設定するには、まずユーザーを定義するオペレータ情報をシステムに追加する必要があります。Gentran:Server は、このオペレータ プロパティを使用して、指定されたオペレータへ通知を送信します。

【オペレータ プロパティ】ダイアログ ボックスでは、通知を受信するオペレータをシステムに追加したり、既存のオペレータのプロパティを表示または修正できます。オペレータ情報 (E メール アドレスなど) が変更された場合は、このダイアログ ボックスを使用して、システムでユーザーを定義するオペレータ情報を更新する必要があります。

### 【オペレータ プロパティ】 ダイアログ ボックス

次に、【オペレータ プロパティ】ダイアログ ボックスを示します。



(次のページへ続く)



## 各部と機能

次の表に、[オペレータ プロパティ] ダイアログ ボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
Windows ユーザー ID	<p>オペレータの Windows ユーザー ID を指定します。</p> <p><b>メモ</b> 使用するデータベースで大文字と小文字が区別される場合、このフィールドには、Windows ユーザー ID と同じように正確に大文字と小文字を区別して、ユーザー ID を入力する必要があります。Windows ユーザー ID と同じように大文字と小文字を区別して入力しないと、オペレータはオペレータ自身に対して生成された通知を表示できなくなります。</p>
名前	オペレータ名を指定します。
警告 テスト	<p>指定したオペレータに対して、テストの通知ログ警告メッセージを送信します。</p> <p><b>メモ</b> 指定されたオペレータは、テストの警告通知を受信するために、有効な Windows ユーザー ID でログオンして、[Gentran 通知ログ] ダイアログ ボックスを開いておく必要があります。</p>
E メール アドレス	オペレータの E メールアドレスを指定します。
E メール テスト	指定されたオペレータに対して、テストの E メール通知を送信します。
電話番号表示型 ページャー	<p>オペレータが通知の受信に使用する電話番号式のページャー番号を指定します。</p> <p><b>メモ</b> ダイヤル後、ページャー サービスが数値を受信できる状態になるまでページャー サービスを待機できるよう、ページャー番号の後に必要な数だけコンマを追加する必要があります。</p> <p><b>例</b> 9,555-5555,,,</p> <p>ページャー番号の後に追加されている 4 つのコンマにより、ページング サービス ボイス メッセージは、メッセージが受信できる状態になるまで、再生できません。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) 各部	機能
メールアドレス表示 型ページャー	オペレータがメールアドレス表示型ページャー通知の受信に使用する E メールアドレスを指定します。
ページャー テスト	指定したオペレータに対して、テストのページャー通知を送信します。
<b>OK</b>	オペレータ リストに変更を適用して、ダイアログ ボックスを閉じます。オーディット通知システムは、更新した情報に基づいて次回からの通知を生成するようになります。
キャンセル	変更内容をキャンセルし、既存の構成を維持した状態でダイアログ ボックスを閉じます。
適用	オペレータ リストに変更を適用し、ダイアログ ボックスを開いた状態にしておきます。
ヘルプ	状況依存ヘルプを表示します。

## オペレータの追加方法

### はじめに

オペレータを追加するには、[オペレータプロパティ]ダイアログボックスで、オペレータの識別情報を指定します。

### 使用する場合

次の手順は、通知を受信するユーザーを設定する場合に使用します。

### 手順

システムにオペレータを追加するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [Gentran:Server for Windows システム構成]ダイアログボックスが表示されます。</p>
2	<p>[オーディット/通知]タブを選択して、[オペレータ]をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [Gentran オペレータ]ブラウザが表示されます。</p>
3	<p>[ファイル]メニューから [新しいオペレータ] を選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [オペレータプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。</p>
4	<p>適切なフィールドに、必要な情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Windows ユーザー ID</li> </ul> <p><b>メモ</b> 使用するデータベースで大文字と小文字が区別される場合、Windows ユーザー ID と同じように大文字と小文字を区別して、ユーザー ID を入力してください。 Windows ユーザー ID と同じように大文字と小文字を区別して入力しないと、オペレータはオペレータ自身に対して生成された通知を表示できなくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 名前</li> <li>▶ E メール アドレス</li> <li>▶ 電話番号表示型ページャー</li> <li>▶ メール アドレス表示型ページャー</li> </ul> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) ステップ	操作
5	<p>テストする通知の [ テスト ] ボタンをクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> 新しいオペレータにテスト通知が送信されます。</p> <p><b>参照</b> テスト機能については、「<a href="#">テスト機能</a>」を参照してください。</p>
6	<p>[OK] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> リストにオペレータが追加され、ダイアログ ボックスが閉じます。</p>

---

## オペレータ プロパティの修正方法

### はじめに

オペレータ情報 (E メールアドレスやページャー番号など) が変更された場合は、オペレータ プロパティを修正する必要があります。[オペレータ プロパティ] ダイアログ ボックスでは、既存のオペレータのプロパティを修正できます。

### 手順

オペレータ プロパティを修正するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。 <b>システムからの応答</b> [Gentran:Server for Windows システム構成] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[オーディット / 通知] タブを選択して、[オペレータ] をクリックします。 <b>システムからの応答</b> [Gentran オペレータ] ブラウザが表示されます。
3	修正するオペレータのエントリをダブルクリックします。 <b>システムからの応答</b> [オペレータ プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	必要に応じて、次のフィールドの情報を修正します。 <ul style="list-style-type: none"><li>▶ [Windows ユーザー ID]</li><li>▶ [名前]</li><li>▶ [E メールアドレス]</li><li>▶ [電話番号表示型ページャー]</li><li>▶ [メールアドレス表示型ページャー]</li></ul> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) ステップ	操作
5	<p>テストする通知の [ テスト ] ボタンをクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> オペレータにテスト通知が送信されます。</p> <p><b>参照</b> テスト機能については、「<a href="#">テスト機能</a>」を参照してください。</p>
6	<p>[OK] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> 変更が保存され、ダイアログ ボックスが閉じます。</p>

---

# 通知の操作

## 概要

### はじめに

通知とは、ユーザー定義の動作 ( ページャー呼び出し、E メール送信、または通知タイプのプロセス管理イベントなど ) で、システム コンポーネントが特定のオーディット メッセージを生成すると、Gentran:Server によって開始されます。通知には、オーディット メッセージの生成をユーザーに知らせるだけの方法と、生成されるオーディット メッセージに対するシステムの応答 ( 通知タイプのプロセス管理イベント ) する方法があります。

通知コンポーネントを使用して、次の処理を実行できます。

- 通知を追加する
- 既存の通知プロパティを修正する
- システムで定義されている通知すべてのリストを表示する
- 通知を削除する
- 他のユーザーによって変更された内容を表示するため、通知のリストをリフレッシュする

### 通知の動作

次の表で、通知の動作を説明します。

通知の動作	説明
通知ログの警告メッセージ	<p>オペレータがシステムで操作を行っている間に、そのオペレータに対する通知が生成されたことをオペレータに知らせるメッセージボックス。</p> <p>オペレータが通知ログの警告メッセージを受け取るには、そのオペレータがログオンし、通知ログをアクティブに設定している必要があります。</p> <p><b>メモ</b> 既定では、警告メッセージと音響信号が Gentran 通知ログの [ 選択 ] メニューでアクティブに設定されています。オペレータは、これらのオプションを選択解除できます。</p>
ページャー	<p>注意が必要な状況をオペレータに知らせるためにページャーへ送信される通知。</p> <p>( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) 通知の動作	説明
E メール	注意が必要な状況をオペレータに知らせるために送信される E メール。
通知タイプのプロセス管理イベント	<p>特定のオーディット メッセージの生成に対する応答として開始するようあらかじめ構成されている動作または一連の動作。</p> <p><b>例</b> マップに、合計金額が指定した額を超える請求書を受け取る度に処理オーディットを書き込む拡張ルールが設定されているとします。この拡張ルールに基づいて、データを処理するユーザープログラムを開始するよう、通知タイプのプロセス管理イベントを構成することができます。</p> <p><b>メモ</b> 通知タイプのプロセス管理イベントの動作は、通知ログに書き込まれません。</p> <p><b>参照</b> 通知タイプのプロセス管理イベントを追加する方法の詳細については、「<a href="#">プロセス管理の使い方</a>」を参照してください。</p>

### 柔軟な構成 オプション

通知コンポーネントでは、必要に応じてさまざまな通知構成を設定できます。ただし、一部のオーディット メッセージには、通知を1つしか設定できません (同じメッセージに追加の通知を設定しようとすると、エラー メッセージが表示されます)。

通知コンポーネントを使用すると、次の処理を実行できます。

- ▶ **複数のオペレータへの通知**  
次の方法で、複数のオペレータに対して通知を行うことができます。

  - 同一のオーディット メッセージの応答として通知する
  - 同一のオーディット メッセージの応答として、複数の通知タイプ ( ページャー、E メール、通知ログの警告など ) を使用する
- ▶ **さまざまなオーディット メッセージ条件に基づいた通知の設定**  
通知は、次のメッセージの応答として送信できます。

  - 特定のオーディット メッセージ
  - 指定レベル ( 警告メッセージなど ) のオーディット メッセージすべて
  - 特定のシステム コンポーネント ( CONFIG プログラムなど ) によって生成されたオーディット メッセージすべて

( 次のページへ続く )



### 柔軟な構成 オプション ( 続き )

- ▶ **さまざまなタイプの通知の設定**  
通知は、通知ログの警告、ページャー、E メール、または通知タイプのプロセス管理イベントで行うよう構成できます。

#### メモ

オーディット ログへ書き込まれないように構成されているオーディット メッセージに対しても、そのメッセージの生成時に通知の応答を開始するよう設定することができます。

### 構成の例

通知を設定する際には、その通知に対して次のオプションで定義される特定のオーディット メッセージかオーディット メッセージのグループを選択できます。

- ▶ ソース
- ▶ コンポーネント
- ▶ メッセージ ID
- ▶ レベル

#### 例

たとえば、ある通知は、ソースが [Server]、コンポーネントが [Translator]、メッセージ ID が [<ALL>]、レベルが [エラーレベル オーディット] であるメッセージすべてに送信されるよう設定されているとします。この場合、トランスレータによって、エラーレベル オーディットを示すオーディット メッセージが生成されると、通知が生成されます。

### 通知処理の順序

オーディット通知サーバーは、通知の動作をすべて実行します。各通知では、動作は一度に 1 つずつ処理されます。したがって、ページャーへの送信を行う通知は、ページャーへの送信を行う 1 つ前の通知が完了するまで開始しません。

通知によるページャーへの送信の試行時に、別の処理 ( オーディット通知システム以外の処理 ) がモデムを使用している場合、サーバーは 45 秒待機して、再試行します。3 回試行してもモデムが使用中の場合、サーバーは Windows イベントログにエントリを書き込み、キューにある次の通知の処理を開始します。

( 次のページへ続く )

### 通知のダイアログボックス

次の表に、通知コンポーネントを構成するダイアログボックスを示します。

ダイアログボックス	機能
Gentran 通知	通知を表示および削除できます。
新しい通知プロパティ	プロパティ ( 通知の名前、およびその通知が応答するオーディットメッセージまたはオーディットメッセージのタイプなど ) を指定することで、通知を追加できます。
通知プロパティ	通知の識別プロパティ ( 通知が応答するオーディットメッセージのタイプおよび通知の受信者 ) を変更できます。

### リフレッシュ機能

通知コンポーネントでは、他のユーザーによって変更された内容を表示するため、[Gentran 通知] ブラウザをリフレッシュすることができます。リフレッシュするには、[表示] メニューから [リフレッシュ] を選択するか、**F5** を押します。

### 通知の削除

[Gentran 通知] ダイアログボックスの通知リストから、通知を削除できます。通知を削除するには、削除する通知を選択して、[削除] を押します。

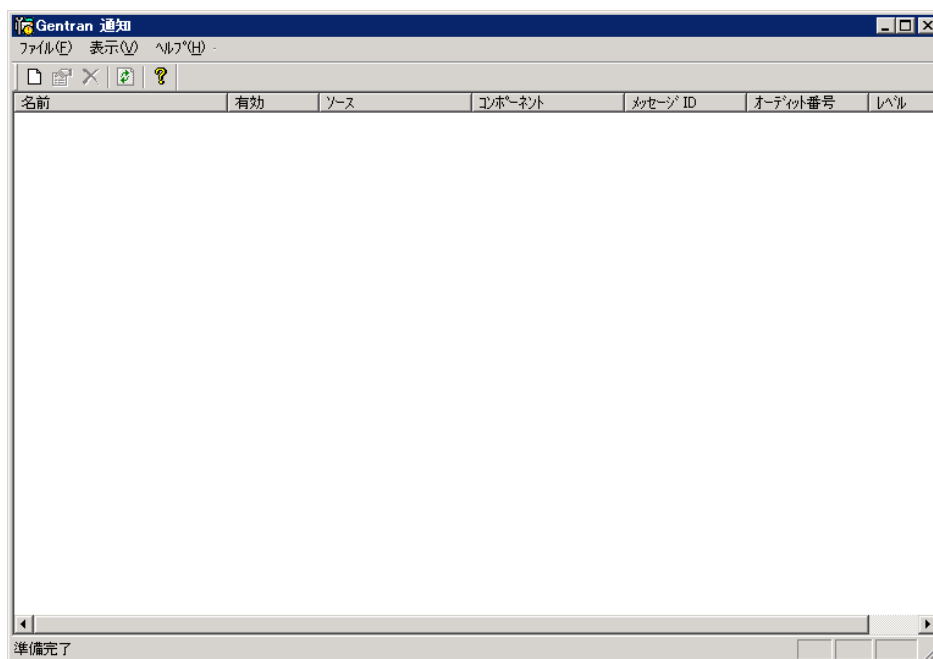
## [Gentran 通知] ブラウザ

### はじめに

[Gentran 通知] ブラウザでは、通知を表示および削除できます。

### [Gentran 通知] ブラウザ

次に、[Gentran 通知] ブラウザを示します。



(次のページへ続く)

## 各部と機能

次の表に、[Gentran 通知] ダイアログ ボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
名前	通知の名前を示します。
有効	指定したオーディット メッセージがオーディット ログへ書き込まれると、通知が送信されることを示します。  <b>メモ</b> このオプションを選択しない場合、通知は生成されません。
ソース	通知を開始するオーディット メッセージの生成元となるシステムまたはファンクショナルシステム領域 (Gentran:Server、アーカイブ、ユーザーシステムなど) を示します。
コンポーネント	通知を開始するオーディット メッセージの生成元となるソース (Gentran:Server 自動処理プログラムなど) を示します。
メッセージ ID	通知を開始するオーディット メッセージの識別番号 (1 ~ 65,535)。
オーディット番号	通知を開始するオーディット メッセージのソース ID、コンポーネント ID、およびメッセージ ID を示す識別番号。
レベル	通知を開始するイベントのエラーの重要度または状態を示します。  レベルのタイプは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 情報 ]</li> <li>▶ [ 警告 ]</li> <li>▶ [ エラー ]</li> <li>▶ [ オーディット正常終了 ]</li> <li>▶ [ オーディット エラー ]</li> </ul>

## [通知プロパティ] ダイアログ ボックス

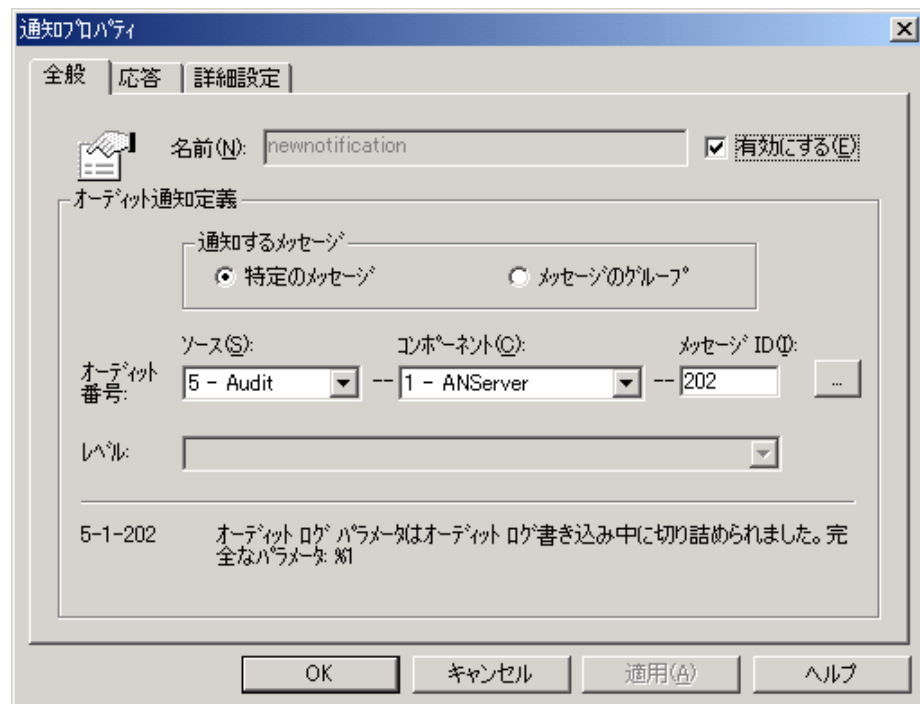
### はじめに

[通知プロパティ] ダイアログ ボックスでは、通知を追加したり、通知の識別プロパティを変更したりできます。このダイアログ ボックスで、通知の名前、通知が応答するオーディット メッセージのタイプ、および通知の受信者などのプロパティを指定できます。[通知プロパティ] ダイアログ ボックスには、次の3つのタブがあります。

- ▶ [全般]
- ▶ [応答]
- ▶ [詳細設定]

### [通知プロパティ] ダイアログボックス ([全般] タブ)

次に、[全般] タブを選択した状態の [通知プロパティ] ダイアログ ボックスを示します。



(次のページへ続く)

## 各部と機能

次の表に、[通知プロパティ] ダイアログ ボックス ([全般] タブ) の各部とその機能を示します。

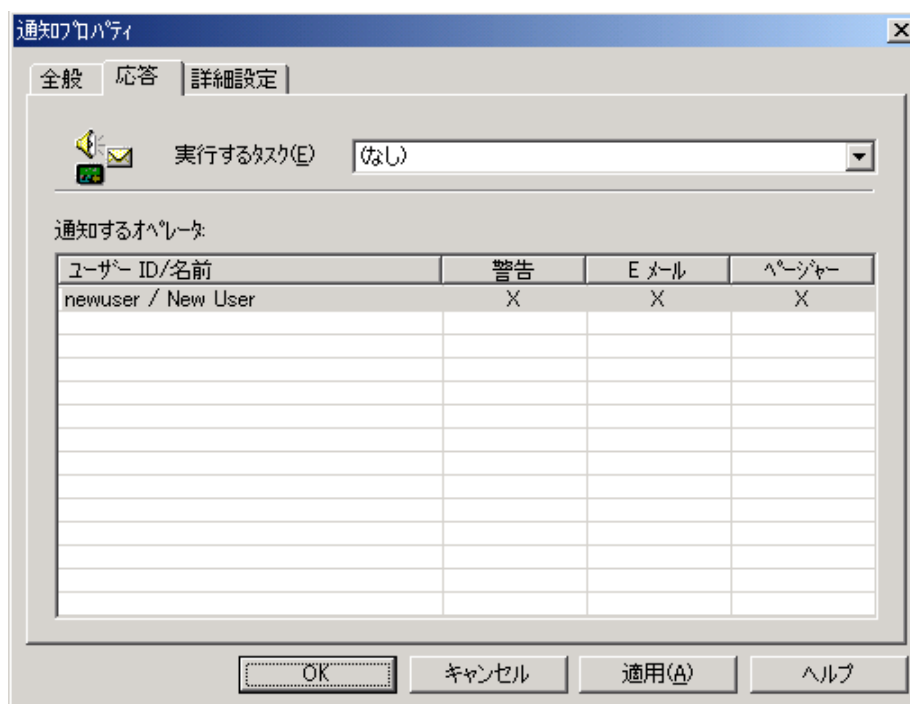
各部	機能
名前	通知の名前を示します。
有効にする	通知の送信をアクティブにします。これにより、特定のオーディット メッセージがオーディット ログへ書き込まれるときに、この通知が送信されるようになります。
特定のメッセージ	通知が、オーディット ログに書き込まれる特定のオーディット メッセージに応答することを示します。
メッセージのグループ	通知が、オーディット ログに書き込まれるオーディット メッセージグループに応答することを示します。
ソース	通知を開始するオーディット メッセージの生成元システムまたはファンクショナル システム領域 (Gentran:Server、アーカイブ、ユーザーシステムなど) を示します。
コンポーネント	通知を開始するオーディット メッセージの生成元ソース (トランスレータなど) を示します。
メッセージ ID	通知を開始するオーディット メッセージの識別番号 (1 ~ 65,535)。
...	システムで定義されているオーディット メッセージのリストを表示します。  <b>メモ</b> ソースおよびコンポーネントの値を入力すると、リストは指定したソースおよびコンポーネントのメッセージを表示するようフィルタされます。
レベル	通知を開始するイベントのエラーの重要度または状態を示します。  レベルのタイプは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [情報]</li> <li>▶ [警告]</li> <li>▶ [エラー]</li> <li>▶ [オーディット成功]</li> <li>▶ [オーディット失敗]</li> </ul>

(次のページへ続く)

( 続き ) 各部	機能
OK	変更した内容で通知プロパティを更新して、ダイアログボックスを閉じます。
キャンセル	通知に変更を適用せずに、ダイアログボックスを閉じます。
適用	通知に変更を適用し、ダイアログボックスを開いた状態にしておきます。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。

### 【通知プロパティ】 ダイアログボックス ([ 応答 ] タブ)

次に、[ 応答 ] タブを選択した状態の [ 通知プロパティ ] ダイアログボックスを示します。



( 次のページへ続く )

## 各部と機能

次の表に、[通知プロパティ-編集] ダイアログ ボックス ([応答] タブ) の各部とその機能を示します。

各部	機能
実行するタスク	通知が開始する通知タイプのプロセス管理イベントを示します。  <b>メモ</b> このボックスには、Gentran:Server で定義済みの通知タイプのプロセス管理イベント がすべて表示されます。  <b>参照</b> 通知タイプのプロセス管理イベントを追加する方法については、「 <a href="#">プロセス管理の使い方</a> 」を参照してください。
ユーザー ID/ 名前	通知先オペレータの ID および名前を示します。
警告	オペレータへの通知が警告メッセージで行われることを示します。
E メール	オペレータへの通知が E メールで行われることを示します。  <b>メモ</b> オペレータの E メール アドレスが定義されていない場合は、このフィールドに値を入力できません。
ページャー	オペレータへの通知がページャーで行われることを示します。  <b>メモ</b> オペレータのページャー アドレスが定義されていない場合は、このフィールドに値を入力できません。
OK	変更した内容で通知プロパティを更新して、ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	通知に変更を適用せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
適用	通知に変更を適用し、ダイアログ ボックスを開いた状態にしておきます。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。



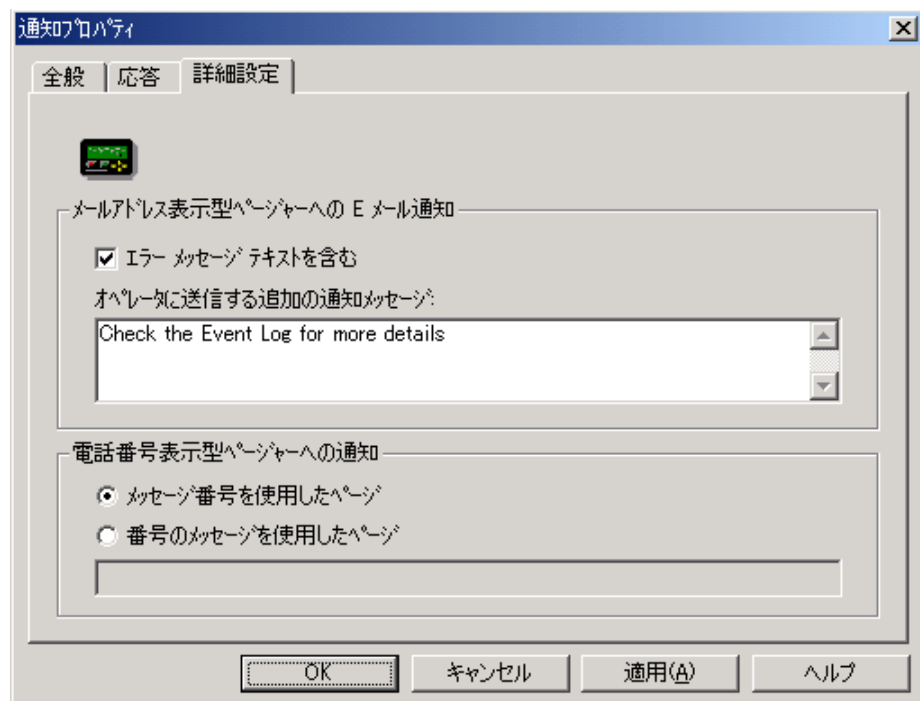
**[通知プロパティ]  
ダイアログボックス  
([詳細設定] タブ)**

[詳細設定] タブでは、オペレータに送信されるページャーおよび E メール の応答を構成できます。電話番号表示型ページャーの場合は、ページャーにエラー番号を送信する (既定のオプション) か、それに加えて数字テキストも送信するかを選択できます。

メールアドレス表示型ページャーおよび E メール通知による応答の場合は、既定であらかじめ書式化されたメッセージが送信されます (メールアドレス表示型ページャーには、テキストサイズの制限があります)。たとえば、**[Gentran:Server 通知 (通知名)]** というメッセージが送信されます。オプションとして、**[メッセージ 01-01-01 パートナーが見つかりません]** などのエラーメッセージテキストを追加したり、**[オペレータに送信する追加の通知メッセージ]** ボックスで入力したテキストを追加したりできます。

通常の警告メッセージによる応答の場合は、通知ログで生成された通知メッセージテキストに、**[オペレータに送信する追加の通知メッセージ]** ボックスで入力したテキストを追加したものが使用されます。

次の図に、[詳細設定] タブを選択した状態の [通知プロパティ] ダイアログボックスを示します。



(次のページへ続く)

## 各部と機能

次の表に、[通知プロパティ] ダイアログ ボックス ([詳細設定] タブ) の各部とその機能を示します。

各部	機能
エラー メッセージ テキストを含む	オペレータに送信される通知情報に、次の情報を含めるよう指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 通知を開始したエラー メッセージの説明テキスト</li> <li>▶ エラーの日付 / 時刻</li> <li>▶ イベント ID</li> </ul>
オペレータに送信する追加の通知メッセージ	通知先オペレータに送信される追加のテキストを指定します。 <p><b>メモ</b> メールアドレス表示型ページャーおよび E メール通知による応答の場合は、既定であらかじめ書式化されたメッセージが送信されます (メールアドレス表示型ページャーには、テキスト サイズの制限があります)。</p>
メッセージ番号を使用したページ	ページャーに送信されるオーディット メッセージ番号が、電話番号表示型ページャーの通知テキストに含まれるよう指定します。
番号のメッセージを使用したページ	入力した数値テキストが、送信される電話番号表示型ページャーの通知テキストに含まれるよう指定します。
<b>OK</b>	変更した内容で通知プロパティを更新して、ダイアログ ボックスを閉じます。
<b>キャンセル</b>	通知に変更を適用せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
<b>適用</b>	通知に変更を適用し、ダイアログ ボックスを開いた状態にしておきます。
<b>ヘルプ</b>	状況依存ヘルプが表示されます。

## 通知の追加方法

### はじめに

通知の追加により、特定のシステム活動(システムが特定のオーディットメッセージを生成するときに指定される)を指定オペレータに通知するよう、Gentran:Server を設定できます。

通知を設定するには、次の情報を指定します。

- ▶ 通知を開始するオーディットメッセージまたはオーディットメッセージのタイプ
- ▶ 通知を受信するオペレータ
- ▶ 通知動作のタイプ(Eメール、ページャー、通知タイプのプロセス管理イベント)

通知の追加は、[新しい通知プロパティ]ダイアログボックスで、通知のプロパティを定義することで行います。通知の構成が完了すると、新しい通知が[Gentran 通知]リストに追加されます。

### 前提条件

構成する通知のタイプによって、次の前提条件を満たしている必要があります。

- ▶ ページャー形式の通知を設定するには、[Gentran オーディット / 通知サーバーのプロパティ]の[通知]タブのサーバー設定で適切な通信ポートを選択している必要があります。
- ▶ Eメール形式の通知を設定するには、MAPI プロファイルを設定し、[Gentran オーディット / 通知サーバーのプロパティ]の[通知]タブでそのプロファイルを選択している必要があります。

#### 参照

MAPI プロファイルの設定方法については、使用する MAPI メッセージングソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。

通信ポートおよび MAPI プロファイルの指定については、「[オーディット通知サーバー設定の構成](#)」を参照してください。

- ▶ 通知を設定する前に、通知先のオペレータのプロパティを定義している必要があります。

#### 参照

オペレータ プロパティの定義については、「[オペレータの追加方法](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

## 手順

通知を追加するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、 [Gentran Server の構成]の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> [Gentran:Server for Windows システム構成]ダイアログ ボックスが 表示されます。
2	[オーディット / 通知]タブを選択して、[通知]をクリックします。  <b>システムからの応答</b> [Gentran 通知]ブラウザが表示されます。
3	[ファイル]メニューから [新しい通知]を選択します。  <b>システムからの応答</b> [新しい通知プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。  (次のページへ続く)

( 続き ) ステップ	操作
4	<p>[ 全般 ] タブを選択して、次のフィールドを完成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 名前 ] ボックスに、通知の名前を入力します。</li> <li>▶ 現時点で通知の処理をアクティブにしない場合は、[ 有効にする ] チェックボックスをオフにします ( 既定の設定は [ 有効にする ] )。</li> <li>▶ 通知を特定のメッセージを基に設定する場合は、[ 特定のメッセージ ] を選択します。</li> <li>▶ 通知をメッセージグループを基に設定する場合は、[ グループのメッセージ ] を選択します。</li> <li>▶ [ ソース ] リストで、通知を開始するメッセージのソースを選択します。</li> <li>▶ [ コンポーネント ] リストで、通知を開始するメッセージのコンポーネントを選択します。</li> </ul> <p><b>メモ</b> コンポーネント値に [COMMON] を選択すると、選択したソース内に含まれる任意のコンポーネントがオーディット メッセージを生成する度に、通知が生成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 通知を特定のメッセージグループに対して設定する場合は、[ メッセージ ID ] ボックスにメッセージ ID を入力します。</li> </ul> <p><b>メモ</b> メッセージ ID を選択する代わりに、[ 参照 ] をクリックできます。入力したソースおよびコンポーネントの定義済みオーディット メッセージのリストが表示されます。メッセージを選択するには、そのメッセージをダブルクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 通知を特定のレベルを持つオーディット メッセージグループに対して設定する場合は、適切なレベルを選択または入力します。</li> </ul>
5	<p>[ 応答 ] タブを選択して、次のフィールドを完成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 通知を定義済み通知タイプのプロセス管理イベントとして構成している場合、[ 実行するタスク ] リストから適切なイベントを選択します。</li> <li>▶ [ 通知するオペレータ ] テーブルの [ 警告 ]、[ E メール ]、および [ ページャー ] フィールドで、適切なボックスをクリックして X マークを付け、通知によって開始される動作を指定します。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
6	<p>[ 詳細設定 ] タブを選択して、次のフィールドを完成します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ E メールまたはメールアドレス表示型ページャー通知に、通知を開始したエラー メッセージのテキスト、エラーの日付 / 時刻、およびイベント ID を含める場合は、[ <b>エラー メッセージ テキストを含む</b> ] を選択します。</li><li>▶ 通知で追加のメッセージをオペレータに送信する場合は、[ オペレータに送信する追加の通知メッセージ ] ボックスにそのメッセージのテキストを入力します。</li><li>▶ 電話番号表示型ページャーで、メッセージ番号を使用して通知を行う場合は、[ <b>メッセージ番号を使用したページ</b> ] を選択します。</li><li>▶ 電話番号表示型ページャーで、数値メッセージを使用して通知を行う場合は、[ <b>番号のメッセージを使用したページ</b> ] を選択し、そのボックスに数字メッセージを入力します。</li></ul>
7	<p>[OK] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> リストに通知が追加され、ダイアログ ボックスが閉じます。</p>

## 通知プロパティの修正方法

### はじめに

[通知プロパティ] ダイアログ ボックスでは、プロパティを修正できます。

### 使用する場合

既存の通知プロパティの修正は、通知動作や受信者の内容を変更する場合に行います。

### 手順

通知プロパティを修正するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server の構成]の順に選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [Gentran:Server for Windows システム構成] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>[オーディット / 通知] タブを選択して、[通知] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> [Gentran 通知] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<p>編集する通知を選択し、[表示]メニューから [プロパティ] を選択します。</p> <p><b>システムからの応答</b> 選択した通知のプロパティを含む [通知プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[全般] タブを選択し、必要に応じて次のフィールドの値を変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [有効にする]</li> <li>▶ [特定のメッセージ]</li> <li>▶ [メッセージのグループ]</li> <li>▶ [ソース]</li> <li>▶ [コンポーネント]</li> <li>▶ [メッセージ ID]</li> </ul> <p><b>メモ</b> 既存の通知の名前を変更することはできません。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) ステップ	操作
5	<p>[ 応答 ] タブを選択し、必要に応じて次のフィールドの値を変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ [ 実行するタスク ]</li><li>▶ [ ユーザー ID/ 名前 ]</li><li>▶ [ 警告 ]</li><li>▶ [ E メール ]</li><li>▶ [ ページャー ]</li></ul>
6	<p>[ 詳細設定 ] タブを選択し、必要に応じて次のフィールドの値を変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ [ エラー メッセージ テキストを含む ]</li><li>▶ [ オペレータに送信する追加の通知メッセージ ]</li><li>▶ [ 番号のメッセージを使用したページ ]、およびその下のボックス</li></ul>
7	<p>[OK] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> 通知に対する変更が保存され、[Gentran 通知] ブラウザが更新されて、ダイアログ ボックスが閉じます。</p>



# オーディット ログの使い方

## 概要

### はじめに

トランスレータやプロセス管理などの Gentrans:Server システム コンポーネントは、ユーザー動作およびシステム処理を示すオーディット メッセージをオーディット ログに書き込みます。オーディット ログでは、これらのオーディット ログのエントリがリスト形式で表示され、システム動作をモニターできるようになっています。

オーディット ログ コンポーネントを使用して、次の処理を実行できます。

- ▶ オーディット ログに書き込まれたオーディット メッセージのリスト表示
- ▶ 選択したログ エントリの詳細情報の表示
- ▶ オーディット メッセージをまとめてスキャンするためのページング
- ▶ 特定のオーディット ログ エントリの検索
- ▶ 次の事項の変更による、オーディット ログの表示のカスタマイズ
  - 列サイズ
  - 表示選択
  - 並べ替え
- ▶ 特定のメッセージのみを表示するための、オーディット ログ リストのフィルタ設定
- ▶ 新しいエントリを表示するための、オーディット ログ リストのリフレッシュ

(次のページへ続く)

## オーディット ログの ダイアログ ボックス

次の表に、オーディット ログ コンポーネントを構成するダイアログ ボックスを示します。

ダイアログ ボックス	機能
Gentran オーディット ログ	次の処理を実行できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オーディット ログ エントリの表示および削除</li> <li>▶ 列サイズ、表示選択、および並べ替えの変更</li> <li>▶ 一度に表示するエントリ数の指定</li> </ul>
オーディット ログ エントリの詳細	選択したオーディット ログ エントリの詳細な情報を表示できます。
オーディット ログ フィルタ	オーディット メッセージの条件を指定することでオーディット ログの表示をカスタマイズし、条件を満たすエントリだけを表示できます。
オーディット ログ 検索	このダイアログ ボックスで入力した特定のプロパティで検索を絞り込むことにより、特定のオーディット ログ エントリを検索できます。

## ページ設定

Gentran オーディット ログは、一度に決まった数のエントリを表示します。一度に表示されるエントリ数は、表示の " ページサイズ " で設定されています (1 ページに表示できる既定のエントリ数は 1000)。

目的のエントリを表示するには、矢印キーまたは **Page Up** および **Page Down** を使用して、ページ内をスクロールします。次のページ ( エントリのグループ ) を表示するには、**Ctrl** と **Page Up** または **Page Down** を押して、ページを上下に移動します。

### 例

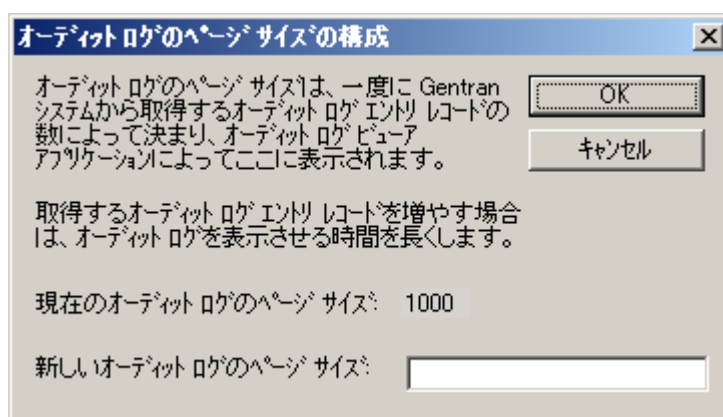
たとえば、オーディット通知システムに 10,000 のオーディット ログ エントリが維持されており ( システムで維持できるエントリ数に制限はありません )、[ オーディット ログ ] ダイアログ ボックスのページサイズは 5,000 に設定されているとします。この場合、ダイアログ ボックスには、最新のエントリを先頭に、計 5,000 のエントリ ( エントリ 10,000 ~ 5,000 ) が表示されます。ページ内を下へ移動することで、エントリ 5,000 まで表示できます。また、**Ctrl** と **Page Down** を押すことで、エントリ 1 ~ 5,000 を表示できます。

( 次のページへ続く )

## ページ設定の変更

表示されるエントリ数 ( ページサイズ ) を変更できます。これにより、オーディット ログ リストを参照しやすい量で分割表示でき、参照するエントリのリストを簡単にスクロールできるようになります。1 ページに表示するエントリ数を制限することにより、オーディット ログを表示するまでの時間も短縮できます。

ページサイズを変更するには、[Gentran オーディット ログ] の [オプション] メニューから [ 選択 ] を選択します。[ オーディット ログのページサイズの構成 ] ダイアログ ボックスが表示されます。ボックスの値を変更できます。次に、[ オーディット ログのページサイズの構成 ] ダイアログ ボックスを示します。



### メモ

オーディット ログ エントリの参照中に、ダイアログ ボックスをリフレッシュすると、最初のページに最新のデータが表示されます。

( 次のページへ続く )

### 列のクリックによる 並べ替え

オーディット ログ エントリのリスト順を変更するには、[Gentran オーディット ログ] ブラウザの列をクリックします。列をクリックすると、その列で設定されている基準 ( イベント名やオーディット番号など ) に基づいてエントリが並べ替えられます。

選択したカテゴリ内で、エントリはまずアルファベット順に、次いで新しいものから古いものへと日 / 時順に並べ替えられます。

#### 例

[ イベント名 ] 列をクリックしてエントリを並べ替えた場合、まず A で始まるすべてのイベント名、次いで B で始まるすべてのイベント名のようにエントリが順にリストされます。A で始まる最初のエントリ グループのイベント名が Administrator の場合、Administrator エントリ グループのうち、最も新しい日 / 時のものから順にリストされます。

#### 制限

- ▶ 並べ替えは、一度に 1 つの列でしか使用できません。たとえば、[ ユーザー ] 列をクリックした後、[ 日 / 時 ] 列をクリックすると、エントリの順番はユーザー順をさらに日 / 時順で並べ替えたものではなく、日 / 時順のみで並べ替えたものになります。

### 表示のオプション

[Gentran オーディット ログ] ブラウザのエントリは、日 / 時表示またはイベント表示でリストできます。イベント表示では、オーディット ログ エントリがイベント ID 別に分類されます ( 各イベント ID グループ内のエントリは、最新のエントリを先頭に、日 / 時順で並べ替えられます )。日 / 時表示では、最新のオーディット エントリを先頭に、すべてのオーディット ログ エントリが日 / 時順に並べ替えられます。

#### メモ

Gentran:Server の新規インストール後、初回にオーディット ログを表示するときは、既定ではイベント表示が使用されます。イベント表示と日 / 時表示のどちらでも、オーディット ログ エントリのメッセージのレベル、日付、時刻、イベント名、イベント ID、オーディット番号、およびメッセージテキストが表示されます。

これらのオプションは、[ 表示 ] メニューから [ 現在の表示 ] を選択することで使用できます。

( 次のページへ続く )

## オーディット ログ の表示

オーディット ログは、次の方法で表示できます。

- ▶ [メールボックス]の[サーバー マネージャ]ダイアログ ボックスのメイン ツールバーから、オーディット ログ アイコンを選択します。
- ▶ 電子商取引 (EC) マネージャ ウィンドウのメイン ツールバーから、オーディット ログ アイコンを選択します。

### メモ

オーディット ログ アイコンは、白い紙の上隅に赤い感嘆符の付いた黄色い丸のアイコンです。

- ▶ 電子商取引 (EC) マネージャ ウィンドウの[表示]メニューから、[オーディット ログ]を選択します。

## リフレッシュ機能

オーディット ログ コンポーネントには、[Gentran オーディット ログ]ブラウザを開いた後に追加された新しいエントリを表示するためのリフレッシュ機能があります。リフレッシュするには、[表示]メニューから[リフレッシュ]を選択するか、**F5**を押します。

## オーディット ログ エントリの削除

削除したいエントリを選択して[削除]を押すことで、[Gentran オーディット ログ]ブラウザのオーディット ログ エントリを削除できます。

## オーディット ログ の削除

オーディット ログの内容は、次の2通りの方法で削除できます。

- ▶ [Gentran:Server for Windows システム構成]ダイアログ ボックスで[オーディット / 通知]タブを選択し、[削除]をクリックします。[削除]をクリックすると、オーディット ログからすべてのエントリを削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。削除が完了すると、削除の成功を示す別の情報メッセージが表示されます。
- ▶ プロセス管理セッションで `GDW_Audit_Purge` コマンドを設定します。

### メモ

削除されたオーディット ログ エントリは、GentranDatabase から削除され、テキスト ファイル(ファイル名とパスは `GDW_Audit_Purge` コマンドのパラメータ設定時に指定)へ書き加えられます。テキスト ファイルが大きくなることをチェックしなくてもいいように、セッション スクリプトで、`GDW_Audit_Purge` コマンドの前に `File_Delete` コマンドを使用することもできます。

### 参照

`GDW_Audit_Purge` コマンドの設定については、『ユーザー ガイド』の「[プロセス管理の使い方](#)」を参照してください。

## [Gentran オーディット ログ] ブラウザ

### はじめに

[Gentran オーディット ログ] ブラウザでは、オーディット ログ エントリを表示したり、並べ替えたりできます。

### メモ

ダイアログ ボックスの列のサイズを調整して、フィールド内により多くのテキストを表示できます。

### [Gentran オーディット ログ] ブラウザ

次に、[Gentran オーディット ログ] ブラウザを示します。



(次のページへ続く)

各部と機能

次の表に、[Gentran オーディット ログ] ブラウザの各部とその機能を示します。

各部	機能
レベル	エラーの重要度またはイベントの状態を示すアイコン。 レベルと対応するアイコンは次のとおりです。
	 情報
	 警告
	 エラー
	 オーディット正常終了
	 オーディット エラー
日 / 時	オーディット メッセージがオーディット ログに書き込まれた日付 (MM/DD/YY) と時刻 (HH:MM:SS) を示します。
イベント名	オーディット メッセージの生成を開始する動作を実行した、通知タイプのプロセス管理イベント、ユーザー、または他のエンティティを示す分かりやすい名前。  <b>例</b> [Gentran: アーカイブ マネージャが起動しました] というメッセージでは、イベント名は [アーカイブ] です。
イベント ID	オーディット通知システムによってすべてのシステムイベントに割り当てられる一意の番号 (およびオーディット ログ エントリ)。同じプロセス管理イベント、ユーザー セッション、またはシステム イベントで生成されたオーディット ログ エントリには、同じイベント ID 番号が割り当てられます。既定では、同じイベント ID のエントリは、オーディット ログ表示で同じグループに分類されます。
オーディット番号	オーディット メッセージのソース ID、コンポーネント ID、およびメッセージ ID を示す識別番号。  <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

<b>( 続き ) 各部</b>	<b>機能</b>
メッセージ	オーディット メッセージの説明テキストを表示します。
ユーザー	プロセスを開始したユーザーの Windows ユーザー ID (またはプロセス管理イベントとしてプロセスを実行しているサービスの Windows ユーザー ID) を示します。

---



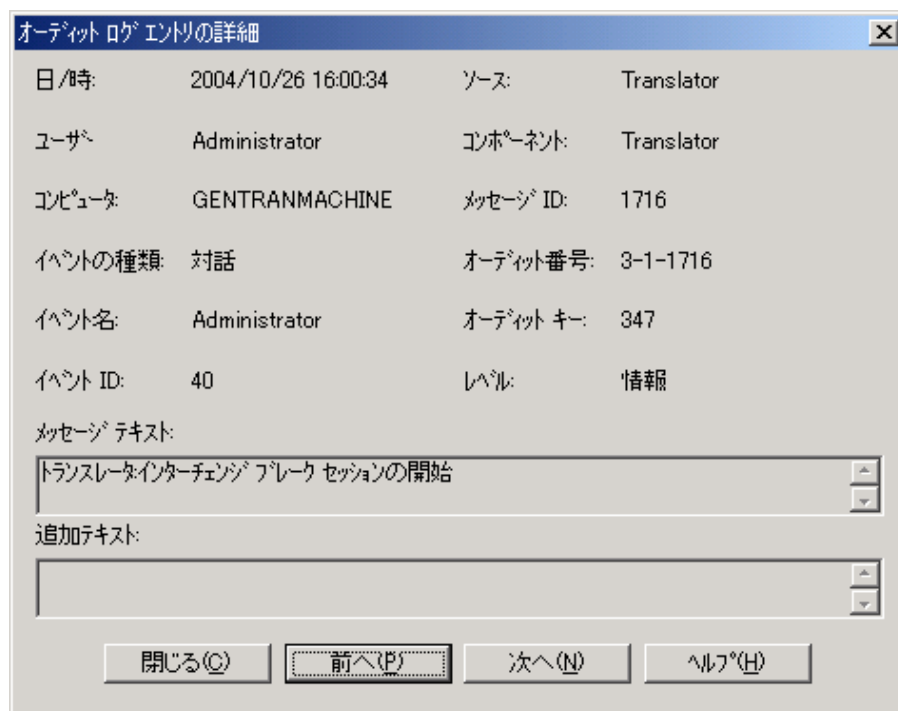
## [オーディット ログ エントリの詳細] ダイアログ ボックス

### はじめに

[オーディット ログ エントリの詳細] ダイアログ ボックスでは、選択したオーディット ログ エントリの詳細な情報を表示できます。選択したエントリの前後に続くエントリは、このダイアログ ボックスを閉じなくても、[前へ]および[次へ]を使用してスクロールできます。

### [オーディット ログ エントリの詳細] ダイアログ ボックス

次に、[オーディット ログ エントリの詳細] ダイアログ ボックスを示します。



(次のページへ続く)

## 各部と機能

次の表に、[オーディット ログ エントリの詳細]ダイアログ ボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
日 / 時	オーディット メッセージがオーディット ログに書き込まれた日付 (MM/DD/YY) と時刻 (HH:MM:SS) を示します。
ソース	オーディット メッセージを生成したシステムまたはファンクショナルシステム領域 (Gentran:Server、アーカイブ、ユーザー システムなど) を示します。
ユーザー	プロセスを開始したユーザーの Windows ユーザー ID (またはプロセス管理イベントとしてプロセスを実行しているサービスの Windows ユーザー ID) を示します。
コンポーネント	オーディット メッセージを生成したソースの構成要素 (Gentran:Server 自動処理プログラムなど) を示します。
コンピュータ	プロセスを実行しているコンピュータの名前を示します。
メッセージ ID	指定されたソースおよびコンポーネント内におけるオーディット メッセージの番号を示します。
イベントの種類	システム コンポーネントがオーディット メッセージを生成したときのイベント タイプを示します。 <b>タイプ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [すべて]</li> <li>▶ [システム](処理イベント)</li> <li>▶ [自動化](プロセス管理イベント)</li> <li>▶ [対話](ユーザー セッション)</li> <li>▶ [メールボックス /InforHub]</li> </ul>
オーディット番号	オーディット メッセージのソース ID、コンポーネント ID、およびメッセージ ID を示す識別番号。
イベント名	イベント ID とイベントの種類に対応する、テキストによる分かりやすい説明。 <b>例</b> たとえば、Process Invoices という名前のプロセス管理が実行されると、システムはそのイベントの種類 (自動化) とイベント名 (Process Invoices) に関連する一意のイベント ID を割り当てます。  (次のページへ続く)

( 続き ) 各部	機能
オーデジット キー	オーデジット ログ テーブルでオーデジット ログ エントリを一意に識別するシステム生成の順序番号。
イベント ID	オーデジット通知システムによってすべてのシステム イベントに割り当てられる一意の番号 ( およびオーデジット ログ エントリ )。同じプロセス管理 イベント、ユーザー セッション、またはシステム イベントで生成されたオーデジット ログ エントリには、同じ イベント ID 番号が割り当てられます。既定では、同じ イベント ID のエントリは、オーデジット ログ 表示で同じグループに分類されます。
レベル	<p>イベントのエラーの重要度と状態を示します。</p> <p>レベルのタイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 情報 ]</li> <li>▶ [ 警告 ]</li> <li>▶ [ エラー ]</li> <li>▶ [ オーデジット 正常終了 ]</li> <li>▶ [ オーデジット エラー ]</li> </ul>
メッセージ テキスト	オーデジット メッセージの説明テキストを表示します。
追加テキスト	オーデジット メッセージの追加の説明テキストを表示します。
閉じる	ダイアログ ボックスを閉じます。
前へ	リストで1つ前にあるオーデジット ログ エントリの詳細情報を表示します。
次へ	リストで次にあるオーデジット ログ エントリの詳細情報を表示します。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。

## [オーディット ログ フィルタ] ダイアログ ボックス

### はじめに

[オーディット ログ フィルタ] ダイアログ ボックスでは、オーディット メッセージの条件を指定することでオーディット ログ表示をカスタマイズし、条件を満たすエントリだけをオーディット ログに表示することができます。

### 例

たとえば、オーディット ログをフィルタして、アウトバウンド コミュニケーションズという名前を持つ通知タイプのプロセス管理イベント エントリだけが表示されるようにするには、[ イベント名 ] ボックスに「アウトバウンド コミュニケーションズ」と入力し、[OK] をクリックします。オーディット ログ表示に、指定した通知タイプのプロセス管理イベントで生成されたメッセージだけが表示されます。

### [オーディット ログ フィルタ] ダイアログ ボックス

次に、[オーディット ログ フィルタ] ダイアログ ボックスを示します。

(次のページへ続く)

**[オーディット ログ  
フィルタ] ダイアロ  
グ ボックスの  
各部と機能**

次の表に、[オーディット ログ フィルタ] ダイアログ ボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
最初のオーディット	オーディット ログ データベース テーブルで格納されている最初のオーディット ログ エントリからフィルタを行うよう指定します。
オーディット 指定	ここで入力した日時以降に処理された最初のオーディット ログ エントリからフィルタを行うよう指定します。
最後のオーディット	オーディット ログ データベース テーブルで格納されている最後のオーディット ログ エントリまでフィルタを行うよう指定します。
オーディット 指定	ここで入力した日付 / 時刻に処理された最後のオーディット ログ エントリまでフィルタを行うよう指定します。
<b>OK</b>	[オーディット ログ フィルタ] ダイアログ ボックスで入力した条件に基づいて、オーディット ログ 表示をフィルタし、このダイアログ ボックスを閉じます。
<b>キャンセル</b>	オーディット ログ 表示をフィルタせずに、このダイアログ ボックスを閉じます。
<b>クリア</b>	ダイアログ ボックスのフィールドをクリアします。
<b>ヘルプ</b>	状況依存ヘルプが表示されます。
<b>レベル</b>	<p>オーディット ログ に表示されるイベントのエラーの重要度またはイベントの状態を示します。</p> <p>レベルのタイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 情報 ]</li> <li>▶ [ 警告 ]</li> <li>▶ [ エラー ]</li> <li>▶ [ オーディット 正常終了 ]</li> <li>▶ [ オーディット エラー ]</li> </ul>
<b>ソース</b>	<p>表示させるオーディット ログ エントリのオーディット メッセージを生成したシステムまたはファンクショナル システム領域 (Gentran:Server、アーカイブ、ユーザー システムなど) を示します。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) 各部	機能
コンポーネント	オーディット メッセージを生成したソースの構成要素 (Gentran:Server 自動処理プログラムなど) を示します。
メッセージ ID	特定のソースおよびコンポーネント内におけるオーディット メッセージの番号を示します。
イベントの種類	<p>システム コンポーネントがオーディット メッセージを生成したときのイベント タイプを示します。</p> <p><b>タイプ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [すべて]</li> <li>▶ [システム]</li> <li>▶ [自動化](プロセス管理イベント)</li> <li>▶ [対話](ユーザー セッション)</li> <li>▶ [メールボックス /InforHub]</li> </ul>
イベント名	<p>オーディット メッセージの生成を開始したイベントの名前を示します。</p> <p><b>例</b></p> <p>[Gentran: アーカイブ マネージャが起動しました。] というメッセージでは、イベント名は [アーカイブ] です。</p>
イベント ID	オーディット通知システムによってすべてのシステム イベントに割り当てられる一意の番号 ( およびオーディット ログ エントリ)。同じプロセス管理イベント、ユーザー セッション、またはシステム イベントで生成されたオーディット ログ エントリには、同じイベント ID 番号が割り当てられます。既定では、同じイベント ID のエントリは、オーディット ログ表示で同じグループに分類されます。
ユーザー	表示するオーディット ログ エントリのオーディット メッセージで記述されているプロセスを開始したユーザーの Windows ユーザー ID ( またはプロセス管理イベントとしてプロセスを実行しているサービスの Windows ユーザー ID) を示します。
コンピュータ	表示するオーディット ログ エントリのオーディット メッセージを開始したプロセスが実行されているコンピュータ名を示します。

## [オーディット ログ検索]ダイアログ ボックス

### はじめに

[オーディット ログ検索]ダイアログ ボックスでは、特定のプロパティを入力して検索範囲を絞り込むことで、特定のオーディット ログ エントリを探することができます。

### [オーディット ログ検索]ダイアログ ボックス

次に、[オーディット ログ検索]ダイアログ ボックスを示します。



(次のページへ続く)

## 各部と機能

次の表に、[オーディット ログ検索]ダイアログ ボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
ソース	検索対象のオーディット ログ エントリに対応するオーディット メッセージを生成したシステムまたはファンクショナルシステム領域 (Gentran:Server、アーカイブ、ユーザー システムなど) を指定します。
コンポーネント	検索対象のオーディット ログ エントリを生成したオーディット メッセージの生成元ソース構成要素 (Gentran:Server 自動処理プログラムなど) を指定します。
メッセージ ID	検索対象のオーディット ログ エントリに対応するコンポーネントのエラーを 1 ~ 65535 の番号で指定します。
イベント名	検索対象のオーディット ログ エントリに対応するオーディット メッセージを開始したイベント名を指定します。
イベント ID	検索対象のオーディット ログ エントリ (および関連するオーディット ログ エントリすべて) に対して Gentran:Server によって割り当てられた一意の数字の識別子を指定します。
オーディット キー	オーディット ログ テーブルでオーディット メッセージ エントリを一意に識別するシステム生成の順序番号を指定します。
ユーザー	検索対象のオーディット ログ エントリを生成したプロセスを開始したユーザーの Windows ユーザー ID (またはプロセス管理イベントとしてプロセスを実行したサービスの Windows ユーザー ID) を指定します。
コンピュータ	検索対象のオーディット ログ エントリが生成されたときに、プロセスが実行されていたコンピュータの名前を指定します。  (次のページへ続く)



( 続き ) 各部	機能
レベル	検索対象のオーディット ログ エントリに適用されるレベルの値を指定します。  レベルのタイプは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 情報 ]</li> <li>▶ [ 警告 ]</li> <li>▶ [ エラー ]</li> <li>▶ [ オーディット正常終了 ]</li> <li>▶ [ オーディット エラー ]</li> </ul>
次を検索	ダイアログ ボックスのフィールドで選択した条件に一致する次のオーディット メッセージを表示します。
キャンセル	オーディット ログ エントリを検索せずに、ダイアログ ボックスを閉じます。
クリア	[ オーディット ログ検索 ] ダイアログ ボックスの検索条件のフィールドをクリアします。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。
上へ	リストの現在のエントリより前に生成されたメッセージすべてに対して、オーディット ログの検索を行うよう指定します。
下へ	リストの現在のエントリより後に生成されたメッセージすべてに対して、オーディット ログの検索を行うよう指定します。

## オーデジット ログ エントリの詳細の表示方法

### はじめに

[オーデジット ログ エントリの詳細] ダイアログ ボックスでは、詳細なオーデジット ログ エントリ情報を表示できます。

### 手順

オーデジット ログ エントリの詳細を表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]の順に選択します。 <b>システムからの応答</b> 電子商取引 (EC) マネージャのウィンドウが表示されます。
2	[表示]メニューから [オーデジット ログ] を選択します。 <b>システムからの応答</b> [Gentran オーデジット ログ] ブラウザが表示されます。
3	詳細を表示するオーデジット ログ エントリをダブルクリックします。 <b>システムからの応答</b> [オーデジット ログ エントリの詳細] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[閉じる] をクリックしてダイアログ ボックスを閉じます。 <b>メモ</b> [前へ] をクリックして1つ前のエントリの詳細を、[次へ] をクリックして1つ後のエントリの詳細を表示することができます。

## 特定のオーディット ログ エントリの検索方法

### はじめに

特定のオーディット ログ エントリの検索は、[オーディット ログ検索] ダイアログボックスで行います。このダイアログボックスにより、膨大なデータリストから、必要なエントリを簡単に見つけることができます。

### 手順

特定のオーディット ログ エントリを検索するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran Server]の順に選択します。 <b>システムからの応答</b> 電子商取引 (EC) マネージャのウィンドウが表示されます。
2	[表示]メニューから [オーディット ログ] を選択します。 <b>システムからの応答</b> [Gentran オーディット ログ] ブラウザが表示されます。
3	[表示]メニューから [検索] を選択します。 <b>システムからの応答</b> [オーディット ログ検索] ダイアログボックスが表示されます。
4	必要に応じて、次のフィールドを完成します。 <ul style="list-style-type: none"><li>▶ [ソース]</li><li>▶ [コンポーネント]</li><li>▶ [メッセージ ID]</li><li>▶ [イベント名]</li><li>▶ [イベント ID]</li><li>▶ [オーディット キー]</li><li>▶ [ユーザー]</li><li>▶ [コンピュータ]</li><li>▶ [レベル]</li><li>▶ [上へ] または [下へ] を選択し、リストの現在の位置から上方向または下方向のどちらへ向かって検索するかを指定します。</li></ul> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) ステップ	操作
5	<p>[ 次を検索 ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> オーディット ログ リストのカーソルが、入力した検索条件に一致する次のメッセージの位置まで移動します。一致するエントリが見つからない場合は、情報ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p><b>メモ</b> データを完全に検索するには、ページ アップまたはページ ダウンを行う必要があります。たとえば、全部で 10 ページあるデータで、最初のページから検索を開始するとします。この場合、最初のページで検索が完了すると、次のページを検索するかどうかを確認するメッセージが表示されます。[ はい ] を選択すると、2 ページ目で検索が行われます。2 ページ目以降の検索については、ユーザーは、[ 次を検索 ] をクリックすることで、次のページを検索するかどうかを確認するメッセージを表示せずに、残りのページを検索できます。</p>
6	検索が完了したら、[ キャンセル ] をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。

## オーディット ログ表示のフィルタ方法

### はじめに

オーディット ログ表示のフィルタは、[オーディット ログ フィルタ] ダイアログ ボックスで表示を制限する条件を指定することで行えます。

### 手順

オーディット ログ表示をフィルタするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[スタート]メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、 [Gentran Server]の順に選択します。  <b>システムからの応答</b> 電子商取引 (EC) マネージャのウィンドウが表示されます。
2	[表示]メニューから [オーディット ログ] を選択します。  <b>システムからの応答</b> [Gentran オーディット ログ] ブラウザが表示されます。
3	[表示]メニューから [オーディットのフィルタ] を選択します。  <b>システムからの応答</b> [オーディット ログ フィルタ] ダイアログ ボックスが表示されます。  (次のページへ続く)

( 続き ) ステップ	操作
4	<p>必要に応じて、次のフィールドを完成します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ [最初のオーデジット] または [オーデジット指定] を選択します ([オーデジット指定] を選択する場合は、日付 / 時刻を指定します)。</li><li>▶ [最後のオーデジット] または [オーデジット指定] を選択します ([オーデジット指定] を選択する場合は、日付 / 時刻を指定します)。</li><li>▶ [レベル]</li><li>▶ [ソース]</li><li>▶ [コンポーネント]</li><li>▶ [イベントの種類]</li><li>▶ [イベント名]</li><li>▶ [イベント ID]</li><li>▶ [ユーザー]</li><li>▶ [コンピュータ]</li></ul>
5	<p>[OK] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> このダイアログ ボックスで入力した条件に基づいてオーデジット ログがフィルタされて、オーデジット ログが表示されます。リストには、フィルタ条件に一致するデータだけが表示されます。</p>

# 通知ログの使い方

## 概要

### はじめに

通知ログでは、生成された通知のリストが、最新のエントリを先頭に日 / 時順で並べ替えられて表示されます。通知ログでは、次の処理を行えます。

- ▶ ユーザー自身に対して生成された通知のリストを表示する
- ▶ 生成された通知すべてのリストを表示する
- ▶ 受信した通知の詳細な情報を表示する
- ▶ 通知がユーザー自身に対して生成されたときに、警告メッセージを受信する
- ▶ ユーザー自身に対して生成された通知を削除する

### メモ

システムは、ユーザーに対して実行される動作 (E メール、警告メッセージ、ページャーなど) の通知ログ エントリだけを記録します。通知タイプのプロセス管理イベント形式で行われる通知は、ログに記録されません。

通知ログの各エントリには、次の情報が含まれます。

- ▶ 通知を行うオーディット メッセージ
- ▶ 実行された通知動作のタイプ
- ▶ 通知を開始したオーディット メッセージが生成されたときに、プロセスを実行していたコンピュータ

通知を受信した後は、通知ログで、その通知を開始したオーディット メッセージ ( イベント ) に関する詳細な情報を参照することができます。

( 次のページへ続く )

### 通知ログの ダイアログボックス

次の表に、通知ログに関連するダイアログボックスを示します。

ダイアログボックス	機能
Gentran 通知ログ	オーディット通知システムによって生成された通知のリストで、エントリを表示または削除できます。
通知の詳細	選択した通知ログ エントリの詳細な情報を表示できます。

### オペレータ別の ログ表示

通知ログでは、通知を開始したオーディット メッセージに関する情報を簡単に参照できます。

[Gentran 通知ログ] ダイアログボックスを開くと、システムはオペレータの Windows ユーザー ID を使用して、関連するデータベースを検索し、その Windows ユーザー ID に対して生成された通知を探します。ダイアログボックスに表示される通知のリストはこの情報でカスタマイズされ、オペレータのユーザー ID に該当する通知だけが表示されます。

無効な Windows ユーザー ID (システムで定義されていないオペレータの ID) を入力した場合は、オペレータ別のリストは表示されません。有効な ID を使用せずに、通知のリストを表示するには、[Gentran 通知ログ] ダイアログボックスを開いて、[表示] メニューから [すべての通知] を選択します。生成された通知すべてのリストが表示されます。

ログオンした Windows ユーザー ID に対して生成された通知がない場合は、表示されるダイアログボックスのエントリは空です。

(次のページへ続く)

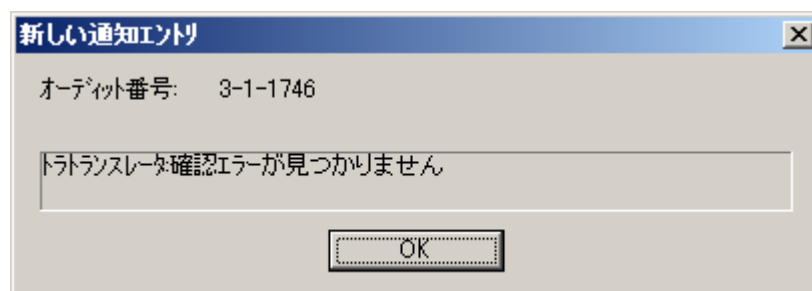


## 警告設定

有効な Windows ユーザー ID (システムで定義されているオペレータの ID) でログオンして通知ログを開始すると、既定では音響信号とともに通知ログ警告メッセージを受信するよう設定されています。この警告メッセージにより、通知がユーザーに対して生成されたこと、またログの詳細を参照できることが知らされます。

警告メッセージには、通知を生成したオーディット メッセージのオーディット番号とオーディット メッセージ テキストが表示されます。

### 例



警告メッセージは自動的に閉じられますが、[OK] をクリックしてすぐに閉じることができます。警告メッセージが閉じられると、対応するエントリが通知ログに書き込まれます。

警告メッセージと音響信号は、[Gentran 通知ログ] ダイアログ ボックスにある [選択] メニューの [メッセージボックス] および [音響信号] オプションが選択されている (チェックマークがオンになっている) 場合に有効になります。メニューでこれらのオプションを選択解除することにより、音響信号または通知ログ警告メッセージを無効にできます。

### メモ

ユーザー自身に対して生成された通知だけでなく、すべての通知を表示している場合は、すべてのユーザーに対して構成された警告メッセージが生成されます。

## すべての通知の表示

オペレータ別のリストではなく、通知ログ エントリをすべて表示する場合は、[表示] メニューから [すべての通知] を選択します。このオプションは、入力した Windows ユーザー ID が無効なために、リストが表示されない場合にも使用できます。

[すべての通知] を選択すると、ダイアログ ボックスに [オペレータ] 列が追加されます。この列には、通知の送信先のオペレータが表示されます。

### メモ

すべての通知を表示している場合は、すべてのユーザーに対して構成されている警告メッセージが生成されます。

(次のページへ続く)

---

### 個々またはすべての通知の削除

[Gentran 通知ログ] ダイアログ ボックスから通知ログ エントリを削除するには、削除する通知を選択して [削除] を押します。

[Gentran 通知ログ] ダイアログ ボックスの [表示] メニューから、[すべての通知を削除] オプションを選択し、ログからユーザーの通知をすべて削除できます。

#### メモ

すべての通知を表示して作業している場合、[すべての通知を削除] オプションを選択すると、現在のユーザーへの通知だけではなく、すべての通知が削除されることを示すメッセージ ボックスが表示されます。削除を続行またはキャンセルできます。

---

### 通知ログの表示

通知ログ コンポーネントを表示するには、[スタート] メニューから、[プログラム]、[Gentran Server]、[Gentran 通知ログ] の順に選択します。

---

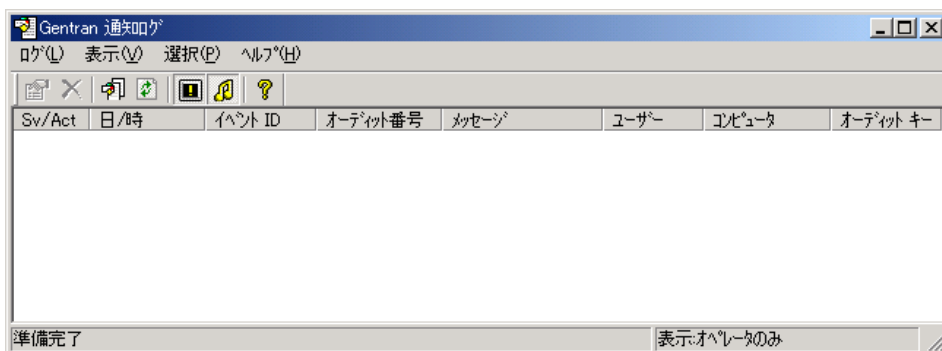
## [Gentran 通知ログ] ダイアログ ボックス

### はじめに

[Gentran 通知ログ] ダイアログ ボックスでは、オーディット通知システムによって生成された通知のリストを表示したり、そのエントリを削除したりできます。

### [Gentran 通知ログ] ダイアログ ボックス

次に、[Gentran 通知ログ] ダイアログ ボックスを示します。



### 各部と機能

次の表に、[Gentran 通知ログ] ダイアログ ボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
オペレータ	通知の送信されたオペレータの Windows ユーザー ID を示します。  <b>メモ</b> このフィールドは、通知をすべて表示している場合に 表示されます。
SV/Act	オーディット メッセージ関連付けられているレベル と、実行された通知動作 ( ページャー、Eメールなど ) を示します。
日 / 時	通知を開始したオーディット メッセージが生成され た日付 (MM/DD/YY) と時刻 (HH:MM:SS) を示します。
イベント ID	通知を開始したオーディット ログ エントリ ( および 関連する他のオーディット ログ エントリ ) に対して Gentran:Server によって割り当てられた一意の番号。  ( 次のページへ続く )

各部	機能
オーディット番号	通知を開始したオーディット メッセージのソース ID、コンポーネント ID、およびメッセージ ID を示す識別番号。
メッセージ	通知を開始したオーディット メッセージの説明テキストを表示します。
ユーザー	オーディット メッセージと通知を開始したプロセスの開始元ユーザーの Windows ユーザー ID (またはプロセス管理イベントとしてプロセスを実行しているサービスの Windows ユーザー ID) を示します。
コンピュータ	通知を開始したオーディット メッセージが生成されたときに、プロセスを実行していたコンピュータの名前を示します。
オーディット キー	オーディット ログ テーブルで、通知を開始したオーディット メッセージ エントリを一意に識別するシステム生成の順序番号を指定します。



【通信の詳細】  
ダイアログボックス

次の表に、【通信の詳細】ダイアログボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
日 / 時	通知を開始したオーディットメッセージが生成された日付 (MM/DD/YY) と時刻 (HH:MM:SS) を示します。
ソース	通知を開始したオーディットメッセージの生成元システムまたはファンクショナルシステム領域 (Gentran:Server、アーカイブ、ユーザーシステムなど) を示します。
ユーザー	オーディットメッセージと通知を開始したプロセスの開始元ユーザーの Windows ユーザー ID (またはプロセス管理イベントとしてプロセスを実行しているサービスの Windows ユーザー ID) を示します。
コンポーネント	通知を開始したオーディットメッセージの生成元ソースの構成要素 (Gentran:Server 自動処理プログラムなど) を示します。
コンピュータ	オーディットメッセージと通知を開始したコンピュータ (すなわち、プロセスが実行されていたコンピュータ) の名前を示します。
メッセージ ID	通知を開始した特定のソースおよびコンポーネント内におけるオーディットメッセージの番号を示します。
イベントの種類	システムコンポーネントが、通知を開始するオーディットメッセージを生成したときのイベントの種類を示します。  【種類】 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [すべて]</li> <li>▶ [システム](処理イベント)</li> <li>▶ [自動化](プロセス管理イベント)</li> <li>▶ [対話](ユーザーセッション)</li> <li>▶ [メールボックス /InforHub]</li> </ul>
オーディット番号	通知を開始したオーディットメッセージのソース ID、コンポーネント ID、およびメッセージ ID を示す識別番号。  (次のページへ続く)

( 続き ) 各部	機能
イベント名	<p>オーディット メッセージと通知の生成を開始したイベントの名前を示します。</p> <p><b>例</b> [Gentran: アーカイブ マネージャが起動しました] というメッセージでは、イベント名は[アーカイブ]です。</p>
オーディット キー	<p>オーディット ログ データベース テーブルで、関連するオーディット メッセージ エントリを一意に識別するシステム生成の順序番号。</p> <p><b>メモ</b> オーディット メッセージが生成された順番を示す番号により、ユーザーはオーディット キー値を使用して、通知を開始したメッセージのオーディット ログを検索することができます。このように、参照しているオーディット メッセージの前後に生成された関連オーディット ログを参照することで、イベントに関する詳細な情報を入手できます。</p>
イベント ID	<p>通知に対応するオーディット ログ エントリ ( および関連する他のオーディット ログ エントリ ) に対して、オーディット通知システムによって割り当てられた一意の数字の識別子を示します。</p>
レベル	<p>オーディット メッセージと通知を開始したイベントのエラーの重要度と状態を示します。</p> <p>レベルのタイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ 情報 ]</li> <li>▶ [ 警告 ]</li> <li>▶ [ エラー ]</li> <li>▶ [ オーディット 正常終了 ]</li> <li>▶ [ オーディット エラー ]</li> </ul>
オーディットの種類	<p>オーディット メッセージが、データ オーディット メッセージまたは処理オーディット メッセージのどちらであるかを示します。</p>
通知	<p>通知の名前を示します。</p>
動作	<p>通知動作のタイプ ( ページャー、E メールなど ) を示します。</p>
オペレータ	<p>通知を受信するよう設定されているオペレータの名前を示します。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) 各部	機能
テキスト	<p>通知のテキストを示します。</p> <p><b>メモ</b> 電話番号表示型ページャーの場合、オーディット番号は、コンポーネント ID とメッセージ ID の頭にゼロが付いた書式で表示されます。ページャーではダッシュ記号を表示できないため、受信者はこれらのゼロを手掛かりにして番号を判読します。各 ID の先頭に挿入されるゼロによって、常にコンポーネント ID は 3 桁、メッセージ ID は 5 桁の数字になります。</p> <p><b>例</b> メッセージ番号 1-1-1200 は、ページャーで 100101200 と表示されます。</p>
メッセージ テキスト	通知を開始したオーディット メッセージの説明テキストを表示します。
追加 ( ユーザー ) メッセージ テキスト	通知を開始したオーディット メッセージの追加の説明テキストを表示します。
閉じる	ダイアログ ボックスを閉じます。
前へ	リストで 1 つ前にある通知ログ エントリの詳細情報を表示します。
次へ	リストで次にある通知ログ エントリの詳細情報を表示します。
ヘルプ	状況依存ヘルプが表示されます。



## 詳細な通知ログ エントリの表示方法

### はじめに

[ 通知の詳細 ] ダイアログ ボックスでは、詳細な通知ログ エントリ情報を表示できます。

### 手順

通知ログ エントリの詳細を表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ スタート ] メニューから、[ プログラム ]、[ Gentrans Server ]、[ Gentrans 通知ログ ] の順に選択します。 <b>システムからの応答</b> [ Gentrans 通知ログ ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	詳細を表示する通知ログ エントリをダブルクリックします。 <b>システムからの応答</b> 選択したエントリの詳細を示す [ 通知の詳細 ] ダイアログ ボックスが表示されます。 <b>メモ</b> [ 前へ ] をクリックして1つ前のエントリの詳細を、[ 次へ ] をクリックして1つ後のエントリの詳細を表示することができます。
3	[ 閉じる ] をクリックしてダイアログ ボックスを閉じます。



---

# インストール後のセットアップ オプション

目次

---

▶ 概要 .....	2
▶ 既存の Gentran:Server システムを使用できないようにする (アンインストール)方法 .....	4
▶ Gentran:Server インストールのアップグレード方法 .....	9
▶ インストールによるコンポーネントの追加方法と削除方法 .....	23

---

## 概要

### はじめに

この章では、インストール後のセットアップ プログラム オプションを使用して、Gentran:Server インストールの管理を行う方法について説明します。

### 操作方法

次の表に、セットアッププログラムの操作に関する全般的な情報を示します。

実行する操作	クリックするボタン
次のダイアログ ボックスへ進む	次へ
前のダイアログ ボックスへ戻る	戻る
セットアップの終了	<b>キャンセル</b> <b>画面に表示されるメッセージ</b> セットアップを中止するかどうかたずねる画面が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>中止する場合は、[中止]をクリックします。</li></ul> <b>注意</b> セットアップを中止すると、インストールは完了しません。 <ul style="list-style-type: none"><li>中止しない場合は、[継続]をクリックします。</li></ul>

(次のページへ続く)

### インストール後の セットアップ オプション

次の表に、使用可能なオプションとそれを使用する場合を示します。

セットアッププログラム オプション	使用する場合
既存の Gentran:Server システムを使用できない ようにする	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 今後、コンピュータをシステムの一部にしない場合 (テスト システムをコンピュータで使用できないようにする場合など)</li> <li>▶ コンピュータが属している最後のシステムをコンピュータで使用できないようにする場合 (Gentran:Server のアンインストール)</li> </ul>
既存のシステムを 更新する	Gentran:Server ソフトウェアがアップグレードされた場合に、Gentran:Server システム内のすべてのコンピュータでこのオプションを使用します。
既存の構成に追加または 構成を削除する	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Gentran:Server コンポーネントをコンピュータにインストール、またはインストール済みの Gentran:Server コンポーネントをコンピュータから削除する場合</li> </ul> <p><b>例</b> クライアント コンポーネントを削除して、コントローラ コンポーネントをコンピュータに追加する場合など。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ コンピュータにある最後のコンポーネントを削除すると、Gentran:Server をアンインストールできます。</li> </ul>

## 既存の Gentran:Server システムを使用できないようにする (アンインストール) 方法

### はじめに

今後、コンピュータをシステムの一部にしない場合 (テスト システムをアンインストールする場合など) に、[ 既存の Gentran:Server システムを使用できないようにする ] オプションを使用します。

#### メモ

Gentran:Server システムのいずれかのコンピュータの名前を変更する必要がある場合、コンピュータの名前を変更する前に、Gentran:Server を完全にアンインストールする必要があります。その後、もう一度 Gentran:Server システムをインストールします。

コンピュータが複数のシステムのメンバーである場合、そのうちの 1 つのシステムを使用できないようにしても、コンピュータは他のシステムのメンバーのままです。ただし、コンピュータがただ 1 つのシステムのメンバーで、そのシステムを使用できないようにする場合は、Gentran:Server を完全にアンインストールすることができます。

#### 推奨事項

Gentran:Server システム内のすべてのコンピュータから Gentran:Server コンポーネントを削除するまでは、プライマリ Gentran システム コントローラの Gentran:Server システムはコンピュータで使用できるようにしておいてください。

### アンインストール処理

アンインストール処理では、プログラム ファイル、サービス、レジストリ エントリ、プログラム グループが削除されます。必要なデータが保存されている場合があるため、いくつかのサブフォルダ (Maps、Forms、および TransObj フォルダなど) およびシステム データ ストアは削除されません。

#### メモ

コンピュータからシステム コンポーネントを削除するだけの場合は、[ 既存の構成に追加または構成を削除する ] オプションを使用します。すべてのシステム コンポーネントをコンピュータから削除すると、Gentran:Server を完全にアンインストールできます。

#### 参照

このオプションの詳細については、「[インストールによるコンポーネントの追加方法と削除方法](#)」を参照してください。


(次のページへ続く)

手順

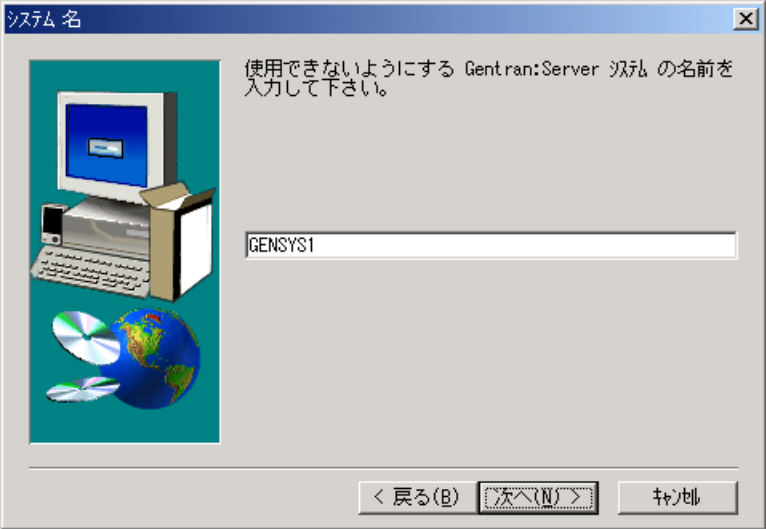
Gentran:Server システムをコンピュータで使用できないようにするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>セットアッププログラムを実行するドライブに Gentran:Server CD を挿入します。</p> <p><b>注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ セットアッププログラムは、Gentran:Server システムを使用できないようにするコンピュータで実行する必要があります。</li> <li>▶ Gentran:Server システム内のすべてのコンピュータから Gentran:Server コンポーネントを削除するまでは、プライマリ Gentran システム コントローラの Gentran:Server システムはコンピュータで使用できるようにしておいてください。</li> </ul> <p><b>推奨事項</b></p> <p>セットアッププログラムを実行する前に、他の Windows プログラムをすべて終了してください。</p>
2	<p>自動実行が無効な場合は、[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択して、次のステップに進みます。自動実行が有効な場合は、ステップ 4 に進みます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「drive:¥」(drive は CD-ROM ドライブに割り当てられている文字)に続けて「setup.exe」を入力します。</li> <li>▶ [OK] をクリックします。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b></p> <p>インストールプログラムを進行するセットアップ ウィザードが起動し (数秒かかる場合があります)、[よろこ]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[次へ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b></p> <p>README.HTM ファイルを表示するかどうかを確認するメッセージが表示されます。</p>
5	<p>ファイルを表示するには [はい] をクリックします。読み終わったらドキュメントを閉じます。</p> <p><b>システムからの応答</b></p> <p>セットアッププログラムがインストール処理を続行します。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>



( 続き ) ステップ	操作
6	<p>現在 Gentran:Server エグゼクティブ、Gentran:Server メールボックス、Gentran:Server コミュニケーションズ サービス、または Gentran オーディット通知サービスを実行しているかどうかによって、次を実行します。</p> <p><b>メモ</b> Gentran:Server for RosettaNet をインストールしている場合は、World Wide Web Publishing Service、SMTP (Simple Mail Transport Protocol) Service、FTP Publishing Service、および IIS Admin Service を停止するよう求めるメッセージが表示されることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 実行している場合は、インストールを続行するためにサービスを停止するよう求めるメッセージが表示されます。[はい] をクリックして各サービスを停止し、ステップ 7 に進みます。</li> <li>▶ 実行していない場合は、ステップ 7 に進みます。</li> </ul>
7	<p>[次へ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> セットアッププログラムによって、インストール済みのコンポーネントが検索されます。現在、このコンピュータに Gentran:Server コンポーネントがインストールされている場合は、次のダイアログボックスが表示されます。</p> <div data-bbox="619 1137 1396 1668" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>インストールの選択</b></p> <p style="text-align: center;">Gentran:Server の インストール 方法を選択して下さい ...</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p><input checked="" type="radio"/> 既存のGentran:Serverが使用できないようにする</p> <p><input type="radio"/> 既存のインストールを更新する</p> <p><input type="radio"/> 既存の構成に追加または構成を削除する</p> </div> </div> <p style="text-align: right;"> <input type="button" value="戻る(B)"/> <input type="button" value="次へ(N) &gt;"/> <input type="button" value="キャンセル"/> </p> </div> <p style="text-align: right; color: green;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) ステップ	操作
8	<p>既定で [ 既存の Gentran:server システムを使用できないようにする ] が選択されています。[ 次へ ] をクリックして、セットアップを続行します。</p> <p><b>システムからの応答</b> [ システム名 ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> 
9	<p>コンピュータで使用できないようにするシステム名を確認し、[ 次へ ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> このコンピュータが、指定されたシステム内に本当に存在するかどうかを確認されます。存在する場合は、ステップ 10 に進みます。</p> <p>このコンピュータが選択されたシステム内に存在しない場合は、そのことを知らせるメッセージが表示され、別のシステムを選択できるように [ システム名 ] ダイアログ ボックスに戻ります ( ステップ 8 )。</p> <p>選択したシステムのレジストリ エントリが削除されます。</p>
10	<p>このコンピュータが、選択したシステムのコントローラであるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ コントローラである場合は、プロセス コントローラがアンインストールされます ( 関連するファイル、レジストリ エントリ、およびサービスが削除されます )。ステップ 11 に進みます。</li> <li>▶ コントローラでない場合は、ステップ 11 に進みます。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) ステップ	操作
11	<p>このコンピュータが他の Gentran:Server システムに属しているかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 1 つまたは複数の他のシステムに属している場合は、ステップ 13 に進みます。</li> <li>▶ 他のシステムに属していない場合は、すべてのコンポーネントを削除するかどうか尋ねられます。ステップ 12 に進みます。</li> </ul>
12	<p>Gentran:Server のアンインストールを完了するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アンインストールする場合は、[ はい ] をクリックします。Gentran:Server が完全にアンインストールされます。アンインストール処理では、プログラム ファイル、Gentran サービス、Gentran レジストリ エントリ、プログラム グループが削除されます。必要なデータが保存されている場合があるため、いくつかのサブフォルダ (Maps、Forms、および TransObj フォルダなど) およびシステム データ ストアは削除されません。ステップ 13 に進みます。</li> <li>▶ アンインストールしない場合は、[ いいえ ] をクリックして、ステップ 13 に進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b> プライマリ Gentran システム コントローラで [既存の Gentran:Server システムを使用できないようにする] オプションを使用する場合、システム データ ストア フォルダは削除されません。</p>
13	<p>エラーが発生したかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エラーが発生した場合は、エラー レポートが生成されます。Install Shield のエラー メッセージの表示については、『インストールガイド』の「<a href="#">インストールのトラブルシューティング</a>」を参照してください。</li> <li>▶ エラーが発生しなかった場合、処理の完了を知らせるメッセージが表示されます。</li> </ul>
14	<p>[OK] をクリックして、セットアップを終了します。これでセットアッププログラムは完了し、既存のシステムはコンピュータで使用できないようになりました。</p>
15	<p>Windows コンピュータの Gentran:Server をアンインストールするかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アンインストールする場合は、コンピュータからファイルを手動で削除する必要があります (c:\¥WINNT¥system32¥mercui30.dll)。</li> <li>▶ アンインストールしない場合は、これで既存のシステムをコンピュータで使用できないようにする手順は終了です。</li> </ul>

## Gentran:Server インストールのアップグレード方法

### はじめに

Gentran:Server ソフトウェアがアップグレードされた場合に、Gentran:Server システムのすべてのコンピュータで、[既存のシステムを更新する]オプションを使用します。分散環境では、最初にプライマリ Gentran システム コントローラからアップグレードする必要があります。

#### メモ

- ▶ シングルワークステーションシステムのインストールを完了するには、ローカルの管理者として Windows にログオンしている必要があります。
- ▶ 分散システムのインストールを完了するには、ドメイン管理者として Windows にログオンしている必要があります。
- ▶ Gentran:Server をアンインストールする必要がある場合は、『管理ガイド』で Gentran:Server セットアッププログラムの [既存の Gentran:Server システムを使用できないようにする]オプションの使用方法を参照してください。

### Gentran:Server for RosettaNet インストール条件

#### 注意

Gentran:Server for RosettaNet は、HTTP 関連のコミュニケーションについて Microsoft インターネット インフォメーション サービス (IIS) に依存しています。IIS を利用するには、Gentran:Server for Windows ダイナミック ライブラリが必要なため、インストール時に IIS が実行されていると Gentran:Server 5.0 リリースのインストールに失敗します。そのため、Gentran:Server をインストールする前に必ず、IIS サービスを停止してください。IIS サービスを停止するには、[サービス]ダイアログ ボックスから World Wide Web Publishing Service と IIS Admin Service を停止します (各サービスをリストから選択し、[停止]ボタンをクリックします)。オペレーティング システムによって、サービスの停止方法は異なります。

- ▶ Windows オペレーティング システム利用の場合、[スタート]>[設定]>[コントロール パネル]から、[サービス]アイコンをダブルクリックして [サービス]ダイアログ ボックスにアクセスしてください。
- ▶ Windows 2000 オペレーティング システム利用の場合、[スタート]>[プログラム]>[管理ツール]から、インターネット サービス マネージャを起動してください。

#### メモ

Gentran:Server for RosettaNet を使用して、Gentran:Server for Windows 5.0 にアップグレードする場合、Gentran:Server for Windows 5.0 および Gentran:Server for RosettaNet 5.0 をインストールした後に実行しなければならない作業があります。これらインストール後の作業を完了するための時間を確保しておいてください。

#### 参照

これらインストール後の作業の詳細については、『Gentran:Server for RosettaNet Installation Card』の「Gentran:Server for RosettaNet のアップグレード方法」を参照してください。

(次のページへ続く)

### 失敗したインストールのトラブルシューティング

セットアップで実行されたスクリプト コマンドのログはすべて保持されています。自動回復によって、インストールプロセスのどの時点でエラーが発生したかが判断され、それ以降のインストールが再実行されます。これによって、前に実行されたコマンドが取り消されることはありません。自動回復によって元に戻ることができるエラーには、次のようなものがあります。

- ▶ クラッシュしたか、誤って電源から抜かれたデータベース サーバー
- ▶ ネットワーク エラー
- ▶ 停電

### アップグレード前に実行するデータベースのバックアップ

Gentran:Server をアップグレードする前に、データベース、データ ストア、および Windows レジストリなど、Gentran:Server システム全体の同期バックアップを実行することを推奨します。バックアップ終了後は、正常にバックアップが実行されたか確認してください。

### テスト コンピュータのアップグレード

本番環境で Gentran:Server システムをアップグレードする前に、まずテスト コンピュータでシステムのアップグレードを実行し、本番システムをアップグレードすることを推奨します。


### 手順

Gentran:Server をアップグレードするには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>アップグレード ファイルの日付が既存ファイルの日付以前の場合、ファイルはコピーされません。アップグレード ファイルの日付が既存ファイルの日付よりも後の場合は、新しいファイルで上書きされます。</p> <p>このため、カスタマ サポートより提供されたホットフィックスを Gentran:Server システムに適用している場合は、ホットフィックスの更新日とアップグレードするバージョンのリリース日を確認してください。ホットフィックスの更新日がリリース日より新しい場合は、ホットフィックスを手動で削除する必要があります。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

<b>( 続き ) ステップ</b>	<b>操作</b>
2	セットアッププログラムを実行するドライブに Gentran:Server CD を挿入します。  <b>注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ セットアッププログラムは、Gentran:Server をアップグレードするコンピュータで実行してください。</li> <li>▶ 分散環境では、プライマリ Gentran システム コントローラをアップグレードしてからその他の各コンピュータをアップグレードします。</li> <li>▶ Gentran:Server for RosettaNet がインストールされている場合、「<a href="#">Gentran:Server for RosettaNet インストール条件</a>」のインストール条件を参照してください。</li> </ul> <b>推奨事項</b> セットアッププログラムを実行する前に、他の Windows プログラムをすべて終了してください。
3	自動実行が無効な場合は、[ スタート ] メニューから [ <b>ファイル名を指定して実行</b> ] を選択して、次のステップに進みます。自動実行が有効な場合は、ステップ 5 に進みます。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「drive:¥」(drive は CD-ROM ドライブに割り当てられている文字) に続けて「<i>setup.exe</i>」を入力します。</li> <li>▶ [OK] をクリックします。</li> </ul> <b>システムからの応答</b> インストールプログラムを進行するセットアップ ウィザードが起動し (数秒かかる場合があります)、[ ようこそ ] ダイアログ ボックスが表示されます。
5	[ 次へ ] をクリックします。  <b>システムからの応答</b> README.HTM ファイルを表示するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
6	ファイルを表示するには [ はい ] をクリックします。読み終わったらドキュメントを閉じます。  <b>システムからの応答</b> セットアッププログラムがインストール処理を続行します。  <div style="text-align: right; color: green;">( 次のページへ続く )</div>


( 続き ) ステップ	操作
7	<p>現在 Gentran:Server エグゼクティブ、Gentran:Server メールボックス、Gentran:Server コミュニケーションズ サービス、または Gentran オーディット通知サービスを実行しているかどうかによって、次を実行します。</p> <p><b>メモ</b> Gentran:Server for RosettaNet をインストールしている場合は、World Wide Web Publishing Service、SMTP (Simple Mail Transport Protocol) Service、FTP Publishing Service、および IIS Admin Service を停止するよう求めるメッセージが表示されることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 実行している場合は、インストールを続行するためにサービスを停止するよう求めるメッセージが表示されます。[はい] をクリックして各サービスを停止し、ステップ 8 に進みます。</li><li>▶ 実行していない場合は、ステップ 8 に進みます。</li></ul> <p><b>メモ</b> 必要なサービスを停止しないと判断した場合、セットアッププログラムはインストール処理を終了するようにメッセージを表示します。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
8	<p>[ 次へ ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b>                      セットアッププログラムによって、インストール済みのコンポーネントが検索されます。現在、このコンピュータに Gentran:Server コンポーネントがインストールされている場合は、既にインストールされている古いバージョンの Gentran:Server が検出されたことを示すメッセージが表示され、新しいバージョンにアップグレードするかどうかを確認するメッセージが表示されるか、次のダイアログボックスが表示されます (このダイアログボックスが表示された場合は、[ 既存のシステムを更新する ] オプションを選択します)。</p> <div data-bbox="624 790 1394 1317" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>インストールの選択</b> <span style="float: right;">✕</span></p> <p style="text-align: center;">Gentran:Server の インストール 方法を選択して下さい ...</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="flex-grow: 1;"> <p><input checked="" type="radio"/> 既存のGentran:Serverシステムを使用できないようにする</p> <p><input type="radio"/> 既存のシステムを更新する</p> <p><input type="radio"/> 既存の構成に追加または構成を削除する</p> </div> </div> <p style="text-align: right;"> <input style="margin-right: 5px;" type="button" value=" &lt; 戻る(B) "/> <input style="margin-right: 5px;" type="button" value=" 次へ(N) &gt; "/> <input style="margin-right: 5px;" type="button" value=" キャンセル "/> </p> </div> <p>次のステップに進みます。</p> <p style="text-align: right; color: green;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
9	<p>古いバージョンの Gentran:Server がコンピュータに見つかったことを示すメッセージが表示されるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ メッセージが表示された場合は、[ はい ] をクリックします。</li> <li>▶ メッセージが表示されなかった ([ インストールの選択 ] ダイアログ ボックスが表示された) 場合は、[ 既存のシステムを更新する ] を選択して [ 次へ ] をクリックし、セットアップを続行します。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> 現在のインストールをアップグレードする準備ができたことを知らせるメッセージダイアログ ボックスが表示され、次の実行を確認するメッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ インストール手順の確認</li> <li>▶ Gentran:Server ファイルのバックアップの正常終了</li> <li>▶ Gentran:Server データベースのバックアップの正常終了</li> </ul> <p><b>推奨事項</b> Windows レジストリを含むフルシステム バックアップを実行し、バックアップが正常に実行されたことを確認することを推奨します。</p>
10	<p>続行するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 続行する場合は、[ はい ] をクリックして、インストールを続行します ( ステップ 18 に進みます )。</li> <li>▶ 続行しない場合は、[ いいえ ] をクリックして、[ インストールの選択 ] ダイアログ ボックスに戻り、別のインストール オプションを選択します ( ステップ 8 )。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) ステップ	操作
11	<p>アップグレードしているコンピュータが、プライマリ Gentran システム コントローラであるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ プライマリ Gentran システム コントローラである場合は、指定したシステムが検索され、[Windows ログオン] ダイアログボックスが表示されます。Gentran:Server エグゼクティブ サービスでネットワーク リソースへのアクセスに使用される有効な Windows 管理者ユーザー ID およびパスワードを入力します。これは、Gentran:Server エグゼクティブ サービスを起動し、自動処理にも使用される Windows ユーザー アカウントです。</li></ul> <div data-bbox="667 757 1396 1211"></div> <ul style="list-style-type: none"><li>— [ユーザー ID] ボックスに、ネットワークへの必要なアクセス権が設定されている Windows ユーザー ID を入力します。ドメイン アカウントについては DOMAIN#User、非ドメイン アカウントは #User の書式です。</li><li>— ユーザー ID の Windows パスワードを [パスワード] ボックスに入力して、[確認] ボックスに再度入力します。</li><li>— [次へ] をクリックし、次のステップに進みます。</li><li>▶ プライマリ Gentran システム コントローラでない場合は、ステップ 14 に進みます。</li></ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
12	<p>アップグレードしているコンピュータが、プライマリ Gentran システム コントローラであるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ プライマリ Gentran システム コントローラである場合は、データベース テーブルをアップグレードする必要があり、[データベース ログオン] ダイアログ ボックスが表示されます。</li> </ul> <p><b>メモ</b> これは、セットアップでデータベース テーブルの作成に使用する管理用データベース ログインです。</p>  <p><b>メモ</b> この Gentran:Server システムを Oracle と共にインストールする場合は、スキーマが変更されないように、テーブルのスキーマの所有者を使用する必要があります。</p> <p>ステップ 13 に進みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ プライマリ Gentran システム コントローラでない場合は、データベース テーブルをアップグレードする必要はありません。ステップ 14 に進みます。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [データベース ログオン]ダイアログ ボックスの[ユーザー ID]ボックスに、データベース管理者ログオンを入力します。</li> <li>▶ 適切なパスワードを[パスワード]および[確認]ボックスに入力して[次へ]をクリックし、次のステップに進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b> SQL サーバー ユーザー ID の場合、Gentran:Server データベースに対する管理権限のある SQL 管理用ログインを使用する必要があります。そうしないと、データベース テーブルの作成者しかテーブルを使用できません。</p> <p><b>システムからの応答</b> バージョン 5.0 以前の Gentran:Server からアップグレードしている場合は、HIPAA に適合させるかどうかを確認するメッセージが表示されます。バージョン 5.0 以前からのアップグレードでない場合は、ステップ 15 に進みます。</p> <p><b>メモ</b> Gentran:Server for Windows では、オプションで Health Insurance Portability and Accountability Act (HIPAA, Public Law 104-191) への適合をサポートしています。この法律は、医療に関連するトランザクションを行う組織に対して、政府が定める実施要項に従うことを求めており、患者の個人記録のプライバシーおよび安全性の改善、医療業界全体での電子コミュニケーションの簡略化および標準化、管理コストの削減を目的としています。</p> <p><b>参照</b> Gentran:Server に HIPAA を使用方法の詳細については、『HIPAA and NCPDP Compliance Guide』を参照してください。</p>
14	<p>HIPAA に適合させるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 対応させる場合は、[はい]をクリックします。必要なコンポーネントがインストールされます。次のステップに進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b> HIPAA 適合にする場合は、この Gentran:Server システムへのアクセスに使用するユーザー ID とパスワードを書き留めて、安全な場所に保存しておく必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 適合させない場合は、[いいえ]をクリックし、次のステップに進みます。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
15	<p>インテグレーション コンポーネントをインストールするよう選択しているかどうか、またバージョン 5.0 より前の Gentran:Server システムをバージョン 5.x にアップグレードするかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ インテグレーション コンポーネントをインストールするよう選択していて、バージョン 5.0 より前の Gentran:Server システムをバージョン 5.x にアップグレードする場合は、新しいマップおよびフィールドに使用される既定のデータ書式を尋ねるメッセージが表示されます。自由書式を使用する場合は、[ はい ] を、ASCII 文字に対応する書式を使用する場合は、[ いいえ ] をクリックします。ステップ 15 に進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 新しいマップまたはフィールドを作成すると、Gentran:Server により既定の書式が文字列フィールドに割り当てられます。文字の検証は、この書式を基に実行されます。既定の書式の基本設定が、ASCII 文字だけに対応している (ほとんどの米国ユーザー) 場合は、自由書式オプションを選択する必要はありません。既定の書式に ASCII 文字以外の文字セットを使用する言語が含まれている場合は、自由書式 (0 x 01 ~ 0 x 0FF) を選択してください。</li> <li>— この既定構成設定は、一度選択すると、変更することはできません。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ インテグレーション コンポーネントをインストールするよう選択しておらず、バージョン 5.0 以前の Gentran:Server システムをバージョン 5.x にアップグレードするのでもない場合は、ステップ 15 に進みます。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> アップグレードの続行を確認するメッセージが表示されます ([ はい ] をクリックします)。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

<b>( 続き ) ステップ</b>	<b>操作</b>
16	<p>アップグレードするには [ はい ] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> セットアップ プログラムは次の処理を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 以前、コンピュータにインストールしたコンポーネントをアップグレードします。</li> <li>▶ コミュニケーション スクリプトのアップグレード</li> <li>▶ システム トランスレーション オブジェクトのアップグレード</li> <li>▶ レジストリ エントリの追加 ( 必要な場合 )</li> <li>▶ データベース テーブルの追加またはアップデート ( 必要な場合 )</li> <li>▶ プログラム グループおよびアイコンの作成 ( 必要な場合 )</li> <li>▶ 既存ファイルとアップグレード ファイルの日付とバージョンの検証</li> </ul> <p><b>メモ</b> データベースのサイズによっては、アップグレード プロセスは数分から最大 2 時間にまで及ぶことがあります。</p>
17	<p>エラーが発生したかどうかによって、次を実行します。次のテーブルを使用して、ステップ 18 に進みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ プライマリ Gentran システム コントローラでエラーが発生した場合は、セットアップの再実行時に、自動回復を実行してデータベースを復元することを求めるメッセージが表示されます。[ はい ] をクリックし、自動回復を実行します。</li> </ul> <p><b>メモ</b> 自動回復を実行しない場合は、[ いいえ ] をクリックします。次に、C: ドライブのルート フォルダから gupgrade.log ファイルを削除します。</p> <p><b>注意</b> エラーの原因になった問題 ( データベースのクラッシュ、ネットワーク ダウンなど ) を解決してから、セットアップを再実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ セカンダリ コントローラまたはユーザー インターフェイス クライアントでエラーが発生した場合はエラー レポートが生成され、インストールが完了したことを知らせるメッセージが表示されます。</li> </ul> <p><b>参照</b> Install Shield のエラー メッセージの表示については、『インストール ガイド』の付録「インストールのトラブルシューティング」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エラーが発生しなかった場合、アップグレード インストールの完了を知らせるメッセージが表示されます。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
18	<p>ロックされている共有 DLL があるというメッセージが表示されるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ メッセージが表示された場合は、コンピュータをすぐに再起動するか、後で再起動するかを確認するメッセージが表示されます。ステップ 19 に進みます。</li> <li>▶ メッセージが表示されなかった場合は、ステップ 24 に進みます。</li> </ul>
19	<p>今すぐコンピュータを再起動するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 今すぐコンピュータを再起動する場合は、[ はい、今すぐコンピュータを再起動します ] オプションを選択して [OK] をクリックし、コンピュータを再起動します。</li> <li>▶ 後でコンピュータを再起動する場合は、[ いいえ、後でコンピュータを再起動します ] オプションを選択して [OK] をクリックし、セットアッププログラムを終了します。</li> </ul> <p><b>注意</b> コンピュータを再起動する前に、実行中の他のアプリケーションでの作業が保存されていることを確認してください。</p> <p><b>システムからの応答</b> セットアップにより停止されたサービスを再度開始するかどうかを確認するメッセージが表示されます。</p> <p><b>メモ</b> Gentran:Server をアップグレードする場合、コア インストール (RosettaNet Service など) に含まれていない Gentran サービスを開始するには、それらのサービスをインストールするオプションのコンポーネントをそれぞれアップグレードする必要があります。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

<b>( 続き ) ステップ</b>	<b>操作</b>
20	<p>今すぐセットアップにより停止されたサービスを開始するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 今すぐ開始する場合は、[ はい ] をクリックします。</li><li>▶ 今すぐ開始しない場合は、[ いいえ ] をクリックします。後で、手動でサービスを再起動する必要があります。</li></ul> <p><b>参照</b> Gentran:Server サービスを開始する方法の詳細については、『管理 ガイド』を参照してください。</p> <p><b>システムからの応答</b> インテグレーション コンポーネントを読み込んだ場合、Standards CD から該当する Gentran:Server スタンドアードをインストールする必要があります。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、該当する Gentran:Server Standards Card を参照してください。</p>
21	<p>[OK] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> E メール通知を設定するには、MAPI プロファイルを使用できるように設定する必要があります。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、Manual CD の『MAPI ゲートウェイ設定 ガイド』を参照してください。</p>
22	<p>[OK] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> 以前にオプションのコンポーネントをインストールした場合は、Option Pack CD を使用して、これらのコンポーネントをアップグレードする必要があります。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、『オプションパック インストール カード』を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
23	<p>[OK] をクリックします。</p> <p><b>システムからの応答</b> コンピュータに古いバージョンの Gentran:Server エクステンションや、ゲートウェイがインストールされている場合は、これらが最新の Gentran:Server リリースに適合するようにアップグレードする必要があることが警告されます。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、エクステンションのインストール マニュアルまたは『オプション パック インストール カード』を参照してください。</p>
24	<p>[OK] をクリックして、セットアップを終了します。</p> <p><b>システムからの応答</b> インストールが完了したことを伝えるメッセージが表示されます。</p> <p><b>メモ</b> インテグレーション コンポーネントをアップグレードした場合は、Gentran Standards の読み込みを促すメッセージが表示されます。</p>
25	<p>[OK] をクリックして、セットアップを終了します。これでセットアッププログラムは完了し、既存のシステムがアップグレードされました。必要なオプションのオプション パック コンポーネントをアップグレードすることができます。</p> <p><b>参照</b> Gentran:Server のオプション コンポーネントをインストールする方法の詳細については、『オプション パック インストール カード』を参照してください。</p>



## インストールによるコンポーネントの追加方法と削除方法

### はじめに

Gentran:Server コンポーネントをコンピュータにインストール、またはインストール済みの Gentran:Server コンポーネントをコンピュータから削除する場合に、[ 既存の構成に追加または構成を削除する ] オプションをコンピュータから使用します。

#### 例

クライアント アクセス コンポーネントを削除し、プロセス コントローラをコンピュータに追加する場合などに、このオプションを使用します。

### アンインストール処理

コンピュータにある最後のシステム コンポーネントを削除すると、完全にアンインストールできます。アンインストール処理では、プログラム ファイル、サービス、レジストリ エントリ、プログラム グループが削除されます。必要なデータが保存されている場合があるため、いくつかのサブフォルダ (Maps、Forms、および TransObj フォルダなど) およびシステム データ ストアは削除されません。

#### メモ

今後、コンピュータをシステムの一部にしない場合 (たとえば、テスト システムをコンピュータで使用できないようにする場合など) は、[ 既存の Gentran:Server システムを使用できないようにする ] オプションを使用します。

コンピュータが複数のシステムのメンバーである場合、そのうちの 1 つのシステムを使用できないようにしても、コンピュータは他のシステムのメンバーのままです。ただし、コンピュータがただ 1 つのシステムのメンバーで、そのシステムを使用できないようにすると、Gentran:Server を完全にアンインストールすることができます。

#### 参照

このオプションの詳細については、「[既存の Gentran:Server システムを使用できないようにする \(アンインストール\) 方法](#)」を参照してください。

### システム データ ストア フォルダ

プライマリ Gentran システム コントローラのすべてのコンポーネントを削除しても、システム データ ストア フォルダは削除されません。

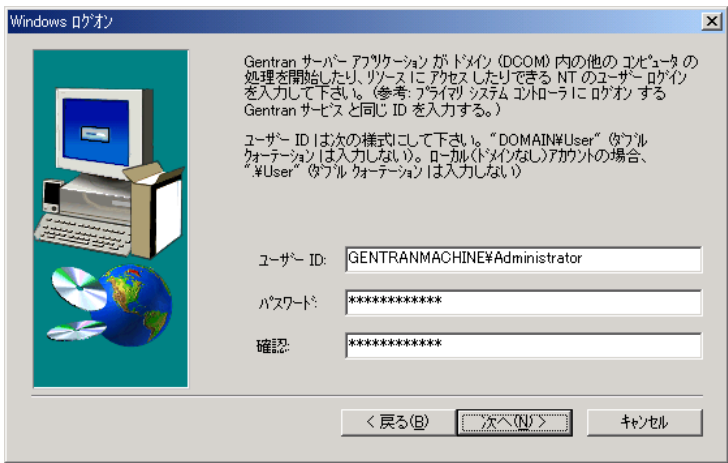
(次のページへ続く)

## 手順

システム コンポーネントを既存のインストールに追加、または既存のインストールから削除するには、次の手順に従います。


ステップ	操作
1	セットアッププログラムを実行するドライブに Gentran:Server CD を挿入します。  <b>注意</b> セットアッププログラムは、Gentran:Server をインストールまたはアンインストールするコンピュータ、あるいはインストールを変更するコンピュータで実行してください。  <b>推奨事項</b> セットアッププログラムを実行する前に、他の Windows プログラムをすべて終了してください。
2	自動実行が無効な場合は、[スタート]メニューから [ <b>ファイル名を指定して実行</b> ] を選択して、次のステップに進みます。自動実行が有効な場合は、ステップ 4 に進みます。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「drive:¥」(drive は CD-ROM ドライブに割り当てられている文字) に続けて「<i>setup.exe</i>」を入力します。</li> <li>▶ [OK] をクリックします。</li> </ul> <b>システムからの応答</b> インストールプログラムを進行するセットアップ ウィザードが起動し (数秒かかる場合があります)、[よろこ] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[次へ] をクリックします。  <b>システムからの応答</b> README.HTM ファイルを表示するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
5	ファイルを表示するには [はい] をクリックします。読み終わったらドキュメントを閉じます。  <b>システムからの応答</b> セットアッププログラムがインストール処理を続行します。  <div style="text-align: right;">(次のページへ続く)</div>

( 続き ) ステップ	操作
6	<p>現在 Gentran:Server エグゼクティブ、Gentran:Server メールボックス、Gentran:Server コミュニケーションズ サービス、または Gentran オーディット通知サービスを実行しているかどうかによって、次を実行します。</p> <p><b>メモ</b> Gentran:Server for RosettaNet をインストールしている場合は、World Wide Web Publishing Service、SMTP (Simple Mail Transport Protocol) Service、FTP Publishing Service、および IIS Admin Service を停止するよう求めるメッセージが表示されることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 実行している場合は、インストールを続行するためにサービスを停止するよう求めるメッセージが表示されます。[ はい ] をクリックして各サービスを停止し、ステップ 7 に進みます。</li> <li>▶ 実行していない場合は、ステップ 8 に進みます。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 該当するチェックボックスをクリックにして、追加するコンポーネントを選択します。</li> </ul> <p><b>メモ</b> 既にインストール済みのコンポーネントを削除する場合は、ここでチェックボックスを選択解除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 追加または削除するコンポーネントを選択したら、[ 次へ ] をクリックします。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> 追加または削除を確認するメッセージが表示されます。</p>
8	<p>追加または削除を続行するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 続行する場合は、[ はい ] をクリックします。現在コントローラではないコンピュータにコントローラ コンポーネントを追加しない場合は、ステップ 13 に進みます。現在コントローラではないコンピュータにコントローラ コンポーネントを追加する場合は、ステップ 9 に進みます。</li> <li>▶ 続行しない場合は、[ いいえ ] をクリックして、[ オプションのコンポーネント ] ダイアログ ボックスに戻り、追加または削除するコンポーネントをもう一度選択します (ステップ 7)。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
9	<p>現在コントローラではないコンピュータにコントローラ コンポーネントを追加するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ コンピュータが現在コントローラでない場合は、指定したシステムが検索され、[Windows ログオン] ダイアログ ボックスが表示されます。Gentran:Server エグゼクティブ サービスでネットワーク リソースへのアクセスに使用される有効な Windows 管理者ユーザー ID およびパスワードを入力します。これは、Gentran:Server エグゼクティブ サービスを起動し、自動処理にも使用される Windows ユーザー アカウントです。</li> </ul> <div data-bbox="667 712 1398 1173" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>— [ユーザー ID] ボックスに、ネットワークへの必要なアクセス権が設定されている Windows ユーザー ID を入力します。ドメイン アカウントについては DOMAIN\User、非ドメイン アカウントは \.User の書式です。</li> <li>— ユーザー ID の Windows パスワードを [パスワード] ボックスに入力します。[確認] ボックスに再入力して確認します。</li> <li>— [次へ] をクリックし、ステップ 12 に進みます。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ コンピュータが現在コントローラである場合は、ステップ 13 に進みます。</li> </ul> <p style="text-align: right; color: green;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
10	<p>現在コントローラではないコンピュータにコントローラ コンポーネントを追加するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>コンピュータが現在コントローラでない場合は、[ データベース ログオン ] ダイアログ ボックスが表示されます。ODBC ユーザー ID とパスワードを入力して、データベースの詳細なログオン情報を入力します。</li></ul> <div data-bbox="667 622 1398 1079"></div> <p>ステップ 11 に進みます。</p> <p><b>メモ</b> このログオンによって、Gentran:Server エグゼクティブ サービスはプロセス コントローラの情報にアクセスし、操作することができます。Gentran:Server データベース テーブルへのアクセス権が既に設定されている、有効なデータベース管理用ログオンを入力してください。 Gentran:Server からデータベース テーブルへのアクセスには、常にこのログオンが使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>コンピュータが現在コントローラである場合は、ステップ 12 に進みます。</li></ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作		
11	<p>データベースに詳細なログオン情報が必要かどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要である場合は、次の作業を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>— [ユーザー ID] ボックスに、ODBC ユーザー ID を入力します。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>注意</b> このユーザー ID は、Gentran:Server データベースへのフルアクセス権を備えている必要があります。ユーザー ID は、既存の Gentran:Server ユーザー ID と同じにすることを推奨します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— ユーザー ID の ODBC パスワードを [パスワード] ボックスに入力します。[確認] ボックスに再入力して確認します。</li> <li>— [次へ] をクリックし、ステップ 12 に進みます。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要でない場合は、[次へ] をクリックして、ステップ 12 に進みます。</li> </ul>		
12	<p>クライアント アクセス コンポーネントとインテグレーション コンポーネントまたはどちらか一方を追加するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 追加する場合は、次の表からオプションを選択します。</li> <li>▶ 追加しない場合は、ステップ 15 に進みます。</li> </ul>		
	<b>ユーザーの処置</b>	<b>セットアッププログラムの動作</b>	<b>実行する次のステップ</b>
	クライアント アクセス コンポーネントとインテグレーション コンポーネントまたはどちらか一方を追加する。	プログラム フォルダが検出されない。	ステップ 13
	クライアント アクセス コンポーネントとインテグレーション コンポーネントまたはどちらか一方を追加する。	プログラム フォルダが検出される。	ステップ 15
	現在コントローラではないコンピュータにコントローラ コンポーネントを追加する。		ステップ 15
	既にインストール済みのコンポーネントを削除するのみ。		ステップ 15
( 次のページへ続く )			

( 続き ) ステップ	操作
13	<p>クライアント アクセス コンポーネントとインテグレーション コンポーネントまたはどちらか一方を追加する場合に、プログラム フォルダが検出されるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <p>検出されない場合は、[プログラム フォルダ名] ダイアログ ボックスが表示されます。クライアントまたはインテグレーション コンポーネントをプログラム アイコンとしてインストールするプログラム グループを選択します。</p>  </li> </ul> <p>[次へ] をクリックして、既定のプログラム フォルダ名 Gentran Server を使用します。ステップ 15 に進みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <p>検出される場合は、ステップ 15 に進みます。</p> </li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
14	<p>インテグレーション コンポーネントをインストールするよう選択しているかどうか、またバージョン 5.0 より前の Gentrans:Server システムをバージョン 5.x にアップグレードするかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ インテグレーション コンポーネントをインストールするよう選択していて、バージョン 5.0 より前の Gentrans:Server システムをバージョン 5.x にアップグレードする場合は、新しいマップおよびフィールドに使用される既定のデータ書式を尋ねるメッセージが表示されます。自由書式を使用する場合は、[ はい ] を、ASCII 文字に対応する書式を使用する場合は、[ いいえ ] をクリックします。ステップ 15 に進みます。</li> </ul> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 新しいマップまたはフィールドを作成すると、Gentrans:Server により既定の書式が文字列フィールドに割り当てられます。文字の検証は、この書式を基に実行されます。既定の書式の基本設定が、ASCII 文字だけに対応している (ほとんどの米国ユーザー) 場合は、自由書式オプションを選択する必要はありません。既定の書式に ASCII 文字以外の文字セットを使用する言語が含まれている場合は、自由書式 (0 x 01 ~ 0 x 0FF) を選択してください。</li> <li>— この既定構成設定は、一度選択すると、変更することはできません。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ インテグレーション コンポーネントをインストールするよう選択しておらず、バージョン 5.0 より前の Gentrans:Server システムをバージョン 5.x にアップグレードするのでもない場合は、ステップ 15 に進みます。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> 指定されたコンポーネントをインストール、または削除できることを知らせるメッセージが表示されます。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) ステップ	操作
15	<p>指定されたコンポーネントをインストール、または削除できることを知らせるメッセージが表示されます。追加または削除を続行するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 続行する場合は、[ はい ] をクリックして、指定したコンポーネントを追加または削除します。次のステップに進みます。</li> </ul> <p><b>システムからの応答</b> このコンピュータから <b>Gentran:Server</b> コンポーネントをすべて削除すると、完全にアンインストールできます。コンポーネントを追加する場合、選択したコンポーネントがインストールされ、適切なレジストリ エントリが追加されます。また、<b>Gentran</b> サービスがインストールされ ( プロセス コントローラが選択されている場合 )、プログラム グループやアイコンが作成されます ( クライアント アクセス コンポーネントまたはインテグレーション コンポーネントが選択されている場合 )。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 続行しない場合は、[ いいえ ] をクリックします。現在コントローラではないコンピュータにコントローラ コンポーネントを追加する場合は、ステップ 9 に戻ります。または、クライアント アクセス コンポーネントとインテグレーション コンポーネントまたはどちらか一方を追加するよう選択されていて、プログラム フォルダが検出されなかった場合は、ステップ 13 に戻ります。</li> </ul>
16	<p>エラーが発生したかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エラーが発生した場合、エラーレポートが生成され、インストールの完了を知らせるメッセージが表示されます。ステップ 17 に進みます。</li> </ul> <p><b>参照</b> エラーが発生した場合は、エラーレポートが生成されます。Install Shield のエラー メッセージの表示については、『インストール ガイド』の「<a href="#">インストールのトラブルシューティング</a>」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エラーが発生しなかった場合、インストールの完了を知らせるメッセージが表示されます。ステップ 17 に進みます。</li> </ul>
17	<p>ロックされている共有 DLL があるというメッセージが表示されたかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示された場合は、コンピュータをすぐに再起動するか、後で再起動するかを確認するメッセージが表示されます。ステップ 18 に進みます。</li> <li>▶ 表示されなかった場合は、ステップ 20 に進みます。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) ステップ	操作
18	<p>今すぐコンピュータを再起動するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 今すぐコンピュータを再起動する場合は、[ はい、今すぐコンピュータを再起動します ] オプションを選択して <b>[OK]</b> をクリックし、コンピュータを再起動します。</li> <li>▶ 後でコンピュータを再起動する場合は、[ いいえ、後でコンピュータを再起動します ] オプションを選択して <b>[OK]</b> をクリックし、セットアッププログラムを終了します。</li> </ul> <p><b>注意</b> コンピュータを再起動する前に、実行中の他のアプリケーションでの作業が保存されていることを確認してください。</p>
19	<p>今すぐセットアップにより停止されたサービスを開始するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 今すぐ開始する場合は、[ はい ] をクリックします。</li> <li>▶ 今すぐ開始しない場合は、[ いいえ ] をクリックします。後で、手動でサービスを再起動する必要があります。</li> </ul> <p><b>参照</b> Gentran:Server サービスを開始する方法の詳細については、『管理 ガイド』を参照してください。</p>
20	<p><b>[OK]</b> をクリックして、セットアップを終了します。これでセットアッププログラムは完了し、コンポーネントが既存のシステムに追加、または既存のシステムから削除されました。</p> <p><b>メモ</b> インテグレーション コンポーネントを追加した場合は、Gentran Standards の読み込みを促すメッセージが表示されます。</p>

# データベース テーブルの使い方

## 目次

<b>概要</b> .....	<b>3</b>
▶ はじめに.....	3
<b>データ フロー テーブル</b> .....	<b>4</b>
▶ 概要.....	4
▶ ドキュメント テーブル.....	5
▶ 外部データ テーブル.....	11
▶ 外部データ クロス リファレンス テーブル.....	13
▶ グループ テーブル.....	16
▶ インターチェンジ テーブル.....	21
▶ トラック テーブル.....	27
▶ トラッキング テーブル.....	31
<b>システム構成テーブル</b> .....	<b>32</b>
▶ 概要.....	32
▶ アプリケーションデータベース情報テーブル.....	33
▶ エクスポート テーブル.....	36
▶ スケジュール テーブル.....	37
▶ 分割機能テーブル.....	39
▶ システム インポート テーブル.....	43
▶ トランスレーションオブジェクト テーブル.....	44
▶ ユーザー テーブル.....	47
<b>パートナー プロファイル テーブル</b> .....	<b>48</b>
▶ 概要.....	48
▶ パートナー管理テーブル.....	49
▶ パートナー参照テーブル.....	63
<b>オーディット テーブルおよび通知テーブル</b> .....	<b>67</b>
▶ 概要.....	67
▶ オーディット コンポーネント ID テーブル.....	68
▶ オーディット メッセージ テーブル.....	69
▶ オーディット ソース ID テーブル.....	71
▶ データ オーディット ログ テーブル.....	72

▶ データ オーディット タイプ テーブル .....	75
▶ 通知テーブル .....	76
▶ 通知動作テーブル .....	77
▶ 通知ログ テーブル .....	78
▶ オペレータ テーブル .....	81
▶ 処理オーディット ログ テーブル .....	82
<b>メールボックス テーブル .....</b>	<b>85</b>
▶ 概要 .....	85
▶ AddressBook テーブル .....	86
▶ 添付テーブル .....	87
▶ DeliveryRule テーブル .....	88
▶ DistributionList テーブル .....	89
▶ ファイル テーブル .....	90
▶ メールボックス テーブル .....	91
▶ メールボックス構成テーブル .....	92
▶ メッセージ テーブル .....	93
▶ 受信者テーブル .....	95
▶ SpoolQueue テーブル .....	96

---

## 概要

## はじめに

### データベース テーブル

---

Gentran:Server では、データベース管理システムを使って、その関連データベース テーブルにアクセスすることができます。これにより、データベース テーブルをクエリーできるようになります。

#### 注意

テーブル同士の関係は非常に複雑であるため、これらのテーブルは更新しないことをお勧めします。

### この付録の内容

---

この付録は、Gentran:Server データベース テーブルの参照です。この付録を使用すると、各テーブルの目的、テーブルのレコードの作成、更新、および削除する場合、テーブルの各フィールドの使用法に関する情報を素早く簡単に参照できます。

また、データベース テーブルをクエリーして必要な情報を取得する方法についても説明しています。テーブルは、次のセクション別に編成されています。

- ▶ データ フロー テーブル
  - ▶ システム構成テーブル
  - ▶ パートナー プロファイル テーブル
  - ▶ オーディット テーブル
  - ▶ メールボックス テーブル
-

# データ フロー テーブル

## 概要

### はじめに

---

このセクションでは、Gentran:Server におけるデータのフロー処理を管理するテーブルをまとめます。データ フロー テーブルは次のとおりです。

- ▶ ドキュメント テーブル (Document\_tb)
  - ▶ 外部データ テーブル (ExtData\_tb)
  - ▶ 外部データ クロス リファレンス テーブル (ExtDataXref\_tb)
  - ▶ グループ テーブル (Group\_tb)
  - ▶ インターチェンジ テーブル (Interchange\_tb)
  - ▶ トラック テーブル (Track\_tb)
  - ▶ トラッキング テーブル (Tracking\_tb)
-

## ドキュメント テーブル

### はじめに

ドキュメント テーブル (Document\_tb) には、Gentran:Server システム内の各ドキュメントについてのレコードが格納されます。システムでドキュメントを作成または追加するたびに、トランスレータにより "ドキュメント テーブル" 内にレコードが作成されます。ドキュメントに対して機能が実行されるたびに (たとえば、送信、受信、インポート、エクスポートなど)、トランスレータはドキュメント テーブル 内の対応するレコードを更新します。トランスレータは、対応するドキュメントが削除されると、ドキュメント テーブル からレコードを削除します。

### テーブル

次の表に、ドキュメント テーブルのフィールド情報をまとめます。

Document_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
DocumentKEY	number (long)	4	システムで許可される、ドキュメントの一意の識別子です。
Direction	number (integer)	2	ドキュメントの方向を示します。 0 = インバウンド 1 = アウトバウンド
PartnerKEY	string	10	ドキュメントの所属先であるパートナーの一意の識別子です。
DocumentName	string	40	このドキュメントを Gentran:Server ドキュメントのブラウザ内で識別するためアプリケーション インテグレーション サブシステムで確立された、ドキュメントの名前です。
TransactionSetID	string	150	パートナー関係またはドキュメント内で確立されたトランザクションセット (メッセージ) 識別子です。
FunctionalGroupID	string	6	パートナー関係内で確立されたファンクショナル グループ識別子です。

(次のページへ続く)

( 続き ) Document_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
ControlNumber	string	255	次のトランザクション セット Control Number またはメッセージ参照を生成するために使用する、パートナー関係からの値です。
LocationStatus	number (long)	4	Gentran:Server 内のドキュメントの場所です。  0 = インドローワ 1 = アウト ドローワ 2 = インドキュメント 3 = ? インドキュメント 4 = アウト ドキュメント 5 = ? アウト ドキュメント 6 = ワークスペース 7 = 順番待ち  <div style="text-align: right; color: green;">( 次のページへ続く )</div>



( 続き ) Document_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
ComplianceStatus	number (long)	4	Gentran:Server 内のドキュメントの適合状態です。 0 = 不完全 1 = 不適合 2 = OK 3 = ドキュメント 順番待ち 4 = 送信済み 5 = ネットワーク受信済み 6 = ネットワーク配送済み 7 = 受信障害 8 = 待機中 9 = 時間切れ 10 = ネットワーク警告 11 = ネットワーク エラー 12 = 障害エラー 13 = 一部障害 14 = 障害拒否 15 = ネットワーク収集済み 16 = 重複 17 = ReadyToSend 18 = SendFailed
TimeCreated	number (long)	4	システムによりドキュメントが作成された時刻です。
Release	number (long)	4	ドキュメントのメッセージリリース番号です (TRADACOMS のみ)。
TestMode	number (long)	4	パートナー関係をテスト状態とするか本番状態とするかを示します。 0 = 本番 1 = テスト (次のページへ続く)

( 続き ) Document_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
TestModeChar	number (integer)	2	パートナー関係をテスト状態とするか 本番状態とするかを文字で示します。  0 = 本番 1 = テスト
Agency	number (integer)	2	ドキュメントに使用する EDI スタン ダードを示します。
InterchangeVersion	string	13	パートナー関係内のインターチェンジ 管理レコードからの、インターチェン ジのバージョンです。
GroupVersion	string	13	パートナー関係内のグループ管理レ コードからの、グループのバージョン です。
DocumentVersion	string	13	パートナー関係内のドキュメント管理 レコードからの、ドキュメントのバー ジョンです。
DocumentBlobKEY	string	255	ドキュメント サブフォルダにある *.doc ファイルの実際の名前です。
UserIDKEY	string	20	ドキュメントを作成したユーザーの識 別子です。
ReferenceData	string	40	このドキュメントを Gentran:Server ド キュメント ブラウザ内で識別するた めにアプリケーション インテグレー ション サブシステムで確立された、 ドキュメントの参照データです。
TranslationReportFile	string	255	トランスレータ レポートのファイル 名です。
AppField1	string	150	アプリケーション インテグレーショ ン サブシステム内で更新された、こ のドキュメントの最初のアプリケー ションフィールドです。
AppField2	string	150	アプリケーション インテグレーショ ン サブシステム内で更新された、こ のドキュメントの 2 番目のアプリケー ションフィールドです。  <span style="color: green;">( 次のページへ続く )</span>

( 続き ) Document_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
AppField3	string	40	アプリケーション インテグレーション サブシステム内で更新された、このドキュメントの 3 番目のアプリケーション フィールドです。
AppField4	string	40	アプリケーション インテグレーション サブシステム内で更新された、このドキュメントの 4 番目のアプリケーション フィールドです。
AppField5	string	40	アプリケーション インテグレーション サブシステム内で更新された、このドキュメントの 5 番目のアプリケーション フィールドです。
AppField6	string	40	アプリケーション インテグレーション サブシステム内で更新された、このドキュメントの 6 番目のアプリケーション フィールドです。
Element Separator	number (integer)	2	データ セグメント内のエレメントを分離するために使用する、パートナー関係からの値です。
SubElementSeparator	number (integer)	2	複合データ エレメント内のコンポーネント エレメントを分離するために使用する、パートナー関係からの値です。
SegmentTerminator	number (integer)	2	データ セグメントの末尾を識別するために使用する、パートナー関係からの値です。
ReleaseCharacter	number (integer)	2	構文セパレータとして使われた文字をそのオリジナルの意味に復元するために使用する、パートナー関係からの値です。
SegmentTag	number (integer)	2	各セグメント タグの末尾を識別するために使用する、パートナー関係からの値です ( 識別子 )。
DecimalIndicator	number (integer)	2	数値フィールドで小数点を示すために使用する、パートナー関係からの値です。  ( 次のページへ続く )

( 続き ) Document_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Processing	number (integer)	2	ドキュメントが現在処理されているかどうかを示すフラグです。  0 = 処理中ではない 1 = 処理中 2 = 受信確認の延期
Restored	number (integer)	2	オリジナルのデータであるか復元されたデータであることを示します。  0 = オリジナル 1 = 復元
NbrBytes	number (long)	4	ドキュメント EDI データ内のバイト数のカウンターとして使用します。
NbrRecords	number (long)	4	ドキュメント EDI データ内のレコード数のカウンターとして使用します。
Mailbox	string	125	ドキュメントに対応するメールボックスを指定します。
RepeatingElement Separator	number (integer)	2	繰り返しデータ エレメントを含む複合フィールドをスタンダードで使用する場合、インターチェンジ内の繰り返しエレメント セパレータの場所を指定します。

## 外部データ テーブル

### はじめに

外部データ テーブル (ExtData\_tb) には、外部データ ファイルの固定コピーが格納されます。このテーブルにあるレコードはシステム内の 1 または 2 種類の外部データ参照に対応し、各レコードにはそれを記述するいくつかの属性があります。エクスポート、インポート、またはインバウンド処理されたテキスト形式のファイルの場合、タイプは外部データであり、外部データ参照には、そのテキスト形式のファイルに関する情報が含まれています。メールボックス メッセージに送られるドキュメントの場合、タイプはメッセージであり、外部データ参照には、そのアウトバウンド メッセージに関する情報が含まれています。

### テーブル

次の表に、外部データ テーブルのフィールド情報をまとめます。

ExtData_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
ExtDataType	number (long)	4	外部データのタイプです。有効な値は、テキスト形式のファイルに対して送受信される Gentran データの場合は [ExtData]、メールボックス メッセージへ送られる Gentran データの場合は [Message] です。
ExtDataKEY	number (long)	4	一意の外部データ ファイル識別子です。
Filename	string	255	システム データ ストア内の外部データ フォルダにコピーされる前のオリジナル ファイル名の名前を示します (コピーされた場合)。
FileDateTime	number (long)	4	オリジナルのファイルのタイムスタンプです。
ActionDateTime	number (long)	4	動作 (たとえば、ファイルのエクスポート、インポート、または処理) が実行された日付と時刻です。これは、実際のデータベース更新の日/時です。

(次のページへ続く)

( 続き ) ExtData_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Action	number (long)	4	外部データ ファイルに対して実行された動作のタイプです。有効な値は [ エクスポート ]、[ インポート ]、[ メールボックス インポート ]、[ ファイル処理 ]、[ メールボックス ファイル処理 ]、[ 送信 ] であり、その後可能な動作はメールボックス エクスポートです。
BlobKEY	string	255	システム データ ストア フォルダに保存されたファイルの名前と、このディレクトリに対するファイルの相対パスを示します。その一意性を保証するためファイルの名前は ExtDataKEY であり、ファイル拡張子として .ext が付きます。相対パスは、ユーザーがシステム構成サブシステムで指定するディレクトリの形式によって異なります。
Restored	number (long)	4	レコード ( 外部データ参照 ) がアーカイブから復元されたかどうかを示すブールフラグです。
Msg	number (long)	4	アウトバウンド処理のための外部データ送信先のメールボックスにあるメッセージ、または、インバウンド処理のための外部データの受信元メッセージを示す数値です。
Atm	number (long)	4	アウトバウンド処理のための外部データの送信先メールボックスにある添付、または、インバウンド処理のための外部データの受信元の添付を示す数値です。
ExtDataCount	number (long)	4	外部データ参照の関連付け先となる <b>Gentran:Server</b> ドキュメントのカウンタです。このカウンタは、関連付けされたドキュメントが削除されると減分されます。このカウンタは、この外部データ参照にさらにドキュメントが関連付けられると増分されます。
SaveFile	number (long)	4	外部データがシステム データ ストア フォルダに保存されたかどうかを示すブールフラグです。

## 外部データ クロス リファレンス テーブル

### はじめに

外部データ クロス リファレンス テーブル (ExtDataXref\_tb) には、各外部データ ファイルが **Gentran:Server** データとどのように関連するかについての情報が格納されます。各レコードは、外部データと関連 **Gentran:Server** ドキュメントまたは インターチェンジとの間のクロス リファレンスです。

### テーブル

次の表に、外部データ クロス リファレンス テーブルのフィールド情報をまとめます。

ExtDataXref_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
ExtDataKEY	number (long)	4	ExtData_tb の外部キーで、これらのテーブル間のリンクを提供するために使用されます。
GentranType	number (long)	4	外部データ参照に関連する <b>Gentran</b> データのタイプに応じて、インターチェンジまたはドキュメントになります。
GentranKEY	number (long)	4	<b>GentranType</b> パラメータの値に応じて、 <b>Interchange_tb</b> または <b>Document_tb</b> のどちらかの外部キーです。
RecordCount	number (long)	4	インポート動作とエクスポート動作の場合は、インポートまたはエクスポートされたドキュメントから作成された外部データ ファイル内のレコードの数を示します。ファイル処理動作の場合は、与えられたインバウンド データ用に処理されたインターチェンジ内のセグメントの数です。
ByteCount	number (long)	4	外部データ内の合計バイト数です。
StartingOffset	number (long)	4	レコードが作成した <b>Gentran</b> データに対応する外部データ内の開始オフセットです。
EndingOffset	number (long)	4	レコードが作成した <b>Gentran</b> データに対応する外部データ内の終了オフセットです。  (次のページへ続く)

( 続き ) ExtDataXref_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
TimeStamp	number (long)	4	この外部データ参照が書かれた時点の日 / 時を示します。
Appfield1	string	40	DocumentKEY に従って Document_tb から正確にコピーされます。外部データがインターチェンジに関連付けられている場合、Appfield 1 ～ 6 は Interchange_tb からコピーされます。
AppField2	string	40	DocumentKEY に従って Document_tb から正確にコピーされます。外部データがインターチェンジに関連付けられている場合、Appfield 1 ～ 6 は Interchange_tb からコピーされます。
Appfield3	string	40	DocumentKEY に従って Document_tb から正確にコピーされます。外部データがインターチェンジに関連付けられている場合、Appfield 1 ～ 6 は Interchange_tb からコピーされます。
Appfield4	string	40	DocumentKEY に従って Document_tb から正確にコピーされます。外部データがインターチェンジに関連付けられている場合、Appfield 1 ～ 6 は Interchange_tb からコピーされます。
Appfield5	string	40	DocumentKEY に従って Document_tb から正確にコピーされます。外部データがインターチェンジに関連付けられている場合、Appfield 1 ～ 6 は Interchange_tb からコピーされます。
Appfield6	string	40	DocumentKEY に従って Document_tb から正確にコピーされます。外部データがインターチェンジに関連付けられている場合、Appfield 1 ～ 6 は Interchange_tb からコピーされます。
DocumentName	string	40	DocumentKEY に従って Document_tb から正確にコピーされます。外部データがインターチェンジに関連付けられている場合、DocumentName は無視されます。  ( 次のページへ続く )



( 続き ) ExtDataXref_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
ReferenceData	string	40	DocumentKEY に従って Document_tb から正確にコピーされます。外部データがインターチェンジに関連付けられている場合、ReferenceData は無視されます。
TranslationReportFile	string	255	トランスレータ レポートファイルの名前です。
DocStatus	number (integer)	2	ドキュメント処理の成功または失敗を示すフラグです。  0 = 失敗 1 = 成功

## グループ テーブル

### はじめに

グループ テーブル (Group\_tb) には、Gentran:Server システム内の各ファンクショナルグループについてのレコードが格納されます。システムにグループを追加するたびに、トランスレータによりグループ テーブル内にレコードが作成されます。グループ テーブル内のレコードは、ファンクショナルグループ受信確認が受信または生成されると更新されます。トランスレータは、対応するグループが削除されると、グループ テーブルからレコードを削除します。

### テーブル

次の表に、グループ テーブルのフィールド情報をまとめます。

Group_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
GroupKEY	number (long)	4	システムにより割り当てられる、グループの一意の識別子です。
PartnerKEY	string	10	グループの所属先であるパートナーの一意の識別子です。
ControlNumber	string	255	次のグループ Control Number を生成するために使用する、パートナー関係からの値です。
FunctionalGroupID	string	6	パートナー関係内で確立されたファンクショナルグループ識別子です。
GroupControlKEY	string	20	このテーブルを参照する、パートナーエディタでのグループ管理レコードです。
Direction	number (integer)	2	グループの方向を示します。 0 = インバウンド 1 = アウトバウンド
Agency	number (integer)	2	グループに使用する EDI スタANDARD を示します。
Version	string	13	パートナー関係内のグループ管理レコードからの、グループのバージョンです。  (次のページへ続く)

( 続き ) Group_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
ExpectOrGenerateAck	number (integer)	2	<p>この関係で定義されているグループを受信した際に、システムでこのトレーディング パートナーにファンクショナル受信確認を送信します ( インバウンド )。または、この関係で定義されているグループをパートナーが受信した結果として、システムでこのトレーディング パートナーからファンクショナル受信確認を受け取ることを想定します ( アウトバウンド )。</p> <p>0 = 受信確認を想定または生成しない 1 = 受信確認を想定または生成する</p>
AckHoursOverdue	number (integer)	2	<p>受信確認を時間切れであるとみなすまでの経過時間数を定義します。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) Group_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
AckStatus	number (integer)	2	<p>受信確認の状態を示します ( インバウンド )。</p> <p>0 = 受信確認不要 1 = 待機中 2 = OK 3 = エラーのある受信確認 4 = 部分受信確認 5 = 拒否 6 = 受信確認の延期処理の生成 7 = 受信確認の即時処理の生成 8 = 整合の延期処理 ( 受信確認のドキュメントのみ ) 9 = 整合の即時処理 ( 受信確認のドキュメントのみ ) 10 = 整合の完了 ( 受信確認のドキュメントのみ )</p> <p>受信確認の状態を示します ( アウトバウンド )。</p> <p>0 = 整合不要 1 = 待機中 2 = OK 3 = エラーのある整合 4 = 部分整合 5 = 拒否 6 = 整合の時間切れ</p>
AckTime	number (long)	4	受信確認の時刻を示します。
AckTransactionSetID	string	150	システムが生成した、受信確認のトランザクション セット識別子を示します。
NoTransactions Accepted	number (integer)	2	受け入れられたトランザクション セットの数を示します ( インバウンド )。  ( 次のページへ続く )

( 続き ) Group_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
NoTransactionsRejected	number (integer)	2	拒否されたトランザクション セットの数を示します ( インバウンド )。
AppField1	string	40	アプリケーション インテグレーション サブシステム内で更新された、このグループの最初のアプリケーション フィールドです。
AppField2	string	40	アプリケーション インテグレーション サブシステム内で更新された、このグループの 2 番目のアプリケーション フィールドです。
AppField3	string	40	アプリケーション インテグレーション サブシステム内で更新された、このグループの 3 番目のアプリケーション フィールドです。
AppField4	string	40	アプリケーション インテグレーション サブシステム内で更新された、このグループの 4 番目のアプリケーション フィールドです。
AppField5	string	40	アプリケーション インテグレーション サブシステム内で更新された、このグループの 5 番目のアプリケーション フィールドです。
AppField6	string	40	アプリケーション インテグレーション サブシステム内で更新された、このグループの 6 番目のアプリケーション フィールドです。
Element Separator	number (integer)	2	アウトバウンド データ セグメント内のエレメントを分離するために使用する、パートナー関係からの値です。
SubElementSeparator	number (integer)	2	アウトバウンド複合データ エレメント内のコンポーネント エレメントを分離するために使用する、パートナー関係からの値です。  <span style="color: green;">( 次のページへ続く )</span>

( 続き ) Group_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
SegmentTerminator	number (integer)	2	アウトバウンド データ セグメントの 末尾を識別するために使用する、パート ナー関係からの値です。
ReleaseCharacter	number (integer)	2	構文セパレータとして使われた文字を そのオリジナルの意味に復元するため に使用する、パートナー関係からの値 です。
SegmentTag	number (integer)	2	各セグメント タグの末尾を識別する ために使用する、パートナー関係から の値です ( 識別子 )。
DecimalIndicator	number (integer)	2	数値フィールドで小数点を示すために 使用する、パートナー関係からの値 です。
Restored	number (integer)	2	オリジナルのデータであるか復元され たデータであるかを示します。  0 = オリジナル 1 = 復元
NbrBytes	number (long)	4	グループ EDI データ内のバイト数の カウンターとして使用します。
NbrRecords	number (long)	4	ドキュメント EDI データ内のレコー ド数のカウンターとして使用します。

## インターチェンジ テーブル

### はじめに

インターチェンジ テーブル (Interchange\_tb) には、Gentran:Server システム内の各インターチェンジのレコードが格納されます。システムにインターチェンジを追加するたびに、トランスレータによりインターチェンジ テーブル内にレコードが作成されます。インターチェンジ テーブル内のレコードは、インターチェンジ受信確認が受信または生成されると更新されます。トランスレータは、対応するインターチェンジが削除されると、インターチェンジ テーブルからレコードを削除します。

### テーブル

次の表に、インターチェンジ テーブルのフィールド情報をまとめます。

Interchange_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
InterchangeKEY	number (long)	4	システムにより割り当てられる、インターチェンジの一意の識別子です。
PartnerKEY	string	10	インターチェンジの所属先であるパートナーの一意の識別子です。
ControlNumber	string	255	次のインターチェンジ Control Number を生成するために使用する、パートナー関係からの値です。
InterchangeControlKEY	string	40	このテーブルを参照する、パートナーエディタでのインターチェンジ管理レコードです。
SessionKEY	number (long)	4	現在は使用されていません。
TimeCreated	number (long)	4	システムによりインターチェンジが作成された時刻です。
TimeSent	number (long)	4	インターチェンジが送信された時刻です。 (次のページへ続く)

( 続き ) Interchange_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
ProcessedStatus	number (integer)	2	インターチェンジの処理状態です。  1 = 受信済み 2 = 送信済み 3 = 送信準備完了 4 = 順番待ち 6 = 保留 7 = 送信に失敗しました 8 = 処理中
Direction	number (integer)	2	インターチェンジの方向を示します。  0 = インバウンド 1 = アウトバウンド
Agency	number (integer)	2	インターチェンジに使用する EDI スタンダードを示します。
Version	string	13	パートナー関係内のインターチェンジ管理レコードからの、インターチェンジのバージョンです。
TestMode	number (integer)	2	パートナー関係をテスト状態とするか本番状態とするかを示します。  0 = 本番 1 = テスト
ExpectOrGenerateAck	number (integer)	2	この関係で定義されているインターチェンジを受信した際に、システムでこのトレーディング パートナーに受信確認を送信します (インバウンド)。または、この関係で定義されているインターチェンジをパートナーが受信した結果として、システムでこのトレーディング パートナーから受信確認を受け取ることを想定します (アウトバウンド)。  0 = 受信確認を想定または生成しない 1 = 受信確認を想定または生成する  <span style="color: green;">( 次のページへ続く )</span>



( 続き ) Interchange_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
AckHoursOverdue	number (integer)	2	受信確認を時間切れであるとみなすまでの経過時間数を定義します。
AckStatus	number (integer)	2	<p>受信確認の状態を示します ( インバウンド )。</p> <p>0 = 受信確認不要 1 = 待機中 2 = OK 3 = エラーのある受信確認 4 = 部分受信確認 5 = 拒否 6 = 受信確認の延期処理の生成 7 = 受信確認の即時処理の生成 8 = 整合の延期処理 ( 受信確認のドキュメントのみ ) 9 = 整合の即時処理 ( 受信確認のドキュメントのみ ) 10 = 整合の完了 ( 受信確認のドキュメントのみ )</p> <p>受信確認の状態を示します ( アウトバウンド )。</p> <p>0 = 整合不要 1 = 待機中 2 = OK 3 = エラーのある整合 4 = 部分整合 5 = 拒否 6 = 整合の時間切れ</p>
AckTime	number (long)	4	受信確認の時刻を示します。
AckTransactionSetID	string	150	<p>システムが生成した、受信確認のトランザクション セット識別子を示します。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) Interchange_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
NetworkStatus	number (integer)	2	ネットワークの処理状態を示します。 0 = 未送信 1 = Received OK 2 = ネットワーク警告 3 = ネットワーク エラー 4 = 収集済み 5 = サード パーティのネットワークへ 送信済み
NetworkTime	number (long)	4	ネットワークがインターチェンジを受 信した時刻を示します。
NoGroupsAccepted	number (integer)	2	受け入れられたグループの数を示しま す( インバウンド )。
NoGroupsRejected	number (integer)	2	拒否されたグループの数を示します ( インバウンド )。
NoTransactions Accepted	number (integer)	2	受け入れられたトランザクション セッ トの数を示します( インバウンド )。
NoTransactionsRejected	number (integer)	2	拒否されたトランザクション セット の数を示します( インバウンド )。
Filename	string	255	インターチェンジデータが含まれて いるファイルの名前です。
TranslationReportFile	string	255	インターチェンジトランスレータ レ ポートのファイル名です。
AppField1	string	40	アプリケーション インテグレーショ ン サブシステム内で更新された、こ のインターチェンジの最初のアプリ ケーション フィールドです。
AppField2	string	40	アプリケーション インテグレーショ ン サブシステム内で更新された、こ のインターチェンジの 2 番目のアプリ ケーション フィールドです。  ( 次のページへ続く )

( 続き ) Interchange_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
AppField3	string	40	アプリケーション インテグレーション サブシステム内で更新された、このインターチェンジの3番目のアプリケーション フィールドです。
AppField4	string	40	アプリケーション インテグレーション サブシステム内で更新された、このインターチェンジの4番目のアプリケーション フィールドです。
AppField5	string	40	アプリケーション インテグレーション サブシステム内で更新された、このインターチェンジの5番目のアプリケーション フィールドです。
AppField6	string	40	アプリケーション インテグレーション サブシステム内で更新された、このインターチェンジの6番目のアプリケーション フィールドです。
Element Separator	number (integer)	2	アウトバウンド データ セグメント内のエレメントを分離するために使用する、パートナー関係からの値です。
SubElementSeparator	number (integer)	2	アウトバウンド 複合データ エレメント内のコンポーネント エレメントを分離するために使用する、パートナー関係からの値です。
SegmentTerminator	number (integer)	2	アウトバウンド データ セグメントの末尾を識別するために使用する、パートナー関係からの値です。
ReleaseCharacter	number (integer)	2	構文セパレータとして使われた文字をそのオリジナルの意味に復元するために使用する、パートナー関係からの値です。
SegmentTag	number (integer)	2	各セグメント タグの末尾を識別するために使用する、パートナー関係からの値です( 識別子)。
DecimalIndicator	number (integer)	2	数値フィールドで小数点を示すために使用する、パートナー関係からの値です。  ( 次のページへ続く )

( 続き ) Interchange_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
MessageId	number (long)	4	インターチェンジデータの送信に使用するメッセージ識別子を含みます。
Restored	number (integer)	2	オリジナルのデータであるか復元されたデータであるかを示します。  0 = オリジナル 1 = 復元
NbrBytes	number (long)	4	インターチェンジ EDI データ内のバイト数のカウンターとして使用します。
NbrRecords	number (long)	4	ドキュメント EDI データ内のレコード数のカウンターとして使用します。
RepeatingElement Separator	number (integer)	2	繰り返しデータ エレメントを含む複合フィールドをスタンダードで使用する場合、インターチェンジ内の繰り返しエレメント セパレータの場所を指定します。

## トラック テーブル

### はじめに

トラック テーブル (Track\_tb) には、Gentran:Server システム内の各ドキュメントについてのレコードが格納されます。このレコードには、ドキュメント、グループ、およびインターチェンジ間のリンクなど、システムでドキュメントをトラックするために必要なすべての情報が含まれています。インターチェンジをビルドするたびに、トランスレータによりトラッキング テーブル内のインターチェンジの各ドキュメントにレコードが作成されます。トラッキング テーブル内のレコードは、受信確認が受信または生成されると更新されます。トランスレータは、対応するドキュメントが削除されると、トラッキング テーブルからレコードを削除します。

### テーブル

次の表に、トラッキング テーブルのフィールド情報をまとめます。

Track_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
DocumentKEY	number (long)	4	システムにより割り当てられる、ドキュメント (メッセージ) の一意の識別子です。
GroupKEY	number (long)	4	システムにより割り当てられる、ファンクショナル グループの一意の識別子です。
InterchangeKEY	number (long)	4	システムにより割り当てられる、インターチェンジの一意の識別子です。
AckDocumentKEY	number (long)	4	ドキュメント受信確認の一意の識別子です (ドキュメントから受信確認への連結)。
TimeLastModified	number (long)	4	ドキュメントが最後に修正された時刻です。
TimePosted	number (long)	4	ドキュメントが [アウト ドキュメント] にポストされた時刻です。

(次のページへ続く)

( 続き ) Track_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
ExpectOrGenerateAck	number (integer)	2	この関係で定義されているドキュメントを受信した際に、システムはこのトレーディング パートナーに受信確認を送信します ( インバウンド )。または、この関係で定義されているドキュメントをパートナーが受信した結果として、システムはこのトレーディング パートナーから受信確認を受け取ることを想定します ( アウトバウンド )。
GenerateAckDetails	number (integer)	2	受信確認を生成する際にエラー詳細を付けるかどうかを定義します。  0 = エラー詳細なし 1 = エラー詳細あり
AckHoursOverdue	number (integer)	2	受信確認を時間切れであるとみなすまでの経過時間数を定義します。
AckTransactionSetID	string	150	システムが生成した、受信確認のトランザクション セット識別子を示します。
Direction	number (integer)	2	ドキュメントの方向を示します。  0 = インバウンド 1 = アウトバウンド  <span style="color: green;">( 次のページへ続く )</span>

( 続き ) Track_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
AckStatus	number (integer)	2	<p>受信確認の状態を示します ( インバウンド )。</p> <p>0 = 受信確認不要            1 = 待機中            2 = OK            3 = エラーのある受信確認            4 = 部分受信確認            5 = 拒否            6 = 受信確認の延期処理の生成            7 = 受信確認の即時処理の生成            8 = 整合の延期処理                ( 受信確認のドキュメントのみ )            9 = 整合の即時処理                ( 受信確認のドキュメントのみ )            10 = 整合完了                ( 受信確認のドキュメントのみ )</p> <p>受信確認の状態を示します ( アウトバウンド )。</p> <p>0 = 整合不要            1 = 待機中            2 = OK            3 = エラーのある整合            4 = 部分整合            5 = 拒否            6 = 整合の時間切れ</p>
AckTime	number (long)	4	受信確認の時刻を示します。
PartnerKEY	string	10	インターチェンジの所属先であるパートナーの一意の識別子です。
DocumentControl Number	string	255	<p>次のドキュメント Control Number またはメッセージ参照を生成するために使用する、パートナー関係からの値です。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) Track_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
GroupControlNumber	string	255	次のグループ Control Number を生成するために使用する、パートナー関係からの値です。
InterchangeControl Number	string	255	次のインターチェンジ Control Number を生成するために使用する、パートナー関係からの値です。
FunctionalGroupID	string	6	パートナー関係内で確立されたファンクショナルグループ識別子です。
TransactionSetID	string	150	パートナー関係またはドキュメント内で確立されたトランザクションセット (メッセージ) 識別子です。
Restored	number (integer)	2	オリジナルのデータであるか復元されたデータであるかを示します。  0 = オリジナル 1 = 復元



## トラッキング テーブル

### はじめに

トラッキング テーブル (Tracking\_tb) には、Gentran:Server システム内の各ドキュメントについてのレコードが格納されます。このレコードには、システムでメッセージをトラックするために必要なすべての情報が含まれています。

### テーブル

次の表に、トラッキング テーブルのフィールド情報をまとめます。

Tracking_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
MessageId	number (long)	4	メッセージの識別子です。
TrackingType	string	125	トラッキングのタイプです。
TrackingInfo	string	255	実際のトラッキング情報です。
Checksum	number (long)	4	今後の使用のために予約されています。

# システム構成テーブル

## 概要

### はじめに

---

このセクションでは、Gentran:Server でのシステム構成を行うテーブルをまとめます。システム構成テーブルは次のとおりです。

- ▶ アプリケーション データベース情報テーブル (AppDbInformation\_tb)
  - ▶ スケジュール テーブル (Schedule\_tb)
  - ▶ 分割機能テーブル (Splitter\_tb)
  - ▶ システム インポート テーブル (SystemImport\_tb)
  - ▶ トランスレーションオブジェクト テーブル (Template\_tb)
  - ▶ ユーザー テーブル (User\_tb)
-

## アプリケーション データベース情報テーブル

### はじめに

アプリケーション データベース情報テーブル (AppDbInformation\_tb) には、マルチユーザーのシステム全体の構成情報を含むレコードが1つ格納されます。このテーブルは、マルチユーザー構成情報が変更されるか、ドキュメント、グループ、またはインターチェンジが作成されるたびに、構成プログラムによって更新されます。

### テーブル

次の表に、アプリケーション データベース情報テーブルのフィールド情報をまとめます。

AppDbInformation_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
NextDocID	number (long)	4	次のドキュメントの識別子を定義する、システムが生成した一意のキーです。これは、ドキュメントが作成されるたびに更新されます。
NextGrpID	number (long)	4	次のグループの識別子を定義する、システムが生成した一意のキーです。これは、グループが作成されるたびに更新されます。
NextIntID	number (long)	4	次のインターチェンジの識別子を定義する、システムが生成した一意のキーです。これは、インターチェンジが作成されるたびに更新されます。
NextExtDataID	number (long)	4	次の外部データ ファイルの識別子を定義する、システムが生成した一意のキーです。これは、外部データ ファイルがシステムに追加されるたびに更新されます。
NextPIPInstanceID	number (long)	4	次の PIP インスタンスの識別子を定義する、システムが生成した一意のキーです。これは、PIP インスタンスがシステムに追加されるたびに更新されます。
DbRevision	string	10	今後の使用のために予約されています。 (次のページへ続く)

( 続き ) AppDbInformation_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
DirInterchangeIn	string	255	すべての受信済みインターチェンジが保存される共有格納領域の UNC パス名を示します。
DirInterchangeOut	string	255	すべての送信済みインターチェンジが保存される共有格納領域の UNC パス名を示します。
DirTxReports	string	255	すべてのトランスレータ レポートが保存される共有格納領域の UNC パス名を示します。これらのレポートはバイナリ形式で格納され、Gentran:Server を使用してのみ印刷できます。
DirTemplate	string	255	すべての登録済みトランスレーションオブジェクトが保存される共有格納領域の UNC パス名を示します。
DirUnattended	string	255	すべてのプロセス管理イベント、セッション、およびカレンダー ファイルが保存される共有格納領域の UNC パス名を示します。
DirArchive	string	255	すべてのアーカイブ定義ファイル (*.ard) およびアーカイブされたデータファイル (*.arv) が保存される共有格納領域の UNC パス名を示します。
DirDocuments	string	255	ドキュメント (メッセージ) が保存される共有格納領域の UNC パス名を示します。
DirCommDatabase	string	255	Gentran:Server 1.x で使用されます。
DirCommLogs	string	255	Gentran:Server 1.x で使用されます。
DirCommScripts	string	255	Gentran:Server 1.x で使用されます。
DirTransmitIn	string	255	ファイルをインターチェンジに分割する前の、メールボックスから受信した初期コミュニケーション ファイルが格納されるフォルダです。

( 次のページへ続く )

( 続き ) AppDbInformation_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
DirTransmitOut	string	255	Gentran:Server 1.x でデータを送信するために使用する一時フォルダです。
DirErrData	string	255	分割機能によって認識されないエラーデータが格納されるフォルダです。
DirExtData	string	255	システムが作成した、外部データファイルのコピーが格納されるフォルダです。
DirFormat	number (long)	4	Gentran:Server が、そのフォルダに使用する形式です。
NextTplID	number (long)	4	次のトランスレーション オブジェクト ID を示します。

## エクスポート テーブル

### はじめに

エクスポート テーブル (Exporter\_tb) には、Gentran:Server システムで現在ビルド処理中の各ドキュメントについてのレコードが格納されます。ドキュメントを処理する際に、システムによりレコードが作成されます。ビルド処理が完了すると、そのレコードは削除されます。このテーブルは、複数のビルド処理を確実に同期させるために、ビルド処理中にシステムで内部的に使用されます。

### テーブル

次の表に、エクスポート テーブルのフィールド情報をまとめます。

Exporter_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
DocumentKEY	number (long)	4	予約フィールドです。
PartnerKEY	string	14	予約フィールドです。
InterchangeControlKEY	string	40	予約フィールドです。
TestMode	string	2	予約フィールドです。
GroupControlKEY	string	20	予約フィールドです。
FunctionalGroup	string	7	予約フィールドです。
DocumentType	string	7	予約フィールドです。

## スケジュール テーブル

### はじめに

スケジュール テーブル (Schedule\_tb) には、Gentran:Server システム内の各イベントについてのレコードが格納されます。プロセス管理でイベントを作成すると、トランスレータによりレコードが作成されます。トランスレータは、イベントが修正されるとレコードを更新します。トランスレータは、イベントがシステムから削除されるとレコードを削除します。

### テーブル

次の表に、"スケジュール テーブル" のフィールド情報をまとめます。

Schedule_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Time	string	50	イベントが実行される時刻です (時刻イベントのみ)。
SessionFile	string	50	実行されるセッションの名前です。
Calendar	string	50	イベントをいつ実行すべきかを決定するために使用するカレンダーの名前です (時刻イベントのみ)。
Parm1	string	128	ユーザー定義のパラメータです。
Parm2	string	128	ユーザー定義のパラメータです。
Parm3	string	128	ユーザー定義のパラメータです。
Owner	string	50	今後の使用のために予約されています。
OwnerDomain	string	50	今後の使用のために予約されています。
EventType	number (integer)	2	イベントがポーリングされるかどうかを示します。  0 = スケジュール 1 = ポーリング 2 = 通知 3 = システム  (次のページへ続く)

( 続き ) Schedule_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
ProcessID	number (long)	4	イベントで指定されたセッションを実行している処理の識別子です。  0 = 処理が実行されていない ゼロ以外 = 処理が実行されている
TimeStarted	number (long)	4	イベントが開始した時刻です。
TimeEnded	number (long)	4	イベントが終了した時刻です。
ServerName	string	50	イベントを実行するコントローラの名前です。
CurrentSessionCmdNbr	number (long)	4	現在処理されているイベントの名前です。
Event	string	50	イベントの説明です。
Status	number (integer)	2	イベントが一時停止しているかアクティブであるかを示します。  0 = 一時停止 1 = アクティブ 2 = ブロック 3 = 実行
EventID	string	10	一意のイベント識別子です。



## 分割機能テーブル

### はじめに

分割機能テーブル (Splitter\_tb) には、Gentran:Server で定義されている各分割機能の登録についてのレコードが格納されます。各分割機能の登録には、受信したデータのインターチェンジの識別と分割に必要なパラメータがあります。

### テーブル

次の表に、分割機能テーブルのフィールド情報をまとめます。

Splitter_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Type	number (integer)	2	分割機能の登録のタイプを格納します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ "固定" は、分割機能の登録で、EDI データ内に定義済みの区切文字セットが想定されることを示します。[固定] が既定値です。</li> <li>▶ "位置固定" は、分割機能の登録で、EDI データ内の定義済みの位置に区切文字セットが想定されることを示します。これにより、システムが区切文字を判別できます。</li> <li>▶ "可変" は、分割機能の登録で次の情報が想定されることを示します。定義済みのインターチェンジ開始セグメントおよび終了セグメント、エレメント区切文字の位置 (システムが区切文字を判別するため)、開始セグメント内のエレメント数、開始セグメントの最大長、開始セグメントにある最後のエレメントの最大長、および終了セグメントの最大長。</li> </ul>
StartTag	string	50	インターチェンジの開始セグメントを格納します。
EndTag	string	50	インターチェンジの終了セグメントを格納します。  (次のページへ続く)

( 続き ) Splitter_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
EleDelim	string	1	使用しているスタンダードで適用される場合、次の情報を格納します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 固定タイプの場合、エレメントセパレータを格納します。</li> <li>▶ 位置固定タイプの場合、インターチェンジ内の 最初のエレメントセパレータの位置を格納します。</li> <li>▶ 可変タイプの場合、インターチェンジ内の 最初のエレメント区切文字の位置を格納します。</li> </ul>
TagDelim	string	1	使用しているスタンダードで適用される場合、次の情報を格納します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 固定タイプの場合、タグセパレータを格納します。</li> <li>▶ 位置固定タイプの場合、インターチェンジ内のタグセパレータの位置を格納します。</li> </ul>
EndDelim	string	1	使用しているスタンダードで適用される場合、次の情報を格納します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 固定タイプの場合、エレメントセパレータを格納します。</li> <li>▶ 位置固定タイプの場合、インターチェンジ内の 最初のエレメントセパレータの位置を格納します。</li> <li>▶ 可変タイプの場合、インターチェンジ内の 最初のエレメント区切文字の位置を格納します。</li> </ul>
RelDelim	string	1	使用しているスタンダードで適用される場合、次の情報を格納します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 固定タイプの場合、Release Indicator を格納します。</li> <li>▶ 位置固定タイプの場合、インターチェンジ内の 最初の Release Indicator の位置を格納します。</li> </ul> <p style="text-align: right; color: green;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) Splitter_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
SubDelim	string	1	使用しているスタンダードで適用される場合、次の情報を格納します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 固定タイプの場合、サブエレメントセパレータを格納します。</li> <li>▶ 位置固定タイプの場合、インターチェンジ内の最初のサブエレメントセパレータの位置を格納します。</li> </ul>
DecChar	string	1	使用しているスタンダードで適用される場合、次の情報を格納します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 固定タイプの場合、小数点表記を格納します。</li> <li>▶ 位置固定タイプの場合、数値フィールド内の小数点を示すコンマ (,) またはピリオド (.) を格納します。</li> <li>▶ 可変タイプの場合、数値フィールド内の小数点を示すコンマ (,) またはピリオド (.) を格納します。</li> </ul>
EleDelimPosn	number (integer)	2	エレメント区切文字の位置を格納します。
TagDelimPosn	number (integer)	2	タグ区切文字の位置を格納します。
EndDelimPosn	number (integer)	2	終了区切文字の位置を格納します。
RelDelimPosn	number (integer)	2	リリース区切文字の位置を格納します。
SubDelimPosn	number (integer)	2	サブエレメント区切文字の位置を格納します。
DecCharPosn	number (integer)	2	小数点切り文字の位置を格納します。
NumHdrSeg	number (integer)	2	インターチェンジ開始セグメント内のエレメントの数を格納します。
HdrMaxLen	number (integer)	2	インターチェンジ開始セグメントの最大長を格納します。

( 次のページへ続く )

( 続き ) Splitter_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
HdrLastEleLen	number (integer)	2	インターチェンジ開始セグメントにある最後のエレメントの最大長を格納します。
EndMaxLen	number (integer)	2	インターチェンジ終了セグメントの最大長を格納します。
InterchangeBreak	string	40	インターチェンジをブレイクするために使用するインターチェンジブレイク トランスレーション オブジェクトを格納します。
GroupBreak	string	40	インターチェンジ内のファンクショナルグループをブレイクするために使用するファンクショナルグループブレイク トランスレーション オブジェクトを格納します。
TransactionBreak	string	40	インターチェンジ内のトランザクションセットをブレイクするために使用するトランザクションセットブレイク トランスレーション オブジェクトを格納します。
FAExtract	string	40	インターチェンジからインターチェンジレベル ファンクショナル受信確認を抽出するために使用するファンクショナル受信確認ブレイク トランスレーション オブジェクトを格納します。
RepeatingElement Delim	string	1	繰り返しエレメントの区切文字を格納します。
RepeatingElement DelimPosn	number (integer)	2	データ内の繰り返しエレメント区切文字の場所を格納します。
BinarySegment	string	50	システムがデータ内で検索するバイナリセグメントの名前を格納します。

## システム インポート テーブル

### はじめに

システム インポート テーブル (SystemImport\_tb) には、インポート パラメータの各セットについてのレコードが格納されます。インポート パラメータを使用すると、指定の場所にある指定のファイル拡張子のファイルをトランスレートする際に使用するインポートまたはシステム インポート トランスレーション オブジェクトを決定できます。

### テーブル

次の表に、システム インポート テーブルのフィールド情報をまとめます。

SystemImport_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Sequence	number (integer)	2	パラメータの階層リスト内のインポート パラメータの順序位置を格納します。
Filemask	string	255	ファイルのパスとタイプ (または特定のファイル名) を格納します。
Template	string	40	指定されたタイプのファイルがインポートされた際にトランスレーションを開始するためにシステムで使用するインポートまたはシステム インポート トランスレーション オブジェクトを表示します。

## トランスレーションオブジェクトテーブル

### はじめに

トランスレーションオブジェクトテーブル (Template\_tb) には、Gentran:Server システムで登録済みの各トランスレーションオブジェクトについてのレコードが格納されます。トランスレーションオブジェクトをシステムに初めて登録すると、トランスレータによりレコードが作成されます。トランスレータは、トランスレーションオブジェクトが再登録されるとレコードを更新します。トランスレータは、トランスレーションオブジェクトがシステムから削除されるとレコードを削除します。

### テーブル

次の表に、トランスレーションオブジェクトテーブルのフィールド情報をまとめます。

Template_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Type	number (integer)	2	トランスレーションオブジェクトのタイプを示します。  0 = インポート 1 = エクスポート 2 = 印刷 3 = 画面入力 4 = ターンアラウンド 5 = トランザクションビルド 6 = トランザクションブレイク 7 = ファンクショナルグループビルド 8 = ファンクショナルグループブレイク 9 = インターチェンジビルド 10 = インターチェンジブレイク 11 = F/A アウトバウンド 12 = F/A インバウンド 13 = システム インポート  (次のページへ続く)

( 続き ) Template_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
nTemplateKEY	number (long)	4	トランスレーション オブジェクトを識別する、システムが生成した一意の番号です。
TemplateKEY	string	40	システムでトランスレーション オブジェクトを識別するために使用する、トランスレーション オブジェクトの一意の説明です。
InputAgency	number (integer)	2	トランスレーション オブジェクトの入力側に使用する EDI スタandard エージェンシーを示します。
InputVersion	string	13	トランスレーション オブジェクトの入力側に使用するスタANDARD バージョンを示します。
InputTransactionID	string	150	トランスレーション オブジェクトの入力側に使用するトランザクションセット (メッセージ) を示します。
InputRelease	number (integer)	2	トランスレーション オブジェクトの入力側に使用する Message Release 番号を示します。
InputFunctionalGroup	string	6	トランスレーション オブジェクトの入力側に使用するファンクショナルグループを示します。
OutputAgency	number (integer)	2	トランスレーション オブジェクトの出力側に使用する EDI スタANDARD エージェンシーを示します。
OutputVersion	string	13	トランスレーション オブジェクトの出力側に使用するスタANDARD バージョンを示します。
OutputTransactionID	string	150	トランスレーション オブジェクトの出力側に使用するトランザクションセット (メッセージ) を示します。
OutputRelease	number (integer)	2	トランスレーション オブジェクトの出力側に使用する Message Release 番号を示します。 <span style="color: green;">( 次のページへ続く )</span>

( 続き ) Template_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
OutputFunctionalGroup	string	6	トランスレーション オブジェクトの出力側に使用するファンクショナルグループを示します。
IsSystem	number (integer)	2	トランスレーション オブジェクトがシステム トランスレーション オブジェクト ( システムで内部的に使用するオブジェクト ) であるかどうかを示します。
Filename	string	255	TransObj フォルダ内のトランスレーション オブジェクト ファイルの名前です。
UsageCount	number (long)	4	このトランスレーション オブジェクトを参照するパートナー関係の番号です。



## ユーザー テーブル

### はじめに

ユーザー テーブル (User\_tb) には、Gentran:Server システム内の各ユーザーについてのレコードが格納されます。ユーザーを作成すると、トランスレータによりレコードが作成されます。トランスレータは、ユーザー情報が変更されるとレコードを更新します。トランスレータは、ユーザーがシステムから削除されるとレコードを削除します。

### テーブル

次の表に、ユーザー テーブルのフィールド情報をまとめます。

User_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
UserIDKEY	string	20	ユーザーを識別する、システムが生成した一意のキーです。
UserName	string	42	ユーザーの名前です。
Password	string	28	ユーザーのパスワードです。
AccessCtlMatrix	number (long)	4	Gentran:Server システムへのユーザーのアクセスを示します。複数の値を選択した場合、それらの値はシステムにより値の間に "OR" が挿入されたものとして認識されます。  1 = システム管理 2 = パートナー管理 4 = 送信 / 受信 8 = インポート 16 = エクスポート 32 = 画面入力 64 = 自動処理

# パートナー プロファイル テーブル

## 概要

### はじめに

---

このセクションでは、Gentran:Server におけるインバウンドおよびアウトバウンド データの処理と構造を管理し、外部情報へのトランスレータ アクセスを提供するテーブルをまとめます。パートナー プロファイル テーブルは、その機能に応じて次の 2 種類に分けられます。

- ▶ パートナー管理テーブル
  - ▶ パートナー参照テーブル
-

## パートナー管理テーブル

### はじめに

パートナー管理テーブルには、受信確認、Control Number、エンベロープ情報などのシステムでインバウンドおよびアウトバウンド EDI データを処理するために必要なすべての情報が格納されます。パートナー管理テーブルは次のとおりです。

- ▶ ファンクショナルグループ管理テーブル (FunctionalGroupControl\_tb)
- ▶ 一般的なエンベロープ セグメント テーブル (GenericEnvelopeSegment\_tb)
- ▶ インターチェンジ管理テーブル (InterchangeControl\_tb)
- ▶ パートナー テーブル (Partner\_tb)
- ▶ 関係テーブル (Relationship\_tb)

### ファンクショナルグループ管理テーブル

ファンクショナルグループ管理テーブル (FunctionalGroupControl\_tb) には、Gentran:Server システム内の各ファンクショナルグループについてのレコードが格納されます。ファンクショナルグループ定義を作成するたびに、パートナーエディタによりファンクショナルグループ管理テーブル内にレコードが作成されます。ファンクショナルグループに Control Number が受信または生成されるたびに、トランスレータはファンクショナルグループ管理テーブル内の対応するレコードを更新します。パートナーエディタは、対応するファンクショナルグループ定義が削除されると、ファンクショナルグループ管理テーブルからレコードを削除します。

#### テーブル

次の表に、ファンクショナルグループ管理テーブルのフィールド情報をまとめます。

FunctionalGroupControl_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
PartnerKEY	string	10	ファンクショナルグループの所属先であるパートナーの一意の識別子です。
Direction	number (integer)	2	ファンクショナルグループの方向を示します。  0 = インバウンド 1 = アウトバウンド
FunctionalGroupControlKEY	string	20	ファンクショナルグループの名前です。  (次のページへ続く)

( 続き ) FunctionalGroupControl_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
GroupSequenceCheck Type	number (integer)	2	このグループに使用するグループ順番 検査のタイプを示します。  0 = なし 1 = 連番 2 = 日付順 3 = 重複
Agency	number (integer)	2	このファンクショナルグループに使用 する EDI スタンドードです。
Version	string	13	このファンクショナルグループに使用 するスタンダードバージョンです。
FunctionalGroupID	string	6	このファンクショナルグループの EDI スタンダード ID です (PO、IN など)。
SegmentID	string	10	グループのセグメントを管理するセ グメント ID です (GS、UNG、BAT など)。
TemplateKEY	string	40	このファンクショナルグループに使用 する、パートナー固有のグループ ビルドまたはブレイク トランスレー ションオブジェクトです。
AckExpected	number (integer)	2	この関係で定義されているグループを パートナーが受信した結果として、シ ステムがこのトレーディング パート ナーからファンクショナル受信確認を 受け取ることを想定します (アウトバ ウンド)。
HoursOverdue	number (integer)	2	受信確認を時間切れであるとみなすま での経過時間数を定義します。
AckTemplateKEY	string	40	このファンクショナルグループに使用 する、受信確認ビルドまたはブレイ ク トランスレーションオブジェクト です。
AckTransactionSetID	string	150	ファンクショナルグループ用に生成 される受信確認を示します (インバウ ンド)。  <span style="color: green;">( 次のページへ続く )</span>

( 続き ) FunctionalGroupControl_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
ControlNumber	string	255	次のグループ Control Number を生成するために使用する、パートナー関係からの値です。
NumberTransFrom Group	number (integer)	2	グループ内のトランザクション セットの数です。
TransControlNumber Format	number (integer)	2	トランザクション Control Number の書式です。
TransSequenceCheck Type	number (integer)	2	このグループでのトランザクション Control Number に使用する順番検査のタイプを示します。  0 = なし 1 = 連番 2 = 日付順
TransControlNumber	string	255	トランザクション Control Number です。

---

( 次のページへ続く )

### 一般的な エンベロープ セグメント テーブル

一般的なエンベロープ セグメント テーブル (GenericEnvelopeSegment\_tb) には、Gentran:Server システム内の各エンベロープについてのレコードが格納されます。このテーブルは、エンベロープ情報をインターチェンジ、グループ、またはドキュメントに挿入するためのカスタム エンベロープに使用します。また、このテーブルにより、エンベロープ情報への一貫したアクセスがトランスレータに提供されます。エンベロープが作成されると、トランスレータにより一般的なエンベロープ セグメント テーブル内にレコードが作成されます。トランスレータは、対応するレコードが更新されると、一般的なエンベロープ セグメント テーブル内のレコードを更新します。トランスレータは、システムからエンベロープが削除されると、一般的なエンベロープ セグメント テーブル内のレコードを削除します。

#### テーブル

次の表に、一般的なエンベロープ セグメント テーブルのフィールド情報をまとめます。

GenericEnvelopeSegment_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
EnvelopeLevel	number (integer)	2	予約フィールドです。
PartnerKEY	string	10	予約フィールドです。
Description	string	40	予約フィールドです。
Direction	number (integer)	2	予約フィールドです。
ControlNumber	string	255	予約フィールドです。
Field1	string	40	予約フィールドです。
Field2	string	40	予約フィールドです。
Field3	string	40	予約フィールドです。
Field4	string	40	予約フィールドです。
Field5	string	40	予約フィールドです。
Field6	string	40	予約フィールドです。
Field7	string	40	予約フィールドです。
Field8	string	40	予約フィールドです。
Field9	string	40	予約フィールドです。

(次のページへ続く)

( 続き ) GenericEnvelopeSegment_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Field10	string	40	予約フィールドです。
Field11	string	40	予約フィールドです。
Field12	string	40	予約フィールドです。
Field13	string	40	予約フィールドです。
Field14	string	40	予約フィールドです。
Field15	string	40	予約フィールドです。
Field16	string	40	予約フィールドです。
Field17	string	40	予約フィールドです。
Field18	string	40	予約フィールドです。
Field19	string	40	予約フィールドです。
Field20	string	40	予約フィールドです。
Field21	string	40	予約フィールドです。
Field22	string	40	予約フィールドです。
Field23	string	40	予約フィールドです。
Field24	string	40	予約フィールドです。
Field25	string	40	予約フィールドです。
Field26	string	40	予約フィールドです。
Field27	string	40	予約フィールドです。
Field28	string	40	予約フィールドです。
Field29	string	40	予約フィールドです。
Field30	string	40	予約フィールドです。
SubCountField	string	18	予約フィールドです。
ControlNumberLength	number (integer)	2	予約フィールドです。
Field31	string	255	予約フィールドです。

( 次のページへ続く )

( 続き ) GenericEnvelopeSegment_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Field32	string	255	予約フィールドです。
Field33	string	255	予約フィールドです。
Field34	string	255	予約フィールドです。
Field35	string	255	予約フィールドです。
Field36	string	25540	予約フィールドです。
Field37	string	255	予約フィールドです。
Field38	string	255	予約フィールドです。
Field39	string	255	予約フィールドです。
Field40	string	255	予約フィールドです。

### インターチェンジ 管理テーブル

インターチェンジ管理テーブル (InterchangeControl\_tb) には、Gentran:Server システム内の各インターチェンジについてのレコードが格納されます。インターチェンジ定義を作成するたびに、パートナー エディタにより インターチェンジ管理テーブル内にレコードが作成されます。トランスレータは、インターチェンジの Control Number が受信または生成されるたびに、インターチェンジ管理テーブル内の対応するレコードを更新します。パートナー エディタは、対応するインターチェンジ定義が削除されると、インターチェンジ管理テーブルからレコードを削除します。

#### テーブル

次の表に、インターチェンジ管理テーブルのフィールド情報をまとめます。

InterchangeControl_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
PartnerKEY	string	10	インターチェンジの所属先であるパートナーの一意の識別子です。
Direction	number (integer)	2	インターチェンジの方向を示します。 0 = インバウンド 1 = アウトバウンド
InterchangeControlKEY	string	40	インターチェンジの名前です。

( 次のページへ続く )



( 続き ) InterchangeControl_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Agency	number (integer)	2	このインターチェンジに使用する EDI スタンダードです。
Version	string	13	このインターチェンジに使用するスタ ンダード バージョンです。
TemplateKEY	string	40	このインターチェンジに使用する、 パートナー固有のグループビルドま たはブレーク トランスレーション オ ブジェクトです。
SegmentID	string	10	インターチェンジのセグメントを管理 するセグメント ID です (ISA、UNB、 STX など)。
AckExpected	number (integer)	2	この関係で定義されているインター チェンジをパートナーが受信した結 果として、システムがこのトレー ディング パートナーから受信確認を 受け取ることを想定します (アウトバ ウンド)。
HoursOverdue	number (integer)	2	受信確認を時間切れであるとみなすま での経過時間数を定義します。
AckTemplateKEY	string	40	このインターチェンジに使用する、受 信確認ビルドまたはブレーク トラン スレーション オブジェクトです。
AckTransactionSetID	string	150	インターチェンジ用に生成される受信 確認を示します (インバウンド)。
ControlNumber	string	255	次のインターチェンジ Control Number を生成するために使用する、パート ナー関係からの値です。
SequenceCheckType	number (integer)	2	このインターチェンジに使用する順番 検査のタイプを示します。  0 = なし 1 = 連番 2 = 日付順 3 = 重複  ( 次のページへ続く )

( 続き ) InterchangeControl_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
MsgContentType	string	125	インターチェンジデータを含むメッセージを作成する場合に、"コンテンツタイプ"フィールドの書式設定に使用されます。"アプリケーション"に初期化されます。
MsgContentSubType	string	125	インターチェンジデータを含むメッセージを作成する場合に、"コンテンツサブタイプ"フィールドを書式設定するために使用されます。"EDI"に初期化されます。
MaxDocsperint	number (long)	4	インターチェンジに含めるドキュメントの数を決定するため、トランスレータが使用します。0に初期化され、インターチェンジあたりのドキュメント数に制限はありません。
Mailbox	string	125	インバウンドおよびアウトバウンド処理に使用する定義済みのコミュニケーション設定を指定します。
EMailAddress	string	125	選択されたメールボックスが交換ゲートウェイの場合、メッセージアドレスを識別するために使用されます。

( 次のページへ続く )

## パートナー テーブル

パートナー テーブル (Partner\_tb) には、Gentran:Server システム内の各パートナー プロファイルについてのレコードが格納されます。パートナー プロファイル定義を作成するたびに、パートナー エディタによりパートナー テーブル内にレコードが作成されます。パートナー エディタは、パートナー プロファイルが変更されるたびに、パートナー テーブル内の対応するレコードを更新します。パートナー エディタは、対応するパートナー プロファイル定義が削除されると、パートナー テーブルからレコードを削除します。

### テーブル

次の表に、パートナー テーブルのフィールド情報をまとめます。

Partner_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
PartnerKEY	string	10	このパートナーの一意の識別子です。
EDICode	string	255	インバウンド処理の際に正しいパートナーを選択するために使用される EDI 識別子です。
ApplicationPartnerKEY	string	255	アウトバウンド インポート処理の際に正しいパートナーを選択するために使用される、このパートナーのアプリケーション識別子です。
IsSystem	number (integer)	2	このパートナーが <内部システム ユーザー> パートナーであるかどうかを示します。  0 = <内部システム ユーザー> パートナーではない  1 = <内部システム ユーザー> パートナー
PartnerName	string	40	このパートナーを識別する一意の名前です。
Mailbox	string	125	インバウンドおよびアウトバウンド処理に使用する定義済みのコミュニケーション設定を指定します。  (次のページへ続く)

( 続き ) Partner_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
EEmailAddress	string	125	選択されたメールボックスが交換ゲートウェイの場合、メッセージアドレスを識別するために使用されます。
Editing	number (integer)	2	特定のパートナー関係が編集処理中であることを示すために使用されます。 0= 編集集中ではない 1= 現在、編集集中

## 関係テーブル

関係テーブル (Relationship\_tb) には、Gentran:Server システム内の各インバウンドまたはアウトバウンド関係についてのレコードが格納されます。インバウンドまたはアウトバウンド関係定義を作成するたびに、パートナー エディタにより関係テーブル内にレコードが作成されます。パートナー エディタは、インバウンドまたはアウトバウンド関係定義が変更されるたびに、関係テーブル内の対応するレコードを更新します。パートナー エディタは、対応するインバウンドまたはアウトバウンド関係定義が削除されると、関係テーブルからレコードを削除します。

### テーブル

次の表に、関係テーブルのフィールド情報をまとめます。

Relationship_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
PartnerKEY	string	10	関係の所属先であるパートナーの一意の識別子です。
Direction	number (integer)	2	関係の方向を示します。 0 = インバウンド 1 = アウトバウンド
Agency	number (integer)	2	この関係に使用する EDI スタンドアードです。
Version	string	13	この関係に使用するスタンダードバージョンです。
TransactionSetID	string	150	この関係に使用するトランザクションセット (メッセージ) です。  ( 次のページへ続く )

( 続き ) Relationship_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Release	number (integer)	2	この関係に使用するメッセージバージョンリリース番号です。
TestMode	number (integer)	2	パートナー関係をテスト状態とするか本番状態とするかを示します。  0 = 本番 1 = テスト
Description	string	40	関係の名前です。
ImportTemplateKEY	string	40	この関係に使用するインポートトランスレーションオブジェクトを示します。
DataEntryTemplateKEY	string	40	この関係に使用する画面入力トランスレーションオブジェクトを示します。
TurnAroundTemplateKEY	string	40	この関係に使用するターンアラウンドトランスレーションオブジェクトを示します。
PrintTemplateKEY	string	40	この関係に使用する印刷トランスレーションオブジェクトを示します。
RelationshipTemplateKEY	string	40	この関係に使用する関係トランスレーションオブジェクトを示します。これにより、トランザクションおよびドキュメントレベルでのシステムの動作を変更できるようになります。パートナー固有のトランスレーションオブジェクトを使用することや、必要に応じた数の機能を実行することができます。
ExportTemplateKEY	string	40	この関係に使用するエクスポートトランスレーションオブジェクトを示します。
ComplianceCheckTemplateKEY	string	40	エラーをチェックするトランスレーションオブジェクトを示します。  ( 次のページへ続く )

( 続き ) Relationship_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
ExportFileName	string	130	エクスポート動作の結果として作成または追加されるファイル名を示します。
ExportToFlatFileNow	number (integer)	2	この関係で定義されているドキュメントを受信したら、エクスポート ファイルを自動的に作成するかどうかを示します。  0 = 自動的にエクスポートしない 1 = 自動的にエクスポートする
TurnAroundNow	number (integer)	2	この関係で定義されているドキュメントを受信したら、定義済みのターンアラウンド処理を自動的に実行するかどうかを示します。  0 = 自動的にターンアラウンドしない 1 = 自動的にターンアラウンドする
SequenceCheckType	number (integer)	2	この関係で定義されているトランザクションセット (メッセージ) に使用する順番検査のタイプを示します。  0 = なし 1 = 順番検査 - 連番 2 = 順番検査 - 日付順 3 = 順番検査 - 重複 256 = ドキュメントの重複の検査のみ 257 = 順番検査 - 連番 + ドキュメントの重複 258 = 順番検査 - 日付順 + ドキュメントの重複 259 = 順番検査 - 重複 + ドキュメントの重複  ( 次のページへ続く )

( 続き ) Relationship_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
SkipComplianceCheck	number (integer)	2	エラー チェックを実行しないことを示します。  0 = エラー チェックを実行しない 1 = エラー チェックを実行する
AckErrors	number (integer)	2	エラー詳細ありで受信確認を生成するかどうかを定義します。  0 = エラー詳細なし 1 = エラー詳細あり
AckExpected	number (integer)	2	この関係で定義されているトランザクションセット (メッセージ) をパートナーが受信した結果として、システムがこのトレーディング パートナーから受信確認を受け取ることを想定します (アウトバウンド)。
HoursOverdue	number (integer)	2	受信確認を時間切れであるとみなすまでの経過時間数を定義します。
AckTemplateKEY	string	40	この関係に使用する、受信確認ビルドまたはブレーク トランスレーションオブジェクトです。
AckTransactionSetID	string	150	トランザクションセット用に生成される受信確認を示します (インバウンド)。
ApplicationKEY	string	150	この関係で定義されているドキュメントの宛先を示すアプリケーション識別子を定義します。
Alias	string	150	システムでこの関係をほかの関係から区別するための特定の基準を示します。
FunctionalGroupControlKEY	string	20	この関係を参照する、パートナーエディタでのグループ管理レコードです。
InterchangeControlKEY	string	40	この関係を参照する、パートナーエディタでのインターチェンジ管理レコードです。  ( 次のページへ続く )

( 続き ) Relationship_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
ControlNumber	string	255	次のトランザクション セット Control Number を生成するために使用する、パートナー関係からの値です。
ImmediateAck Processing	number (integer)	2	受信確認の整合がインバウンド ブレーク セッションの間に行われるか、スケジュール間隔の間に行われるかを指定するフラグです。
IsAcknowledgement	number (integer)	2	このパートナー関係で定義されているトランザクションが受信確認であるかどうかを指定するフラグです。
ExportToMailbox	number (integer)	2	インバウンド トランスレーションの出力をメールボックス サーバー マネージャに返送できるようにする " メールボックスへエクスポート " 機能呼び出すかどうかを指定するフラグです。
RecipientMailbox	string	125	インバウンド トランスレーションの出力が配送される先のメールボックスです。
RecipientEMailAddress	string	125	インバウンド トランスレーションの出力が配送される先の E メール アドレスです。
ContentType	string	255	インバウンド トランスレーションの出力が含まれているメッセージのコンテンツ タイプです。
ContentSubType	string	255	インバウンド トランスレーションの出力が含まれているメッセージのコンテンツ サブタイプです。



## パートナー参照テーブル

そのテーブルが特定のパートナーに使用されるか、内部システム ユーザー パートナーに使用される (グローバルに使用される) には関わらず、パートナー参照テーブルには、パートナー エディタで設定またはインポートされた参照テーブル内のすべての情報が格納されます。パートナー固有または内部システム ユーザー テーブルの使用は、トランスレーション オブジェクトの設計時にトランスレーション オブジェクト内で定義します。パートナー参照テーブルは次のとおりです。

- ▶ クロス リファレンス テーブル (CrossReference\_tb)
- ▶ 所在地テーブル (Location\_tb)
- ▶ 照合テーブル (Lookup\_tb)

### クロスリファレンス テーブル

クロス リファレンス テーブル (CrossReference\_tb) には、Gentran:Server システム内の各クロス リファレンス テーブルについてのレコードが格納されます。Gentran:Server のクロス リファレンス テーブルを使用すると、パートナーに送信する前に入力データを変換できます。パートナー エディタでクロス リファレンス テーブルを作成するたびに、パートナー エディタによりクロス リファレンス テーブル内にレコードが作成されます。パートナー エディタは、クロス リファレンス テーブルが変更されるたびに、クロス リファレンス テーブル内の対応するレコードを更新します。パートナー エディタは、パートナー エディタで対応するクロス リファレンス テーブルが削除されると、クロス リファレンス テーブルからレコードを削除します。

#### テーブル

次の表に、クロス リファレンス テーブルのフィールド情報をまとめます。

CrossReference_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
PartnerKEY	string	10	クロス リファレンス テーブルの所属先であるパートナーの一意の識別子です。
TableName	string	8	テーブルの名前です。
MyItem	string	255	パートナーのデータ値に対応するデータ値です。
PartnerItem	string	255	ユーザーのデータ値に対応するパートナーのデータ値です。
Description	string	255	MyItem コードと PartnerItem コードの説明です。  (次のページへ続く)

( 続き ) CrossReference_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Text1	string	255	特定のコード値と関連付けられているときにマップできるフィールドです。
Text2	string	255	特定のコード値と関連付けられているときにマップできるフィールドです。
Text3	string	255	特定のコード値と関連付けられているときにマップできるフィールドです。
Text4	string	255	特定のコード値と関連付けられているときにマップできるフィールドです。

---

( 次のページへ続く )

## 照合テーブル

照合テーブル (Lookup\_tb) には、Gentran:Server システム内の各照合テーブルについてのレコードが格納されます。Gentran:Server の 照合テーブルを使用すると、パートナーに送信する前に入力データを補足できます。パートナー エディタで照合テーブルを作成するたびに、パートナー エディタにより照合テーブル内にレコードが作成されます。パートナー エディタは、照合テーブルが変更されるたびに、照合テーブル内の対応するレコードを更新します。パートナー エディタは、パートナー エディタで対応する照合テーブルが削除されると、照合テーブルからレコードを削除します。

### テーブル

次の表に、照合テーブルのフィールド情報をまとめます。

Lookup_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
PartnerKEY	string	10	照合テーブルの所属先であるパートナーの一意的識別子です。
TableName	string	8	テーブルの名前です。
Item	string	255	インバウンド処理またはアウトバウンド処理の際に、データ内で照合される値です。
Description	string	255	MyItem コードと PartnerItem コードの説明です。
Text1	string	255	特定のコード値と関連付けられているときにマップできるフィールドです。
Text2	string	255	特定のコード値と関連付けられているときにマップできるフィールドです。
Text3	string	255	特定のコード値と関連付けられているときにマップできるフィールドです。
Text4	string	255	特定のコード値と関連付けられているときにマップできるフィールドです。

(次のページへ続く)

## 所在地テーブル

所在地テーブル (Location\_tb) には、Gentran:Server システム内の各所在地テーブルについてのレコードが格納されます。Gentran:Server の所在地テーブルを使用すると、アウトバウンド データに名前と住所を挿入できます。パートナー エディタで所在地テーブルを作成するたびに、パートナー エディタにより所在地テーブル内にレコードが作成されます。パートナー エディタは、所在地テーブルが変更されるたびに、所在地テーブル内の対応するレコードを更新します。パートナー エディタは、パートナー エディタで対応する所在地テーブルが削除されると、所在地テーブルからレコードを削除します。

### テーブル

次の表に、所在地テーブルのフィールド情報をまとめます。

Location_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
PartnerKEY	string	10	所在地テーブルの所属先であるパートナーの一意的識別子です。
Name	string	255	パートナーの所在地の名前です。
PrimaryReferenceCode	string	255	この所在地を識別するために使用される第 1 参照コードです。
SecondaryReference Code	string	255	この所在地を識別するために使用される第 2 参照コードです。
Address1	string	35	住所の 1 行目です。
Address2	string	35	住所の 2 行目です。
Address3	string	35	住所の 3 行目です。
City	string	20	この所在地の市の名前です。
State	string	10	この所在地の都道府県名です。
Zip	string	10	この所在地の郵便番号です。
Country	string	10	この所在地の国コードです。
ContactName	string	35	このパートナーのオフィスにおける担当者の名前です。
Telephone	string	20	電話番号です。
Fax	string	20	FAX 番号です。

# オーディット テーブルおよび通知テーブル

## 概要

### はじめに

オーディット テーブルには、Gentran:Server オーディット ログの中の全情報が格納されます。オーディット ログには、システムで発生する各重大イベントについてのレコードが含まれています。通常、オーディット ログはシステムの問題を解決するためや、ユーザーの動作をトラックするための情報を取得するために使用します。通知テーブルには、通知の中の全情報が格納されます。通知サブシステムでは、通知パラメータを設定することにより、エラーがオーディット ログに書き込まれる時点を事前に通知できます。オーディット テーブルおよび通知テーブルは次のとおりです。

- ▶ オーディット コンポーネント ID テーブル (AuditComponentID\_tb)
- ▶ オーディット メッセージ テーブル (AuditMsg\_tb)
- ▶ オーディット ソース ID テーブル (AuditSourceID\_tb)
- ▶ データ オーディット ログ テーブル (DataAuditLog\_tb)
- ▶ データ オーディット タイプ テーブル (DataAuditType\_tb)
- ▶ 通知テーブル (Notify\_tb)
- ▶ 通知動作テーブル (NotifyAction\_tb)
- ▶ 通知ログ テーブル (NotifyLog\_tb)
- ▶ オペレータ テーブル (Operators\_tb)
- ▶ 処理オーディット ログ テーブル (ProcAuditLog\_tb)

## オーディット コンポーネント ID テーブル

### はじめに

オーディット コンポーネント ID テーブル (AuditComponentID\_tb) は、コンポーネント ID とその説明をクロス リファレンスします。

### テーブル

次の表に、オーディット コンポーネント ID テーブルのフィールド情報をまとめます。

AuditComponentID_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
SourceID	number (long)	4	コンポーネントの構成元のソース ID です。
ComponentID	number (integer)	2	メッセージを生成している、ソース内の機能領域です。
ComponentIDName	string	30	コンポーネント ID の説明テキストです。 <b>例</b> トランスレータ

## オーディット メッセージ テーブル

### はじめに

オーディット メッセージ テーブル (AuditMsg\_tb) には、各オーディット ログ エラー メッセージについてのレコードが格納されます。各メッセージは、オーディット メッセージ番号とオーディット メッセージの実際のテキストから成ります。

### テーブル

次の表に、オーディット メッセージ テーブルのフィールド情報をまとめます。

AuditMsg_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
SourceID	number (long)	4	コンポーネントの構成元のソース ID です。
ComponentID	number (integer)	2	メッセージを生成している、ソース内の機能領域です。
MsgID	number (long)	4	1 ~ 65535 の範囲の値です。ソース / コンポーネントによって生成された特定のエラーを示します。
Severity	number (integer)	2	エラーの重要度を示します。有効な値は次のとおりです。 1 = エラー 2 = 警告 4 = 情報
AuditMsgType	number (integer)	2	オーディット メッセージのタイプ (システムまたはユーザー定義) です。
MsgText	string	255	オーディット メッセージ テキストです。
UserMsgText	string	255	ユーザー定義のオーディット メッセージのテキストです。
SystemMsg	number (integer)	2	メッセージがシステム メッセージかどうかを示します。  (次のページへ続く)

( 続き ) AuditMsg_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
WriteToAuditLog	number (integer)	2	メッセージがオーディット ログに書き込まれるかどうかを示すブールフラグです。
WriteToEventLog	number (integer)	2	メッセージがイベント ログに書き込まれることを示すブールフラグです。

---



## オーディット ソース ID テーブル

### はじめに

オーディット ソース ID テーブル (AuditSourceID\_tb) は、ソース ID とその説明をクロス リファレンスします。

### テーブル

次の表に、オーディット ソース ID テーブルのフィールド情報をまとめます。

AuditSourceID_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
SourceID	number (long)	4	メッセージのソース ID です。
SourceIDName	string	30	ソース ID の説明テキストです。

## データ オーディット ログ テーブル

### はじめに

データ オーディット ログ テーブル (DataAuditLog\_tb) には、システム内の特定のデータに関するシステム動作を示すオーディット メッセージが格納されます。

### テーブル

次の表に、データ オーディット ログ テーブルのフィールド情報をまとめます。

DataAuditLog_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
AuditEntryKEY	number (long)	4	順次増分され、各オーディット エントリを一意に識別する番号です。
DataAuditType	number (integer)	2	データ オーディット タイプを表す数値です。
DataAuditKEY	string	50	オーディットにより活動が示されるテーブルのキーに関連します。  <b>例</b> ドキュメント オーディットの DocumentKEY。
SourceID	number (long)	4	メッセージのソースです。
ComponentID	number (integer)	2	メッセージを生成している、ソース内の機能領域です (トランスレータを表す ID など)。
MsgID	number (long)	4	1 ~ 65535 の範囲の値です。ソース / コンポーネントによって生成された特定のエラーを示します。
Severity	number (integer)	2	エラーの重要度を示します。
EventID	number (long)	4	生成されたオーディット メッセージを関連の処理によってグループ分けするために使用され、オーディットメッセージが属するイベント ID を示します。  (次のページへ続く)

( 続き ) DataAuditLog_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
EventType	number (integer)	2	イベントのタイプです。  0 = 未定義 1 = システム イベント 2 = 自動イベント ( スケジューラ イベント ) 3 = 対話イベント ( ユーザー セッション ) 4 = チャネル イベント
EventName	string	50	イベントの説明テキストです。
AuditDateTime	datetime	8	オーディット ログ エントリが作成された日付と時刻です。
UserID	string	255	オーディット ログ エントリを要求しているアプリケーションに関連付けられている Windows ユーザー ID です。
MachineName	string	31	オーディット ログ エントリを要求しているコンピュータの名前です。
Parm1	string	255	オーディット メッセージを書式設定しているプログラムが実行時に選択するパラメータ値です。
Parm2	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm3	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm4	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm5	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm6	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm7	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm8	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm9	string	50	Parm1 を参照してください。  <span style="color: green;">( 次のページへ続く )</span>

( 続き ) DataAuditLog_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Parm10	string	50	Parm1 を参照してください。
Restored	number (integer)	2	エントリがアーカイブされたデータから復元されたかどうかを示します。  0 = 復元されなかった 1 = 復元された

---

## データ オーディット タイプ テーブル

### はじめに

"データ オーディット タイプ テーブル (DataAuditType\_tb)" は、データ オーディット タイプをその説明内でクロス リファレンスします。

### テーブル

次の表に、"データ オーディット タイプ テーブル" のフィールド情報をまとめます。

DataAuditType_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
DataAuditType	number (integer)	2	データ オーディット タイプを表す数値です。 <b>メモ</b> 初期値は次のとおりです。 0 = 処理中 4 = セッション 5 = メッセージ 6 = 添付 7 = PIP
DataAuditTypeName	string	30	データ オーディット タイプの説明テキストです。

## 通知テーブル

### はじめに

通知テーブル (Notify\_tb) には、通知サブシステムで定義されている通知パラメータの各セットについてのレコードが格納されます。クライアント通知を呼び出すために指定できるパラメータには、オーディット メッセージ番号およびシステムが実行する動作が含まれます。

### テーブル

次の表に、通知テーブルのフィールド情報をまとめます。

Notify_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
NotifyName	string	35	通知定義を識別する一意の名前です。
NotifyEnabled	number (integer)	2	通知機能が有効であるかどうかを示すフラグです。
SourceID	number (long)	4	コンポーネントの構成元のソース ID です。
ComponentID	number (integer)	2	メッセージを生成している、ソース内の機能領域です。
MsgID	number (long)	4	1 ~ 65535 の範囲の値です。ソース / コンポーネントによって生成された特定のエラーを示します。
Severity	number (integer)	2	エラーの重要度を示します。
IncludeErrorMsg	number (integer)	2	このエラー メッセージを通知に含めるかどうかを示すフラグです。
AlphaNotifyText	string	255	オペレータに送信する追加の通知メッセージです。
NumPagerRespType	number (integer)	2	通知が数値ページであるか、テキストメッセージであるかを示します。
NumNotifyText	string	255	メッセージベースのページのテキストです。

## 通知動作テーブル

**はじめに** 通知動作テーブル (NotifyAction\_tb) には、通知動作に関する情報が格納されます。

**テーブル** 次の表に、通知動作テーブルのフィールド情報をまとめます。

NotifyAction_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
NotifyName	string	35	通知定義を識別する一意の名前です。
NotifyAction	number (integer)	2	通知で行われる動作のタイプを示します。 0 = オペレータ警告 1 = オペレータ E メール 2 = オペレータ ページ 5 = スケジューラ イベント 6 = タスク 7 = ストアド プロシージャ
NotifyOperatorID	string	255	オペレータ テーブルで定義されている、通知を受け取るオペレータの Windows ユーザー ID です。
TaskName	string	255	通知の結果として開始されるスケジューラ イベントの名前を示します。

## 通知ログ テーブル

**はじめに** 通知ログ テーブル (NotifyLog\_tb) には、通知ログに関する情報が格納されます。

**テーブル** 次の表に、通知ログ テーブルのフィールド情報をまとめます。

NotifyLog_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
NotifyEntryKEY	number (long)	4	各通知ログ エントリを識別する一意の値です。
NotifyName	string	35	通知定義を識別する一意の名前です。
NotifyAction	number (integer)	2	通知で行われる動作のタイプを示します。 0 = オペレータ警告 1 = オペレータ E メール 2 = オペレータ ページ 5 = スケジューラ イベント 6 = タスク 7 = ストアド プロシージャ
NotifyOperator	string	255	通知を受け取るオペレータの Windows ユーザー ID です。
NotifyMsgText	string	255	通知メッセージのテキストです。
AuditEntryKEY	number (long)	4	オーディットにより活動が示されるテーブルのキーに関連します。
AuditMsgType	number (integer)	2	オーディット メッセージのタイプを示します。 3 = 外部データ
DataAuditKEY	string	50	オーディット メッセージのソースです。 (次のページへ続く)



( 続き ) NotifyLog_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
SourceID	number (long)	4	通知で行われる動作のタイプを示します。  0 = オペレータ警告 1 = オペレータ E メール 2 = オペレータ ページ 5 = スケジューラ イベント 6 = タスク 7 = ストアド プロシージャ
ComponentID	number (integer)	2	オペレータ テーブルで定義されている、通知を受け取るオペレータの Windows ユーザー ID です。
MsgID	number (long)	4	通知で行われる動作のタイプを示します。  0 = オペレータ警告 1 = オペレータ E メール 2 = オペレータ ページ 5 = スケジューラ イベント 6 = タスク 7 = ストアド プロシージャ
EventID	number (long)	4	生成されたオーディット メッセージを関連の処理によってグループ分けするために使用され、オーディットメッセージが属するイベント ID を示します。
EventType	number (integer)	2	イベントのタイプです。  0 = 未定義 1 = システム イベント 2 = 自動イベント ( スケジューラ イベント ) 3 = 対話イベント ( ユーザー セッション ) 4 = メールボックス イベント  <span style="color: green;">( 次のページへ続く )</span>

( 続き ) NotifyLog_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
EventName	string	50	イベントの説明テキストです。
AuditDateTime	datetime	8	オーデジット ログ エントリが作成された日付と時刻です。
NotifyDateTime	datetime	8	通知ログが書き込まれた日付と時刻です。
UserID	string	255	オーデジット ログ エントリを要求しているアプリケーションに関連付けられている Windows ユーザー ID です。
MachineName	string	31	オーデジット ログ エントリを要求しているコンピュータの名前です。
Parm1	string	255	オーデジット メッセージを書式設定しているプログラムが実行時に選択するパラメータ値です。
Parm2	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm3	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm4	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm5	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm6	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm7	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm8	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm9	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm10	string	50	Parm1 を参照してください。

## オペレータ テーブル

### はじめに

オペレータ テーブル (Operators\_tb) には、通知を受け取る Windows ユーザー構成に関する情報が格納されます。

### テーブル

次の表に、オペレータ テーブルのフィールド情報をまとめます。

Operators_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
NotifyOperatorID	string	255	E メール、ページ、または警告通知を受け取るオペレータの Windows ユーザー ID です。
OperatorName	string	255	展開されたオペレータの名前または説明テキストです。
EmailAddress	string	255	E メール通知の送信先の E メールアドレスです。
PagerType	number (integer)	2	ページャーのタイプです。 0 = 電話番号表示型ページャー 1 = メールアドレス表示型ページャー
PagerAddress	string	255	電話番号表示型ページャーの番号、またはメールアドレス表示型ページャーの E メールアドレスです。

## 処理オーディット ログ テーブル

### はじめに

処理オーディット ログ テーブル (ProcAuditLog\_tb) には、システム処理活動を示すオーディット メッセージが格納されます。

### テーブル

次の表に、処理オーディット ログ テーブルのフィールド情報をまとめます。

ProcAuditLog_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
AuditEntryKEY	number (long)	4	順次増分され、各オーディット エントリを一意に識別する番号です。
SourceID	number (long)	4	メッセージのソースです。
ComponentID	number (integer)	2	メッセージを生成している、ソース内の機能領域です (トランスレータを表す ID など)。  0 = メッセージはソース内の全コンポーネントによって生成される
MsgID	number (long)	4	1 ~ 65535 の範囲の値です。ソース / コンポーネントによって生成された特定のエラーを示します。
Severity	number (integer)	2	エラーの重要度を示します。
EventID	number (long)	4	生成されたオーディット メッセージを関連の処理によってグループ分けするために使用され、オーディットメッセージが属するイベント ID を示します。  (次のページへ続く)

( 続き ) ProcAuditLog_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
EventType	number (integer)	2	イベントの種類を示します。  0 = 未特定 1 = システム イベント 2 = 自動イベント ( プロセス管理イベント ) 3 = 対話イベント ( ユーザー セッション ) 4 = メールボックス イベント
EventName	string	50	イベントの説明テキストです。  <b>例</b> プロセス管理イベントの場合、これはイベント名です。ユーザー セッションの場合、これはユーザー名です。システムセッションの場合は、呼び出し機能が、" 時間切れチェック " などの名前を供給します。
AuditDateTime	datetime	8	オーディット ログ エントリが作成された日付と時刻です。
UserID	string	255	オーディット ログ エントリを要求しているアプリケーションに関連付けられている Windows ユーザー ID です。
MachineName	string	31	オーディット ログ エントリを要求しているコンピュータの名前です。
Parm1	string	255	オーディット メッセージを書式設定しているプログラムが実行時に選択するパラメータ値です。
Parm2	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm3	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm4	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm5	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm6	string	50	Parm1 を参照してください。

( 次のページへ続く )

( 続き ) ProcAuditLog_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Parm7	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm8	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm9	string	50	Parm1 を参照してください。
Parm10	string	50	Parm1 を参照してください。
Restored	number (integer)	2	エントリがアーカイブされたデータから復元されたかどうかを示します。  0 = 復元されなかった 1 = 復元された

---

# メールボックス テーブル

## 概要

### はじめに

---

メールボックス テーブルには、Gentran:Server メールボックス サブシステムの中の全情報が格納されます。メールボックス テーブルは次のとおりです。

- ▶ AddressBook テーブル (AddressBook\_tb)
  - ▶ 添付テーブル (Attachment\_tb)
  - ▶ DeliveryRule テーブル (DeliveryRule\_tb)
  - ▶ DistributionList テーブル (DistributionList\_tb)
  - ▶ ファイル テーブル (File\_tb)
  - ▶ メールボックス テーブル (Mailbox\_tb)
  - ▶ メールボックス構成テーブル (MailboxConfig\_tb)
  - ▶ メッセージ テーブル (Message\_tb)
  - ▶ 受信者テーブル (Recipient\_tb)
  - ▶ SpoolQueue テーブル (SpoolQueue\_tb)
-

## AddressBook テーブル

### はじめに

AddressBook テーブル (AddressBook\_tb) には、各配布先リストの名前についてのレコードが格納されます。

### テーブル

次の表に、AddressBook テーブルのフィールド情報をまとめます。

AddressBook_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
ListId	number (long)	4	リスト識別子です。
Name	string	125	配布先リストの名前です。



## 添付テーブル

### はじめに

添付テーブル (Attachment\_tb) には、メールボックス添付情報のレコードが格納されます。この情報には、ファイル名、コンテンツタイプ、サイズ、識別子、添付の所属先であるメッセージの識別子などがあります。

### テーブル

次の表に、添付テーブルのフィールド情報をまとめます。

Attachment_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
MessageId	number (long)	4	添付の所属先であるメッセージの識別子です。
AttachmentId	number (long)	4	添付の識別子です。
ContentType	string	125	添付のコンテンツタイプです。
ContentSubType	string	125	添付のコンテンツサブタイプです。
ContentSize	number (long)	4	添付のサイズです。
File	string	255	添付のファイル名です。
StoreFile	string	255	メッセージストア内の添付ファイルの名前です。
Flags	number (long)	4	ユーザー定義のフラグです。

## DeliveryRule テーブル

### はじめに

DeliveryRule テーブル (DeliveryRule\_tb) には、システム内で現在設定されている全配送ルールレコードが格納されます。各ルールは、送信者と受信者またはどちらか一方、オプションのコンテンツタイプ、およびデリバリエージェントに関連付けられています。ルールは、実行の順番を指定できるように、順番付けられています。

### テーブル

次の表に、DeliveryRule テーブルのフィールド情報をまとめます。

DeliveryRule_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Extension	string	125	使用するデリバリエージェントの名前です。
SenderId	number (long)	4	ルールが関連付けられている送信者の識別子です。
SenderEMailAddr	string	125	送信者の Gentranserver E メールアドレスです。
RecipientId	number (long)	4	ルールが関連付けられている受信者の識別子です。
RecipientGatewayEmailAddr	string	125	受信者のゲートウェイの E メールアドレスです。
ContentType	string	125	配送ルールのコンテンツタイプです。
ContentSubType	string	125	配送ルールのコンテンツサブタイプです。
TransferPoint	number (long)	4	送信時または受信時のどちらでルールを実行するかを示します。
Sequence	number (long)	4	配送ルールを実行する順番です。
CommandLine	string	255	デリバリエージェントのパラメータです。
Comment	string	255	配送ルールの名前です。

## DistributionList テーブル

### はじめに

DistributionList テーブル (DistributionList\_tb) には、配布先リストに属するメールボックス エントリが格納されます。

### テーブル

次の表に、DistributionList テーブルのフィールド情報をまとめます。

DistributionList_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
ListId	number (long)	4	配布先リストの識別子です。
RecipientId	number (long)	4	受信者の識別子です。
RecipientGateway EMailAddr	string	125	受信者のゲートウェイの E メールアドレスです。

## ファイル テーブル

### はじめに

ファイル テーブル (File\_tb) には、現在システムにある各ファイルについてのレコードが格納されます。このテーブル内の各ファイルは1つまたは複数の添付に対応し、その参照がカウントされます。2つ目の添付とファイルを共有する添付を変更した場合、変更された添付用にそのファイルの新しいコピーが自動的に作成されます。

### テーブル

次の表に、ファイル テーブルのフィールド情報をまとめます。

File_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
StoreFile	string	255	メッセージストア内の添付ファイルの名前です。
ReferenceCount	number (long)	4	このファイルを使用する添付の数を示すカウントです。

## メールボックス テーブル

### はじめに

メールボックス テーブル (Mailbox\_tb) には、Gentran:Server システム内の各メールボックスについてのレコードが格納されます。

### テーブル

次の表に、メールボックス テーブルのフィールド情報をまとめます。

Mailbox_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
MailboxId	number (long)	4	メールボックスの識別子です。
EMailAddr	string	125	メールボックスの E メール アドレスです。
Name	string	125	メールボックスの名前です。
Gateway	string	125	このメールボックスに関連付けられているゲートウェイの名前です (ある場合)。
Flags	number (long)	4	メールボックスの属性を示します。

## メールボックス構成テーブル

### はじめに

メールボックス構成テーブル (MailboxConfig\_tb) には、Gentran:Server メールボックス構成パラメータが格納されます。

### テーブル

次の表に、メールボックス構成テーブルのフィールド情報をまとめます。

MailboxConfig_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Content	string	255	送信中の情報のインターネットメディアタイプを示します。コンテンツタイプにより、データの表示に使用する機構が決まります。
SubContent	string	255	メッセージのサブコンテンツタイプです (EDI、Document-EDI、または Import)。
Action	number (long)	4	事前に定義されたコンテンツタイプとサブコンテンツタイプでシステムがメッセージに対して実行する動作です (GDW_Process_MBFile、GDW_Import、または GDW_MBImport)。

## メッセージ テーブル

### はじめに

メッセージ テーブル (Message\_tb) には、システム内の各メッセージについてのレコードが格納されます。

### テーブル

次の表に、メッセージ テーブルのフィールド情報をまとめます。

Message_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
MessageId	number (long)	4	メッセージの識別子です。
MailboxId	number (long)	4	メールボックスの識別子です。
FolderId	number (long)	4	メッセージが格納されているフォルダの識別子です。
SenderId	number (long)	4	メッセージ送信者の識別子です。
SenderEMailAddr	string	125	メッセージ送信者の E メール アドレスです。
SentRepresenting	string	125	メッセージ送信先の個人の名前です (ある場合)。
ReceiverType	number (long)	4	受信者のタイプです (TO、CC、BCC など)。
ReceiverId	number (long)	4	メッセージ受信者の識別子です。
ReceiverGatewayEMail Addr	string	125	受信者のゲートウェイの E メール アドレスです。
Subject	string	125	メッセージの件名です。
ContentType	string	125	メッセージのコンテンツ タイプです。
ContentSubType	string	125	メッセージのコンテンツ サブタイプです。
CreationTime	datetime	8	メッセージが作成された時刻です。
SubmissionTime	datetime	8	メッセージが提出された時刻です。
SentTime	datetime	8	メッセージが送信された時刻です。

(次のページへ続く)

( 続き ) Message_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
OriginalId	number (long)	4	このメッセージのコピー元であるメッセージの識別子です。
OriginalFolderId	number (long)	4	ごみ箱に移動される前にこのメッセージが入っていたフォルダです。
Flags	number (long)	4	メッセージの属性を示します。
Status	number (long)	4	メッセージの状態です。
SessionId	string	125	セッション識別子です。
SeriesId	string	125	シリーズ識別子です。

---



## 受信者テーブル

### はじめに

受信者テーブル (Recipient\_tb) は、メッセージを 1 つまたは複数の受信者 ( メールボックスまたは配布先リスト ) に関連付けます。

### テーブル

次の表に、受信者テーブルのフィールド情報をまとめます。

Recipient_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
MessageId	number (long)	4	メッセージの識別子です。
RecipientType	number (long)	4	受信者のタイプです (TO、CC、BCC など)。
RecipientId	number (long)	4	受信者の識別子です。
RecipientGateway EMailAddr	string	125	受信者のゲートウェイの E メールアドレスです。
AddressBookType	number (long)	4	アドレス帳のタイプです ( メールボックス、配布先リストなど )。
RecipientStatus	number (long)	4	各メッセージ受信者のメッセージの状態です。
SentTime	datetime	8	メッセージが受信者に到達した時刻です。

## SpoolQueue テーブル

### はじめに

SpoolQueue テーブル (SpoolQueue\_tb) には、システムで配送待ちの状態にある各メッセージについてのレコードが格納されます。システムの停止中に有効な情報のみを保持するための、メッセージの固定キューです。このテーブルの機能は、配送待ちのメッセージが残っているにも関わらずシステムが停止した場合に、スプーラが正しく一時停止および再開できるようにすることです。

### テーブル

次の表に、SpoolQueue テーブルのフィールド情報をまとめます。

SpoolQueue_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
MessageId	number (long)	4	メッセージの識別子です。
Sequence	number (long)	4	配送待ちメッセージの順番です。
AuditEventId	number (long)	4	オーディット イベント識別子です。

---

# トラブルシューティング

目次

---

▶ 概要 .....	2
▶ サービス管理マネージャの使用方法 .....	3
▶ Gentran:Server のトラブルシューティング方法.....	4

---

## 概要

### はじめに

---

この付録では、サービス管理マネージャの使用方法や Gentran:Server のトラブルシューティングなど、Gentran:Server システムのトラブルシューティングについて説明します。

---

## サービス管理マネージャの使用法

### はじめに

Windows サービス管理マネージャでは、Gentran:Server エグゼクティブや、その他の Windows システム サービスを開始または停止できます。また、Windows サービス管理マネージャを使用すれば、システム構成プログラムの [コントローラ] タブでは設定できないサービス パラメータを変更することもできます。

#### 例

たとえば、Gentran:Server エグゼクティブの起動タイプを手動から自動 (Windows を起動する度に、サービスが開始する) に変更できます。また、ログオン時に Gentran:Server エグゼクティブ サービスが使用するユーザー アカウントを指定することができます。Gentran:Server エグゼクティブでは、起動パラメータを構成することはできません。

#### 推奨事項

Gentran:Server エグゼクティブを開始または停止したり、手動で開始するよう設定する場合は、システム構成プログラムを使用します。ただし、システム構成プログラムにアクセスできない場合は、サービス管理マネージャを使用することができます。

#### 参照

システム構成プログラムの使用法の詳細については、「[システム構成 - \[コントローラ\] タブ](#)」を参照してください。

### サービス管理 マネージャへの アクセス

通常、Windows の [スタート] メニューから、[設定]、[コントロール パネル] を順に選択し、[コントロール パネル] プログラム グループ ([メイン] プログラム グループ内) の [サービス] プログラム アイコンをダブルクリックすると、サービス管理マネージャにアクセスできます。

#### 参照

サービス管理マネージャの詳細については、Windows オンライン ヘルプを参照してください。

## Gentran:Server のトラブルシューティング方法

### はじめに

この項では、Gentran:Server のトラブルシューティングに関する基礎的な情報を記載し、一般的な Gentran:Server の問題の解決に必要な一連の作業について説明します。

### Windows イベント ログの確認

Gentran:Server の Windows アプリケーション イベント ログを定期的に確認することで、Gentran:Server の処理に影響が生じる前に、問題を発見し、エラーを検出、修正できる場合があります。また、Gentran:Server によりアプリケーション イベント ログに書き込まれる情報の中には、ハードウェアまたはソフトウェア問題の分析に役立つ情報が含まれている場合があります。

#### 参照

Windows イベント ビューアの使用法の詳細については、「[イベント ビューアの使用](#)」を参照してください。

### オーディット ログ の確認

Gentran:Server オーディット ログには、システム内で発生した重要なイベントすべてのオーディット レコードが含まれています。システムの問題を解決したり、ユーザーの行動をトラックする際に役立つ情報があるため、オーディット ログは定期的に確認してください。

#### 参照

オーディット ログの詳細については、『ユーザー ガイド』の「オーディット ログ情報の表示および印刷」を参照してください。

(次のページへ続く)

一般的な問題

次の表には、Gentran:Server に関する一般的な問題と、それらを解決するためにとるべき処置が記載されています。

問題	解決策
ドキュメント、パートナー、プロセス管理イベントなどを Gentran:Server ブラウザで表示できないユーザーがいる。	システムの ODBC DSN が、正しいデータベースを指定していないことが原因として考えられます。ODBC DSN が正しいデータベースを指定していることを確認します。
ユーザーが、システムの一部のユーザー インターフェイス クライアントから Gentran:Server にログオンできない。	同じ DSN を持つ 2 つの Gentran:Server システム設定が存在することが原因として考えられます。同じ DSN を持つ 2 つの Gentran:Server システム設定が存在しないかを ODBC で確認し、存在する場合は、いずれかの DSN 名を変更します。
ユーザーが Gentran:Server にログオンしようとする、[Gentran:Server システム [ システム名 ] が起動していません。] というメッセージが表示される。	<p>プライマリ システム コントローラがオンになっていることを確認します。 Gentran:Server エグゼクティブ サービスを開始します。</p> <p><b>参照</b> Gentran:Server を起動する方法の詳細については、「<a href="#">システムの起動方法</a>」を参照してください。</p>
ユーザーが Gentran:Server にログオンしようとする、ユーザー名が見つからないという内容のメッセージが表示される。	<p>Gentran:Server を "統合" セキュリティ モードで実行している場合、ユーザーの Gentran:Server ユーザー名が、ユーザーの Windows ユーザー ID と一致していません。</p> <p>Gentran:Server ユーザー名と一致するように Windows ユーザー ID を変更するか ( 詳細については、Windows のマニュアルを参照 )、Windows ユーザー ID と一致するように Gentran:Server ユーザー名を変更します。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、「<a href="#">ユーザーのアクセス制限の変更および表示方法</a>」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) 問題	解決策
イベントを実行できない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 実行に失敗したイベントがポーリングされたイベントの場合、Gentran ポーラがイベントで指定されたコントローラで実行されているかを確認します。Gentran ポーラが停止している場合は、Gentran ポーラを開始します。  <b>参照</b> Gentran ポーラを開始する方法の詳細については、「<a href="#">システムの起動方法</a>」を参照してください。</li> <li>▶ 実行に失敗したイベントがスケジュールされたイベントの場合、Gentran スケジューラがイベントで指定されたコントローラで実行されているかを確認します。Gentran スケジューラが停止している場合は、Gentran スケジューラを開始します。  <b>参照</b> Gentran スケジューラを開始する方法の詳細については、「<a href="#">システムの起動方法</a>」を参照してください。</li> <li>▶ イベントで指定されているコントローラが正しい (Gentran ポーラ /Gentran スケジューラがそのコンピュータにインストールされている) ことを確認します。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) 問題	解決策
<p>ユーザーが Gentran:Server にログインすると、データベースにログインするよう求められる。</p>	<p>Gentran:Server が実行されているセキュリティモードが、データベースのセキュリティモードと同じであることを確認します。セキュリティモードが異なる場合、Gentran:Server セキュリティモードまたはデータベースセキュリティモードのいずれかを変更します。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、「<a href="#">システム構成-[セキュリティ]タブ</a>」または RDBMS のマニュアルを参照してください。</p> <p>ユーザーの Gentran:Server ユーザー ID とパスワードが、ユーザーのデータベースユーザー ID とパスワードと一致していることを確認します。これらが異なっている場合は、データベースユーザー ID とパスワードを変更するか、Gentran:Server ユーザー ID とパスワードを変更します。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、RDBMS のマニュアルまたは「<a href="#">ユーザーのアクセス制限の変更および表示方法</a>」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) 問題	解決策
<p>ユーザーが、従属する Gentran:Server プロセス ( 送信、受信など ) を実行しようとする、データベースにログインするよう求められる。</p>	<p>Gentran:Server が実行されているセキュリティモードが、データベースのセキュリティモードと同じであることを確認します。セキュリティモードが異なる場合、Gentran:Server セキュリティモードまたはデータベースセキュリティモードのいずれかを変更します。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、「<a href="#">システム構成-[セキュリティ]タブ</a>」または RDBMS のマニュアルを参照してください。</p> <p>ユーザーの Gentran:Server ユーザー ID とパスワードが、ユーザーのデータベースユーザー ID とパスワードと一致していることを確認します。これらが異なっている場合は、データベースユーザー ID とパスワードを変更するか、Gentran:Server ユーザー ID とパスワードを変更します。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、RDBMS のマニュアルまたは「<a href="#">ユーザーのアクセス制限の変更および表示方法</a>」を参照してください。</p>
<p>他のコンピュータで Gentran:Server エグゼクティブサービスを開始できない。</p>	<p>そのコンピュータに対する Windows 管理権限を持っていることを確認します。</p> <p><b>参照</b> 詳細については、Windows のマニュアルを参照してください。</p>

# プロセス管理セッションの設定

## 目次

概要.....	2
▶ はじめに.....	2
プロセス管理の使い方.....	3
▶ 概要.....	3
▶ セッションファイルの使用.....	4
▶ セッションファイルの配置.....	5
プロセス管理コマンド.....	11
▶ 概要.....	11
▶ Exec_Program.....	12
▶ Exec_Program_Ex.....	13
▶ File_Copy.....	14
▶ File_Delete.....	15
▶ File_Rename.....	16
▶ GDW_Archive.....	17
▶ GDW_Audit_Purge.....	18
▶ GDW_Audit_Rpt.....	19
▶ GDW_Audit_Write.....	21
▶ GDW_Document_Purge.....	22
▶ GDW_Document_Rpt.....	26
▶ GDW_Export.....	36
▶ GDW_ExtData_Delete.....	39
▶ GDW_Import.....	40
▶ GDW_Partner_Delete.....	41
▶ GDW_Partner_Export.....	42
▶ GDW_Partner_Import.....	43
▶ GDW_Print.....	44
▶ GDW_Process_File.....	45
▶ GDW_Receive.....	46
▶ GDW_Send.....	47
▶ GDW_Send_Receive.....	48
▶ Terminate_Script.....	50

## 概要

## はじめに

### この付録の内容

---

この付録は、Gentran:Server のプロセス管理セッションの設定ガイドです。次のトピックについて説明します。

- ▶ 「プロセス管理の使用」セクションでは、プロセッサを実行する方法、セッションファイルの配置の定義、および各レコードの内容について説明します。また、このセクションには、セッションファイルの例も記載されています。
- ▶ 「プロセス管理コマンド」のセクションでは、プロセス管理コマンドをアルファベット順に説明します。表には、各コマンドのパラメータの定義、必須であるかどうか、および各パラメータの指定内容が記載されています。

### プロセス管理について

---

プロセス管理とは、Gentran:Server の処理機能を開始するためのシステム機能です。次は、その主な機能です。

- ▶ アプリケーションファイル (TDF を含む) からのデータのインポート
- ▶ アプリケーションファイル (TDF を含む) へのデータのエクスポート
- ▶ 送信
- ▶ 受信

また、ファイル管理機能やプロセス管理機能を実行できるため、アプリケーションと Gentran:Server の統合に柔軟性をもたらします。

---

# プロセス管理の使い方

## 概要

### 実行方法

プロセス管理は、自動または手動のいずれかの方法で実行できます。

### 自動実行

プロセス管理を使用すると、適切なパラメータを含むコマンドから成るセッションファイルを簡単に作成し、セッションを処理するイベントを作成してプロセッサを自動的に実行できます。

セッションファイルは、テキスト エディタ (メモ帳など) を使用したり、既存のセッションファイルをコピーして修正する方法で作成することもできます。その後プロセス管理によって、適切なきに UNATTEND.EXE プログラムを実行してセッションファイルを実行します。

#### 参照

プロセス管理を使用するプロセス管理セッションの作成についての詳細は、Gentran:Server の『ユーザー ガイド』の[セッションの作成方法](#)を参照してください。

### 手動実行

また、次の 3 つのいずれかの方法でセッションファイルを作成し、プロセッサを手動で実行することもできます。

- ▶ プロセス管理を使用してセッションファイルを作成する
- ▶ テキスト エディタ (メモ帳など) を使用する
- ▶ 既存のセッションファイルをコピーし、修正する

その後、コマンド ラインまたはユーザー プログラムから UNATTEND.EXE プログラム (セッションファイルの名前を含むパラメータを含む) を実行します。

#### 例

```
unattend.exe <session_name> -e <event_ID>
```

## セッション ファイルの使用

### はじめに

プロセス管理を自動実行するか手動実行するかにかかわらず、セッション ファイルには異なる Gentran:Server 機能 (送信、受信、インポートなど) を実行する コマンドがあります。

プロセス管理を手動実行する場合には、セッション ファイルのフルパスを指定 できます。パスを指定しない場合には、システム構成プログラムによって定義 された Unattend サブフォルダ内で指定ファイル名が検索されます。

### 参照

システム構成プログラムについての詳細は、『管理 ガイド』の「[システム管理者 の機能](#)」を参照してください。

ファイル名と拡張子を指定した場合 (拡張子が .SES であるかどうかにかかわら ず)、プロセッサによってそのファイル名が検索されます。拡張子を含まない ファイル名を指定してプロセス管理プログラムが開始された場合、プロセッサ によって拡張子 .SES のファイル名が検索されます。

セッション ファイル名を指定せずにプロセス管理が開始された場合、プログラ ムの実行は中止され、Gentran:Server オーディット ログにオーディット メッセー ジが記録されます。

## セッション ファイルの配置

### はじめに

テキスト エディタを使用して自動または手動でセッション ファイルを作成する場合、必要なすべてのレコード、コマンド、コマンド パラメータ、条件、条件 パラメータおよび条件結果を含める必要があります。セッション ファイルは、次の 3 種類のレコードを含む ASCII 区切文字付きファイル (最後のレコード以外のすべてのレコードがキャリッジ リターンまたはライン フィードで区切られているファイル) です。

- ▶ レコード 1: 代表的なバージョンのレコード
- ▶ レコード 2: スクリプト コマンド レコードの数
- ▶ レコード 3 ~ *n*: スクリプト コマンド レコード

### 代表的なバージョンのレコード

セッション ファイル内の最初のレコードは、代表的なバージョンのレコードです。このレコードは、ファイルが有効なセッション ファイルであるかどうかを判断するために使用されます。プロセス管理を使用してセッション ファイルを作成した場合、このレコードは自動的に作成されます。セッション ファイルを手動で作成した場合、このレコードを追加する必要があります。

このレコードは、ファイルを作成した **Gentran:Server** ソフトウェアのバージョンを判断 (セッション ファイルを自動的に作成した場合)、または、セッション ファイルが使用される **Gentran:Server** のバージョンを判断するために使用されます (セッション ファイルを手動で作成した場合)。このバージョン情報は、**Gentran:Server** の今後のリリースで変換処理が必要となった場合に使用されます。

#### 書式

代表的なバージョンのレコードの書式は次のとおりです。

**"GDW-Session", "Version 2.0"**

プロセス管理は、GDW-Session を検証し、今後の使用を目的とし、指定のバージョンを変数に読み込みます。

(次のページへ続く)

**スクリプトコマンド  
レコードの数**

セッション ファイルの 2 番目のレコードには、スクリプト コマンド レコードの数が含まれます。プロセス管理を使用してセッションファイルを自動的に作成した場合、システムによってコマンド レコードの数が自動的に数えられ、このレコードが作成されます。セッションファイルを手動で作成した場合、コマンド レコードの数を数えて、このレコードにその数を追加する必要があります。

**スクリプトコマンド  
レコード**

セッション ファイルの 3 番目から  $n$  番目のレコードは、スクリプト コマンド レコードです。各コマンドには、関連するパラメータがあります。また、各コマンドには、オプションの関連する条件 (条件パラメータおよび条件結果) が伴う場合もあります。

**書式**

スクリプト コマンド レコードの書式は次のとおりです。

" コマンド名 "," コマンド パラメータ 1 "," コマンド パラメータ 2 "," コマンド  
パラメータ 3 "," コマンド パラメータ 4 "," コマンド パラメータ 5 "," コマンド パ  
ラメータ 6 "," 条件 "," 条件パラメータ "," 条件結果 "

プロセス管理を使用してセッションファイルを自動的に作成する場合、[ 動作の  
設定 ] ダイアログの [ コマンドの指定 ] リストからコマンドを選択することがで  
きます。このリストを使用すると、スクリプトに追加するスクリプト コマンド  
を選択できます。

**注意**

セッション ファイルを手動で作成する場合には、すべてのコマンド、コマンド  
パラメータ、条件、条件パラメータ、および条件結果が引用符で囲まれている  
ことを確認してください。コマンド パラメータ、条件、条件パラメータ、また  
は条件結果を使用しない場合は、セッション ファイルの該当するオプションに  
"" (2 個の二重引用符) を指定する必要があります。

( 次のページへ続く )



## スクリプトコマンド レコード ( 続き )

### コマンド名

セッションファイルを手動で作成した場合、そのファイルに各コマンドレコードを追加する必要があります。次の表は、セッションファイルを自動作成または手動作成するとき使用可能な " コマンド名 " の値を示します。

コマンド	動作
Exec_Program	実行するプログラムを指定します。
Exec_Program_Ex	実行するプログラム、およびイベント ID やコントローラ名を渡すプログラムを指定します。  <b>メモ</b> この機能は、Gentran:Server for RosettaNet のインストールプログラムで使用されます。
File_Copy	ファイルをコピーします。
File_Rename	ファイルの名前を変更します。
File_Delete	ファイルをシステムから削除します。
GDW_Archive	選択したアーカイブ定義ファイルの定義に基づいて、アーカイブコマンドを実行します。
GDW_Audit_Rpt	オーディットレコードを指定のファイルにコピーします。
GDW_Audit_Purge	システム内のオーディットレコードをすべて削除します。
GDW_Audit_Write	指定されたパラメータに基づいて、オーディットログにユーザーオーディットメッセージの処理を書き込みます。
GDW_Document_Purge	指定された日付 / 期間、場所、または状態に基づいて、Gentran:Server データベースからドキュメントレコードを削除します。
GDW_Document_Rpt	指定された状態、場所、または日付 / 期間に基づいて、Gentran:Server データベース内のドキュメントのドキュメントデータ ( および、該当する場合はグループおよびインターチェンジデータ ) が保存されるファイルを作成します。
GDW_Export	エクスポート機能を実行します。  <b>メモ</b> エクスポートトランスレーションオブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。  ( 次のページへ続く )

( 続き ) コマンド	動作
GDW_ExtData_Delete	外部データまたは期間に対して実行された動作に従い、外部データ参照を削除します。
GDW_Import	指定されたファイルからの " インポート " 機能を実行します。  <b>メモ</b> インポート トランスレーション オブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。
GDW_Partner_Delete	パートナー削除コマンドを実行します。
GDW_Partner_Import	パートナー インポート コマンドを実行します。
GDW_Partner_Export	パートナー エクスポート コマンドを実行します。
GDW_Print	" 印刷 " 機能を実行します。  <b>メモ</b> 印刷トランスレーション オブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。
GDW_Process_File	コミュニケーション セッションによってファイルを受信する場合と同じように、EDI ファイルでポスト コミュニケーションズプロセスを呼び出します。  <b>メモ</b> エクスポート トランスレーション オブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。
GDW_Receive	コミュニケーション ゲートウェイの " 受信のみ " 機能を実行します。
GDW_Send_Receive	コミュニケーション ゲートウェイの " 送信 / 受信 " 機能を実行します。この機能は、直前に実行した送信 / 受信セッションの終了を待たず、指定時に " 送信 / 受信 " を実行します。
Terminate_Script	スクリプトを終了します。

( 次のページへ続く )

## スクリプトコマンド レコード ( 続き )

### コマンド パラメータ

" コマンド パラメータ 1 ~ 6 " の値は、コマンド名によって異なります。コマンド パラメータについては、[プロセス管理コマンド](#) の各コマンド名の箇所にその詳細が記載されています。コマンド パラメータを使用しない場合は、セッションファイルの該当するオプションに "" ( 2 個の二重引用符 ) を指定する必要があります。

### 条件

それぞれのスクリプト コマンドには、オプションの関連 " 条件 " を付けることができます。これらの条件はコマンドの実行直前に評価され、セッションの処理の流れを制御するために使用できます。

2 種類の条件を指定できます。まず、特定のファイルの有無を照会する条件を指定できます。次に、特定の場所 ( アウト ドキュメントなど ) にドキュメントが存在するかどうかを識別する条件を指定できます。

条件を使用しない場合は、セッションファイルの条件、条件パラメータ、および条件結果に "" ( 2 個の二重引用符 ) を指定する必要があります。

次の表は、選択可能な条件を示します。

条件	条件に基づく動作
以下のファイルが存在する場合	指定したファイルがシステム内で検索され、そのファイルが見つかったかどうかを条件にしてコマンドが実行されます。
ドキュメントが以下の場所に存在する場合	指定された場所のドキュメントが検索され、その場所でドキュメントが見つかったかどうかを条件にしてコマンドが実行されます。

### 条件パラメータ

条件を使用する場合、" 条件パラメータ " を指定する必要があります。" 以下のファイルが存在する場合 " 条件の " 条件パラメータ " は、システムが検索すべきファイルの名前です。ファイル名にパスが含まれていない場合には、そのコンピュータ内の **Gentran:Server** がインストールされているフォルダでそのファイル名が検索されます。" ドキュメントが以下の場所に存在する場合 " 条件の " 条件パラメータ " は、**Gentran:Server** の場所 ( [ イン ドキュメント ]、[ ? イン ドキュメント ]、[ アウト ドキュメント ]、[ ? アウト ドキュメント ] など ) です。

### ヒント

チェックの対象になるファイルの名前を指定する場合には、ワイルドカード (\*) を使用できます。

( 次のページへ続く )

## スクリプトコマンド レコード ( 続き )

### 条件結果

条件 (" 以下のファイルが存在する場合 " または " ドキュメントが以下の場所に存在する場合 ") を使用する場合には、" 条件結果 " を指定する必要があります。条件結果の値は次のとおりです。

- ▶ 条件を評価した結果が [true] の場合には、指定されたドキュメントまたはファイルが存在する場合にのみコマンドを実行することを示します。
- ▶ 条件を評価した結果が [false] の場合には、指定されたドキュメントまたはファイルが存在しない場合にのみコマンドを実行することを示します。この場合、そのコマンドをスキップして、その次に定義されているコマンドから処理が続行されます。

たとえば、[アウト ドキュメント] にドキュメントが存在しない場合は GDW\_Send\_Receive コマンドを開始しないケース、または受信ドキュメントが [ ? インドキュメント ] にルートされた場合には通知プログラムを実行するケースなどに使用できます。

## セッション ファイルの例

次に、セッション ファイルの例を示します。

### ヒント

この例では、インデントされた行は前のレコードに続く条件であることを示します。

```
"GDW_Session","Version 2.0"
4
"GDW_Import","remit.txt","", "", "", "", "", "", "If File Below
Exists","c:¥GENSRVNT¥imports¥remit.txt","True"
"GDW_Send_Receive","", "SendToPtr", "820", "", "", "", "If Docs Are In
Location Below", "Out Documents", "True"
"GDW_Export","invoice.dat", "", "", "", "", "", "If Docs Are In Location
Below", "In Documents", "True"
"GDW_Document_Rpt","c:¥GENSRVNT¥docrpt.txt", "", "", "2", "", "", "", "",
""
```

# プロセス管理コマンド

## 概要

### はじめに

---

このセクションでは、プロセス管理コマンドをアルファベット順に説明します。表には、各コマンドのパラメータの定義、必須であるかどうか、および各パラメータの指定内容が記載されています。

#### メモ

- ▶ コマンド パラメータ番号の前にあるアスタリスク (\*) 1 個は、そのパラメータが必須である (必ず含まれている必要がある) ことを示します。
- ▶ コマンド パラメータ番号の前にあるアスタリスク (\*\*) 2 個は、互いに排他的である 2 個のパラメータの内の 1 つであることを示します。
- ▶ コマンド パラメータ番号の前にあるアスタリスク (\*\*\*) 3 個は、2 個のパラメータの内の 1 つであり、その内の 1 つは必須、両方が使用可能であることを示します。

プロセス管理 では、セッション ファイルに使用しないパラメータは "" (2 個の二重引用符) として書き込みます。

#### 注意

セッション ファイルを手動で作成した場合には、すべてのコマンド、コマンドパラメータ、条件、条件パラメータ、および条件結果が引用符で囲まれていることを確認してください。コマンド パラメータ、条件、条件パラメータ、または条件結果を使用しない場合は、セッション ファイルの該当するオプションに "" (2 個の二重引用符) を指定する必要があります。

---

## Exec\_Program

### はじめに

Exec\_Program コマンドを使用すると、プロセス管理セッション中に指定のプログラムを実行することができます。また、そのプログラムの実行に必要な任意のコマンドライン引数を指定することもできます。そのプログラムが完了するまで、セッションの実行は続行されません。このコマンドは、Gentran:Server とアプリケーションを統合するために使用できます。たとえば、アウトバウンドセッションの開始時にこのコマンドを使用して独自のプログラムを呼び出し、使用しているデータベースからインポート ファイルを作成することができます。または、インバウンドセッションの終りに、独自のプログラムを呼び出し、エクスポート データを使ってデータベースを更新することもできます。

### メモ

このコマンドが実行されると、オーディット ログに、どのプログラム (作業ディレクトリ内のコマンド ライン) が実行されたかを示す情報メッセージが書き込まれます。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
*1	Execute Program	" 実行するプログラムの名前、およびそのプログラムの実行に必要なコマンドライン引数を指定します。 "
2	Working Directory	" プログラムを実行するときに使用する作業フォルダの名前を指定します。作業フォルダの指定は必須ではありません。ただし、作業フォルダを指定しない場合、実行時の現行フォルダが既定値として適用されます。そのため、情報が特定のフォルダパスにあることを前提としているプログラムでは、予期しない結果となることがあります。 "
3		""
4		""
5		""
6		""

## Exec\_Program\_Ex

### はじめに

Exec\_Program\_Ex コマンドは、Gentran:Server for RosettaNet のインストールプログラムで使用されます。コマンド ラインから使用される場合、イベント ID やコントローラ名を渡すために実行すべきプログラムであることを示します。

### メモ

この関数は、Gentran:Server for RosettaNet のインストールプログラムで使用されます。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
*1	Execute Program	" 実行するプログラムの名前、およびそのプログラムの実行に必要なコマンド ライン引数を指定します。 "
2	Working Directory	" プログラムを実行するときに使用する作業フォルダの名前を指定します。作業フォルダは必須ではありません。ただし、作業フォルダを指定しない場合、実行時の現行フォルダが既定値として適用されます。そのため、情報が特定のフォルダパスにあることを前提としているプログラムでは、予期しない結果となることがあります。 "
3		""
4		""
5		""
6		""

## File\_Copy

### はじめに

File\_Copy コマンドを使用すると、ファイルをコピーすることができます。ターゲット ファイル名が既に存在する場合は、連結操作が行われます。ファイルパスを指定しない場合、使用しているコンピュータで Gentran:Server がインストールされているフォルダが使用されます。

### メモ

このコマンドが実行されると、オーディット ログに、ファイルのコピーが成功したことを示す情報メッセージが書き込まれます。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
*1	Source File	" コピーするファイルの名前を指定します。 "
*2	Target File	" 指定のファイルのコピー先となるファイル名を指定します。 "
3		""
4		""
5		""
6		""



## File\_Delete

### はじめに

File\_Delete コマンドを使用すると、システムからファイルを削除できます。ファイルパスを指定しない場合、使用しているコンピュータで Gentran:Server がインストールされているフォルダが使用されます。

### メモ

このコマンドが実行されると、オーディット ログに、ファイルの削除が成功したことを示す情報メッセージが書き込まれます。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
*1	File Name	" システムから削除するファイルの名前を指定します。 "
2		""
3		""
4		""
5		""
6		""

## File\_Rename

### はじめに

File\_Rename コマンドを使用すると、ファイルの名前を変更することができます。変更後の名前が既に存在する場合には、その名前変更操作は失敗します。ファイルパスを指定しない場合、使用しているコンピュータで Gentran:Server がインストールされているフォルダが使用されます。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
*1	Source File	" 名前を変更するファイルの名前を指定します。 "
*2	Target File	" ファイルの新しい名前を指定します。 "
3		""
4		""
5		""
6		""

## GDW\_Archive

### はじめに

GDW\_Archive コマンドは、選択したアーカイブ定義ファイルの定義に基づいて、Gentran:Server アーカイブ コマンドを実行します。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
1	Archive Type	" アーカイブ ファイルの種類 (EDI、外部データ、またはメールボックスなど) を選択します。 "
2	Archive Definition	" アーカイブ定義ファイル (*.ARD) の名前を指定します。 "
3		""
4		""
5		""
6		""

## GDW\_Audit\_Purge

### はじめに

GDW\_Audit\_Purge コマンドは、システム内のすべてのオーディット レコードを削除し、データベース テーブルプログラムの SystemAuditNextEntry の値を 0 にリセットします。このコマンドに適用されるパラメータはありません。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
1	Date/Age of Audits	" 削除するオーディット レコードの日付 (mm/dd/yyyy)、または削除するオーディット レコードの経過期間 (日数) を指定します。たとえば、経過期間 0 は、当日の情報のみ維持し、それ以前の情報を削除します。経過期間 1 は、当日の情報および前日の情報のみ維持し、それ以前の情報を削除します。"
2	File Name	" 削除する前にオーディット レコードを印刷するオーディット レポート ファイルの名前を指定します。"
3		""
4		""
5		""
6		""

# GDW\_Audit\_Rpt

## はじめに

GDW\_Audit\_Rpt コマンドは、指定した数のオーデイト レコードを指定のファイルにコピーします。オーデイト ログ内のレコードは、最も最新のものから順番にリストされます。パスを指定しない場合、Audit Report File Name には、使用しているコンピュータで Gentran:Server がインストールされているフォルダが使用されます。指定のファイルが既に存在する場合、既存ファイルの終りに、新しいオーデイト レポート データを追加します。

コマンド パラメータ 2 (Number of Audit Records to Report) は、次のように使用されます。

- ▶ コマンド パラメータ 2 を指定しないか、またはパラメータを 0 に設定した場合、オーデイト ファイル内のすべてのレコードが、コマンド パラメータ 1 (Audit Report File Name) で指定したファイルにコピーされます。
- ▶ コマンド パラメータ 2 でオーデイト レコードの数を指定した場合、コマンド パラメータ 1 (Audit Report File Name) で指定したファイルにコピーするレコードの数は、オーデイト ファイルレコードの数によって異なります。

オーデイト ファイル内のレコード数が、コマンド パラメータ 2 で指定した数よりも少ない場合には、指定のファイルにすべてのオーデイト ファイルレコードがコピーされます。

オーデイト ファイル内のレコード数が、コマンド パラメータ 2 で指定した数よりも多い場合には、指定の数のレコードのみ指定のファイルにコピーされます。

## メモ

データベース テーブルは、オーデイト レコードの数を指定する AuditMaxEntries 値を含みます。コマンド パラメータ 2 で指定した数が AuditMaxEntries の許可数を超える場合は、すべてのオーデイト ファイルレコードがコピーされます。

(次のページへ続く)

## 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
*1	File Name	" 作成するオーディット レポート ファイルの名前を指定します。 "
2	Number of Records	" 指定のファイルにコピーするオーディット ファイルレコードの数を指定します。 "
3	Date/Age of Audits	" ファイルに印刷するオーディットレコードの日付 (mm/dd/yyyy)、または印刷するオーディットレコードの経過期間 (日数) を指定します。たとえば、経過期間 0 は、当日の情報のみをファイルに印刷します。経過期間 1 は、当日の情報および前日の情報のみを印刷します。 "
4		""
5		""
6		""

## GDW\_Audit\_Write

### はじめに

GDW\_Audit\_Write コマンドは、指定されたパラメータに基づいて、オーディットログにユーザーオーディットメッセージの処理を書き込みます。

### 表

次の表に、コマンドパラメータを示します。

番号	コマンドパラメータ	指定内容
1	Message ID	" オーディット番号のメッセージ ID を指定します。たとえば、オーディット番号が 99-99-1000 の場合、このボックスには「1000」と指定します。"
2	Parameters	" メッセージパラメータを指定します (最大 6 個まで)。パラメータはコンマで区切ります。"
3		""
4		""
5		""
6		""

## GDW\_Document\_Purge

### はじめに

GDW\_Document\_Purge コマンドは、指定された日付 / 期間、場所、または状態に基づいて、Gentran:Server データベースからドキュメントレコードを削除できるようにします。グループまたはインターチェンジ内の最後のドキュメントが削除されたことが確認された場合には、グループ データベースレコードまたはインターチェンジ データベースレコードも削除されます。

3 個のパラメータはいずれも必須ではありません。コマンド パラメータ 1 (Document Location) が使用されない場合、すべての場所のドキュメントが削除されます。コマンド パラメータ 2 (Document Status) が使用されない場合、状態に関係なくドキュメントが削除されます。コマンド パラメータ 3 (Document Age or Date) が使用されない場合、期間または日付に関係なくドキュメントが削除されます。

コマンド パラメータ 3 を使用する場合には、期間 (日数) または日付を指定できます。期間が指定されている場合、指定の日数以上のすべてのドキュメントが削除されます。ゼロ (0) は、当日のドキュメントを含め、すべてのドキュメントが削除されることを示します。1 は、当日のドキュメント以外のドキュメントすべてが削除されることを示します。日付が指定されている場合には、その指定日に作成されたすべてのドキュメントが削除されます。日付は、YYYY/MM/DD の書式 (4 桁表記の年、セパレータ、2 桁表記の月、セパレータ、2 桁表記の日) で指定します。

### 注意

3 個のパラメータのいずれも指定しない場合には、すべてのドキュメントが削除されます。

(次のページへ続く)



## 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
1	Document Location	"システムから削除するドキュメントの場所を選択します。"  有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>▶ [インドキュメント]</li><li>▶ [?インドキュメント]</li><li>▶ [アウトドキュメント]</li><li>▶ [?アウトドキュメント]</li><li>▶ [インドロワ]</li><li>▶ [アウトドロワ]</li><li>▶ [ワークスペース]</li><li>▶ [順番待ち](送信キュー)</li></ul> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) 番号	コマンド パラメータ	指定内容
2	Document Status	<p>" システムから削除するドキュメントの状態を選択します。 "</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ドキュメント順番待ち]</li> <li>▶ [重複]</li> <li>▶ [FA 一部] (このドキュメントに対する受信確認が想定どおりに実行されず、グループまたはインターチェンジのいずれかの一部が受信確認されたことを示します。)</li> <li>▶ [FA 受信] (パートナーがドキュメントの受信確認を行い、エラーがなかったことを示します。)</li> <li>▶ [FA 拒否] (パートナーがドキュメントの受信確認を行い、エラーのために拒否したことを示します。)</li> <li>▶ [FA エラー] (パートナーがドキュメントの受信確認を行い、エラーが発生したけれども受け入れたことを示します。)</li> <li>▶ [不完全]</li> <li>▶ [ネットワーク配送済み]</li> <li>▶ [ネットワーク エラー]</li> <li>▶ [ネットワーク収集済み]</li> <li>▶ [ネットワーク受信済み]</li> <li>▶ [ネットワーク警告]</li> <li>▶ [失敗]</li> <li>▶ [OK]</li> <li>▶ [時間切れ]</li> <li>▶ [送信済み]</li> <li>▶ [待機中]</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) 番号	コマンド パラメータ	指定内容
3	Date/Age of Docs	" システムから削除するドキュメントの経過期間 ( 日数 ) または日付 (YYYY/MM/DD) を指定します。ゼロ (0) は、当日のドキュメントを含め、すべてのドキュメントが削除されることを示します。1 は、当日のドキュメント以外の、すべてのドキュメントが削除されることを示します。 "
4		""
5		""
6		""

## GDW\_Document\_Rpt

### はじめに

GDW\_Document\_Rpt コマンドは、指定された状態、場所、または日付 / 期間に基づいて、Gentran:Server データベース内のドキュメントのドキュメント データ (および、該当する場合はグループおよびインターチェンジ データ) が保存される特定のファイルを作成します。パスを指定しない場合、ドキュメント レポート ファイル名には、使用しているコンピュータで Gentran:Server がインストールされているフォルダが使用されます。指定のファイルが既に存在する場合、既存ファイルの終りに、新しいドキュメント レポート データを追加します。

コマンド パラメータ 2 (Document Location) が使用されない場合、すべての場所のドキュメントが使用されます。コマンド パラメータ 3 (Document Status) が使用されない場合、状態に関係なくすべてのドキュメントが使用されます。コマンド パラメータ 4 (Document Age or Date) が使用されない場合、期間または日付に関係なくすべてのドキュメントが使用されます。

コマンド パラメータ 4 が使用されている場合には、期間 (日数) または日付を指定できます。期間が指定されている場合、指定の日数以下のすべてのドキュメントが使用されます。たとえば、ゼロ (0) は、当日のドキュメントが使用されることを示します。1 は、当日の情報および前日の情報が使用されることを示します。2 は、当日、前日、2 日前までのドキュメントが使用されることを示します。日付が指定されている場合には、その指定日に作成されたすべてのドキュメントが使用されます。日付は、YYYY/MM/DD の書式 (4 桁表記の年、セパレータ、2 桁表記の月、セパレータ、2 桁表記の日) で指定します。

### メモ

指定のパラメータに一致するドキュメントが存在しない場合、ドキュメント レポート ファイルは作成されず、その旨のメッセージがオーディット ログに書き込まれます。

(次のページへ続く)

## 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
*1	File Name	"ドキュメント レポート ファイル名を指定します。"
2	Document Location	"システムから使用するドキュメントの場所を選択します。"  有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>▶ [インドキュメント]</li><li>▶ [? インドキュメント]</li><li>▶ [アウトドキュメント]</li><li>▶ [? アウトドキュメント]</li><li>▶ [インドローワ]</li><li>▶ [アウトドローワ]</li><li>▶ [ワークスペース]</li><li>▶ [順番待ち](送信キュー)</li></ul> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) 番号	コマンド パラメータ	指定内容
3	Document Status	<p>" システムから使用するドキュメントの状態を選択します。 "</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ドキュメント順番待ち]</li> <li>▶ [重複]</li> <li>▶ [FA 一部]</li> <li>▶ [FA 受信]</li> <li>▶ [FA 拒否]</li> <li>▶ [FA エラー]</li> <li>▶ [不完全]</li> <li>▶ [ネットワーク配送済み]</li> <li>▶ [ネットワークエラー]</li> <li>▶ [ネットワーク収集済み]</li> <li>▶ [ネットワーク受信済み]</li> <li>▶ [ネットワーク警告]</li> <li>▶ [失敗]</li> <li>▶ [OK]</li> <li>▶ [時間切れ]</li> <li>▶ [送信済み]</li> <li>▶ [待機中]</li> </ul>
4	Date/Age of Docs	<p>" システムから使用するドキュメントの期間 ( 数値 ) または日付 ( YYYY/MM/DD ) を指定します。たとえば、ゼロ ( 0 ) は、当日のドキュメントが使用されることを示します。1 は、当日および前日のドキュメントが使用されることを示します。2 は、当日、前日、2 日前までのドキュメントが使用されることを示します。 "</p>
5		""
6		""

( 次のページへ続く )

## ドキュメント レポート ファイルの 配置

GDW\_Document\_Rpt コマンドは、コンマで区切られた固定長テキスト ファイルを書式化し、Gentran:Server で処理された要求済 EDI ドキュメントのデータを含みます。次の書式化スタンダードが使用されます。

- ▶ 文字フィールドは二重引用符で囲みます ("character\_field")。
- ▶ 指定された処理段階には該当しないデータ フィールドは、レポートでは 2 個の二重引用符 ("" ) で表されます。
- ▶ 指定された処理段階には該当しない数値フィールドは、レポートでは 2 個のコンマ (,,) で表されます。

ドキュメント レポートのレコードには、ドキュメント、グループ、インターチェンジ、およびトラッキングの 4 つのカテゴリに分類されているデータが含まれます。次の表は、ドキュメント レポート ファイルの配置を示します。表の一番右の欄には、そのフィールドを含むデータベース テーブルの名前が示されています。

### 参照

これらのテーブルについての詳細は、「[データベース テーブルの使い方](#)」を参照してください。

### メモ

フィールド名の欄のアスタリスク (\*) は、1970 年 1 月 1 日の 0 時から経過した秒数で表す時刻フィールドであることを示します。

(次のページへ続く)

ドキュメント  
レポート ファイルの  
配置 ( 続き )

表

次の表は、ドキュメント レポート ファイルのレイアウトを示します。

フィールド名	型	最大長	値	データベース テーブル
DocumentKEY	numeric	10		Document_tb
Direction	numeric	1	0 = インバウンド 1 = アウト バウンド	Document_tb
PartnerKEY	character	10		Document_tb
DocumentName	character	20		Document_tb
TransactionSetID	character	6		Document_tb
FunctionalGroupID	character	6		Document_tb
ControlNumber	character	18		Document_tb
LocationStatus	numeric	1	0 = イン ドローフ 1 = アウト ドローフ 2 = イン ドキュメント 3 = ? イン ドキュメント 4 = アウト ドキュメント 5 = ? アウト ドキュメント 6 = ワークスペース 7 = 順番待ち	Document_tb
( 次のページへ続く )				



( 続き ) フィールド名	型	最大長	値	データベース テーブル
ComplianceStatus	numeric	2	0 = 不完全 1 = 不適合 2 = OK 3 = ドキュメント 順番待ち 4 = 送信済み 5 = ネットワーク 受信済み 6 = ネットワーク 配送済み 7 = FA 受信 8 = 待機中 9 = 時間切れ 10 = ネットワーク 警告 11 = ネットワーク エラー 12 = FA エラー 13 = FA 一部 14 = FA 拒否 15 = ネットワーク 収集済み 16 = 重複	Document_tb
TimeCreated*	numeric	10		Document_tb
Release	numeric	5	(TRADACOMS のみ)	Document_tb
TestModeChar	numeric	1	0 = 本番 1 = テスト	Document_tb
Agency	character	1		Document_tb
InterchangeVersion	character	13		Document_tb
GroupVersion	character	13		Document_tb
DocumentVersion	character	13		Document_tb
( 次のページへ続く )				

( 続き ) フィールド名	型	最大長	値	データベース テーブル
ReferenceData	character	10		Document_tb
TranslationReportFile	character	13		Document_tb
AppField1	character	40		Document_tb
AppField2	character	40		Document_tb
AppField3	character	40		Document_tb
AppField4	character	40		Document_tb
AppField5	character	40		Document_tb
AppField6	character	40		Document_tb
Restored	numeric	2	0 = オリジナル 1 = 復元	Document_tb
DocumentBlobKEY	string	20		Document_tb
NbrBytes	numeric	4		Document_tb
NbrRecords	numeric	4		Document_tb
ExpectOrGenerateAck	numeric	2		Track_tb
AckHoursOverdue	numeric	2		Track_tb
AckStatus	numeric	2		Track_tb
GroupKEY	numeric	10		Group_tb
PartnerKEY	character	10		Group_tb
ControlNumber	character	18		Group_tb
FunctionalGroupID	character	6		Group_tb
ExpectOrGenerateAck	numeric	2	0 = 受信確認を 期待または 生成しない 1 = 受信確認を 期待または 生成する	Group_tb
AckHoursOverdue	numeric	2		Group_tb
( 次のページへ続く )				

( 続き ) フィールド名	型	最大長	値	データベース テーブル
AckStatus	numeric	2	0 = 不要 1 = 待機中 2 = OK 3 = エラーのある 受信確認 4 = 部分受信確認 5 = 拒否	Group_tb
AckTime	numeric	4		Group_tb
AckTransactionSetID	character	6		Group_tb
NoTransactionsAccepted	numeric	2		Group_tb
NoTransactionsRejected	numeric	2		Group_tb
NbrBytes	numeric	4		Group_tb
NbrRecords	numeric	4		Group_tb
InterchangeKEY	numeric	10		Interchange_tb
PartnerKEY	character	10		Interchange_tb
ControlNumber	character	18		Interchange_tb
TimeCreated	numeric	4		Interchange_tb
TimeSent	numeric	4		Interchange_tb
ProcessedStatus	numeric	2	1 = 受信済み 2 = 送信済み 3 = 送信準備完了 4 = 順番待ち 5 = 保留 6 = 時間切れ	Interchange_tb
TestMode	numeric	2		Interchange_tb
( 次のページへ続く )				

( 続き ) フィールド名	型	最大長	値	データベース テーブル
ExpectOrGenerateAck	numeric	2	0 = 受信確認を 期待または 生成しない  1 = 受信確認を 期待または 生成する	Interchange_tb
AckHoursOverdue	numeric	2		Interchange_tb
AckStatus	numeric	2	0 = 不要  1 = 待機中  2 = OK  3 = エラーのある 受信確認  4 = 部分受信確認  5 = 拒否	Interchange_tb
AckTime	numeric	4		Interchange_tb
NetworkStatus	numeric	2	0 = 未送信  1 = Received OK  2 = ネットワーク 警告  3 = ネットワーク エラー  4 = 収集済み  5 = サードパー ティのネット ワークへ送信 済み	Interchange_tb
NetworkTime	numeric	4		Interchange_tb
NoGroupsAccepted	numeric	2		Interchange_tb
NoGroupsRejected	numeric	2		Interchange_tb
NoTransactionsAccepted	numeric	2		Interchange_tb
NoTransactionsRejected	numeric	2		Interchange_tb
ファイル名	character	255		Interchange_tb
( 次のページへ続く )				

( 続き ) フィールド名	型	最大長	値	データベース テーブル
MessageID	numeric	4		Interchange_tb
TranslationReportFile	character	255		Interchange_tb
NbrBytes	numeric	4		Interchange_tb
NbrRecords	numeric	4		Interchange_tb

---

## GDW\_Export

### はじめに

GDW\_Export コマンドは、Gentran:Server の "エクスポート" 機能を実行します。この機能は、[インドキュメント] のドキュメントを処理します。エクスポートの対象を、指定のトレーディング パートナー プロファイル ID または指定の種類 のドキュメントに制限することができます。

"エクスポート" 機能は、ドキュメントを指定のエクスポート ファイルに書き込みます。エクスポートする前にエクスポート ファイルが既に存在する場合、新しいエクスポート データは既存ファイルに連結されます。ファイル名を指定しない場合、このパートナーのインバウンド関係に定義されている既定のエクスポート ファイルにドキュメントが書き込まれます。ファイルパスを指定せずにファイル名を指定する場合、システム構成プログラムで指定された既定の Export フォルダが使用されます。

### メモ

このファイル名には、通常 の文字と書式化文字を混在させることができます (以降のページを参照)。書式化文字は、トランスレータによってそれらの文字が表す実行時の値に置き換えられます。次の点に注意してください。

- GDW\_Export コマンドを使用し、定義されたエクスポート ファイルの名前で単一のファイルにエクスポートする場合、同一のインターチェンジ内のドキュメントすべてが単一のファイルにエクスポートされます。ファイル名に書式化文字を使用した場合、そのファイル名には最初にエクスポートされるドキュメントのドキュメント キー、トランスレータのインスタンスによる Process ID、および Unique ID が含まれます。
- GDW\_Export コマンドを使用し、エクスポート ファイル名がインバウンド パートナー関係で定義されている既定のファイルにエクスポートする場合、同一のインターチェンジのドキュメントすべてが単一のファイルにエクスポートされます。ファイル名に書式化文字を使用した場合、そのファイル名には最初にエクスポートされるドキュメントのドキュメント キー、トランスレータのインスタンスによる Process ID、および Unique ID が含まれます。

### 参照

インバウンド パートナー関係での既定のエクスポート ファイル名の定義に関する詳細は、「[エクスポート ファイル名](#)」を参照してください。

コマンド パラメータ 2 (Select Partner Profile ID) および コマンド パラメータ 3 (Select Document Type) を使用し、エクスポートされるドキュメントを制限することができます。

### メモ

エクスポート トランスレーション オブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。

また、GDW\_Export コマンドを使用し、インバウンド トランスレーションの出力をメールボックス サーバーに戻すこともできます。その結果、メールボックス サーバーは、最終的な場所までデータを配信するためにメッセージブローカーとしての役割を果たすことができるようになります。

(次のページへ続く)

## 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
1	File Name	<p>" エクスポート先のファイルの名前を指定します。" ファイル名が指定されない場合、トレーディング パートナー関係で指定されている既定のエクスポートファイルが使用されます。"</p> <p><b>メモ</b> このファイル名には、通常の文字と書式化文字を混在させることができます。書式化文字は、トランスレータによってそれらの文字が表す実行時の値に置き換えられます。</p> <p><b>サポートしている書式化文字</b>            %y (2 桁表記の年)            %Y (4 桁表記の年)            %m (略称表記の月)            %M (10 進数表記の月)            %d (略称表記の曜日)            %D (10 進数表記の日付)            %H (24 時間形式の時間)            %N (分)            %S (秒)            %K (ドキュメント キー)            %P (プロセス識別子)            %U (現在時間、エクスポート ファイル名、プロセス識別子、rand() 関数を使用することによって派生させた一意の数値)</p>
2	Partner	" パートナー プロファイル ID を指定し、そのパートナーのドキュメントだけに対して動作を制限します。"
3	Transaction	<p>" ドキュメントの種類 (トランザクション セットまたはメッセージ) を指定し、そのタイプのドキュメントだけに対してエクスポートを制限します。"</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

番号	コマンド パラメータ	指定内容
4	Document	"ドキュメントを移動しない場合には [インドロワーへ移動しない] を指定、エクスポート処理の完了後にドキュメントを移動する場合には [インドロワーに移動] を指定します。"
5		""
6	Recipient Mailbox Name	"Send Mailbox 機能を使用する場合、受信メールボックスの名前を指定します。"
7	Recipient E-mail Address	"Send Mailbox 機能を使用する場合、受信 E メール アドレスを指定します。"
8	Content Type/ Content Subtype	"Send Mailbox 機能を使用する場合、コンテンツ タイプ / コンテンツ サブタイプを指定します。"
9		""
10		""
11		""
12		""
13	True または False	" ファイルをメールボックスにエクスポートする場合は [true]、メールボックスにエクスポートしない場合は [false] を指定します。"



## GDW\_ExtData\_Delete

### はじめに

GDW\_ExtData\_Delete コマンドを使用すると、システム データ ストア内の External Data フォルダから、指定の外部データ ファイルを削除できます。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
*1	Action	" 外部データ ファイルのフィルタに基づいて (ファイル処理、メールボックス ファイル処理、インポート、メールボックス インポート、送信、エクスポート など)、動作を指定します。 "
2	Age (no. of days)	" システムから削除する外部データ ファイルの期間を数値で指定します。ゼロ (0) は、当日のファイルを含め、すべての外部データ ファイルが削除されることを示します。1 は、当日のドキュメント以外の、すべての外部データ ファイルが削除されることを示します。 "
3		""
4		""
5		""
6		""

## GDW\_Import

### はじめに

GDW\_Import コマンドは、Gentran:Server の " インポート " 機能を実行します。プロセス管理モードでは、この機能は特定のアプリケーション ファイルを EDI データにトランスレーションします。適合ドキュメントは [アウトドキュメント] に格納され、不適合ドキュメントは [? アウトドキュメント] に格納されます。ファイルのフルパスを指定しない場合、システム構成プログラムで定義された既定の Imports フォルダが使用されます。

#### メモ

インポート トランスレーション オブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
*1	File Name	" インポートするファイルの名前を指定します。 "
2		""
3		""
4		""
5		""
6		""

## GDW\_Partner\_Delete

### はじめに

GDW\_Partner\_Delete コマンドは、パートナー エディタの delete コマンドを実行します。特定のパートナーを削除するか、またはすべてのパートナーを削除するよう選択できます。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
*1	Partner	"システムから削除するパートナー プロファイルの名前を指定します。"
2		""
3		""
4		""
5		""
6		""

## GDW\_Partner\_Export

### はじめに

GDW\_Partner\_Export コマンドは、パートナー エディタの export コマンドを実行します。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
*1	Partner	" エクスポートするパートナー プロファイルの名前を指定します。 "
2	File Name	" 選択したパートナー関係のエクスポート先のファイル名を指定します。 "  <b>メモ</b> [パートナー名] フィールドは、ファイルの名前を生成するために使用されます。Windows 用に予約された文字 (/、\、:、*、?、"、<、>、  など) が [パートナー名] に使用された場合、ファイル名にはそれらの文字が使われずに空白スペースに置き換えられます (名前の中にある該当文字 1 文字につき、空白スペースが 1 つ挿入されます)。  <b>例</b> [パートナー名] が「AB/CD-TEST」の場合、ファイル名は「AB CD TEST.par」となります。
3		""
4		""
5		""
6		""

## GDW\_Partner\_Import

### はじめに

GDW\_Partner\_Import コマンドは、パートナー エディタの import コマンドを実行します。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
*1	File Name	" インポートするパートナー ファイルの名前を指定します。 "
2		""
3		""
4		""
5		""
6		""

## GDW\_Print

### はじめに

GDW\_Print コマンドは、Gentran:Server の "印刷" 機能を実行します。この機能は、[インドキュメント] のドキュメントを処理します。印刷の対象を、指定したトレーディング パートナーのドキュメント、または指定した種類のドキュメントだけに制限することができます。

コマンド パラメータ 1 (Select Partner) およびコマンド パラメータ 2 (Select Document Type) は、パートナーおよびドキュメントの種類によって印刷するドキュメントを制限することができます。コマンド パラメータ 1 またはコマンド パラメータ 2 のいずれも指定しない場合には、[インドキュメント] 内のすべてのドキュメントが印刷されます。

#### メモ

印刷トランスレーション オブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
1	Partner	" パートナー プロファイルの名前を指定し、印刷の対象をそのパートナーのドキュメントだけに制限します。 "
2	Transaction	" ドキュメントの種類 (トランザクション セットまたはメッセージ) を指定し、印刷の対象をその種類のドキュメントだけに制限します。 "
3	Document	" ドキュメントを移動しない場合には [ インドローワへ移動しない ] を指定、印刷処理の完了後にドキュメントを移動する場合には [ インドローワに移動 ] を指定します。 "
4		""
5		""
6		""

## GDW\_Process\_File

### はじめに

GDW\_Process\_File コマンドを使用すると、コミュニケーションセッションを介してファイルを受信した場合と同じように、EDI ファイルでポスト コミュニケーションズ プロセスを呼び出すことができます。コマンド パラメータ 1 にファイルのフルパスが指定されない場合には、システム構成プログラムで指定された IntIn フォルダが使用されます。コマンド パラメータ 1 (File to Process) に指定したファイルが存在しない場合には、プロセスが中止されオーデイト ログにその旨のメッセージが記録されます。

### メモ

エクスポート トランスレーション オブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
*1	File Name	"処理するファイルの名前を指定します。"
2		""
3		""
4		""
5		""
6		""

## GDW\_Receive

### はじめに

GDW\_Receive コマンドは、Gentran:Server の "受信のみ" 機能を実行します。この機能を使用すると、定義した 1 つまたはすべての接続で受信専用のコミュニケーションセッションを確立することができます。

コマンド パラメータ 1 (Mailbox) に <all> を指定した場合、Gentran:Server は各メールボックスの受信セッションを開始します。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
*1	Mailbox	" 受信専用コミュニケーションセッションを確立するメールボックスの名前を指定するか、または <all> を指定し、すべてのメールボックスで受信専用コミュニケーションセッションを開始します。 "
2		""
3		""
4		""
5		""
6		""



## GDW\_Send

### はじめに

GDW\_Send コマンドは、Gentran:Server の "送信" 機能を実行します。この機能を使用すると、定義した 1 つまたはすべての接続で (送信準備が整っているドキュメントがある接続)、ポストされているドキュメントを送信することができます。

コマンド パラメータ 1 (Mailbox) に <all> を指定した場合、Gentran:Server は各メールボックスで送信準備が整っているポストされたドキュメントの送信セッションを開始します。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
**1	Mailbox	"送信コミュニケーションセッションを確立するメールボックスの名前を指定、または <all> を指定してすべてのメールボックスの送信コミュニケーションセッションを開始します。"
**2	Partner	"パートナープロファイルを指定し、送信の対象をそのパートナーのドキュメントだけに制限します。"
3	Transaction	"ドキュメントの種類を指定し、送信の対象をその種類のドキュメントだけに制限します。"
4		""
5		""
6		""

## GDW\_Send\_Receive

### はじめに

GDW\_Send\_Receive コマンドは、Gentran:Server の "送信 / 受信" 機能を実行します。この機能を使用すると、定義した 1 つまたはすべてのコミュニケーション接続で送信 / 受信コミュニケーションセッションを確立することができます。伝送の対象を、指定のパートナーまたはドキュメントの種類に制限することができます。

自動送信を有効にしたメールボックスで Unattended GDW\_Send\_Receive コマンドが機能するように設定した場合、コミュニケーションセッションのインバウンド処理が、自動処理セッションの次のコマンドが処理を開始するよりも前に完了することは保証できません。自動送信を有効にしていないメールボックスで Unattended GDW\_Send\_Receive コマンドが機能するように設定した場合、コミュニケーションズ マネージャによって、次のプロセスを呼び出す前に、コミュニケーションプロセスから受信したすべてのメッセージがの処理されることが確認されます。したがって、この場合には、GDW\_Send\_Receive の後にエクスポートに続けるようセッションを設定することができます。

コマンド パラメータ 1 (Mailbox) に <all> を指定した場合、Gentran:Server はすべてのメールボックスの送信 / 受信セッションを開始します。

コマンド パラメータ 1 に特定のメールボックスを指定した場合 (CopyFile タイプのプロファイル)、またはコマンド パラメータ 1 に <all> を指定し、[アウトドキュメント] または [送信キュー] 内に EDI データが存在する場合は、Gentran:Server はそのファイルの送信処理のみを開始します。CopyFile タイププロファイルにこの送信処理が実行された場合には、そのパートナーの [アウトドキュメント] または [送信キュー] 内の EDI データが指定のファイルにコピーされます。その他のタイプのメールボックスでは、Gentran:Server は、それらのパートナーの [アウトドキュメント] または [送信キュー] 内のデータを指定の接続に送信し、その接続から受信可能なデータを受信します。

### 注意

コマンド パラメータ 1 (Mailbox) およびコマンド パラメータ 2 (Select Partner) は、お互いに排他的です。ただし、これらの 2 個のパラメータのいずれかを使用する必要があります。

(次のページへ続く)

## 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
**1	Mailbox	" 送信 / 受信コミュニケーション セッションを確立するメールボックスの名前を指定するか、または <all> を指定してメールボックスすべてのコミュニケーションの送信 / 受信 セッションを開始します。 "
**2	Partner	" パートナー プロファイルを指定し、送信 / 受信の対象をそのパートナーのドキュメントだけに制限します。 "
3	Transaction	" ドキュメントの種類 (トランザクション セットまたはメッセージ) を指定し、送信 / 受信の対象をその種類のドキュメントだけに制限します。 "
4		""
5		""
6		""

## Terminate\_Script

### はじめに

Terminate\_Script コマンドを使用すると、システムにセッションの処理の停止を指示することができます。このコマンドは、処理中に予期しないイベントまたは思わしくないイベントが発生したときに実行を停止するために使用できます。通常、このコマンドは、スクリプトを終了するかどうかを判断するための条件を伴って使用します。

さらに、終了直前にプログラムを1つ実行できるオプションもあります。また、そのプログラムの実行に必要なパラメータを指定することもできます。このプログラムは、任意の状態監視、エラー処理、または通知手順などを実行することができます。

### 表

次の表に、コマンド パラメータを示します。

番号	コマンド パラメータ	指定内容
1	Before Termination Run	" システムが起動すべきプログラムの名前を指定します。プログラムの実行に必要なパラメータを指定する必要がある場合、プログラム名の後にスペースを挿入し、パラメータを指定します。 "
2	Working Directory	" プログラム実行時にシステムが使用すべき作業ディレクトリの名前を指定します。作業ディレクトリの指定は必須ではありません。ただし、作業フォルダを指定しない場合、実行時の現行ディレクトリが既定値として適用されます。そのため、情報が特定のディレクトリパスにあることを前提としているプログラムでは、予期しない結果となることがあります。 "
3		""
4		""
5		""
6		""

---

# システム情報

目次

---

<b>概要</b> .....	<b>2</b>
▶ はじめに .....	2
<b>プログラムの説明</b> .....	<b>3</b>
▶ 概要 .....	3
▶ プログラム説明表 .....	4
<b>フォルダ構造</b> .....	<b>7</b>
▶ 概要 .....	7
▶ ユーザー インターフェイス クライアント / コントローラ フォルダ .....	8

---

## 概要

## はじめに

### この付録の内容

---

この付録では、プログラムの説明やフォルダ構造など、Gentran:Server のシステム情報について説明します。

---

# プログラムの説明

## 概要

### はじめに

---

この項では、Gentran:Server を構成する (実行可能な) プログラムについて説明します。

#### メモ

ユーザー インターフェイス クライアントに格納されているどの Gentran:Server アプリケーションも、任意のコントローラにインストールすることができます。

---

## プログラム説明表

表

次の表に、プログラムとその説明および格納場所 (コントローラ、ユーザー インターフェイス クライアントなど) をリストします。

プログラム	説明	場所
AckServer.EXE	RPCSRV.EXE が受信確認の延期処理を実行するときに使用する out-of-process COM コンポーネント	プライマリ Gentran システム コントローラ
ANConfig.EXE	オーディット サーバー セットアップ	ユーザー インターフェイス クライアント
ANServer.EXE	オーディット サービス	ユーザー インターフェイス クライアント
ArchiveEngine.EXE	アーカイブ マネージャ	ユーザー インターフェイス クライアント
ArchiveManager.EXE	アーカイブ マネージャ	ユーザー インターフェイス クライアント
AuditLog.EXE	オーディット ログ	ユーザー インターフェイス クライアント
AuditMsgUI.EXE	オーディット メッセージ定義	ユーザー インターフェイス クライアント
Axdist.EXE	ActiveX 配布	コミュニケーション コントローラ
COMMPOST.EXE	コミュニケーションズ ポスト プロセッサ	コミュニケーション コントローラ/ユーザー インターフェイス クライアント
CONFIG.EXE	システム構成	ユーザー インターフェイス クライアント
(次のページへ続く)		



( 続き ) プログラム	説明	場所
EDIMGR.EXE	Gentran:Server for Windows EC マネージャ	ユーザー インターフェ イス クライアント
FORMS.EXE	フォーム インテグレー ション サブシステム	ユーザー インターフェ イス クライアント
GNTXEng.EXE	インバウンド データの トランスレーションを行 う COM コンポーネント	コントローラ / ユー ザー インターフェイス クライアント
MAPPER.EXE	アプリケーション インテグレーション サブシステム	ユーザー インターフェ イス クライアント
MCLIENT.EXE	メールボックスユーザー インターフェイス	コミュニケーション コントローラ
MERCURY.EXE	メールボックス サービス	コミュニケーション コントローラ
Notify.EXE	通知セットアップ	ユーザー インターフェ イス クライアント
NotifyLogUI.EXE	通知ログ	ユーザー インターフェ イス クライアント
Operators.EXE	オペレータ セットアップ	ユーザー インターフェ イス クライアント
PARTNRED.EXE	パートナー エディタ	ユーザー インターフェ イス クライアント
PROCCNTL.EXE	プロセス管理 セットアップ	ユーザー インターフェ イス クライアント
RPCSRV.EXE	Gentran:Server エグゼク ティブ サービス	コントローラ
TX32.EXE	トランスレータ / ドキュメント エディタ	ユーザー インターフェ イス クライアント
( 次のページへ続く )		

( 続き ) プログラム	説明	場所
TXDE.EXE	画面入力および印刷レガ シアプリケーション	ユーザー インターフェ イス クライアント
UNATTEND.EXE	プロセス管理実行	コントローラ
Vatprint.EXE	付加価値税レポート	ユーザー インターフェ イス クライアント / コントローラ
XPROCESS.EXE	プロセス前および プロセス後用追加処理 プログラム	コミュニケーション コントローラ

---

# フォルダ構造

## 概要

### はじめに

---

Gentran:Server は、各ユーザー インターフェイス クライアントおよびコントローラに既定のフォルダ セットをインストールします。また、インストールプログラムでは、ファイル タイプごとにシステム データ ストアの既定フォルダを選択することもできます。

---

## ユーザー インターフェイス クライアント / コントローラ フォルダ

### クライアントおよび コントローラ フォルダ

Gentran:Server は、各ユーザー インターフェイス クライアントおよびコントローラに次の既定フォルダをインストールします。

- ▶ **Bin** フォルダには、ユーザー インターフェイス クライアントまたはコントローラの実行可能な Gentran:Server プログラム (バイナリ) が格納されます。
- ▶ **Ipcmsg** フォルダには、ユーザー インターフェイス クライアントまたはコントローラの Gentran:Server プロセス間コミュニケーション ファイルが格納されます。
- ▶ **Temp** フォルダには、ユーザー インターフェイス クライアントまたはコントローラの Gentran:Server 一時ファイルが格納されます。
- ▶ **CharsetMaps** フォルダには、文字セット変換に使用される文字セット ファイルが格納されます。

### クライアント アク セスコンポーネント コンピュータ

Gentran:Server は、クライアント アクセス コンポーネントがインストールされている各コンピュータに次の既定フォルダをインストールします。

- ▶ **Imports** フォルダには、インポート ファイルが格納されます。
- ▶ **Export** フォルダには、エクスポート ファイルが格納されます。
- ▶ **Partners** フォルダには、.PAR パートナー プロファイルが格納されます。
- ▶ **CommScr** フォルダには、Gentran:Server コミュニケーション スクリプト ファイルが格納されます。
- ▶ **CommScr\Samples** フォルダには、サンプルの Gentran:Server コミュニケーション スクリプト ファイルが格納されます。

### インテグレーション コンポーネント コンピュータ

Gentran:Server は、インテグレーション コンポーネントがインストールされている各コンピュータに次の既定フォルダをインストールします。

- ▶ **Maps** フォルダには、アプリケーション インテグレーション .MAP ファイルが格納されます。
- ▶ **Forms** フォルダには、フォーム インテグレーション .STP ファイルが格納されます。
- ▶ **TransObj** フォルダには、コンパイルされたマップおよびフォーム トランスレーションオブジェクトが格納されます。
- ▶ **Tutorial** フォルダには、フォームおよびアプリケーション インテグレーション チュートリアルデータの Gentran:Server チュートリアルデータが格納されます。

#### メモ

オプション パックから XML オプションをインストールした場合は、Tutorial フォルダに XML サブフォルダが作成され、XML チュートリアル ファイルが格納されます。

(次のページへ続く)

**プライマリ  
Gentran システム  
コントローラ  
フォルダ**

Gentran:Server は、プライマリ Gentran システム コントローラに次の既定フォルダをインストールします。

- ▶ **Store** フォルダは、メールボックス関連の情報およびデータの保管場所です。

**メモ**

Store フォルダには、[システム構成-\[ディレクトリ\]タブ](#) で設定したディレクトリ構造が使用されます。Store フォルダは、最初の階層が4桁表記の年である階層構造になっています。これより下位の階層は、[システム構成-\[ディレクトリ\]タブ](#) の設定に従って、順に2桁表示の月、2桁表示の日、2桁表記の時間(24時間書式)となります(指定されている場合)。

**注意**

Store フォルダおよびその内容は、変更または削除しないでください。

- ▶ **Archive** フォルダには、アーカイブ定義ファイル(.ARD)およびアーカイブファイル(.ARV)が格納されます。
- ▶ **Documents** フォルダには、すべてのドキュメント ファイル(.DOC)が格納されます。
- ▶ **ExternalData** フォルダには、外部データ ファイル(.EXT)から作成されたコピーが格納されます。
- ▶ **ErrorData** フォルダには、分割機能がインターチェンジやネットワークレポートを識別できなかった場合に記述する、エラー ファイル(.IER)が格納されます。
- ▶ **IntIn** フォルダには、すべての受信インターチェンジ(.INT)が格納されます。
- ▶ **IntOut** フォルダには、すべての送信インターチェンジ(.INT)が格納されます。
- ▶ **IntRNPIP0A1** フォルダには、すべてのアウトバウンド PIP 0A1 失敗の通知動作インターチェンジが格納されます。

**メモ**

このフォルダは、Gentran:Server for RosettaNet™ がインストールされている場合にのみ作成されます。

- ▶ **RegTransObj** フォルダには、登録されたトランスレーション オブジェクト(.TPL)が格納されます。
- ▶ **TranRpt** フォルダには、すべてのトランスレータ レポート(.RPT)が格納されます。
- ▶ **Unattend** フォルダには、すべてのプロセス管理イベント、セッション、およびカレンダー ファイルが格納されます。



---

# パートナー ファイルの配置

目次

---

<b>概要</b> .....	<b>2</b>
▶ はじめに .....	2
<b>パートナー インポート ファイルとパートナー エクスポート ファイル</b> .4	<b>4</b>
▶ 概要 .....	4
▶ パートナー テーブル .....	6
▶ 所在地テーブル .....	7
▶ 照合テーブル .....	8
▶ クロスリファレンス テーブル .....	9
▶ 関係テーブル .....	10
▶ インターチェンジ管理テーブル .....	15
▶ ファンクショナルグループ管理テーブル .....	17
▶ 一般的なエンベロープ セグメント テーブル .....	19
<b>パートナー テーブル インポート ファイルとパートナー テーブル エクスポート ファイル</b> .....	<b>22</b>
▶ 概要 .....	22
▶ 照合テーブル .....	23
▶ クロスリファレンス テーブル .....	24

---

## 概要

### はじめに

---

#### この付録の内容

この付録では、パートナー インポート、パートナー エクスポート、パートナー テーブル インポート、およびパートナー テーブル エクスポートのファイルの配置について説明します。

---

#### パートナー インポート

Gentran:Server のパートナー インポート機能を使用すると、ファイルからパートナーの詳細をインポートできます。別の Gentran:Server システムのコピーからエクスポートしたパートナー プロファイルを、パートナーの詳細を含むファイルの元ファイルとすることができます。

また、インポート機能を使って、既存のパートナーの情報を更新することもできます。既存のパートナー プロファイルに情報をインポートすることにより、新しい取引関係を追加することができます。この際、既存の関係は変更されません。

##### メモ

パートナー プロファイルに関連付けられているテーブル (クロスリファレンス、照合、または所在地) もインポートされます。

##### 参照

詳細については、「[パートナー プロファイルのインポート方法](#)」を参照してください。

---

#### パートナー エクスポート

Gentran:Server のパートナー エクスポート機能を使用すると、既存のパートナーの詳細をファイルにエクスポートできます。パートナーをフロッピー ディスクにエクスポートして、パートナー システムのバックアップとして使用することもできます。

##### メモ

パートナー プロファイルに関連付けられているテーブル (クロスリファレンス、照合、または所在地) もエクスポートされます。

##### 参照

詳細については、「[パートナー プロファイルのエクスポート方法](#)」を参照してください。

---

(次のページへ続く)



---

**パートナーテーブル  
インポート**

パートナー テーブル インポート機能を使用すると、パートナーのクロスリファレンス テーブルおよび照合テーブルをシーケンシャル ファイルからインポートできます。これにより、別のパートナー プロファイル用に作成したテーブルをインポートし、エクスポート ファイルの配置に従ってデータを書式化することにより、Gentran:Server の外部でテーブルを作成できます。

**参照**

詳細については、「[テーブルのインポート方法](#)」を参照してください。

---

**パートナーテーブル  
エクスポート**

パートナー テーブル エクスポート機能を使用すると、パートナーのクロスリファレンス テーブルおよび照合テーブルをシーケンシャル ファイルにエクスポートできます。これにより、あるトレーディング パートナー用にテーブルを定義して、そのテーブルを別のパートナー プロファイルにコピーできます。

**メモ**

クロスリファレンス テーブルの既定のファイル拡張子は .XRF です。照合テーブルの既定のファイル拡張子は .LKP です。

**参照**

詳細については、「[パートナー テーブルのエクスポート方法](#)」を参照してください。

---

# パートナー インポート ファイルと パートナー エクスポート ファイル

## 概要

### はじめに

inter-process communication files パートナー インポート ファイルやパートナー エクスポート ファイル (\*.PAR) を使用すると、既に定義されている情報を基に新たなパートナーを作成できます。これらのファイルは、自由書式の ASCII テキストで、.PAR という拡張子を持ち、シーケンシャル書式のパートナー データベース テーブルのダンプで構成されています。各フィールドは 16 進数 01 で区切られています。フィールドが可変長であるため、区切文字が必要となります。

.PAR ファイルは、パートナー バージョン番号 1.0 で始まり、その後に 16 進数 01 の区切文字が続きます。次に、パートナー データベース テーブルの情報が挿入されます。各テーブルは、3 文字のコードと 16 進数 01 の区切文字によって識別されます。

次の項では、.PAR ファイルを構成するパートナー データベース テーブルのフィールドの配置について説明します。

### メモ

パートナーの特定の情報 (所在地、照合、またはクロスリファレンス テーブルなど) が定義されていない場合、作成される .PAR ファイルにそのテーブルに関連するデータは含まれません。次の項では、.PAR ファイルでの表示順でテーブルがリストされています。

(次のページへ続く)

**データベース  
テーブルコード**

次の表に、各パートナー データベース テーブルに対応する 3 文字コードを示します。

パートナー データベース テーブル	テーブル名	識別コード
パートナー メイン テーブル	Partner_tb	PAR
所在地テーブル	Location_tb	LOC
照合テーブル	Lookup_tb	LKP
クロスリファレンス テーブル	CrossReference_tb	CRR
関係テーブル	Relationship_tb	REL
インターチェンジ 管理テーブル	InterchangeControl_tb	INT
ファンクショナル グループ 管理テーブル	FunctionalGroupControl_tb	GRP
一般的なエンベロープ セグメント テーブル	GenericEnvelopeSegment_tb	ENV

**例**

.PAR ファイルは、PAR セグメントで始まり、次に REL セグメントが続きます。

## パートナー テーブル

### はじめに

次の表に、.PAR ファイルで使用される、Partner\_tb のフィールドをリストします。これらのフィールドの先頭には、識別コード PAR が付きます。

Partner_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
PartnerKEY	string	10	このパートナーの一意の識別子です。
EDICode	string	255	EDI の識別子です。インバウンド処理時に、正しいパートナーを選択するために使用されます。
ApplicationPartnerKEY	string	255	このパートナーのアプリケーション識別子です。アウトバウンドのインポート処理時に、正しいパートナーを選択するために使用されます。
IsSystem	number (integer)	2	このパートナーが <内部システムユーザー> パートナーであるかどうかを示します。  0 = <内部システムユーザー> パートナーではない 1 = <内部システムユーザー> パートナー
PartnerName	string	40	このパートナーを識別する一意の名前です。
Mailbox	string	125	インバウンドおよびアウトバウンド処理で使用される、定義済みのコミュニケーション セットアップを指定します。
EMailAddress	string	125	選択されたメールボックスが交換ゲートウェイの場合、メッセージ アドレスを識別するために使用されます。
Editing	number (integer)	2	特定のパートナー関係が編集中であることを示すために使用されます。  0 = 編集されていない 1 = 現在、編集中

## 所在地テーブル

### はじめに

次の表に、.PAR ファイルで使用される、Location\_tb のフィールドをリストします。これらのフィールドの先頭には、識別コード LOC が付きます。

Location_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
PartnerKEY	string	10	所在地テーブルが属するパートナーの一意的識別子です。
Name	string	255	パートナー所在地の名前です。
PrimaryReferenceCode	string	255	この所在地を識別するために使用される第 1 参照コードです。
SecondaryReference Code	string	255	この所在地を識別するために使用される第 2 参照コードです。
Address1	string	35	住所の最初の行です。
Address2	string	35	住所の 2 行目です。
Address3	string	35	住所の 3 行目です。
City	string	20	この所在地の市の名前です。
State	string	10	この所在地の都道府県名です。
Zip	string	10	この所在地の郵便番号です。
Country	string	10	この所在地の国コードです。
ContactName	string	35	パートナー側のオフィスの担当者名です。
Telephone	string	20	電話番号です。
Fax	string	20	ファックス番号です。

## 照合テーブル

### はじめに

次の表に、.PAR ファイルで使用される、Lookup\_tb のフィールドをリストします。これらのフィールドの先頭には、識別コード LKP が付きます。

Lookup_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
PartnerKEY	string	10	照合テーブルが属するパートナーの一意の識別子です。
TableName	string	8	テーブルの名前です。
Item	string	255	インバウンドまたはアウトバウンド処理時に、データ内で検索される値です。
Description	string	255	MyItem および PartnerItem コードの説明です。
Text1	string	255	特定のコード値と関連付けられた際に、マッピングが可能となるフィールドです。
Text2	string	255	特定のコード値と関連付けられた際に、マッピングが可能となるフィールドです。
Text3	string	255	特定のコード値と関連付けられた際に、マッピングが可能となるフィールドです。
Text4	string	255	特定のコード値と関連付けられた際に、マッピングが可能となるフィールドです。

## クロスリファレンス テーブル

### はじめに

次の表に、.PAR ファイルで使用される、CrossReference\_tb のフィールドをリストします。これらのフィールドの先頭には、識別コード CRR が付きます。

CrossReference_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
PartnerKEY	string	10	クロスリファレンス テーブルが属するパートナーの一意の識別子です。
TableName	string	8	テーブルの名前です。
MyItem	string	255	パートナーのデータ値に対応するユーザーのデータ値です。
PartnerItem	string	255	ユーザーのデータ値に対応するパートナーのデータ値です。
Description	string	255	MyItem および PartnerItem コードの説明です。
Text1	string	255	特定のコード値と関連付けられた際に、マッピングが可能となるフィールドです。
Text2	string	255	特定のコード値と関連付けられた際に、マッピングが可能となるフィールドです。
Text3	string	255	特定のコード値と関連付けられた際に、マッピングが可能となるフィールドです。
Text4	string	255	特定のコード値と関連付けられた際に、マッピングが可能となるフィールドです。

## 関係テーブル

### はじめに

次の表に、.PAR ファイルで使用される、Relationship\_tb のフィールドをリストします。これらのフィールドの先頭には、識別コード REL が付きます。

Relationship_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
PartnerKEY	string	10	関係が属するパートナーの一意の識別子です。
Direction	number (integer)	2	関係の方向を示します。 0 = インバウンド 1 = アウトバウンド
Agency	number (integer)	2	この関係に使用する EDI スタンド ードです。
Version	string	13	この関係に使用するスタンダード バージョンです。
TransactionSetID	string	150	この関係に使用するトランザクシ ョンセット (メッセージ) です。
Release	number (integer)	2	この関係に使用するメッセージバ ージョン リリース番号です。
TestMode	number (integer)	2	パートナー関係の状態がテストま たは本番のいずれであるかを示 します。 0 = 本番 1 = テスト
Description	string	40	関係の名前です。
ImportTemplateKEY	string	40	この関係で使用されるインポート トランスレーション オブジェクト を示します。
DataEntryTemplate KEY	string	40	この関係で使用される画面入力 トランスレーション オブジェクト を示します。  (次のページへ続く)



( 続き ) Relationship_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
TurnAroundTemplate KEY	string	40	この関係で使用されるターンアラウンド トランスレーション オブジェクト を示します。
PrintTemplateKEY	string	40	この関係で使用される印刷トランス レーション オブジェクトを示します。
RelationshipTemplate KEY	string	40	この関係で使用される関係トランス レーション オブジェクトを示します。 これにより、トランザクションおよび ドキュメントのレベルでシステムの動 作を変更できます。パートナー固有の トランスレーション オブジェクトを 使用したり、必要に応じただけの数の 機能を実行したりすることが可能にな ります。
ExportTemplateKEY	string	40	この関係で使用されるエクスポート トランスレーション オブジェクトを 示します。
ComplianceCheck TemplateKEY	string	40	エラー チェックを実行するトランス レーション オブジェクトを示します。
ExportFileName	string	130	エクスポート操作の結果によって作成 または追加されるファイル名を示し ます。
ExportToFlatFileNow	number (integer)	2	この関係で定義されているドキュメン トの受信時に、エクスポート ファイ ルを自動的に作成するかどうかを指定 します。  0 = 自動的にエクスポートしない 1 = 自動的にエクスポートする  <span style="color: green;">( 次のページへ続く )</span>

( 続き ) Relationship_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
TurnAroundNow	number (integer)	2	この関係で定義されているドキュメントの受信時に、定義したターンアラウンド プロセスを自動的に実行するかどうかを指定します。  0 = 自動的にターンアラウンド プロセスを実行しない 1 = 自動的にターンアラウンド プロセスを実行する
SequenceCheckType	number (integer)	2	この関係で定義されているトランザクション セット (メッセージ) に使用する順番検査のタイプを示します。  0 = なし 1 = 連番 2 = 日付順 3 = 重複
SkipComplianceCheck	number (integer)	2	エラー チェックを実行するかどうかを指定します。  0 = エラー チェックを実行しない 1 = エラー チェックを実行する
AckErrors	number (integer)	2	受信確認をエラー詳細付きで生成するかどうかを定義します。  0 = エラー詳細なし 1 = エラー詳細あり
AckExpected	number (integer)	2	この関係 (アウトバウンド) で定義されているトランザクション セット (メッセージ) をパートナーが受信した結果として、システムがトレーディング パートナーからの受信確認を期待するよう指定します。
HoursOverdue	number (integer)	2	受信確認を時間切れであるとみなすまでの経過時間数を定義します。  <span style="color: green;">( 次のページへ続く )</span>

( 続き ) Relationship_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
AckTemplateKEY	string	40	この関係に使用される受信確認ビルドまたはブレーク トランスレーション オブジェクトです。
AckTransactionSetID	string	150	トランザクション セット ( インバウンド ) に生成された受信確認を示します。
ApplicationKEY	string	150	この関係で定義されているドキュメントの宛先を示すアプリケーション識別子を指定します。
Alias	string	150	システムがこの関係と他の関係とを区別するために使用する特定の基準を示します。
FunctionalGroup ControlKEY	string	20	この関係を参照しているパートナー エディタのグループ管理レコードです。
InterchangeControl KEY	string	40	この関係を参照しているパートナー エディタのインターチェンジ管理レコードです。
ControlNumber	string	255	次の Transaction Set Control Number を生成するために使用するパートナー関係からの値です。
ImmediateAck Processing	number (integer)	2	インバウンド ブレーク セッションまたはスケジュール間隔の間に、受信確認の整合が行われるかどうかを指定するフラグです。
IsAcknowledgement	number (integer)	2	このパートナー関係で定義されているトランザクションが受信確認であるかどうかを示すフラグです。
ExportToMailbox	number (integer)	2	" メールボックスへのエクスポート " 機能を呼び出すかどうかを指定するフラグです。この機能は、インバウンド トランスレーションの出力をメールボックス サーバー マネージャに返します。
RecipientMailbox	string	125	インバウンド トランスレーションの出力先メールボックスです。

( 次のページへ続く )

( 続き ) Relationship_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
RecipientEMailAddress	string	125	インバウンド トランスレーションの出力先 E メール アドレスです。
ContentType	string	255	インバウンド トランスレーションの出力が含まれているメッセージのコンテンツ タイプです。
ContentSubType	string	255	インバウンド トランスレーションの出力が含まれているメッセージのコンテンツ サブタイプです。

---

# インターチェンジ管理テーブル

はじめに

次の表に、.PAR ファイルで使用される、InterchangeControl\_tb のフィールドをリストします。これらのフィールドの先頭には、識別コード INT が付きます。

InterchangeControl_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
PartnerKEY	string	10	インターチェンジが属するパートナーの一意の識別子です。
Direction	number (integer)	2	インターチェンジの方向を示します。 0 = インバウンド 1 = アウトバウンド
InterchangeControlKEY	string	40	インターチェンジの名前です。
Agency	number (integer)	2	このインターチェンジに使用する EDI スタンドアードです。
Version	string	13	このインターチェンジに使用するスタンダード バージョンです。
TemplateKEY	string	40	このインターチェンジに使用されるパートナー固有のグループビルドまたはブレイク トランスレーション オブジェクトです。
SegmentID	string	10	インターチェンジの制御セグメントのセグメント ID です (ISA、UNB、STX など)。
AckExpected	number (integer)	2	この関係 (アウトバウンド) で定義されているインターチェンジをパートナーが受信した結果として、システムがトレーディング パートナーからの受信確認を期待することを示します。
HoursOverdue	number (integer)	2	受信確認を時間切れであるとみなすまでの経過時間数を定義します。
AckTemplateKEY	string	40	このインターチェンジに使用される受信確認ビルドまたはブレイク トランスレーション オブジェクトです。

(次のページへ続く)

( 続き ) InterchangeControl_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
AckTransactionSetID	string	150	インターチェンジ ( インバウンド ) に生成された受信確認を示します。
ControlNumber	string	255	次のインターチェンジ Control Number を生成するために使用するパートナー関係からの値です。
SequenceCheckType	number (integer)	2	このインターチェンジに使用する順番検査のタイプを示します。  0 = なし 1 = 連番 2 = 日付順 3 = 重複
MsgContentType	string	125	インターチェンジデータを含むメッセージを作成するときに、"コンテンツタイプ" フィールドを書式化するために使用されます。"アプリケーション" に初期化されます。
MsgContentSubType	string	125	インターチェンジデータを含むメッセージを作成するときに、"コンテンツサブタイプ" フィールドを書式化するために使用されます。"EDI" に初期化されます。
MaxDocsperint	number (long)	4	1 つのインターチェンジに含めることができるドキュメントの数を決定するために、トランスレータに使用されます。0 に初期化されます ( 各インターチェンジに無制限の数のドキュメントを含めることができます )。
Mailbox	string	125	インバウンドおよびアウトバウンド処理で使用される、定義済みのコミュニケーション設定を指定します。
EMailAddress	string	125	選択されたメールボックスが交換ゲートウェイの場合、メッセージアドレスを識別するために使用されます。

## ファンクショナル グループ管理テーブル

### はじめに

次の表に、.PAR ファイルで使用される、FunctionalGroupControl\_tb のフィールドをリストします。これらのフィールドの先頭には、識別コード GRP が付きます。

FunctionalGroupControl_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
PartnerKEY	string	10	ファンクショナル グループが属するパートナーの一意の識別子です。
Direction	number (integer)	2	ファンクショナル グループの方向を示します。  0 = インバウンド 1 = アウトバウンド
FunctionalGroup ControlKEY	string	20	ファンクショナル グループの名前です。
GroupSequenceCheck Type	number (integer)	2	このグループに使用するグループ順番検査のタイプを示します。  0 = なし 1 = 連番 2 = 日付順 3 = 重複
Agency	number (integer)	2	このファンクショナル グループに使用する EDI スタンドードです。
Version	string	13	このファンクショナル グループに使用するスタンドード バージョンです。
FunctionalGroupID	string	6	このファンクショナル グループの EDI スタンドード ID です (PO、IN など)。
SegmentID	string	10	グループの制御セグメントのセグメント ID です (GS、UNG、BAT など)。  (次のページへ続く)

( 続き ) FunctionalGroupControl_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
TemplateKEY	string	40	このファンクショナル グループに使用されるパートナー固有のグループビルドまたはブレイク トランスレーション オブジェクトです。
AckExpected	number (integer)	2	この関係 (アウトバウンド) で定義されているグループをパートナーが受信した結果として、システムがトレーディング パートナーからのファンクショナル受信確認を期待することを示します。
HoursOverdue	number (integer)	2	受信確認を時間切れであるとみなすまでの経過時間数を定義します。
AckTemplateKEY	string	40	このファンクショナル グループに使用される受信確認ビルドまたはブレイク トランスレーション オブジェクトです。
AckTransactionSetID	string	150	ファンクショナル グループ (インバウンド) に生成された受信確認を示します。
ControlNumber	string	255	次のグループ Control Number を生成するために使用するパートナー関係からの値です。
NumberTransFrom Group	number (integer)	2	グループのトランザクション セット数です。
TransControlNumber Format	number (integer)	2	トランザクション Control Number の書式です。
TransSequenceCheck Type	number (integer)	2	このグループのトランザクション Control Number の番号付けに使用する順番検査のタイプを示します。  0 = なし 1 = 連番 2 = 日付順
TransControlNumber	string	255	トランザクション Control Number です。



## 一般的なエンベロップ セグメント テーブル

### はじめに

次の表に、.PAR ファイルで使用される、GenericEnvelopeSegment\_tb のフィールドをリストします。これらのフィールドの先頭には、識別コード ENV が付きます。

GenericEnvelopeSegment_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
EnvelopeLevel	number (integer)	2	予約フィールドです。
PartnerKEY	string	10	予約フィールドです。
Description	string	40	予約フィールドです。
Direction	number (integer)	2	予約フィールドです。
ControlNumber	string	255	予約フィールドです。
Field1	string	40	予約フィールドです。
Field2	string	40	予約フィールドです。
Field3	string	40	予約フィールドです。
Field4	string	40	予約フィールドです。
Field5	string	40	予約フィールドです。
Field6	string	40	予約フィールドです。
Field7	string	40	予約フィールドです。
Field8	string	40	予約フィールドです。
Field9	string	40	予約フィールドです。
Field10	string	40	予約フィールドです。
Field11	string	40	予約フィールドです。
Field12	string	40	予約フィールドです。
Field13	string	40	予約フィールドです。
Field14	string	40	予約フィールドです。

(次のページへ続く)

( 続き ) GenericEnvelopeSegment_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Field15	string	40	予約フィールドです。
Field16	string	40	予約フィールドです。
Field17	string	40	予約フィールドです。
Field18	string	40	予約フィールドです。
Field19	string	40	予約フィールドです。
Field20	string	40	予約フィールドです。
Field21	string	40	予約フィールドです。
Field22	string	40	予約フィールドです。
Field23	string	40	予約フィールドです。
Field24	string	40	予約フィールドです。
Field25	string	40	予約フィールドです。
Field26	string	40	予約フィールドです。
Field27	string	40	予約フィールドです。
Field28	string	40	予約フィールドです。
Field29	string	40	予約フィールドです。
Field30	string	40	予約フィールドです。
SubCountField	string	18	予約フィールドです。
ControlNumberLength	number (integer)	2	予約フィールドです。
Field31	string	255	予約フィールドです。
Field32	string	255	予約フィールドです。
Field33	string	255	予約フィールドです。
Field34	string	255	予約フィールドです。
Field35	string	255	予約フィールドです。
Field36	string	25540	予約フィールドです。

( 次のページへ続く )

( 続き ) GenericEnvelopeSegment_tb			
フィールド名	型	サイズ	使用法
Field37	string	255	予約フィールドです。
Field38	string	255	予約フィールドです。
Field39	string	255	予約フィールドです。
Field40	string	255	予約フィールドです。

# パートナー テーブル インポート ファイルと パートナー テーブル エクスポート ファイル

## 概要

### はじめに

---

パートナー インポート および エクスポート ファイルと同様、テーブル エクスポート および インポート ファイルは、自由書式の ASCII テキスト ファイルです。フィールドが可変長であるため、各フィールドを 16 進数 01 で区切る (分割する) 必要があります。照合 エクスポート ファイルの既定のファイル 拡張子は .LKP です。クロスリファレンス ファイルの既定のファイル 拡張子は ".XRF" です。

.LKP および .XRF ファイルには、パートナー テーブルのデータベース テーブルからの情報が含まれます。各テーブルは、3 文字のコードと 16 進数 01 の区切文字によって識別されます。

次の項では、パートナー テーブル ファイルを構成するパートナー データベース テーブルの特定フィールドの配置について説明します。

### メモ

これらのファイルを作成するには、テキスト エディタ (メモ帳など) を使用します。

---

## 照合テーブル

### はじめに

次の表に、.LKP ファイルで使用される、Lookup\_tb のフィールドをリストします。必須フィールドは、アスタリスク (\*) で示します。

フィールド	説明
PartnerKEY*	パートナーの一意の識別子です。
TableCode	照合テーブルの場合、値は [L] です。
TableName*	テーブル選択リストに表示されるテーブル名です。分かりやすい名前にします。
Item*	インバウンド処理またはアウトバウンド処理の際に、データ内で照合する値です。
Description	アイテムに関する簡単な説明です。
Text1、Text2、Text3、Text4	このテーブルを使用するトランスレーションオブジェクトで必要となる追加の参照情報です。

## クロスリファレンス テーブル

### はじめに

次の表に、.XRF ファイルで使用される、CrossReference\_tb のフィールドをリストします。必須フィールドは、アスタリスク (\*) で示します。

フィールド	説明
PartnerKEY*	パートナーの一意の識別子です。
TableCode	クロスリファレンス テーブルの場合、値は [C] です。
TableName*	テーブル選択リストに表示されるテーブル名です。分かりやすい名前にします。
MyItem*	パートナーのデータ値に対応するユーザーのデータ値です。
PartnerItem*	ユーザーのデータ値に対応するパートナーのデータ値です。
Description	アイテムに関する簡単な説明です。
Text1、Text2、Text3、Text4	このテーブルを使用するトランスレーション オブジェクトで必要となる追加の参照情報です。

---

# Gentran:Server ユーティリティと Gentran:Server モジュール

目次

---

<b>Gentran:Server ユーティリティ</b> .....	<b>2</b>
▶ 概要 .....	2
▶ GNTSTART.EXE ユーティリティ .....	3
▶ TOMULTI.EXE ユーティリティ .....	10
▶ TXTRACE.EXE ユーティリティ .....	12
▶ GICHECK.EXE ユーティリティ .....	13
▶ XPROCESS ユーティリティ .....	18
<b>Gentran:Server モジュール</b> .....	<b>25</b>
▶ 概要 .....	25
▶ Gentran:Server モジュール .....	26

---

# Gentran:Server ユーティリティ

## 概要

### はじめに

---

この項では、次の追加 Gentran:Server ユーティリティ プログラムについて説明します。

- ▶ GNTSTART.EXE
  - ▶ TOMULTI.EXE
  - ▶ TXTRACE.EXE
  - ▶ GICHECK.EXE
-



## GNTSTART.EXE ユーティリティ

### はじめに

Gentran:Server の GNTSTART.EXE ユーティリティを使用すると、任意のプライマリ Gentran システムコントローラまたはセカンダリコントローラで Gentran:Server 処理 (インポート、エクスポート、送受信、自動処理プロセス管理セッション、オーデジットメッセージなど) を呼び出すことができます。指定された処理は、自動処理プロセス管理セッションから実行する場合のように、Gentran:Server エグゼクティブサービスのセキュリティコンテキスト内で実行されます。

### 始める前に

GNTSTART.EXE は、インストール CD の `¥i386¥utils` フォルダに収録されています。GNTSTART.EXE ユーティリティを使用できるようにするには、GNTSTART.EXE プログラムを `¥GENSRVNT¥bin` フォルダにコピーする必要があります。

#### メモ

GNTSTART ユーティリティから、使用可能なすべてのオプションのリストを表示するには、コマンドプロンプトを開いて、次の手順を実行します。

ステップ	操作
1	MS-DOS コマンドプロンプトにアクセスします。
2	ディレクトリ (cd) を <code>¥GENSRVNT¥bin</code> フォルダに変更します。 <b>例</b> <code>cd c:¥GENSRVNT¥bin</code>
3	「 <code>gntstart /?</code> 」と入力し、使用可能なオプションのリストを表示します。

(次のページへ続く)

## GNTSTART の 使い方

---

GNTSTART.EXE は、次のいずれかの方法で実行できます。

- ▶ コマンド プロンプトから実行します。
- ▶ マップ内から WINEXEC コマンドを使用して呼び出します。WINEXEC コマンドは、トランスレータの実行中に別のプログラムを実行するコマンドです。拡張ルール論理を使用すれば、データの有無に基づいてオーディットメッセージを生成するマップを設計することもできます。

### 参照

拡張ルールおよび WINEXEC コマンドの詳細については、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』の「拡張ルールの使い方」を参照してください。

- ▶ プロセス管理セッションで Exec\_Program コマンドを使用して呼び出します。

### 参照

イベントの作成方法および Exec\_Program セッション コマンドの使用方法の詳細については、『ユーザー ガイド』の「プロセス管理の使い方」を参照してください。

---

(次のページへ続く)

**GNTSTART  
シンタックス**

コマンドラインでの GNTSTART ユーティリティの実行シンタックスは、次のとおりです。

```
c:¥GENSRVNT¥bin¥gntstart.exe -M "machine name" -S "system" [action parameter] [optional parameter]
```

**メモ**

この項にリストされているパラメータを入力するときには、引用符は必要ありません。

次の表に、使用可能なパラメータをリストします (太字になっているパラメータは必須)。

パラメータ	タイプ	説明
<b>-M "MachineName"</b>	動作	<p>GNTSTART.EXE に対してコンピュータ名を指定します。-M に続く (二重引用符で囲まれた) 引数は、処理が実行されるターゲットのネットワークコンピュータ名です。</p> <p><b>メモ</b> コンピュータ名は、プライマリ Gentran システム コントローラまたはセカンダリ コントローラにする必要があります。</p>
<b>-S "SystemName"</b>	動作	<p>GNTSTART.EXE に対して Gentran:Server システム名を指定します。-S に続く (二重引用符に囲まれた) 引数は、システム名です。</p> <p><b>メモ</b> システム名は、インストール処理中に定義されます。システム名については、[システム構成]の[システム]タブを参照してください。</p> <p>(次のページへ続く)</p>

( 続き ) パラメータ	タイプ	説明
-A "AuditMsgID" "Parm1" "Parm2" "Parm3" "Parm4" "Parm5" "Parm6" "Parm7" "Parm8" "Parm9" "Parm10" "LocalMachine" "User"	動作	<p>オーデジット ログに対してユーザー定義のオーデジット メッセージを生成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 引数 AuditMsgID は、Gentran オーデジット メッセージ サブシステムを使用して作成された特定のユーザー定義のメッセージ ID を表す数値である必要があります。</li> <li>▶ 引数 Parm (Parm1、Parm2、Parm3、... Parm10) は、オーデジット メッセージに挿入されるデータを表します。たとえば、オーデジット メッセージのメッセージ テキストに %1、%2、%3、... %10 という変数が含まれている場合は、引数 Parm1、Parm2、Parm3、... Parm10 により指定される値が、オーデジット メッセージの書き込み時にこれらの変数に展開されます。</li> </ul> <p><b>メモ</b> 引数 Parm は、オプションです。ただし、この引数に値を指定しない場合も、引数の代わりに、空の二重引用符を挿入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 引数 LocalMachine は、オプションです。オーデジット メッセージと共にオーデジット ログに書き込まれる追加情報を表します。</li> <li>▶ 引数 User は、オプションです。引数 LocalMachine と同様、オーデジット ログに書き込まれる追加情報を表します。</li> </ul> <p><b>メモ</b> -M パラメータでは、オーデジット 通知サーバーが常駐するプライマリ Gentran システム コントローラのコンピュータ名を定義する必要があります。</p> <p><b>参照</b> ユーザー定義のオーデジット メッセージを作成する方法の詳細については、「<a href="#">オーデジット メッセージの追加方法</a>」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) パラメータ	タイプ	説明
-G "Mailbox"	動作	指定されたメールボックスの受信セッションを呼び出します。
-I "ImportFile"	動作	<p>指定されたファイル名に対するインポート セッションを呼び出します。</p> <p>引数 <b>ImportFile</b> には、ターゲット ファイルの完全パスとファイル名を含める必要があります。</p> <p><b>メモ</b> インポート セッションからのドキュメントは、ワークスペースブラウザではなく、アウトドキュメントブラウザにインポートされます。</p>
-P "InboundFile"	動作	<p>指定されたインバウンド ファイルの処理を開始します。</p> <p>引数 <b>InboundFile</b> には、ターゲット ファイルの完全パスとファイル名を含める必要があります。</p>
-R "RemoteSessionName"	動作	<p>指定されたセッション ファイルを使用して、自動処理プロセス管理セッション (UNATTEND.EXE) をリモートコンピュータで開始します。</p> <p>引数 <b>RemoteSessionName</b> は、自動処理プロセス管理セッション スクリプトを表しています。この引数は、GENSRVNT¥Unattend フォルダに格納する必要があります。</p> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ この引数には、ディレクトリまたはパス情報、および .SES ファイル拡張子は含めないでください。</li> <li>▶ UNATTEND.EXE は、-M パラメータで指定されるコンピュータで呼び出されます。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) パラメータ	タイプ	説明
-V "Mailbox" "PartnerName" "DocType"	動作	<p>指定されたメールボックス、パートナー名、トランザクションセット (doctype) の送受信セッションを開始します。</p> <p><b>メモ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 3つの引数は、すべてオプションです。ただし、Mailbox および PartnerName を指定しない場合は、None の値を含めてください。また、DocType を使用しない場合は、空の二重引用符を挿入してください。</li> <li>▶ Mailbox または PartnerName のいずれか一方のパラメータしか使用できません。使用しない方のパラメータには、None を指定する必要があります。</li> <li>▶ Mailbox および PartnerName には、None および All パラメータを指定できます。</li> <li>▶ DocType には、種類を指定するか、All パラメータを使用してください。</li> </ul>
-X "ExportFile" "Partner" "DocType"	動作	<p>指定されたパートナーまたはトランザクションセット (doctype) のエクスポートセッションを開始し、指定されたファイルにエクスポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 引数 ExportFile は、必須です。この引数には、ターゲットファイルの完全パスとファイル名を含める必要があります。</li> <li>▶ 引数 Partner および DocType (TransactionSetID) は、オプションです。これらの引数を使用して、エクスポートする対象を正確に指定できます。</li> </ul>
-W	動作	完了を待ちます。
-D	動作	セッションを削除します。

**メモ**

すべてのコマンドパラメータが引用符で囲まれていることを確認します。コマンドパラメータを使用しない場合は、該当するオプションを "" (2 個の二重引用符) で指定する必要があります。

( 次のページへ続く )

## バッチ ファイル例

次の例は、GNTTEST.BAT バッチ ファイルのコンテンツです。このバッチ ファイルは、ユーザー インターフェイス クライアントまたはコントローラで実行できますが、実行されると、GNTSTART.EXE は、すべての処理をプライマリ Gentran システム コントローラで行います。

次の例では、Gentran システムの名前は GentranSystem で、プライマリ Gentran システム コントローラがインストールされているコンピュータの名前は RADIX です。GNTSTART.EXE とバッチ ファイル (GNTTEST.BAT) は、どちらもユーザー インターフェイス クライアント コンピュータの GENSRVNT\bin フォルダ内に格納されています。

### GNTTEST.BAT のコンテンツ

```
REM Issue audit message 1000 (message text = "User batch file
processing %1 is starting")
gntstart.exe -M "RADIX" -S "GentranSystem" -A "1000" "Inbound Data"
"" "" "" "" "" "" "" "" "" ""

REM Process the inbound EDI file
gntstart.exe -M "RADIX" -S "GentranSystem" -P
"¥¥RADIX¥GENSRVNT¥tutorial¥pettest.int"

REM Export all data in the InDocs
gntstart.exe -M "RADIX" -S "GentranSystem" -X
"¥¥RADIX¥GENSRVNT¥exports¥purchaseorder.txt"

REM Issue audit message 1001 (message text = "User batch file
processing %1 is ending")
gntstart.exe -M "RADIX" -S "GentranSystem" -A "1001" "Inbound Data"
"" "" "" "" "" "" "" "" "" ""
```

### 説明

このバッチ ファイルを実行すると、次の 4 つの処理が行われます。

- ▶ バッチ処理が開始されたことを示すオーディット ログ メッセージが生成されます (Gentran オーディット メッセージ サブシステムを使用して作成されるユーザー定義のオーディット メッセージ)。
- ▶ EDI ファイルのインバウンド処理が実行されます。
- ▶ インドキュメント ブラウザに格納されている適合データすべてがエクスポートされます。
- ▶ バッチ処理が完了したことを示すオーディット ログ メッセージが生成されます (再度、Gentran オーディット メッセージ サブシステムを使用して作成されるユーザー定義のオーディット メッセージ)。

## WINEXEC 例

winexec 拡張ルールを使用したマップ内からの GNTSTART.EXE の実行例です。次の拡張ルールを呼び出すと、GNTSTART.EXE が実行され、オーディット メッセージが生成されます。

```
winexec("d:¥GENSRVNT¥bin¥gntstart.exe -M RADIX -S GentranSystem -A
1000 InboundData ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ',1);
```

## TOMULTI.EXE ユーティリティ

### はじめに

1つのテキスト ファイルを複数のテキスト ファイルに分割するためのユーティリティプログラムです。TOMULTI ユーティリティの書き込み先の出力ファイルは、定義ファイルによって構成されます。定義ファイルでは、各出力ファイルにレコード ID (タグ) が関連付けられています。TOMULTI ユーティリティは、入力ファイル进行处理する前に、この定義ファイルを読み込みます。次に、入力ファイルをスキャンし、定義ファイルで定義されているレコード ID を検索します。レコード ID を見つけると、関連付けられている出力ファイルにレコードを書き込みます。

### 使用法

```
tomulti [<InputFile>] [<DefinitionFile>] [-D]
```

### コマンドライン引数

TOMULTI ユーティリティのコマンドライン引数は、次のとおりです。

InputFile	複数のファイルに分割するファイルの名前です。
DefinitionFile	出力ファイルの名前、および出力ファイルに関連付けられているレコード ID のリストが含まれているファイルです。レコード内でのレコード ID の開始位置情報を含めることもできます。開始位置情報がない場合は、既定でレコード ID の開始位置は 1 (先頭) になります。
-D	出力ファイルにレコードを書き込む前に、レコードからレコード ID を削除します。このコマンドライン引数は、オプションです。

### 例

```
tomulti purchaseorder.txt purchaseorder.def
```

(次のページへ続く)



## 定義ファイル

定義ファイルには、出力ファイルのリストと、それらの出力ファイルに関連付けられているレコード ID のコンマ区切りリストが含まれています。各レコード ID の開始位置情報を含めることもできます。これにより、レコードの先頭以外の場所 (レコード中) にレコード ID を埋め込むことができます。レコード ID とその開始位置情報を区切るには、コロンを使用します。開始位置情報がない場合は、既定でレコード ID の開始位置は 1 (先頭) になります。

### 制限

定義ファイル内では、最大 60 個の出力ファイルを定義できます。各出力ファイルには、最大 30 個のレコード ID を関連付けることができます。

### 定義ファイルの配置

```
[OutputFile1],[RecordID]:[RecordIDStartPosition] ,..up to 30 rec IDs
[OutputFile2],[RecordID]:[RecordIDStartPosition] ,..up to 30 rec IDs
. . . .
. . . .
up to 60 output files
```

## 使用例

### 定義ファイル (purchaseorder.def)

```
C:¥Dropoff¥Accounting.txt,BEG,DTM, PO1,PID,ITA,CTT
C:¥Dropoff¥CustomerInfo.txt, N1,N3,N4
```

### 入力ファイル (purchaseorder.txt)

```
BEG*01*02*10000654321**000704~
DTM*002*000730~
N1*ST*DENIM JEAN CO~
N3*501 BLUEJEAN WAY *505 LOOSEFIT DRIVE ~
N4*LEVI*AZ*86005~
PO1*0123456789*10*EA*15**BP*555666411~
PID*A***FLARE BOTTOM JEANS~
ITA*A***CC***1000~
CTT*1~
```

### コマンドライン

```
Tomulti.exe purchaseorder.txt purchaseorder.def
```

### 結果の出力ファイル

#### C:¥Dropoff¥Accounting.txt

```
BEG*01*02*10000654321**000704~
DTM*002*000730~
PO1*0123456789*10*EA*15**BP*555666411~
PID*A***FLARE BOTTOM JEANS~
ITA*A***CC***1000~
CTT*1~
```

#### C:¥Dropoff¥CustomerInfo.txt

```
N1*ST*DENIM JEAN CO~
N3*501 BLUEJEAN WAY *505 LOOSEFIT DRIVE ~
N4*LEVI*AZ*86005~
```

## TXTRACE.EXE ユーティリティ

### はじめに

TXTRACE.EXE ユーティリティは、ダイアログ ベースのアプリケーションで、トランスレータがトレース ファイルの作成を開始するときに使用するレジストリ キーを設定およびクリアします。このトレース ファイルには、Gentran:Server トランスレータにより現在使用されている入力ファイル、出力ファイル、およびトランスレーション オブジェクト ファイルを表すエントリが含まれます。また、トランスレータがデータの入力ブロック (レコード、セグメント、XML タグ、PCDATA など) をマップ オブジェクトと照合しようとする度に、それを示すエントリがトレース ファイルに記録されます。トレース ファイルは、通常、Gentran:Server サポートによって使用され、トランスレータが入力ファイルからのデータをソース マップおよびトランスレーション オブジェクトで定義されたマップ オブジェクトと正常に照合しているかどうかを確認します。

### GNTXEng.EXE との連携

GNTXEng.EXE は、インバウンド データのトランスレーションを行う Gentran:Server COM コンポーネントです。GNTXEng.EXE プログラムは、TX32.EXE (Gentran:Server トランスレータ) が使用するレジストリ キーと同じレジストリ キーを使用して、トレース ファイルを作成すべきかどうかを決定します。

レジストリ キー設定に TXTRACE.EXE が使用され、トレース パスおよびファイル名が定義されている場合、GNTXEng.EXE プログラムは、ファイル名とファイル拡張子の間に **.GNTX** を挿入して、定義されたファイル名を変更します。その後、トレース情報をそのファイルに書き込みます。

#### 例

**c:\¥GENSRVNT¥mytrace.txt** のトレース ファイル パスと名前を定義した場合は、TX32.EXE がファイルを作成し、それに書き込みます。GNTXEng.EXE により、**c:\¥GENSRVNT¥mytrace.gntx.txt** という名前のファイルが作成され、このトレース ファイルに情報が XML (eXtensible Markup Language) 形式で書き込まれます。

GNTXEng.EXE では、TX32.EXE が使用する \*.IPC ファイルを使用しません。このため、COMMPOST.EXE により GNTXEng.EXE が呼び出されると、\*.IPC ファイルに書き込まれていた情報は、インターフェイスを通過します。この情報は、エンド ユーザー (およびサポート) がアクセスできないため、この時点でトレース ファイルに書き込まれます (トレースがアクティブになっている場合)。

### 始める前に

TXTRACE.EXE は、インストール CD の **¥i386¥utils** フォルダに収録されています。TXTRACE.EXE ユーティリティを使用できるようにするには、TXTRACE.EXE プログラムを **¥GENSRVNT¥bin** フォルダにコピーする必要があります。

## GICHECK.EXE ユーティリティ

### はじめに

GICHECK.EXE (Gentran 整合性チェック) ユーティリティは、ダイアログベースのアプリケーションで、Gentran データベース テーブルとファイル システムとの整合性を一定の基準に基づいてチェックします。現在、GICHECK.EXE ユーティリティでは、インターチェンジオブジェクト、ドキュメント オブジェクト、添付オブジェクトの整合性チェックがサポートされています。オブジェクトとは、データベース テーブル エントリ (および関連付けられているすべてのデータベース テーブル エントリ) または Gentran データ ストア ディレクトリ構造内のファイルとして定義されます。

### メモ

GICHECK.EXE ユーティリティは、プライマリ Gentran システム コントローラで実行してください。

チェック対象の各オブジェクトのタブの付いたダイアログ ボックスで、3つの基本オプションを選択できます。1つ目のオプションでは、整合性チェックを実行できます ([ **不整合の検索** ] ボタンをクリック)。2つ目のオプションでは、[ **不整合の検索** ] チェックで見つかったすべての不整合オブジェクトを削除することができます。3つ目のオプションでは、[ **不整合の検索** ] チェックで見つかった行のうち、選択した行だけを削除できます。

### 参照

整合性チェックおよび削除処理対象の詳細については、「[整合性チェックのオプション](#)」を参照してください。

GICHECK.EXE ユーティリティは、コマンドラインからも実行できます。

### 参照

コマンドラインからユーティリティを実行する方法の詳細については、「[コマンドラインからの GICHECK.EXE の使い方](#)」を参照してください。

また、GICHECK.EXE ユーティリティにより見つかった不整合オブジェクトのレポートを作成することもできます。

### 参照

詳細については、「[レポート生成のオプション](#)」を参照してください。

(次のページへ続く)

## 始める前に

GICHECK.EXE は、インストール CD の `utils` フォルダに収録されています。GICHECK.EXE ユーティリティを使用できるようにするには、プライマリ Gentran システム コントローラの GICHECK.EXE プログラムをプライマリ Gentran システム コントローラの `bin` フォルダにコピーする必要があります。

プライマリ Gentran システム コントローラで GICHECK.EXE ユーティリティは、Gentran:Server システムを実行していないときに実行してください。チェック処理中に、ファイルまたはデータベース エントリが作成または更新されると、GICHECK.EXE ユーティリティは、ファイルおよびデータベース エントリの整合性を正しくチェックすることができません。

### メモ

GICHECK.EXE ユーティリティは、ユーザー インターフェイス クライアントのコンピュータでは実行できません。GICHECK.EXE ユーティリティをプライマリ Gentran システム コントローラ以外のコンピュータで実行しようとしたり (通常、Store ディレクトリの場所はローカルパスであるため)、別の Gentran:Server コンピュータで実行すると、GENSERVNT\Store ディレクトリがローカルコンピュータに存在しないため、Attachment\_tb データベースのすべてのエントリが不整合とみなされます。また、GICHECK.EXE ユーティリティをプライマリ Gentran システム コントローラ以外のコンピュータで実行しようとする、エラーが表示され、プログラムが終了します。

Store ディレクトリが、プライマリ Gentran システム コントローラ以外のコンピュータに存在する場合は、そのコンピュータから GICHECK.EXE ユーティリティを実行する必要があります。ただし、GICHECK.EXE ユーティリティは、プライマリ Gentran システム コントローラで実行された場合に最高のパフォーマンスが発揮されるように設計されています。

(次のページへ続く)

## 整合性チェックのオプション

この項では、[不整合の検索]、[ファイルを削除]、および[行を削除]オプションについて説明します。

### [不整合の検索]のオプション 1 (行を削除)

このオプションを選択すると、ファイルを参照する Gentran データベースのテーブルすべてをチェックすることができます。参照されているファイルが存在しない(参照先の場所にファイルが存在しない)場合は、テーブルの該当するエンタリに不整合のマークが付きます。

チェックを実行した同じダイアログ ボックスで[行を削除]オプションを選択すると、不整合のマークが付けられたエンタリをすべて削除することができます。

#### メモ

レポート ファイルが存在しなくてもデータベース テーブル エントリを削除する十分な理由とはならないため、ファイルが存在しない場合でも、トランスレーション レポート ファイルを参照するテーブル エントリには、不整合のマークは付きません。

GICHECK.EXE ユーティリティによりチェックされる Gentran データベース テーブルは、次のとおりです。

- ▶ Interchange\_tb
- ▶ Document\_tb
- ▶ Attachment\_tb

#### メモ

[行を削除]オプションを選択すると、[不整合の検索]チェックにより見つかったすべての不整合データベース テーブル エントリを削除することができます。不整合な行は、存在しない1つまたは複数のファイルを参照しています。データベースからエンタリが削除されると、Gentran データベース内の参照整合性を維持するために、関連するエンタリもすべて削除されます。たとえば、Interchange\_tb のエンタリが削除されると、Document\_tb、Track\_tb、Group\_tb、InterchangeAuditEntry\_tb、および DocumentAuditEntry\_tb に含まれる、そのインターチェンジに関連付けられているすべてのエンタリ、およびエンタリが参照しているすべてのファイルが削除されます。

インターチェンジにドキュメントが1つしか存在せず、そのドキュメントを表すエンタリが Document\_tb から削除されると、ドキュメントと共に、インターチェンジとそれに関連付けられているエンタリもすべて削除されます。Attachment\_tb のエンタリが削除されると、その添付に関連付けられている File\_tb のすべてのエンタリが削除されます。

見つかったすべての不整合オブジェクトのレポートを生成する場合は、削除オプションを実行する前に生成します。削除オプションを実行すると、不整合な行をトラックするために使用される内部リストが空になり、正確なレポートを生成できなくなります。

(次のページへ続く)

## 整合性チェックの オプション ( 続き )

### [ 不整合の検索 ] のオプション 2 ( ファイルを削除 )

テーブルが参照するディレクトリ構造内にあるすべてのファイルが検証されます。検証されたファイルが、対応するデータベース テーブルに存在しない場合は、ファイルに不整合のマークが付きます。チェックを実行した同じダイアログ ボックスで [ ファイルを削除 ] オプションを選択すると、不整合のマークが付けられたファイルをすべて削除することができます。GICHECK.EXE ユーティリティによりチェックされるディレクトリは、次のとおりです。

- ▶ Documents
- ▶ IntIn
- ▶ IntOut
- ▶ TranRpt
- ▶ Store

#### メモ

[ ファイルを削除 ] オプションを選択すると、[ 不整合の検索 ] チェックにより見つかったすべての不整合ファイルを削除することができます。不整合ファイルとは、Gentran:Server ディレクトリ構造 ( 実行しているチェックに従って、IntIn、IntOut、Documents、TranRpt、または Store ディレクトリ ) に存在するが、そのファイルを参照する関連付けられているデータベース エントリを持たないファイルを指します。

このユーティリティにより、外部データ テーブルと ExternalData ディレクトリに不整合ファイルが存在するかどうかを確認することもできます。

見つかったすべての不整合オブジェクトのレポートを生成する場合は、削除オプションを実行する前に生成します。削除オプションを実行すると、不整合なファイルをトラックするために使用される内部リストが空になり、正確なレポートを生成できなくなります。

[ ファイルを削除 ] オプションでは、最後のファイルが削除されて空になったフォルダも削除されます。

#### レポート生成のオプション

[ 不整合の検索 ] チェックの実行後、ダイアログ ボックスの [ レポート ] ボタンをクリックすると、すべての不整合ファイルおよび不整合行のレポート ファイルを生成することができます。

#### メモ

レポートは、必ず削除オプションを実行する前に生成してください。削除オプションを実行すると、見つかった不整合オブジェクトの内部リストが空になり、正確なレポートを生成できなくなります。

( 次のページへ続く )

**コマンドラインからの GICHECK.EXE の使い方**

GICHECK.EXE ユーティリティは、コマンドラインからも実行できます。この項では、使用可能なコマンドとそのシンタックスについて説明します。

**シンタックス**

```
GICheck.exe Command:SubCommand[[:SubCommand]:SubCommand]
```

**コマンド**

次の表に、使用可能なコマンドとその機能を示します。

コマンド	機能
/DOC	ドキュメント ファイルとデータベースの整合性をチェックします。
/INT	インターチェンジ ファイルとデータベースの整合性をチェックします。
/ATT	添付ファイルとデータベースの整合性をチェックします。

**サブコマンド**

次の表に、使用可能なサブコマンドとその機能を示します。

サブコマンド	機能
FR	GICHECK.EXE ユーティリティが呼び出されたディレクトリに完全なレポートを生成します。このレポートには、整合性チェックにより見つかったすべての不整合なファイルおよびデータベース エントリのリストが含まれます。レポートのファイル名は、実行されているコマンドによって異なります。  例： <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ /DOC = DocumentReport.txt</li> <li>▶ /INT = InterchangeReport.txt</li> <li>▶ /ATT = AttachmentReport.txt</li> </ul>
DD	すべての不整合なデータベース エントリを削除します。
DF	すべての不整合なファイルを削除します。

**例**

```
GICheck.exe /DOC:DF:DD:FR /INT:DD:DF:FR /ATT:FR
```

この例では、GICHECK.EXE ユーティリティにより、ドキュメントチェック、インターチェンジチェック、および添付チェックが実行されます。ドキュメントおよびインターチェンジチェックでは、すべての不整合なファイルおよびデータベース エントリが削除され、整合性チェック レポートが生成されます。添付チェックでは、レポートが生成されるだけです。

## XPROCESS ユーティリティ

### はじめに

XPROCESS ユーティリティは、データの送受信時に使用する外部データプロセッサです。通常、トレーディングパートナーとの間でデータを送受信できるように準備する場合に使用します。XPROCESS ユーティリティは、配送ルールのコマンドラインで呼び出します。

#### 例

トレーディングパートナーが使用する VAN では、データの各行がキャリッジリターンとラインフィードで終了していることが想定されています。しかし、こちらのデータは波形記号 (~) で終わっています。そこで、XPROCESS ユーティリティを使用して、この波形記号をキャリッジリターン/ラインフィードに変換します。

#### メモ

最近 Gentran:Server を購入した場合は、類似の機能を持つ Xprocess DLL エージェントを使用することをお勧めします。

### シンタックス

XPROCESS ユーティリティのシンタックスは次のとおりです。

```
XPROCESS [option] [Parameter1] [Parameter2] [Parameter3]
```

### パラメータ

XPROCESS ユーティリティでは、次のオプションパラメータを使用できます。

#### メモ

<ファイル名>パラメータを使用する場合は、完全パスとファイル名を指定する必要があります。ただし、EXE デリバリ エージェントを使用してこのユーティリティを呼び出した場合は、この指定は不要です。この場合に必要となるのは、ファイル名を表す \$Filename トークンのみです。

オプション	説明
-0	指定された 16 進文字 [16 進数値 1] を別の 16 進文字 [16 進数値 2] に変換します。  <b>使用法</b> xprocess -0 <hexValue1> <hexValue2> <filename>
-1	[ファイル名] に指定したファイルをデータの先頭に追加します。このオプションは、データを AT&T GMS ネットワークに送信する際のプリプロセッサとして使用します。  <b>使用法</b> xprocess -1 <inputfile1> <inputfile2> <outputfile>

(次のページへ続く)



( 続き ) オプション	説明
-2	<p>波形記号、キャリッジリターン、およびラインフィードを1つのキャリッジリターンで置き換えます。このオプションは、データを GEIS ネットワークに送信する際のプリプロセッサとして使用します。</p> <p><b>使用法</b> xprocess -2 &lt;filename&gt;</p>
-3	<p>すべてのキャリッジリターンを波形記号で置き換え、すべてのラインフィードを削除します。このオプションは、GEIS ネットワークからデータを受信する際のプリプロセッサとして使用します。</p> <p><b>使用法</b> xprocess -3 &lt;filename&gt;</p>
-4	<p>すべてのキャリッジリターンとラインフィードを削除します。</p> <p><b>使用法</b> xprocess -4 &lt;filename&gt;</p>
-5	<p>すべてのキャリッジリターンとラインフィードを削除し、ファイルの最後に 16 進文字 0x1A を 1 つ追加します。このオプションは、TDSI ネットワーク用のプリプロセッサとして使用します。</p> <p><b>使用法</b> xprocess -5 &lt;filename&gt;</p>
-6	<p>16 進文字 0x1A をすべて削除します。このオプションは、TDSI ネットワーク用のプリポストプロセッサとして使用します。</p> <p><b>使用法</b> xprocess -6 &lt;filename&gt;</p>
-7	<p>GM ヘッダーおよびトレーラレコードを追加して、すべてのキャリッジリターンおよびラインフィードを削除します。このオプションは、GM 用のプリプロセッサとして使用します。ヘッダー用に THS および THD セグメント、トレーラ用に TTR が作成されます。</p> <p><b>使用法</b> xprocess -7 &lt;youruserid&gt; &lt;theiruserid&gt; &lt;fileonGMsystem&gt;</p>
-8	<p>波形記号、キャリッジリターン、およびラインフィードを1つのキャリッジリターンで置き換えます。このオプションは、データを MCI ネットワークに送信する際のプリプロセッサとして使用します。</p> <p><b>使用法</b> xprocess -8 &lt;filename&gt;</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) オプション	説明
-9	<p>すべてのライン フィールドを1つの波形記号で置き換えます。このオプションは、MCI ネットワークからデータを受信する際のプリプロセッサとして使用します。</p> <p><b>使用法</b> xprocess -9 &lt;filename&gt;</p>
-10	<p>すべてのキャリッジリターンをキャリッジリターン/ライン フィールドで置き換えます。このオプションは、COMMERCE:Network からファイルを受信する際に使用します。</p> <p><b>使用法</b> xprocess -10 &lt;filename&gt;</p>
-11	<p>16 進文字列を、2 番目に指定した 16 進文字列で置き換えます。</p> <p><b>使用法</b> xprocess -11 &lt;hexString1&gt; &lt;hexString2&gt; &lt;filename&gt;</p> <p><b>メモ</b> 各 16 進文字列値には、プレフィックス 0x と、末尾に 2 桁の 16 進値が必要です。プレフィックスと 2 桁の 16 進値を合わせて、16 進文字 1 つとみなされます。</p> <p><b>例 1</b> オプション -11 を使用したコマンドラインの例を示します。このコマンドを実行すると、すべての ~CRLF が ~( 波形記号 ) に変換されます。</p> <pre>c:\gensrvnt\bin\xprocess.exe -11 0x7e0x0d0x0a 0x7e inputfile.txt</pre> <p>この例では、1 番目の文字列に 3 つの 16 進文字 (0x7e、0x0d、および 0x0a) が含まれており、2 番目の文字列に 1 つの 16 進文字 (0x7e) が含まれています。また、入力ファイルの名前として inputfile.txt が指定されています。</p> <p><b>例 2</b> 実行時に EXE デリバリ エージェントを使用する場合のコマンドラインの例を示します。このコマンドを実行すると、すべての ~CRLF が ~( 波形記号 ) に変換されます。</p> <pre>/o \$Input c:\gensrvnt\bin\xprocess.exe -11 0x7e0x0d0x0a 0x7e \$Input</pre> <p>この例では、1 番目の文字列に 3 つの 16 進文字 (0x7e、0x0d、および 0x0a) が含まれており、2 番目の文字列に 1 つの 16 進文字 (0x7e) が含まれています。\$Input トークンによって、入力ファイルの名前が指定されています。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

<b>( 続き ) オプション</b>	<b>説明</b>
-12	指定した 16 進文字列のすべてをファイルから削除します。 <b>使用法</b> <code>xprocess -12 &lt;hex string&gt; &lt;filename&gt;</code>
-13	[バイト数]に指定した増分で、16 進文字列を入力ファイルに挿入します。  このオプションは、ストリーム化された EDI データのブロックなどに使用します。 <b>使用法</b> <code>xprocess -13 &lt;NbrBytes&gt; &lt;HexStringToInsert&gt; &lt;InputFile&gt;</code>

---

( 次のページへ続く )

## 追加パラメータ

次の表に、XPROCESS ユーティリティの追加パラメータをまとめます。

パラメータ	説明
16 進数値 1	<p>0x?? 書式の 16 進数値です。このパラメータは、「<a href="#">パラメータ</a>」の表で説明したオプション -0 で、データ内で置き換える文字を指定するために使用します。</p> <p>ここで、:ここで、?? は任意の 16 進数値を表します。</p>
16 進数値 2	<p>0x?? 書式の 16 進数値です。このパラメータは、「<a href="#">パラメータ</a>」の表で説明したオプション -0 で、16 進数値 1 を置き換える文字を指定するために使用します。</p> <p>ここで、:ここで、?? は任意の 16 進数値を表します。</p>
16 進文字列 1	<p>0x??0x??... 書式の 16 進文字列です。このパラメータは、「<a href="#">パラメータ</a>」で説明したオプション -11 で使用します。</p> <p>ここで、:ここで、?? は任意の 16 進数値を表します。</p> <p><b>メモ</b> 各 16 進値には、プレフィックス 0x と、末尾に 2 桁の 16 進値が必要です。プレフィックスと 2 桁の 16 進値を合わせて、16 進文字 1 つとみなされます。</p> <p><b>例</b> 0x7e0x0d0x0a この例は、3 つの 16 進文字を含む 16 進文字列を表しています。</p>
16 進文字列 2	<p>0x??0x??... 書式の 16 進文字列です。このパラメータは、「<a href="#">パラメータ</a>」で説明したオプション -11 で使用します。</p> <p>ここで、:ここで、?? は任意の 16 進数値を表します。</p> <p><b>メモ</b> 各 16 進値には、プレフィックス 0x と、末尾に 2 桁の 16 進値が必要です。プレフィックスと 2 桁の 16 進値を合わせて、16 進文字 1 つとみなされます。</p> <p><b>例</b> 0x7e0x0d0x0a この例は、3 つの 16 進文字を含む 16 進文字列を表しています。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

パラメータ	説明
ファイル名	XPROCESS を実行するファイルの名前を指定します。このファイル名は、コマンドラインから XPROCESS を実行する場合にのみ使用されます。配送ルール内で XPROCESS を使用している場合は、ファイル名を含める必要はありません。ファイル名は、メールボックス サーバーによって自動的に渡されます。
バイト数	16 進文字列値を挿入する際の既定の増分を指定します。このパラメータは、「 <a href="#">パラメータ</a> 」の表で説明したオプション -13 で使用します。
挿入する 16 進文字列	既定の増分で挿入する 16 進文字列値を指定します。このパラメータは、「 <a href="#">パラメータ</a> 」の表で説明したオプション -13 で使用します。

**例 1**

この例では、トレーディング パートナーから、セグメントを終了するために NULL 文字を使用するファイルが送信されてきた場合を説明します。Gentran:Server では、セグメントを終了するために波形記号 (~) が使用されることを想定しています。

**元のデータ**

```
ISA*00*                *00*                *08*9275310000
*12*5088947000334
*970812*1133*U*00304*000000132*0*P*><null>GS*GP*001677954*50
88947000334*9
70812*1133*83*T*003040UCS<null>ST*880*000830001<null>
```

**配送ルールのコマンドライン**

次のコマンドラインで、NULL 文字 (16 進数値 0x00) を波形記号 (16 進数値 0x7E) で置き換えます。

```
/o $Input XPROCESS.EXE -0 0x00 0x7E $Input
```

**修正後のデータ**

```
ISA*00*                *00*                *08*9275310000    *12*5088947000334
*970812*1133*U*00304*000000132*0*P*>~GS*GP*001677954*5088947000334
*9
70812*1133*83*T*003040UCS~ST*880*000830001~
```

(次のページへ続く)

**例 2**

この例では、トレーディング パートナーから、エレメントのセパレータとして  
スラッシュ (/) を使用するファイルが送信されてきた場合を説明します。

Gentran:Server では、エレメント セパレータとしてアスタリスク (\*) が使用され  
ることが想定されています。

**元のデータ**

```
ISA/00/          /00/          /08/9275310000    /12/5088947000334  
/970812/1133/U/00304/000000132/0/P/>~GS/GP/001677954/  
5088947000334/9  
70812/1133/83/T/003040UCS~ST/880/000830001~
```

**配送ルールのコマンドライン**

次のコマンドラインで、スラッシュ文字 (16 進数値 0x5C) をアスタリスク (16 進  
数値 0x2A) で置き換えます。

```
/o $Input XPROCESS.EXE -0 0x5C 0x2A $Input
```

**修正後のデータ**

```
ISA*00*          *00*          *08*9275310000    *12*5088947000334  
*970812*1133*U*00304*000000132*0*P*>~GS*GP*001677954*5088947000334  
*9  
70812*1133*83*T*003040UCS~ST*880*000830001~
```

# Gentran:Server モジュール

## 概要

### はじめに

---

この項では、次の Gentran:Server モジュールについて説明します。

- ▶ AckServer.EXE
  - ▶ AckServerps.DLL
  - ▶ GNTXEng.EXE
  - ▶ GNTXEngps.DLL
  - ▶ TxAckGen.DLL
  - ▶ TxAckGenps.DLL
  - ▶ TxAckRec.DLL
  - ▶ TxAckRecps.DLL
-

## Gentran:Server モジュール

### はじめに

次の表に、いくつかの Gentran:Server モジュールとその依存関係および使用方法を示します。

名前	説明	モジュールの使用元	依存関係
AckServer.EXE	<p>受信確認の延期処理の一部を行う COM コンポーネントです。このコンポーネントは、rpcsrv.EXE (Gentran エグゼクティブ サービス) によって呼び出されます。rpcsrv.EXE 内のスレッドにより、スケジュールに従って AckServer.EXE が呼び出されます (受信確認の延期処理スレッド)。</p> <p>AckServer.EXE により、TxAckGen.DLL および TxAckRec.DLL が呼び出され、実際の受信確認処理が実行されます。</p> <p>AckServer.EXE は、out-of-process COM コンポーネントで、受信確認処理中に発生する可能性のあるアプリケーションエラーから Gentran エグゼクティブ サービスのメモリを保護するために使用されます。</p>	Rpcsrv.EXE は、受信確認処理の呼び出しに AckServer コンポーネントを使用して、スケジュールされた受信確認処理の呼び出しを管理します。	TxAckGen.DLL、TxAckRec.DLL
AckServerps.DLL	AckServer.EXE に関連付けられているプロキシ/スタブ DLL です。	AckServer.EXE の COM クライアント	なし
(次のページへ続く)			



( 続き ) 名前	説明	モジュールの使用元	依存関係
GNTXEng.EXE	<p>インバウンド データのトランスレーションを行う COM コンポーネントです(トランスレーションブレイク処理を行います)。</p> <p>GNTXEng.EXE は、2つの COM インターフェイスを公開します。一方は、インターチェンジブレイク トランスレーションを実行するサービスを提供するインターフェイスで、他方は、単純なトランスレーション(トラッキング、オーディット、またはデータベースの更新を行わず、Gentran とは無関係にトランスレーションのみを行う)を実行するサービスを提供するインターフェイスです。いずれのインターフェイスも Visual Basic には適合せず、C++ プログラムを介し、#import 命令と GNTXEng.tlb を使用してアクセスできます。</p>	Commpost.EXE	TxAckGen.DLL、 TxAckRec.DLL
GNTXEngps.DLL	GNTXEng.EXE に関連付けられているプロキシ/スタブ DLL です。	GNTXEng.EXE の COM クライアント	なし
TxAckGen.DLL	受信確認の生成処理を行う COM コンポーネントです。特に、アウトバウンド受信確認の作成に使用するデータをインバウンド ドキュメントから抽出します。受信確認の作成に使用される情報は、データベース エントリおよび受信確認の生成を要求しているインバウンド エンティティに関連付けられているトランレータ レポート ファイルから収集されます。	GNTXEng.EXE は、このコンポーネントを使用して、受信確認の即時処理を要求するドキュメントの受信確認を生成します。	なし
TxAckGenps.DLL	TxAckGen.DLL に関連付けられているプロキシ/スタブ DLL です。	異なるスレッド モデルを使用する TxAckGen.DLL の COM クライアント	なし
( 次のページへ続く )			

(続き) 名前	説明	モジュールの使用元	依存関係
TxAckRec.DLL	受信確認整合の処理を行う COM コンポーネントです。特に、受信確認であるインバウンドドキュメントをエクスポートします。次に、エクスポートの結果は、TxAckRec.DLL によって再度読み込まれ、データベースの更新に使用されます。これにより、受信確認を期待しているアウトバウンドドキュメントの受信確認状態が変更されます。	GNTXEng.EXE、 AckServer.EXE	なし
TxAckRecps.DLL	TxAckRec.DLL に関連付けられたプロキシ/スタブ DLL です。	異なるスレッド モデルを使用する TxAckRec.DLL の COM クライアント	なし

---

# エラー メッセージ

目次

---

<b>概要</b> .....	<b>2</b>
▶ はじめに .....	2
<b>トランスレータ レポート エラー メッセージ</b> .....	<b>3</b>
▶ 概要 .....	3
▶ エラー メッセージ .....	4
<b>システム エラー メッセージ</b> .....	<b>14</b>
▶ アーカイブ エンジン メッセージ .....	14
▶ アーカイブ マネージャ メッセージ .....	25
▶ オーディット通知サーバー メッセージ .....	30
▶ プロセス管理、コミュニケーションズ、および トランスレータのエラー メッセージ .....	37

---

## 概要

### はじめに

---

#### この付録の内容

この付録では、Gentran:Server エラー メッセージについて、およびエラー メッセージが表示されたときの必要な操作を調べる方法について説明します。

---

#### エラーの保存場所

Gentran:Server のエラー メッセージおよびその他の情報メッセージは、次の場所で保存されます。

- ▶ ドキュメント トランスレータ レポート
- ▶ インターチェンジ トランスレータ レポート
- ▶ オーディット ログ
- ▶ ドキュメント トラッキング
- ▶ インターチェンジ トラッキング

情報メッセージは、プログラムのコンテキストによって異なりますが、内容は分かりやすく書かれています。

---

#### エラー メッセージの種類

次に、Gentran:Server で使用されるエラー メッセージの種類を示します。

- ▶ **トランスレータ レポート エラー メッセージ**は、エラーが発生した場合に、ドキュメントまたはインターチェンジ トランスレータ レポートで生成されます。
  - ▶ **システム エラー メッセージ**は、エラーが発生した場合に、オーディット ログ、ドキュメント トラッキング、またはインターチェンジ トラッキングで生成されます。
-

# トランスレータ レポート エラー メッセージ

## 概要

### はじめに

ドキュメントおよびインターチェンジトランスレータ レポート エラー メッセージは、ドキュメント トランスレータ レポートおよびインターチェンジトランスレータ レポートに、それぞれメッセージ番号とメッセージ列とともに表示されます。

### メッセージ番号列

このトランスレータ レポートのメッセージ番号に表示されるメッセージ番号は、プレフィックス (INF、EDI、または POS)、ハイフン ("-")、およびエラーを識別する 4 桁の数字から成ります。プレフィックスについては、次の表に説明されています。

プレフィックス	説明
INF	情報メッセージにのみ使用されます。情報メッセージは内容が分かりやすいので、この章では説明されません。
EDI	情報メッセージ以外の次のすべてのメッセージに使用されます。EDI ファイルに関連するエラーに使用されます。
POS	情報メッセージ以外の次のすべてのメッセージに使用されます。固定長のテキスト形式のファイルに関連するエラーに使用されます。

### メッセージ列

トランスレータ レポートの [メッセージ] 列には、実際のエラー メッセージ テキストが含まれます。

(次のページへ続く)

## エラー メッセージ

表

次の表では、トランスレータレポート エラーメッセージを、3 桁のメッセージ番号と、エラー メッセージ テキストの形で示します。

メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
100	必須エレメントがありません	<p><b>説明</b> トランスレーション オブジェクトの " 必須 " エレメントが、アウトバウンド ドキュメントで作成されなかったか、受け取ったインバウンド ドキュメントにありません。</p> <p><b>処置</b> トランスレータレポートのセグメント / レコード ID、順番、エレメント フィールドなどを使用し、ドキュメントのどの必須エレメントが不足しているか探します。</p> <p><u>アウトバウンド</u> ドキュメントがドキュメント エディタを使って入力された場合、ドキュメントを開いて、不足しているフィールドを埋めてください。ドキュメントをシステムにインポートした場合、ドキュメントを削除して、インポート ファイルを修正してから再度ドキュメントをインポートしてください。ドキュメントを開く、削除、およびインポートについての詳細は、『ユーザーガイド』の「<a href="#">ドキュメントの使い方</a>」を参照してください。</p> <p><u>インバウンド</u> トレーディング パートナーに連絡し、処置を決定してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
110	エレメントの書式が正しくありません	<p><b>説明</b> 入力されたエレメント、または受信されたエレメントの書式が正しくありません。不正な書式の例は、次のとおりです。数値フィールドに数値以外の文字がある場合や、フィールドが(スタンダードで定義されている)最大長を超えている、または、最小長以下の場合、および日付が無効な場合などです。</p> <p><b>処置</b> トランスレータ レポート上のセグメント/レコード ID、順番、エレメント フィールドなどを使用し、ドキュメントのどのエレメントが無効なのか探します。</p> <p><u>アウトバウンド</u> データ ソースを修正してください。</p> <p><u>インバウンド</u> トレーディング パートナーに連絡し、処置を決定してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
120	複合内のコンポーネントが多すぎます	<p><b>説明</b> 受信したドキュメントの複合エレメントに、スタンダードで許可されている以上のコンポーネント エレメント (サブエレメント) が含まれています。</p> <p><b>処置</b> トランスレータ レポート上のセグメント/レコード ID、順番、エレメント フィールドなどを使用し、ドキュメントのどのエレメントが無効なのか探します。</p> <p><u>アウトバウンド</u> ドキュメントがドキュメント エディタを使用して入力された場合、ドキュメントを開いて、無効なフィールドを修正してください。ドキュメントをシステムにインポートした場合、ドキュメントを削除し、データを修正し、ドキュメントを再びインポートしてください。ドキュメントを開く、削除およびインポートについての詳細は、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">ドキュメントの使い方</a>」を参照してください。</p> <p><u>インバウンド</u> トレーディング パートナーに連絡をし、処置を決定してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
130	無効な条件付き関係です	<p><b>説明</b> ドキュメントの条件付き関係が無効です。</p> <p><b>処置</b> トランスレータ レポートを使用して、ドキュメントのどの部分でエラーが発生したのか判別してください。</p> <p><u>アウトバウンド</u> ドキュメントがドキュメント エディタを使って入力された場合、ドキュメントを開いて、条件付き関係を修正してください。ドキュメントをシステムにインポートした場合、ドキュメントを削除し、ドキュメントを再びインポートしてください。</p> <p><u>インバウンド</u> トレーディング パートナーに連絡をし、処置を決定してください。</p>
140	暗黙のルールでの失敗	<p><b>説明</b> このフィールドに対して設定された検証ルールが、トランスレータ内で失敗しました。通常、このエラーは排他フラグがスタンダード ルールに設定されており、フィールドがデータ テーブルと一致しない場合に発生します。</p> <p><b>処置</b> そのフィールドで許可されているデータの値と、受け取ったデータを確認してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
200	必須のコンポーネントがありません	<p><b>説明</b> トランスレーションオブジェクトで " 必須 " の複合エレメントのコンポーネント ( サブエレメント ) が、アウトバウンドドキュメントで作成されなかったか、受け取ったインバウンドドキュメントにありません。</p> <p><b>処置</b> トランスレータレポート上のセグメント / レコード ID、順番、エレメント、および複合フィールドなどを使用し、ドキュメントのどの必須コンポーネントが不足しているか探してください。</p> <p><u>アウトバウンド</u> ドキュメントがドキュメント エディタを使って入力された場合、ドキュメントを開いて、不足しているフィールドを埋めてください。ドキュメントをシステムにインポートした場合、ドキュメントを削除し、ドキュメントを再びインポートしてください。</p> <p><u>インバウンド</u> トレーディング パートナーに連絡をし、処置を決定してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
210	コンポーネントの書式が正しくありません	<p><b>説明</b> トランスレーション オブジェクトで必須になっている複合エレメントのコンポーネント (サブ エレメント) は、アウトバウンド ドキュメントに入力されていない、または受け取ったインバウンド ドキュメントが不正な書式を使用しています。不正な書式の例は、次のとおりです。数値フィールドに数値以外の文字がある場合や、スタンダード ルールで定義されているフィールドが最大長を超えている、または最小長以下の場合などです。</p> <p><b>処置</b> トランスレータ レポート上のセグメント / レコード ID、順番、エレメント、および複合フィールドなどを使用し、ドキュメントのどの部分のエレメントが無効なのか探してください。</p> <p><u>アウトバウンド</u> ドキュメントがドキュメント エディタを使って入力された場合、ドキュメントを開いて、無効なフィールドを修正してください。ドキュメントをシステムにインポートした場合、ドキュメントを削除し、データを訂正し、ドキュメントを再びインポートしてください。</p> <p><u>インバウンド</u> トレーディング パートナーに連絡をし、処置を決定してください。</p>
220	コンポーネント 区切符号	<p><b>説明</b> エレメントの代わりに、コンポーネント 区切符号を受け取りました。</p> <p><b>処置</b> トレーディング パートナーまたは、トランスレーション オブジェクト作成者に連絡をし、処置を決定します。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
300	必須セグメント	<p><b>説明</b> トランスレーション オブジェクトの、" 必須 " セグメントがアウトバウンド ドキュメントで作成されなかったか、受け取ったインバウンド ドキュメントにありません。</p> <p><b>メモ</b> このエラーは、さまざまな場面で発生します。最も一般的なのは、入力データの順番が、データをトランスレートする際に使用されるトランスレーション オブジェクトで定義されているデータの順番と一致しない場合です。この場合、メッセージ情報でデータ内のセグメントを示していることがあります。</p> <p><b>処置</b> トランスレータ レポート上のセグメント / レコード ID フィールドなどを使用し、ドキュメントのどの部分の必須セグメントが不足しているか探してください。</p> <p><u>アウトバウンド</u> ドキュメントがドキュメント エディタを使って入力された場合、ドキュメントを開いて、セグメントの生成に必要なキー データをフィールドに入力してください。ドキュメントをシステムにインポートした場合、ドキュメントを削除して、セグメントの生成に必要なデータを追加し、ドキュメントを再びインポートしてください。</p> <p><u>インバウンド</u> トレーディング パートナーに連絡をし、処置を決定してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
310	無効なループの開始 / 終了構造	<p><b>説明</b> インバウンド ドキュメントに無効なループ開始 / ループ終了が見つかりました。</p> <p><b>処置</b> トランスレータ レポートの情報を使用して、無効なループ開始 / ループ終了のペアを特定してください。トレーディング パートナーに連絡をし、処置を決定してください。</p>
315	無効なセグメントまたはレコードの構造	<p><b>説明</b> インバウンド ファイルのセグメント (EDI ファイルの場合) またはレコード (固定長テキスト形式のファイルの場合) が、トランスレーション オブジェクトと一致していません。</p> <p><b>処置</b> トランスレータ レポートの情報および "EDI" インターチェンジを参照し、どのセグメントまたはレコードが無効なのかを特定してください。トレーディング パートナーに連絡をし、処置を決定してください。詳しい情報は、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">インターチェンジの表示方法</a>」を参照してください。</p>
405	不明なパートナー	<p><b>説明</b> インターチェンジを受け取りましたが、システムはどのパートナーが送信したのか特定できません。</p> <p><b>処置</b> トランスレータ レポートの情報と、"EDI" インターチェンジを参照し、どのパートナーがインターチェンジを送信したのかを特定してください。システムにそのパートナーが登録されていない場合、パートナーとその関係を作成し、インターチェンジをパートナーに関連づけてください。パートナーがシステムに既に存在している場合は、インターチェンジをパートナーに関連付け、システムがなぜ自動的にパートナーを特定できなかったのかを調べてください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
410	最初と最後の Control Number が一致しません	<p><b>説明</b> 最初と最後の Control Number がスタンダードの指定と一致しません。</p> <p><b>処置</b> "EDI" インターチェンジを表示し、どの Control Number が EDI ファイルに含まれているかを確認します。トレーディング パートナーに連絡をして処置を決定してください。ドキュメントの表示方法の詳細については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">ドキュメントの表示方法</a>」を参照してください。</p>
415	Control の総数が正しくありません	<p><b>説明</b> トランスレータ レポートの セグメント ID フィールドにある EDI Control の総数が、エラー チェックの際に計算された値と等しくありません。</p> <p><b>処置</b> "EDI" を表示し、正しい Control の総数を特定します。トレーディング パートナーに連絡をし、処置を決定してください。ドキュメントの表示方法の詳細については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">ドキュメントの表示方法</a>」を参照してください。</p>
420	不明な関係	<p><b>説明</b> ドキュメントが受信されましたが、パートナーのパートナー プロファイルに対応するインバウンド関係が含まれていません。</p> <p><b>処置</b> トランスレータ レポートと "EDI" インターチェンジの情報を参照し、ドキュメントに必要な関係を特定し、該当するインバウンド関係を作成してください。インターチェンジ表示の詳細については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">インターチェンジの表示方法</a>」を参照してください。インバウンド関係の作成方法については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">新しいインバウンド関係の作成方法</a>」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
460	無効なテスト モード フラグ	<p><b>説明</b> パートナー関係は見つかりましたが、データのテスト モード フラグがインバウンド パートナー関係で定義されているテスト モードと一致していません。</p> <p><b>処置</b> インバウンド パートナー関係のテスト モードをデータのテスト モードと一致するように変更してください。インバウンド関係の作成方法の詳細については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">新しいインバウンド関係の作成方法</a>」を参照してください。次に、送信するデータのテスト モードをインバウンド関係で定義されているテスト モードと一致するように、トレーディング パートナーに変更してもらいます。</p>

## システム エラー メッセージ

### アーカイブ エンジン メッセージ

#### はじめに

このトピックでは、アーカイブ エンジンがオーディット ログに書き込むエラー メッセージについて説明します。

#### 参照

アーカイブと復元の手順の詳細については、『ユーザー ガイド』の「[アーカイブと復元の使い方](#)」を参照してください。

#### メッセージ

次の表に、Gentran:Server アーカイブ エンジンによって生成されるエラー メッセージを示します。

メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
5	アーカイブ エンジンが無効な定義ファイル [ ファイル名 ] を使って呼び出されました。アーカイブは実行されません。	<p><b>説明</b> 定義ファイルが壊れているか、アーカイブ マネージャを使って作成されていない可能性があります。</p> <p><b>処置</b> アーカイブ マネージャを使って定義ファイルを作成し直し、アーカイブ処理を再び実行してください。</p>
6	アーカイブが無効なコマンドライン引数を使って呼び出されました。アーカイブは実行されません。 Usage: ([usage オプション])	<p><b>説明</b> このエラーは、アーカイブ処理がコマンドラインから開始された場合にのみ発生します。</p> <p><b>処置</b> 特定の Usage オプションを使用して、アーカイブを再実行してください。</p>
8	定義ファイル [ ファイル名 ] の読み込みエラー アーカイブは実行されません。	<p><b>説明</b> 定義ファイルが壊れているか、アーカイブ マネージャを使って作成されていない可能性があります。</p> <p><b>処置</b> アーカイブ マネージャを使って定義ファイルを作成し直し、アーカイブ処理を再び実行してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
9	内部データ構造を初期化できません。アーカイブを中止します。	<b>処置</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オーディット ログのメッセージを参照し、アーカイブが失敗した原因を特定してください。</li> <li>▶ エラーに基づき、適切な処理を実行してください。</li> </ul>
10	レジストリから名前 InfoHubServer を検索できません。アーカイブを中止します。	<b>説明</b> 内部 Windows のエラーが発生しました。 <b>処置</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オーディット ログのメッセージを参照し、アーカイブが失敗した原因を特定してください。</li> <li>▶ エラーに基づき、適切な処理を実行してください。</li> </ul>
11	InfoHubServer ([ コントローラ名 ]) に接続できません。アーカイブを中止します。	<b>説明</b> システム コントローラが停止している可能性があります。 <b>処置</b> コントローラが実行されていることを確認し、アーカイブを再度実行してください。
12	メッセージのアーカイブが正常に完了しませんでした。アーカイブを中止します。	<b>説明</b> 内部 Windows のエラーが発生しました。 <b>処置</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オーディット ログのメッセージを参照し、アーカイブが失敗した原因を特定してください。</li> <li>▶ エラーに基づき、適切な処理を実行してください。</li> </ul> <p style="text-align: right; color: green;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
18	アーカイブ ファイル ([ ファイル名 ]) を作成できません。アーカイブを中止します。	<p><b>説明</b> 内部 Windows のエラーが発生しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オーディット ログのメッセージを参照し、アーカイブが失敗した原因を特定してください。</li> <li>▶ エラーに基づき、適切な処理を実行してください。</li> </ul>
19	メモリ割り当てエラー ([ エラー ]) が発生しました。	<p><b>説明</b> 内部 Windows のエラーが発生しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オーディット ログのメッセージを参照し、アーカイブが失敗した原因を特定してください。</li> <li>▶ エラーに基づき、適切な処理を実行してください。</li> </ul>
21	([ ストリーム名 ]) ストリームをアーカイブ用に開くことができません。	<p><b>説明</b> ファイルを開ける際に Windows の内部的問題が発生しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オーディット ログのメッセージを参照し、アーカイブが失敗した原因を特定してください。</li> <li>▶ エラーに基づき、適切な処理を実行してください。</li> </ul>
22	チャンネルのアーカイブエラーが発生しました。	<p><b>説明</b> 該当のデータベース テーブルが空です。</p> <p><b>処置</b> 適切なキューを作成して、アーカイブ処理を再び実行します。</p>
23	メッセージ ID ([ メッセージID ]) のアーカイブエラーが発生しました。	<p><b>説明</b> 特定したメッセージが存在しません。</p> <p><b>処置</b> 特定したメッセージが存在しているのを確認し、アーカイブを再実行してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
24	メッセージ ID ([ メッセージ ID ]) のアーカイブ中に例外 ([ 例外 ]) が発生しました。	<b>処置</b> 発生した例外に基づき、処置を行ってください。
25	チャンネル ID ([ チュー ID ]) のアーカイブ中に例外 ([ 例外 ]) が発生しました。	<b>処置</b> 発生した例外に基づき、処置を行ってください。
27	([ ファイル名 ]) 格納領域をアーカイブ用に開くことができません。	<b>説明</b> ファイルを開ける際に Windows の内部的問題が発生しました。 <b>処置</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オーディット ログのメッセージを参照し、アーカイブが失敗した原因を特定してください。</li> <li>▶ エラーに基づき、適切な処理を実行してください。</li> </ul>
29	メッセージ ID ([ メッセージ ID ]) の添付 ID ([ 添付 ID ]) をアーカイブできません。	<b>説明</b> 特定したメッセージが存在しません。 <b>処置</b> 特定したメッセージが存在しているのを確認し、アーカイブを再実行してください。
30	メッセージ ID ([ メッセージ ID ]) の添付 ID ([ 添付 ID ]) のアーカイブ中に例外 ([ 例外 ]) が発生しました。	<b>処置</b> 発生した例外に基づき、処置を行ってください。
31	アーカイブ用のストリーム [ ストリーム ] を作成しようとして、次の例外が発生しました。 [ アーカイブ ファイル ]	<b>処置</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オーディット ログのメッセージを参照し、アーカイブが失敗した原因を特定してください。</li> <li>▶ エラーに基づき、適切な処理を実行してください。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
32	メッセージ ID ([ メッセージ ID ]) の受信者 ID ([ 送信者 ID ]) をアーカイブできません。	<p><b>説明</b> 特定したメッセージが存在しません。</p> <p><b>処置</b> 特定したメッセージが存在しているのを確認し、アーカイブを再実行してください。</p>
33	メッセージ ID ([ メッセージ ID ]) の受信者 ID ([ 受信者 ID ]) のアーカイブ中に例外 ([ 例外 ]) が発生しました。	<p><b>処置</b> 発生した例外に基づき、処置を行ってください。</p>
34	データ オーディットをアーカイブできません。	<p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ オーディット ログのメッセージを参照し、アーカイブが失敗した原因を特定してください。</li> <li>▶ エラーに基づき、適切な処理を実行してください。</li> </ul>
35	データ オーディットのアーカイブ中に例外 ([ 例外 ]) が発生しました。	<p><b>処置</b> 発生した例外に基づき、処置を行ってください。</p>
36	定義ファイルのアーカイブ中に例外 ([ 例外 ]) が発生しました	<p><b>処置</b> 発生した例外に基づき、処置を行ってください。</p>
39	選択基準で指定したメッセージの場所 ([ 場所 ]) が無効です。	<p><b>説明</b> システムは、適切なキューに指定されたメッセージを見つけることができませんでした。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アーカイブ マネージャで選択基準を編集し、適切なキューを選択してください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
40	選択基準で指定した状態 ([ 状態 ]) が無効です。	<p><b>説明</b> 指定された状態が無効です。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アーカイブ マネージャで、選択範囲を編集し、適切な状態を選択してください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>
41	選択基準で指定した日数 ([ 日数 ]) が無効です。	<p><b>説明</b> 指定された日数が無効です。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アーカイブ マネージャで、選択基準を編集し、適切な日数を選択してください。</li> <li>▶ アーカイブ マネージャに入力した日数が負でないか確認してください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>
42	選択基準で指定したパラメータが無効です	<p><b>説明</b> アーカイブ マネージャの選択基準のパラメータが無効です。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ その他のメッセージから情報を取得するため、オーディット ログを確認してください。</li> <li>▶ アーカイブ マネージャで、選択基準を編集し、不適切なパラメータを修正してください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>
49	[ 機能名 ] は [ データファイル名 ] のデータ ファイルをアーカイブできません。	<p><b>説明</b> 添付データ ファイルを配置できません。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Windows エクスプローラを使って、添付データ ファイルがあるか確認してください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
52	[ 機能名 ] データベース例外が発生しました [ 例外 ]	<b>処置</b> 発生した例外に基づき、処置を行ってください。
53	[ 機能名 ] で例外が発生しました [ 例外 ]	<b>説明</b> これは、一般的な例外エラーです <b>処置</b> 発生した例外に基づき、処置を行ってください。
54	[ 機能名 ] はファイル [ ファイル名 ] をアーカイブできません。	<b>説明</b> 指定されたファイルのアーカイブができません。 <b>処置</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Windows エクスプローラを使用して、ファイルがあるか確認してください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>
57	ファイル ([ ファイル名 ]) をアーカイブしようとしたときに [ 機能名 ] で例外 ([ 例外 ]) が発生しました。	<b>説明</b> 特定のファイルをアーカイブしているときに例外が発生しました。 <b>処置</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Windows エクスプローラを使って、ファイルがあるか確認してください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>
63	データ オーディットの削除中に例外 ([ 例外 ]) が発生しました。	<b>説明</b> 特定の例外により、システムがデータ オーディットを削除できませんでした。 <b>処置</b> データベースからデータ オーディットを手動で削除してください。  ( 次のページへ続く )

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
65	定義ファイル ([ ファイル名 ]) から選択基準を読み込むときにエラーが発生しました。アーカイブを中止します。	<p><b>説明</b> 指定したアーカイブ定義ファイルに無効な選択基準が含まれています。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ その他のメッセージから情報を取得するため、オーディット ログを確認してください。</li> <li>▶ アーカイブ マネージャで、選択基準を編集し、不適切なパラメータを修正してください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>
66	定義ファイル ([ ファイル名 ]) をアーカイブするときにエラーが発生しました。アーカイブを中止します。	<p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ その他のメッセージから情報を取得するため、オーディット ログを確認してください。</li> <li>▶ 発生したエラーに基づき、処置を行ってください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>
74	データ オーディットをアーカイブできません。アーカイブを中止します。	<p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ その他のメッセージから情報を取得するため、オーディット ログを確認してください。</li> <li>▶ 発生したエラーに基づき、処置を行ってください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
83	プライマリコントローラ ([ コントローラ名 ]) のシステム ([ システム名 ]) から Archive System Mutex を取得できません。別のアーカイブが処理中である可能性があります。	<p><b>説明</b> このエラーは、停電などの理由で、アーカイブ エンジンが異常終了した場合に発生します。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ GENTRAN エグゼクティブ サービスを停止後、再起動してください。</li> </ul> <p><b>参照</b> 詳細については、「<a href="#">システムの起動方法</a>」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>
84	プライマリ サーバー ([ コントローラ名 ]) のシステム ([ システム名 ]) に接続できません。	<p><b>説明</b> システムは、プライマリ Gentran システム コントローラに接続できません。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ プライマリ Gentran システム コントローラが稼動し、実行されているか確認してください。</li> <li>▶ システム構成のサブシステムを使って、Gentran:Server エグゼクティブ サービスが開始されたかを確認してください。</li> </ul> <p><b>参照</b> 詳細については、「<a href="#">システムの起動方法</a>」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>
85	システム ([ システム名 ]) のプライマリ サーバーの名前を取得できません。	<p><b>説明</b> プライマリ Gentran システム コントローラの名前が、レジストリにありません。手動でレジストリーの設定を変更した場合のみこのエラーは発生します。</p> <p><b>処置</b> Gentran:Server を再インストールしてください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
86	システムへのサインオンに失敗しました。	<p><b>説明</b> システムが停止しています。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ プライマリ Gentran システム コントローラが稼動し、実行されているか確認してください。</li> <li>▶ システム構成のサブシステムを使って、Gentran:Server エグゼクティブ サービスが開始されたかを確認してください。</li> </ul> <p><b>参照</b> 詳細については、「<a href="#">システムの起動方法</a>」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>
87	Archive System Mutex を取得するためにシステムに接続できません。中止します。	<p><b>説明</b> このエラーは、停電などの理由で、アーカイブ エンジンが異常終了したために、システムが1つ以上のアーカイブ エンジンが起動されたことを示します。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Gentran:Server エグゼクティブ サービスを停止後、再起動してください。</li> </ul> <p><b>参照</b> 詳細については、「<a href="#">システムの起動方法</a>」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>
108	アーカイブ ファイル ([ ファイル名 ]) の拡張子を変更できません。	<p><b>説明</b> このエラーは、一時アーカイブ ファイルの拡張子を .ARV に変更できなかった場合に発生します。</p> <p><b>処置</b> これは、Windows の内部エラーのため、ユーザによる処置は必要ありません。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
109	チャンネルをアーカイブしようとしてエラーが発生しました。アーカイブを中止します。	<p><b>説明</b> 通常、このエラーはキューのアーカイブ中に発生します。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ その他のメッセージから情報を取得するため、オーディット ログを確認してください。</li> <li>▶ 発生したエラーに基づき、処置を行ってください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>
111	アーカイブは、対話セッション中に取り消されました。	<p><b>説明</b> このエラーは、アーカイブセッションが手動により取り消されたことを示します。</p> <p><b>処置</b> アーカイブ処理を再実行してください。</p>
113	添付データ オーディットのアーカイブが正常に完了しませんでした。アーカイブの中止	<p><b>説明</b> 通常このエラーは、添付データ オーディットのアーカイブ中に発生します。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ その他のメッセージから情報を取得するため、オーディット ログを確認してください。</li> <li>▶ 発生したエラーに基づき、処置を行ってください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>

## アーカイブ マネージャ メッセージ

### はじめに

このトピックでは、アーカイブ マネージャによってオーディット ログに書き込まれるエラー メッセージについて説明します。

#### 参照

アーカイブと復元の手順の詳細については、『ユーザー ガイド』の「[アーカイブと復元の使い方](#)」を参照してください。

### メッセージ

次の表は、Gentran:Server アーカイブ マネージャによって生成されるエラー メッセージについて解説します。

メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
5	ファイル名が無効です。 [ファイル名]という名前では保存できません。	<p><b>説明</b> アーカイブ ファイルを指定されたファイル名で保存できません。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Windows エクスプローラを使って、すでにデータ ファイルが存在していないことを確認してください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>
8	[ファイル名]には無効な定義ファイルタイプが含まれています。	<p><b>説明</b> アーカイブ マネージャ外で、アーカイブ定義ファイルは壊れています。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Windows エクスプローラを使って、データ ファイルを削除してください。</li> <li>▶ アーカイブ マネージャで、新しい定義ファイルを作成してください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
11	ファイル [ ファイル名 ] を開けません。	<p><b>説明</b> アーカイブ マネージャ外で、指定されたファイルは壊れています。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Windows エクスプローラを使って、データ ファイルを削除してください。</li> <li>▶ アーカイブ マネージャで、新しい定義ファイルを作成してください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>
12	ファイル [ ファイル名 ] を保存できません。	<p><b>説明</b> 定義ファイルを指定されたファイル名として保存できません。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Windows エクスプローラを使って、すでにデータ ファイルが存在していないことを確認してください。</li> <li>▶ アーカイブ マネージャで、新しい定義ファイルを作成してください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul>
17	次の例外が発生しました。 [ 例外 ]	<p><b>説明</b> これは、一般的な例外エラーです</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ その他のメッセージから情報を取得するため、オーディット ログを確認してください。</li> <li>▶ 発生したエラーに基づき、処置を行ってください。</li> <li>▶ アーカイブ処理を再実行してください。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
20	InfoHubServer ([ コントローラ名 ]) に接続してメッセージを復元できません。InfoHubServer リターンコード = ([ リターンコード ])	<p><b>説明</b> メッセージの復元中、指定されたコントローラに接続できませんでした。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ プライマリ Gentran システム コントローラが稼動し、実行されているか確認してください。</li> <li>▶ システム構成のサブシステムを使って、Gentran:Server エグゼクティブ サービスが開始されたかを確認してください。</li> </ul> <p><b>参照</b> 詳細については、「<a href="#">システムの起動方法</a>」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 復元処理を再実行してください。</li> </ul>
36	エラーが発生したため、メッセージ ([ メッセージ ID ]) の一部だけがアーカイブ ([ アーカイブ ファイル ]) から復元されました。このメッセージは手動で削除し、復元をやり直してください。	<p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ InfoHubServer ユーザー インターフェイスを使って、メッセージを手動で削除してください。</li> <li>▶ 復元処理を再実行してください。</li> </ul>
37	復元するためにアーカイブ ファイル ([ ファイル名 ]) を開くことができません。	<p><b>説明</b> アーカイブ マネージャ外で、アーカイブ ファイルは壊れています。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Windows エクスプローラを使って、データ ファイルが存在しているか確認してください。</li> <li>▶ 復元処理を再実行してください。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
47	アーカイブ エンジンを起動するとき次のエラーが発生しました。[ エラー テキスト ]	<p><b>説明</b> これは、一般的なエラーです。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ その他のメッセージから情報を取得するため、オーディット ログを確認してください。</li> <li>▶ 発生したエラーに基づき、処置を行ってください。</li> <li>▶ 復元処理を再実行してください。</li> </ul>
60	アプリケーション ディレクトリを取得中にデータベース例外が発生しました。[ 例外 ]	<p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 発生した例外に基づき、処置を行ってください。</li> </ul>
66	レジストリから InfoHubServer 名を取得できません。	<p><b>説明</b> コントローラの名前がレジストリーにありません。手動でレジストリーの設定を変更した場合のみこのエラーは発生します。</p> <p><b>処置</b> Gentran:Server を再インストールしてください。</p>
68	このシステムのチャンネルのリストを取得できません。	<p><b>説明</b> このエラーは、Infohub サービスが停止していることを示しています。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ プライマリ Gentran システム コントローラが稼動し、実行されているか確認してください。</li> <li>▶ [コントロールパネル]の[サービス]で、Infohub サービスが起動しているか確認してください。</li> </ul>
81	レジストリからオーディット サーバー名を取得できません。	<p><b>説明</b> コントローラの名前がレジストリーにありません。手動でレジストリーの設定を変更した場合のみこのエラーは発生します。</p> <p><b>処置</b> Gentran:Server を再インストールしてください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
83	レジストリからプライマリ サーバー名を取得できません。	<p><b>説明</b> コントローラの名前がレジストリにありません。手動でレジストリの設定を変更した場合のみこのエラーは発生します。</p> <p><b>処置</b> Gentran:Server を再インストールしてください。</p>
84	アーカイブ ファイル ([ ファイル名 ] 内の [ ファイル名 ] ([ メッセージID ]) を復元するときに次のエラーが発生しました。 [ エラー テキスト ]	<p><b>説明</b> これは、一般的な復元エラーです</p> <p><b>処置</b> エラー テキストに従って処置してください。</p>
99	([ チャンネルID ]) は存在しません。メッセージ ([ メッセージID ]) を復元できません。	<p><b>説明</b> 指定されたチャンネルがシステムに存在しないため、メッセージを復元できません。</p> <p><b>処置</b> ユーザーによる処置は不要です。</p>
100	([ チャンネルID ]) の ID は異なります。メッセージ ([ メッセージID ]) は復元されませんでした。	<p><b>説明</b> このエラーは、指定されたチャンネルがシステムから削除され、再び作成されたことを示します。(そのため、ID は、メッセージがアーカイブされた時と異なります。)</p> <p><b>処置</b> ユーザーによる処置は不要です。</p>
101	検索結果リストの作成中に次の例外が発生しました。 [ 例外 ]	<p><b>説明</b> これは、一般的な検索の例外エラーです</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ その他のメッセージから情報を取得するため、オーディット ログを確認してください。</li> <li>▶ 発生したエラーに基づき、処置を行ってください。</li> <li>▶ 検索処理を再実行してください。</li> </ul>

## オーディット通知サーバー メッセージ

### はじめに

このトピックでは、オーディット通知サーバーに代わり、トランスレータによってオーディット ログと Windows のイベント ログ に書き込まれる、エラーメッセージについて説明します。

### メッセージ

次のテーブルでは、Gentran:Server オーディット / 通知サーバーで生成されるメッセージについて解説します。

メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
2	ANServer 機能 [ エラー発生場所のプログラム機能]の起動エラー[エラーの説明]	<p><b>説明</b> Windows イベント ログにのみエラーが書き込まれます。</p> <p>このエラーは、データベースへのログイン、テーブルの読み込み、レジストリからの値の取得など、ビジネスロジックの初期化エラーのため、オーディット通知が開始できなかった場合に発生します。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [エラーの説明]による説明により、エラーの原因を特定し、適切な処置をとってください。</li> <li>▶ [コントロールパネル]の[サービス]を使って、ログインで使用される ID を確認してください。</li> <li>▶ 詳細については、Windows イベント ログを確認してください。</li> <li>▶ 再起動しない場合は、サポートへ連絡してください。</li> </ul> <p><b>例</b> エラーがデータベース エラーの場合、SQL を開始し、そのサービスに対するデータベースのログインが正しいか確認してください。</p> <p style="text-align: right;">(次のページへ続く)</p>



( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
3	ANServer の機能 [ エラー 発生場所の停止機能 ] の シャットダウン エラー [ エラーの説明 ]	<b>説明</b> Windows イベント ログにのみエラー が書き込まれます。  このエラーは、オーディット通知が停 止したときに発生したことを示してい ます。シャットダウン時に、オー ディット通知はレジストリに値を保存 します。レジストリへ書き込み中にエ ラーが発生しました。  <b>処置</b> サポートへ連絡してください。
4	サービス エラー : [ エラーの説明 ]	<b>説明</b> Windows イベント ログにのみエラー が書き込まれます。  このエラーは、" ハンドラがインス トールされていない " または " サービ ス要求が間違っている " などのシステ ム エラーのため、オーディット通知 が開始できないことを示しています。  <b>処置</b> サポートへ連絡してください。  ( 次のページへ続く )

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
9	オーディット ログへの メッセージ [ メッセージ 番号 ] の書き込みエラー: [ エラーの説明 ]	<p><b>説明</b> Windows イベント ログにのみエラー が書き込まれます。</p> <p>このエラーは、オーディット通知が メッセージをオーディット ログへ書 き込む際にエラーが発生したことを示 しています。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エラー メッセージに従い、適当 な処置をとってください。</li> </ul> <p><b>例</b> データベースが停止したため、メッ セージが書き込まれなかった場合は サービスを再起動してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ システムが関連のエラーを書き込 んだかどうか、オーディット ログ と Windows イベント ログを確 認してください。</li> <li>▶ サポートへ連絡してください。</li> </ul>
10	通知 [ エラーの説明 ] の 通知ログ [ 通知名 ] への 書き込みエラー : [ エ ラーの説明 ]	<p><b>説明</b> Windows イベント ログにのみエラー が書き込まれます。</p> <p>このエラーは、オーディット通知が通 知ログへエントリを書き込む際にエ ラーが発生したことを示しています。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エラー メッセージに従い、適当 な処置をとってください。</li> </ul> <p><b>例</b> データベースが停止したため、通知が 書き込まれなかった場合はサービスを 再起動してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ システムが関連のエラーを書き込 んだかどうか、オーディット ログ と Windows イベント ログを確 認してください。</li> <li>▶ サポートへ連絡してください。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
11	ANServer の機能 [ エラー が発生したシステムの場合 ] のエラー [ エラーの 説明 ]	<p><b>説明</b> Windows ログにのみエラーが書き込まれています。</p> <p>このエラーは、一般的な処理エラーを示しています。このエラーは、ユーザーがオーディット メッセージ、オペレータ、通知を修正し、システムがデータベース エラーのため内部テーブルを更新できない場合に発生します。</p> <p><b>処置</b> エラーを解析し、適切な処置をとってください。サービスを再起動します。サービスが正常に起動しない場合は、オーディット ログとイベント ログを確認し、サポートに連絡してください。</p> <p><b>例</b> データベースがダウンしたときは、サービスを再起動してください。</p>
12	通知生成エラー : (HR= [ システム エラーコード ] ) [ エラーの説明 ] 通知 : [ 通知名 ] 動作 : [ E メール やページャなどの通知 動作 ] オペレータ : [ 通知 受信者の名前 ]	<p><b>説明</b> ユーザーへの直接通知を生成できなかったとき、オーディット通知はこのメッセージをオーディット ログと Windows イベント ログに書き込みます。</p> <p><b>処置</b> エラーを解析し、適切な処置をとってください。サービスを再起動します。サービスが正常に起動しない場合は、オーディット ログとイベント ログを確認し、サポートに連絡してください。</p> <p><b>例</b> データベースがダウンしている場合、データベースと Gentran サービスを再起動してください。エラーが解消されない場合は、オーディット ログとイベント ログを確認し、サポートに連絡してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
13	通知生成エラー [ 通知名 ] スケジューラ イベント : [ オーデイト通知が起 動しようとした通知タイ プスケジューラの名前 ]	<p><b>説明</b> 通知タイプ スケジューラ イベントを生成できなかった場合、オーデイト通知はこのメッセージをオーデイトログと Windows イベント ログに書き込みます。</p> <p>このエラーは、オーデイト通知が通知タイプ スケジューラ イベントを生成できなかったことを示します。(システムはエグゼクティブ サービスに RPC に基づいた要求を送信し、イベントを実行しようとしています。)</p> <p><b>処置</b> エグゼクティブ サービスによって生成されたメッセージをオーデイトログで確認し、適切な処置をとるか、サポートに連絡してください。</p> <p>( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
200	<p>[ 試行された処理 ]            ¥r¥n¥r¥n エラーが返されました : [ システム エラー コード ] ¥r¥n [ エラーの説明 ]</p>	<p><b>説明</b>            AuditContext オブジェクトがこのメッセージを生成します。AuditContext は、オーディット通知に要求を転送することにより、プログラムからのオーディット ログへの書き込みの要求を処理します。AuditContext がオーディット通知との通信に失敗した場合、プログラムがあるクライアントマシンにこのエラーを書く込み、オーディット ログ エントリを要求します。</p> <p><b>例</b>            試行している処置が "ANServer から EventIDServer オブジェクトを作成できません。"</p> <p>このエラーは、ネットワークが原因の可能性あります。</p> <p><b>処置</b>            オーディット通知システムが稼動し、エラーが発生していないことを確認してください ( オーディット通知サーバー マシンにあるオーディット ログ と Windows イベント ログを確認してください。 ) エラーがある場合、オーディット通知とほかの Gentrans:Server サービスを再起動し、エラー 200 が生成されたときにクライアント マシンが実行しようとしていた処理を再度試してください。</p> <p>ネットワークが問題の場合は、クライアント マシンがサーバに接続できるか確認してください ( Windows エクスプローラ、またはネットワーク コンピュータを使用するか、システム管理者に連絡して接続を確認してください )。</p> <p>サービスを再起動しても問題が解消していない場合は、ネットワークの接続を確認し、サポートに連絡してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
201	<p>オーディット ログの呼び出しに失敗しました。 ANServer から次のエラーが返されています： [システム エラーコード] %r%n [ エラーの説明 ] %r%n オーディット ログ データ : %r%n [ プログラムがオーディット ログに書き込もうとした書式化されたテキスト ]</p>	<p><b>説明</b> AuditContext オブジェクトがこのメッセージを生成します。AuditContext は、オーディット通知に要求を転送することにより、プログラムからのオーディット ログへの書き込みの要求を処理します。オーディット通知システムがオーディット ログへの書き込み要求を処理できず、エラーを返した場合、AuditContext はクライアント マシンの Windows イベント ログにこのメッセージを書き込み、オーディット ログ エントリを要求します。</p> <p><b>例</b> 分散システムでは、メールボックスサーバーとオーディット通知サーバーがインストールされているサーバーマシンと異なるマシンでメールボックスサーバー クライアントを開くと、メールボックス ユーザー インターフェイスはクライアントが起動されたことをオーディット ログ メッセージに書き込みます。ユーザー インターフェイス プログラムは、AuditContext がオーディット ログ エントリを書き込むことを要求します。</p> <p>しかし、エントリの書き込みが要求されると、オーディット通知は AuditContext にエラーを返します。AuditContext は、このエラー メッセージをローカル マシンの Windows イベント ログに書き込みます。</p> <p><b>処置</b> オーディット通知から発行されたエラーをオーディット ログと Windows イベント ログ (クライアント マシンではなく、オーディット通知サーバーマシン上の) で確認してください。エラー次第、必要に応じてオーディット通知システムを再起動してください。問題が解消されない場合は、サポートに連絡してください。</p>

## プロセス管理、コミュニケーションズ、およびトランスレータのエラー メッセージ

### はじめに

プロセス管理、一般的なコミュニケーション、およびトランスレータのエラーメッセージは、オーディット ログ、ドキュメント トラッキング、およびインターチェンジ トラッキングに表示されます。

#### 参照

トラッキングの詳細については、『ユーザー ガイド』の「[トラッキングの使い方](#)」を参照してください。オーディット ログの詳細については、「[オーディット通知システムの使い方](#)」を参照してください。

### メッセージの内容

次の表には、エラー メッセージの 4 桁のメッセージ番号とエラー メッセージ テキストを示します。変数パラメータを含むエラーもあります。これらのパラメータは、括弧で示されています (例: [ファイル名])。

メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
10	メッセージストアが存在しません	<p><b>説明</b> メールボックス プロパティ ([ファイル] タブ) 内の設定が、有効なメッセージストアの場所を指定しなくなっています (たとえば、指定されたメッセージストアの場所が削除されている可能性があります)。</p> <p><b>処置</b> ファイル システムのメッセージストアの場所を修正または復元します。</p>
1305	セッションの失敗 – 不明なパートナー – [パートナー ID]	<p><b>説明</b> 指定のパートナー関係が存在しないため、トランスレーション セッションは失敗しました。</p> <p><b>処置</b> パートナーに、適切なパートナー関係を作成してください。パートナー関係の作成の詳細については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">新しいパートナーの定義の作成方法</a>」を参照してください。</p> <p>(次のページへ続く)</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
1306	セッションの失敗 – 不明な関係 – スタンダード [スタンダード] パー ジョン [バージョン] ト ランザクション [トランザクションセット]	<p><b>説明</b> ドキュメントに対するパートナー関係が見つからないため、トランスレー ション セッションは失敗しました。</p> <p><b>処置</b> パートナーに適切なパートナー関係を作成し、ドキュメントを再びトランス レートしてください。</p>
1509	自動処理セッション マネージャデータベース 接続取得エラー	<p><b>説明</b> Commpost が Gentran データベースに 対して与えようとしたデータベース ログオン証明が、無効です。</p> <p><b>処置</b> Gentran:Server に与えられたログオン 証明を確認します。</p>
1535	プロセス管理 – [ インポートファイル名 ] の イ ンポートに失敗 – CONFIG にインポート ファイルの指定がありません	<p><b>説明</b> GDW_Import で指定されたインポート ファイルと一致するトランスレーショ ンオブジェクト名が、システム構成に ありません。</p> <p><b>処置</b> 正しいインポート ファイルを指定し たかを確認し、システム構成 ([ インポート ] タブ) に対応するトランス レーション オブジェクト名があるか を確かめてください。</p>
1536	プロセス管理 – インポー トファイル [ インポート ファイル名 ] が見つかり ません。	<p><b>説明</b> GDW_Import コマンドに存在しない ファイル名を指定しました。</p> <p><b>処置</b> 正しいインポート ディレクトリ / ファイル名が指定され、その名前が存 在しているか確かめてください。イン ポートするファイルにディレクトリが 指定されていない場合は、そのファ イルがシステム構成のインポート ディ レクトリ名にファイルが存在している ことを確認してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
1537	プロセス管理 - パラメータ [ プログラム パラメータ ] を持つ [ プログラム 名 ] が、コマンド [ コマンド名 ] のために RC= [ プログラムの返り値 ] で失敗しました	<p><b>説明</b> 実行されたコマンドが Exec_Program または End_Script の場合は、次の返り値の一覧を参照にし、適切な処置を行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>0 システムはメモリー不足か、実行可能ファイルが壊れているか、再配置が無効です。</li> <li>2 ファイルが見つかりません。</li> <li>3 パスが見つかりません。</li> <li>5 タスクへのダイナミック リンクが不可能か、共有中か、ネットワーク保護エラーです。</li> <li>6 ライブラリはタスクごとに分離したデータ セグメントを要求しました。</li> <li>8 アプリケーションを起動するにはメモリ不足です。</li> <li>10 Windows のバージョンが誤っています。</li> <li>11 実行可能ファイルが無効です。Windows アプリケーションでないか、EXE イメージにエラーがあります。</li> <li>12 アプリケーションは、違うオペレーティング システム用です。</li> <li>13 アプリケーションは、MS-DOS 4.0 用です。</li> <li>14 実行可能ファイルの種類が不明です。</li> <li>15 Windows の以前のバージョンで作られたリアルモード アプリケーションを読み込もうとしました。</li> <li>16 読み取り専用でない複数データ セグメントを含んだ実行可能ファイルの 2 番目のインスタンスを読み込もうとしました。</li> <li>19 圧縮された実行可能ファイルを読み込もうとしました。読み込むためにはファイルが解凍されてなければなりません。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
1537 ( 続き )	プロセス管理 - パラメータ [ プログラムパラメータ ] を持つ [ プログラム名 ] が、コマンド [ コマンド名 ] のために RC= [ プログラムの返り値 ] で失敗しました	<p>20 ダイナミック リンク ライブラリ (DLL) ファイルは無効です。このアプリケーションで実行を要求された DLL の 1 つが不正です。</p> <p>21 アプリケーションには Microsoft Windows の 32 ビット エクステンションが必要です。</p> <p>31 指定されたファイルの種類に関連がないか、ファイルタイプに指定されたアクションの関連がありません。</p> <p><b>処置</b> 異なるコマンドが実行された場合、オーデジット メッセージをコピーし、サポートに連絡してください。</p>
1538	プロセス管理 - コマンド [ コマンド名 ] で利用可能なデータがありません；取引先 [ パートナー ] ドキュメントの種類：[ ドキュメントの種類 ]	<p><b>説明</b> エクスポートまたは印刷するデータが存在しないか、エクスポートまたは印刷を指定するドキュメントパラメータおよび/またはパートナーと一致するデータがありません。</p> <p><b>処置</b> 指定したパートナーおよび/またはドキュメントパラメータを確認し、インドキュメントにあるドキュメントと比較してください。</p>
1539	プロセス管理 - 読み取りロックのためにファイルを読み込めません。コマンド [ コマンド名 ] を実行できません	<p><b>説明</b> 指定されたデータベースの readlock が取得できないため、コマンドが実行できません。</p> <p><b>処置</b> その他のどのプロセスが実行中なのかをメモし、サポートに連絡してください。</p>
1540	プロセス管理 - コマンド [ コマンド名 ] のパラメータ ファイル [ パラメータ ファイル名 ] が作成できません	<p><b>説明</b> アプリケーションは、GDW_Print コマンドを処理するプログラムに渡すパラメータ ファイルを作成できません。</p> <p><b>処置</b> オーデジット メッセージをコピーし、サポートに連絡してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
1541	プロセス管理 – 無効なコマンド [ コマンド名 ] を無視しました	<p><b>説明</b> 無効なコマンドが指定されました。</p> <p><b>処置</b> プロセス管理設定を使用し、処理されるセッションファイルを編集します。無効なコマンド パラメータを修正してください。</p>
1542	プロセス管理 – コマンド [ コマンド名 ] は処理されませんでした : ファイル [ ファイル名 ] は存在しません	<p><b>説明</b> From-File 用に存在しない File_Copy または File_Rename を指定しました。</p> <p><b>処置</b> From-File コマンド パラメータを修正してください。</p>
1543	プロセス管理 – コマンド [ コマンド名 ] は処理されませんでした : ファイル [ ファイル名 ] を開く際にエラーが発生しました。	<p><b>説明</b> File_Copy、または、File_Rename コマンドの From File または To File を開くときにエラーが発生しました。</p> <p><b>処置</b> オーデジット メッセージをコピーし、サポートに連絡してください。</p>
1544	プロセス管理 – コマンド [ コマンド名 ] は処理されませんでした : ファイル [ ファイル名 ] のシークエラー	<p><b>説明</b> From File から To File への File_Copy コマンドの処理中に、To File の最後にデータを追加するときにエラーが発生しました。</p> <p><b>処置</b> オーデジット メッセージをコピーし、サポートに連絡してください。</p>
1545	プロセス管理 – コマンド [ コマンド名 ] は処理されませんでした : ファイル [ ファイル名 ] の名前を [ ファイル名 ] に変更できません ( ファイルは既に存在しています )	<p><b>説明</b> ユーザーが File_Rename コマンドによって指定したファイル名はすでに存在しています。File_Rename コマンドは、ファイルが既に存在していない場合のみ名前を変更します。</p> <p><b>処置</b> ファイルを削除するか、新しいファイル名を指定してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
1546	プロセス管理 - コマンド [ コマンド名 ] は処理されませんでした : ファイル [ ファイル名 ] の削除エラー	<p><b>説明</b> プログラムは、File_Delete コマンドのパラメータとして指定されたファイル名の削除、または、File_Rename コマンドのファイル名の削除に失敗しました。</p> <p><b>処置</b> オーデイト メッセージをコピーし、サポートに連絡してください。</p>
1547	プロセス管理 - コマンド [ コマンド名 ] は処理されませんでした : 受信するプロファイルがありません	<p><b>説明</b> GDW_Receive コマンドで、無効な通信プロファイルが指定されています。</p> <p><b>処置</b> パラメータ 1 で、有効な通信プロファイル ( または &lt;all&gt; ) を指定してください</p>
1548	プロセス管理 - コマンド [ コマンド名 ] は開始されませんでした : SSCOMAPI からの不正な戻り値	<p><b>説明</b> コミュニケーションの受信処理実行中に、プロセス管理は SSSComAPI 呼び出しから不正な戻り値を受け取りました。</p> <p><b>処置</b> オーデイト メッセージをコピーし、サポートに連絡してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
1549	プロセス管理 – SSComAPI は、コマンド [ コマンド名 ] 0 セッショ ンをかえました	<p><b>説明</b> GDW_Send_Receive コマンドの処理中 に、プロセス管理はコミュニケーション 処理エラーを検出、または処理する 送受信するセッションが見つかりませ んでした。</p> <p><b>処置</b> " プロセス管理 – コマンド GDW_Send_Receive を開始 " と、 " プロセス管理 – コマンド GDW_Send_Receive コマンドを完了 " 間のコミュニケーションプロセス メッセージを確認してください。コ ミュニケーションエラー メッセージ がある場合、オーディット メッセ ージをコピーし、サポートに連絡してく ださい。コミュニケーション メッ セージがない場合、コマンドは処理に 成功し、メッセージは " 情報 " になり ます。</p>
1550	プロセス管理 – プログラ ム終了時 : セッション ファイル [ ファイル名 ] が見つかりません	<p><b>説明</b> プロセス管理は存在しないセッション ファイルで開始されました。</p> <p><b>処置</b> プロセス管理の設定を使って、存在す るセッション ファイルを指定してく ださい。</p>
1551	プロセス管理 – プログラ ム終了時 : すべてのセッ ションファイルは、プロ グラム開始時にパスして いません	<p><b>説明</b> プロセスするセッション ファイルが 渡されないまま、プロセス管理の処理 が開始されました。</p> <p><b>処置</b> プロセス管理の設定を使って、正しい セッションファイルと、( 必要に応じ ) プロセス管理モードで実行されるよう にカレンダーを指定してください。新 しいプロセス管理セッションを作成す る方法の詳細については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">セッションの作成方法</a>」 を参照してください。新しいカレンダー 作成の詳細については、『ユーザー ガ イド』の「<a href="#">カレンダーを作成または編集 する方法</a>」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
1552	プロセス管理 - プログラム終了時 : 無効なバージョンレコード : [ セッションファイル ]	<p><b>説明</b> 処理されるセッション ファイルに無効な代表的なバージョンレコードが含まれています。</p> <p><b>処置</b> 有効な代表的なバージョンレコード "GDW_Session," "Version 1.0" に修正してください。セッションファイルの編集には、ファイル管理を使い、バージョンレコードを正してください。</p>
1553	プロセス管理 - コマンド [ コマンド ] は処理されませんでした : オーディット呼び出しからの不正な戻り値	<p><b>説明</b> コマンドは処理に失敗し、不正な戻り値を返しました。</p> <p><b>処置</b> 戻り値を確認し、コマンドを修正してください。問題が解消されない場合は、カスタマー サポートにお問い合わせください。</p>
1556	プロセス管理 - コマンド [ コマンド ] は処理中にエラーが発生しました	<p><b>説明</b> コマンドは処理に失敗し、不正な戻り値を返しました。</p> <p><b>処置</b> 戻り値を確認し、コマンドを修正してください。問題が解消されない場合は、カスタマー サポートにお問い合わせください。</p>
1557	プロセス管理 - [ データベース名 ] のキー = [ キー ] 読み取りエラー	<p><b>説明</b> データベースの読み取り中にシステムに問題が発生したため継続できません。</p> <p><b>処置</b> データベース接続、ユーザー権限を確認し、再試行してください。</p>
1578	プロセス管理 - 正しいデータベース セキュリティを取得できません	<p><b>説明</b> データベースの読み取り中にシステムに問題が発生したため継続できません。</p> <p><b>処置</b> データベース接続、ユーザー権限を確認し、再試行してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
1579	プロセス管理 – 無効な Gentran セキュリティ	<p><b>説明</b> リモート クライアントがインストール時に定義されたログインを使ってコントローラに接続できませんでした。</p> <p><b>処置</b> 製品のインストール時に、どのユーザセキュリティがコントローラに指定されたか確認し、クライアント ログイン画面でそれを入力してください。</p>
1582	プロセス管理 – ファイル 操作中に I/O エラー	<p><b>説明</b> ディスクからの読み取り、または、書き込み中、システムに問題が発生しました。</p> <p><b>処置</b> オペレーション システムとディスク ストレージで問題およびスペースの確認をし、スケジューラの操作を再試行してください。</p>
1583	プロセス管理 – mutex の 作成エラー mutex はすでに存在しています	<p><b>説明</b> プロセスのロック機能が実行できませんでした。</p> <p><b>処置</b> 孤立プロセスが実行されていないことを確認し、再試行してください。</p>
1585	プロセス管理 – mutex の 待機に失敗	<p><b>説明</b> プロセスのロック機能が実行できませんでした。</p> <p><b>処置</b> 孤立プロセスが実行されていないことを確認し、再試行してください。</p>
1588	プロセス管理 – システム [ システム名 ] は起動していません	<p><b>説明</b> クライアントがコントローラ マシンへの接続中に問題が発生しました。</p> <p><b>処置</b> コントローラ システムをチェックし、アクセスできるか確認してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
1589	プロセス管理 - コマンド [ コマンド ] は処理されませんでした : From ファイル [ ファイル名 ] は読み取り専用です	<p><b>説明</b> 読み取り専用ファイルへの書き込みができません。</p> <p><b>処置</b> 権限を変更するか、違うファイルを指定してください。</p>
1590	プロセス管理 - [ ファイル名 ] にエラー : セッション = [ セッション名 ]、コマンド = [ コマンド ]	<p><b>説明</b> コマンドの処理に失敗しました。</p> <p><b>処置</b> 戻り値をチェックし、コマンドのシンタックスが正しいか確認してください。</p>
1592	プロセス管理 - タイプ [ アーカイブの種類 ] のアーカイブのディレクトリを取得できません	<p><b>説明</b> 無効なディレクトリが指定されたため、アーカイブの実行ができません。</p> <p><b>処置</b> ディレクトリのパスが正しいか確認し、再試行してください。</p>
1593	プロセス管理 - [ ファイル名 ] は有効なアーカイブ定義タイプではありません。	<p><b>説明</b> このファイルは、アーカイブプログラムによって生成された定義ファイルとして認識されていません。</p> <p><b>処置</b> ファイル名のスペルとファイルのパスをチェックしてください。両方が有効な場合、アーカイブ マネージャでファイルを再生成してください。問題が解決されない場合、サポートに連絡してください。</p> <p><b>参照</b> アーカイブおよび復元の手順の詳細については、「<a href="#">アーカイブと復元の使い方</a>」を参照してください。</p>
1594	プロセス管理 - %1	<p><b>説明</b> これは、一般的な表示メッセージです。</p> <p><b>処置</b> 解決するには、サポートに連絡してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>



( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
1606	CommPost は、020 レポートの回復中に、インターチェンジ [ インターチェンジ ] 内にエラー [ ネットワーク エラー ] を見つけました	<p><b>説明</b> システムが 020 ネットワーク レポートの回復中に、指定したインターチェンジにエラーが発生しました。</p> <p><b>処置</b> ネットワークのエラーを特定するにはドキュメントを参照し、適切な処置を取ってください。</p>
1607	CommPost は、020 レポートの回復中に、不明なインターチェンジ内にエラー [ ネットワーク エラー ] を見つけました	<p><b>説明</b> システムが 020 ネットワーク レポートの回復中に、エラーが発生しました。</p> <p><b>処置</b> ネットワークのエラーを特定するにはドキュメントを参照し、適切な処置を取ってください。</p>
1608	CommPost は、020 レポートの回復中に、インターチェンジ [ インターチェンジ ] 内に警告 [ ネットワーク エラー ] を見つけました	<p><b>説明</b> システムが 020 ネットワーク レポートの回復中に、インターチェンジに警告が発生しました。</p> <p><b>処置</b> ネットワークの警告を特定するにはドキュメントを参照し、適切な処置を取ってください。</p>
1609	CommPost は、020 レポートの回復中に、不明なインターチェンジ内に警告 [ ネットワーク エラー ] を見つけました	<p><b>説明</b> システムが 020 ネットワーク レポートの回復中に、警告が発生しました。</p> <p><b>処置</b> ネットワークの警告を特定するにはドキュメントを参照し、適切な処置を取ってください。</p>
1622	CommPost - データベース接続取得エラー	<p><b>説明</b> CommPost が Gentran データベースに対して与えたデータベース ログオン証明が、無効です。</p> <p><b>処置</b> Gentran:Server に与えたログオン証明を確認します。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
1703	トランスレータ：関係が見つかりません、パートナー：[ パートナー ID ]、方向：[ インバウンド / アウトバウンド ]、エージェント：[ スタンダード エージェント ]、バージョン：[ バージョン ]	<p><b>説明</b> ドキュメントに対するパートナー関係が見つからないため、トランスレーションセッションは失敗しました。</p> <p><b>処置</b> パートナーに、適切なパートナー関係を作成し、ドキュメントを再びトランスレートしてください。パートナー関係の作成の詳細については、『ユーザーガイド』の「<a href="#">新しいパートナーの定義の作成方法</a>」を参照してください。</p>
1704	トランスレータ：トランスレーションオブジェクト [ ファイル名 ] が見つかりません	<p><b>説明</b> トランスレーションの実行に必要なトランスレーションオブジェクトファイルが見つかりません。</p> <p><b>処置</b> 指定されたトランスレーションオブジェクトファイルを再び登録してください。トランスレーションオブジェクトの登録の詳細については、『ユーザーガイド』の「<a href="#">新しいトランスレーションオブジェクトの登録方法</a>」を参照してください。</p>
1707	トランスレータ：無効なトランスレーションオブジェクトファイル [ ファイル名 ]	<p><b>説明</b> 指定されたトランスレーションファイルが存在しないか、トランスレーションオブジェクトエントリがトランスレーションオブジェクトデータベースで見つかりません。</p> <p><b>処置</b> 有効なトランスレーションオブジェクトをスターリング コマース社から入手し、トランスレーションオブジェクトをシステムに登録してください。トランスレーションオブジェクトの登録の詳細については、『ユーザーガイド』の「<a href="#">新しいトランスレーションオブジェクトの登録方法</a>」を参照してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
1708	トランスレータ : 設定に失敗しました	<p><b>説明</b> トランスレーション オブジェクト ファイルが壊れているか、無効です。</p> <p><b>処置</b> 有効なトランスレーション オブジェクトをスターリング コマース社から入手し、トランスレーション オブジェクトをシステムに登録してください。トランスレーション オブジェクトの登録の詳細については、『ユーザー ガイド』の「<a href="#">新しいトランスレーション オブジェクトの登録方法</a>」を参照してください。</p>
1754	ドキュメントのエクспорт中にエラーが発生しました。エクспорт ファイル [ ファイル名 ]、外部データ キー [ キー ]、パートナー [ パートナー ID ]、ドキュメント名 [ ドキュメント名 ]	<p><b>説明</b> ドキュメントのエクспорт中のトランスレーション エラー</p> <p><b>処置</b> 外部データの概要表示で指定したファイル探し、エクспортに失敗したドキュメントのトランスレポートをチェックしてください。</p>
6501	CommMgr: 通信セッション中にメールボックスからエラーを受け取りました	<p><b>説明</b> 通信処理中にエラーが発生しました。</p> <p><b>処置</b> これは、通信処理中に何らかの失敗が起きたという、一般的なエラー メッセージです。コミュニケーション マネージャがこのエラーに対し、特定のメッセージを生成したかどうか、その他のオーディット メッセージを確認してください。オーディット メッセージから処置を決定し、ユーザーに対処してください。</p>
6503	CommMgr: ゲートウェイへの接続エラー。メールボックス戻りコード = [ 値 ]	<p><b>説明</b> ゲートウェイ接続の呼び出しでエラーを受け取りました</p> <p><b>処置</b> 表示されたメールボックスの戻り値コードに基づいて、『コミュニケーションズ ガイド』で推奨される処置に従ってください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
6506	CommMgr:ODBC 接続を開くのに失敗	<p><b>説明</b> Gentran:Server エグゼクティブ サービスがプライマリ Gentran システム コントローラで開始されたとき、コミュニケーション マネージャは、Gentran:Server データベースの単独 ODBC 接続に失敗しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ SQL サーバーの現在の接続数と、SQL サーバーのユーザー接続に設定されている最大数を使用していないか確認してください。ユーザー接続数を増やす必要があるかもしれません。詳細については、SQL サーバーのマニュアルを参照してください。</li> <li>▶ 上記の対処でエラーが解決できない場合は、Gentran のカスタマ サポートに連絡してください。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
6507	CommMgr:ODBC 接続が利用不可能です。サービスは中断されました	<p><b>説明</b> Gentran:Server エグゼクティブ サービスがプライマリ Gentran システム コントローラで開始されたとき、コミュニケーション マネージャは Gentran:Server データベースの ODBC 接続を利用できませんでした。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ODBC システム データ ソースが、有効な SQL サーバーとデータベースを指定しており、SQL サーバーが起動しているかを確認してください。</li> <li>▶ SQL がインストールされているマシンのイベント ログをチェックし、SQL サーバーのエラーに関するメッセージを確認します。SQL サーバーが起動していることを確認してください。</li> <li>▶ SQL サーバーの現在の接続数と、SQL サーバーのユーザー接続に設定されている最大数を使用していないかを確認してください。ユーザー接続数を増やす必要があるかもしれません。詳細については、SQL サーバーのマニュアルを参照してください。</li> <li>▶ 上記の対処でエラーが解決できない場合、Gentran のカスタマ サポートに連絡してください。</li> </ul>
6508	CommMgr: システム情報の起動時にエラーが発生	<p><b>説明</b> RPC コールによるメールボックスサーバーと通知メールボックス名を取得中に、コミュニケーション マネージャにエラーが発生しました。</p> <p><b>処置</b> Gentran カスタマ サポートに連絡してください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
6509	CommMgr: エラー [ エラー ] メールボックス戻りコード = [ 戻りコード ]	<p><b>説明</b> コミュニケーション マネージャは、メールボックス RPC インターフェイスの呼び出しで、エラーの戻りコードを受け取りました。</p> <p><b>処置</b> 表示されたメールボックスの戻りコードに基づいて、『コミュニケーションズガイド』で推奨される処置に従ってください。</p>
6510	CommMgr: [ スレッド ] でデータベース接続時にエラーが発生。	<p><b>説明</b> コミュニケーション マネージャはさまざまなスレッドを通してデータベースを管理します。ある機能がデータベースへのアクセスを必要としましたが、データベースへの接続プールからのデータベース接続に失敗しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ プライマリ Gentran システム コントローラ上の Gentran:Server エグゼクティブ サービスを停止および再起動してください。詳細については、「<a href="#">システムの停止方法</a>」を参照してください。</li> <li>▶ エラーが解決できない場合、Gentran のカスタマサポートに連絡してください。</li> </ul>
6515	CommMgr:Message ID [ メッセージID ] の添付からデータ抽出時にエラー	<p><b>説明</b> メールボックスがメッセージ ID に対する添付データを抽出している際に、エラーが発生しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 指定したメッセージ ID が Gentran:Server アプリケーションのインボックスに存在しているか確認してください。</li> <li>▶ Gentran カスタマサポートに連絡してください。</li> </ul> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
6518	CommMgr: メッセージ [メッセージID]のイン バウンド処理開始時にエ ラー	<p><b>説明</b> GDW_Process_MBFile または GDW_Import セッションの開始時にエ ラーが発生しました。システムは、プ ライマリ Gentran システム コントロー ラ ( コミュニケーションズプロセス が Gentran:Server で開始された場合 ) または、コミュニケーションが実行さ れているプロセス管理セッションズで 実行されているコントローラで、既に プロセスが開始している可能性があります。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ プライマリ Gentran システム コ ントローラ上で、Gentran:Server エ グゼクティブ サービスを再起動 してください。これにより、未読 メッセージは再処理されます。</li> <li>▶ 問題が解決されない場合、 Gentran のカスタマ サポートに連 絡するか、そのメッセージのデー タを手動での再処理を試みてくだ さい。</li> </ul>
6519	CommMgr: エラー – 無効なメールボックス : [メールボックス]パー トナー:[パートナー]	<p><b>説明</b> インターチェンジの指定されたパート ナーのメールボックスは無効です。</p> <p><b>処置</b> 指定されたパートナーが有効なメール ボックスに関連付けられているか確認 してください。詳細については、 『ユーザーガイド』の「<a href="#">パートナーの 定義の編集と削除</a>」を参照してくだ さい。</p>
6520	CommMgr: [スレッド] でスレッドの作成エラー [エラー]	<p><b>説明</b> スレッドの作成中にエラーが発生しま した。</p> <p><b>処置</b> Gentran カスタマ サポートに連絡して ください。</p> <p style="text-align: right;">( 次のページへ続く )</p>

( 続き ) メッセージ ID	メッセージ テキスト	説明と処置
6522	CommMgr: ファイル [ ファイル名 ] を開くと きのエラー [ エラー ]	<p><b>説明</b> コミュニケーション マネージャは TRANSIN フォルダに指定されたファ イル名を開くことができませんで した。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 実行されている Gentran エグゼク ティブ サービスの ID が、指定し たファイルにアクセス権限がある か確認してください。</li> <li>▶ アクセス権限が正しく設定されて いるにも関わらずエラーが発生す る場合は、Gentran のカスタマ サ ポートに連絡してください。</li> </ul>
6523	CommMgr: ファイル [ ファイル名 ] への書き 込みエラー [ エラー ]	<p><b>説明</b> コミュニケーション マネージャは、 メッセージからの添付データを TRANSIN フォルダの指定されたファ イル名への書き込みに失敗しました。</p> <p><b>処置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 実行されている Gentran エグゼク ティブ サービスの ID が、指定し たファイルにアクセス権限がある か確認してください。</li> <li>▶ ファイルの書き込みに十分な空き 領域があるか確認してください。</li> <li>▶ アクセス権限が正しく設定されて おり、十分な空き領域があるにも かかわらずエラーが発生している 場合は、Gentran のカスタマ サ ポートに連絡してください。</li> </ul>